

男女共同参画に関する県民意識調査

— 報告書 —

平成 29 年 2 月

鹿児島県県民生活局

男女共同参画室

目 次

I.	調査の概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査対象	1
3.	本書を読むにあたっての注意	1
II.	調査結果の概要	3
1.	男女平等の意識について	3
2.	就業について	3
3.	家庭生活について	4
4.	仕事と家庭・地域への取組について	5
5.	男女の人権について	5
6.	男女共同参画センターについて	6
7.	県の男女共同参画施策について	6
III.	調査結果	7
1.	回答者の属性	7
2.	男女平等の意識について	10
(1)	各分野の男女の地位の平等感	10
(2)	男女共同参画の関連用語の認知度	20
(3)	男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、最も重要だと思うこと	25
3.	就業について	27
(1)	女性が職業をもつことについての意識	27
(2)	現在の職業	30
(3)	今後希望する就労形態	32
(4)	職場における性別による処遇の違い	34
(5)	政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの	36
(6)	管理職への昇進に対するイメージ	38
(7)	女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと	40
4.	家庭生活について	42
(1)	家庭における夫婦の役割分担について	42
(2)	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について	48
5.	仕事と家庭・地域への取組について	50
(1)	地域における活動への参加状況	50
(2)	地域における活動のやりがいや苦勞していること	53
(3)	男女の仕事、家庭生活、地域活動の優先度	58
(4)	男性が家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なこと	62
6.	男女の人権について	66
(1)	配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験	66
(2)	10歳代又は20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験	70
(3)	暴力や嫌がらせ等についての相談先	72
(4)	相談しなかった（できなかった）理由	74

(5)	男女間における暴力を防止するために必要なこと	77
(6)	メディアにおける性・暴力表現についての意識	79
7.	男女共同参画センターについて	81
(1)	「県男女共同参画センター」の認知・利用経験	81
(2)	男女共同参画の拠点施設として「県男女共同参画センター」に期待する役割	83
8.	県の男女共同参画施策について	85
(1)	「男女共同参画社会」を形成していくために県が力を入れるべきこと	85
(2)	男女共同参画社会の実現に向けた意見・要望等（自由意見）	89

I. 調査の概要

1. 調査目的

県民の男女平等や男女の人権・家庭・地域などに対する意識と実態を把握し、男女共同参画社会づくりに向けた施策の推進を図るための基礎資料を得る。

2. 調査対象

- ① 対象 20 歳以上の鹿児島県民
- ② 抽出方法 住民基本台帳に基づき無作為で抽出
- ③ サンプル数 配布数：5,000 通
回収数：2,227 通（回収率：44.5%）
- ④ 調査期間 平成 28 年 8 月 15 日(月)～9 月 7 日(水)
- ⑤ 調査方法 郵送による配布・回収

3. 本書を読むにあたっての注意

- ① 集計結果は百分率で算出し、小数点第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。
- ② 複数回答の場合は、回答の総数が有効回収数の実数より多くなるので、合計は 100%を超える場合がある。
- ③ 集計表中の「性別」及び「年代等」の区分けを行っているが、各区分に無回答のデータが含まれているため、各区分の合計と総計の数値が異なる場合がある。(*1)
- ④ 調査結果の分析にあたり、下記文献と比較している。
 - 平成 23 年度 鹿児島県の男女の意識に関する調査（鹿児島県）
（20 歳以上の男女 5,000 人、有効回収数 1,839 人）
※本文中では、「前回調査」または「平成 23 年度調査」と表記している。
 - 平成 19 年度 鹿児島県の男女の意識に関する調査（鹿児島県）
（20 歳以上の男女 3,000 人、有効回収数 1,119 人）
※本文中では、「平成 19 年度調査」と表記している。
 - 平成 13 年度 鹿児島県の男女の意識に関する調査（鹿児島県）
（20 歳以上の男女 4,000 人、有効回収数 1,719 人）
※本文中では、「平成 13 年度調査」と表記している。
 - 平成 28 年度 男女共同参画社会に関する世論調査（内閣府）
（18 歳以上の男女 5,000 人、有効回収数 3,059 人）
※本文中では、「内閣府調査」または「平成 28 年度内閣府調査」と表記している。

*1：女性と男性の小計は、性別についての無回答者数を除いているので総計とは一致しない。

- 平成 26 年度 男女間における暴力に関する調査（内閣府）
（20 歳以上の男女 5,000 人，有効回収数 3,544 人）
※ 本文中では，「平成 26 年度内閣府・DV 調査」と表記している。

- 平成 26 年度 女性の活躍推進に関する世論調査（内閣府）
（20 歳以上の男女 5,000 人，有効回収数 3,037 人）
※ 本文中では，「平成 26 年度内閣府・女性活躍推進調査」と表記している。

II. 調査結果の概要

1. 男女平等の意識について

男女の地位の平等感について6つの分野について聞いたところ、「平等である」と答えた割合は「学校の中で」(60.7%)が最も高く、次いで「法律や制度で」(39.2%)となっている。

一方、「男性の方が優遇されている」とする人の割合が高くなっているのは、「社会通念、慣習・しきたりなどで」(66.1%)が最も高く、次いで「職場の中で」(50.5%)、「地域社会の中で」(49.6%)、「家庭の中で」(46.5%)の順となっており、これらの分野では、『男性優遇』が『女性優遇』より40ポイント以上高く、依然として男女の地位の不平等感が存在していると考えられる。

前回調査と比較すると、「平等である」と回答した割合は、「家庭の中で」、「社会通念、慣習・しきたりなどで」で増加しているが、「学校教育の中で」、「職場の中で」、「地域社会の中で」、「法律や制度で」では減少している。

平成28年度内閣府調査と比較すると、全ての分野で「平等である」と回答した割合は低く、特に「地域社会の中で」は、内閣府調査より18.1ポイント低くなっている。

男女共同参画の関連用語の認知度について聞いたところ、「よく知っている」という回答割合が高い用語は、「男女雇用機会均等法」(35.6%)、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」(29.6%)、「男女共同参画社会」(18.8%)、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(10.8%)で、他の用語は1割に満たない。

また、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)」、「ダイバーシティ」、「ジェンダー」、「鹿児島県男女共同参画推進条例」、「鹿児島県男女共同参画基本計画(第2次)」、「鹿児島県男女共同参画センター」については、半数以上の人々が「知らない」と回答している。

男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、最も重要だと思うことについては、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(24.2%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること」(22.3%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(18.4%)の順となっている。

2. 就業について

女性が職業をもつことについての意識については、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(41.4%)という回答が最も高く、初めて「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(39.5%)という回答の割合を上回った。

女性は、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(42.7%)と回答した割合が最も高く、男性は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(42.8%)が最も高くなっており、回答傾向に差がみられたが、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答割合は、男女ともに30代が最も多くなった。

前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合は、11.5ポイント高く、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した割合は、10.6ポイント減少している。

また、内閣府調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」と回答した割合は12.8ポイント低くなっており、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合は13.2ポイント高くなっている。

今後希望する就労形態について、現在、無職の人に、今後どのような形で働きたいか聞いたところ、「働くつもりはない」(49.3%)と答えた人を除き、「パートタイム、アルバイト、嘱託」(13.3%)と答えた人の割合が最も高く「家業に従事」(7.8%)、「常勤(フルタイム)」(5.9%)などの順になっている。

職場における性別による処遇の違いについては、「特に性別により処遇が異なっていることはない」(45.2%)と回答した割合が最も高く、次いで、「賃金に格差がある」(19.9%)、「女性に補助的な業務や雑用(お茶汲み等)に従事させる傾向がある」(15.8%)、「管理職への登用に差がある」(13.0%)、「昇進、昇格に差がある」(12.2%)の順となっており、約半数の人が職場における性別による処遇に違いがあると回答している。

性別でみると、女性は「賃金に格差がある」で男性より10.9ポイント上回っているのに対し、「管理職への登用に差がある」、「育児休業や介護休業の取り易さに差がある」と回答した割合は、男性が女性を上回っている。

また、性・年代別で見ると、「特に性別により処遇が異なっていることはない」と回答した割合は、男性では年代が高くなるほど高くなっているのに対し、女性では20歳代から40歳代まで上昇しているが、50代以上では低くなっている。

政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについては、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(44.1%)という回答が最も高く、次いで「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(42.1%)の順となっている。

性別でみると、女性は「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しない」という回答が男性より約10ポイント高くなっており、男性との回答傾向に差があった。

管理職への昇進に対するイメージについては、「責任が重くなる」(65.2%)という回答が最も高く、次いで「能力が認められた結果である」(49.5%)、「仕事と家庭の両立が困難である」(35.1%)となっている。

性別でみると、女性は「仕事と家庭の両立が困難になる」と回答した人の割合が男性より24.3ポイント高くなっており、30～50歳代女性の半数以上が回答している。

性・年代別で見ると、「責任が重くなる」と回答した割合は、20歳代男性を除いて男女とも年代が下がるほど高くなっている。

女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことに関する意識については、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(72.5%)という回答が最も多く、次いで「男性の家事・育児参画への理解・意識改革」(46.1%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(44.0%)となっている。

性別でみると、「介護支援サービスの充実」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」などで女性の回答した割合が男性より高く、「家事・育児支援サービスの充実」では男性の方が高くなっている。

性・年代別で見ると、男女とも全ての年代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も多く、特に20～50歳代女性と30歳代男性の約8割が回答しており、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」と回答した女性の割合は、年代が下がるにつれ高くなっている。

3. 家庭生活について

家庭における夫婦の役割分担については、「妻」と回答した割合が高いのは、「家事」(69.3%)、「育児」(41.8%)、「介護・看護」(27.7%)で、これらの項目については家庭における役割が「妻」に偏っていることがうかがえる。「夫」と回答した割合は、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」(24.4%)を除くと、1%前後である。「夫と妻が分担」と答えた人の割合は、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」(30.9%)で最も高く、次いで「家事」(23.3%)、「育児」(21.0%)となっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、初めて「否定」(48.3%)する人の割合が「肯定」(45.8%)する人の割合を上回った。また、男性では「肯定」(51.4%)が

「否定」(43.6%)を7.8%上回り、女性では「否定」(53.1%)が「肯定」(42.5%)を10.6ポイント上回っている。

性・年代別でみると、「賛成」の割合が高いのは女性の70歳代、男性の20歳代、70歳代で、10%を超えている。「反対」と回答した割合は、女性は40歳代、男性は30歳代で高くなっている。

内閣府調査と比較すると、「否定」する人の割合は6ポイント下回り、「肯定」する人の割合は、5.2ポイント上回っている。

4. 仕事と家庭・地域への取組について

地域における活動への参画状況については、「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」(41.3%)と回答した人の割合が最も高く、次いで「スポーツや趣味、文化振興などに関わるサークル活動」(16.8%)、「子ども会、PTA、スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動」(12.6%)の順となっている。

性別でみると、女性は「婦人(女性)会、老人クラブ、青年団などの団体活動」、「子ども会、PTA、スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動」、「子育て支援や高齢者介護、障害者福祉などを目的としたグループ活動」などと回答した割合が高く、男性は「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」などで女性より高くなっている。

男女の仕事、家庭生活、地域活動の優先度について、『現状』では、「仕事」と「家庭生活」ともに優先」(25.5%)と回答した割合が最も多く、次いで「家庭生活」を優先」(22.0%)、「仕事」を優先」(16.1%)の順となっている。

一方、『希望』では、「仕事」と「家庭生活」ともに優先」(26.1%)と回答した割合が最も高く、次いで「家庭生活」を優先」(21.7%)、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」ともに優先」(16.4%)となっている。

『現状』と『希望』を比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」ともに優先」と回答した割合は『現状』より7.4ポイント高く、「仕事」を優先」と回答した割合は『現状』より11.4ポイント低くなっている。性別でみると、女性は家庭生活を優先し、男性は家庭生活以外に仕事も優先している傾向がみられた。

男性が家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なことについては、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」(50.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「家事などについて、性別によらず、身に付けることができるような育て方をすること」(36.3%)、「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(30.0%)の順となっている。

性・年代別でみると、30歳代の女性を除いた全ての年代において「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること」という回答が最も多かった。

5. 男女の人権について

配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験についてみると、「何度もあった」(10.0%)と「1、2度あった」(18.4%)を合わせて、約3割の人が『あった』と回答している。暴力の種類別でみると、『あった』と回答した割合は「身体に対する暴行」(20.4%)が最も高く、次いで「精神的な嫌がらせ・脅迫」(16.5%)、「性的な行為の強要」(12.4%)となっている。「身体に対する暴行」では、女性の約4人に1人(26.4%)が『あった』と回答している。

また、「いずれかの暴力を受けた経験がある」と回答した女性は、約2.7人に1人(36.6%)となっている。いずれの暴力についても、『あった』と回答した割合は女性が男性を大きく上回っている。

暴力や嫌がらせ等についての相談先をみると、「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」(42.2%)と回答した割合が最も高く、次いで「友人、知人に相談した」(23.8%)、「家族や親戚に相談した」(18.1%)など身近な人への相談、「医療関係者に相談した」(2.7%)、「警察に連絡・相談した」(2.2%)の順となっている。

相談しなかった（できなかつた）理由についてみると、「相談するほどのことではないと思ったから」（36.2%）と回答した割合が最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（31.9%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（26.8%）の順となっている。

男女間における暴力を防止するために必要なことについてみると、「学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」（56.3%）と回答した割合が最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」（48.4%）、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」（43.3%）の順となっており、人権問題や暴力を防止するための教育が必要と回答している人が多くなっている。

メディアにおける性・暴力表現についての意識についてみると、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」（46.6%）と回答した割合が最も高く、次いで「女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」（32.8%）、「性に関する社会規範が損なわれている」（29.1%）の順となっている。

6. 男女共同参画センターについて

「県男女共同参画センター」の認知・利用経験についてみると、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた割合は、「意識啓発・人材育成事業」（13.9%）が最も高く、次いで「情報提供事業」（12.1%）、「相談事業」（10.4%）となっている。

前回調査と比較すると、全ての事業で「利用したことがある」と回答した割合はほぼ同じとなっている。

男女共同参画の拠点施設として「県男女共同参画センター」に期待する役割についてみると、「男女共同参画を各地域で推進する人材の育成」（22.7%）と回答した割合が最も高く、次いで「企業や学校等を対象とした男女共同参画を推進するためのセミナーの開催」（21.6%）、「女性の再就職やキャリアアップなどを支援するための講座の開催」（21.6%）の順となっている。

性・年代別でみると、女性の20～50歳代と男性の40歳代の各年代において「女性の再就職やキャリアアップなどを支援するための講座の開催」と回答した割合が最も高くなっている。

7. 県の男女共同参画施策について

「男女共同参画社会」を形成していくために県が力を入れるべきことについてみると、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」（43.0%）と回答した割合が最も高く、次いで「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」（32.8%）、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」（32.1%）の順となっている。

前回調査と比較すると、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」と回答した割合は6.4ポイント減少したが、依然として他の項目より10ポイント以上高くなっており、また、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」が増加傾向にある。

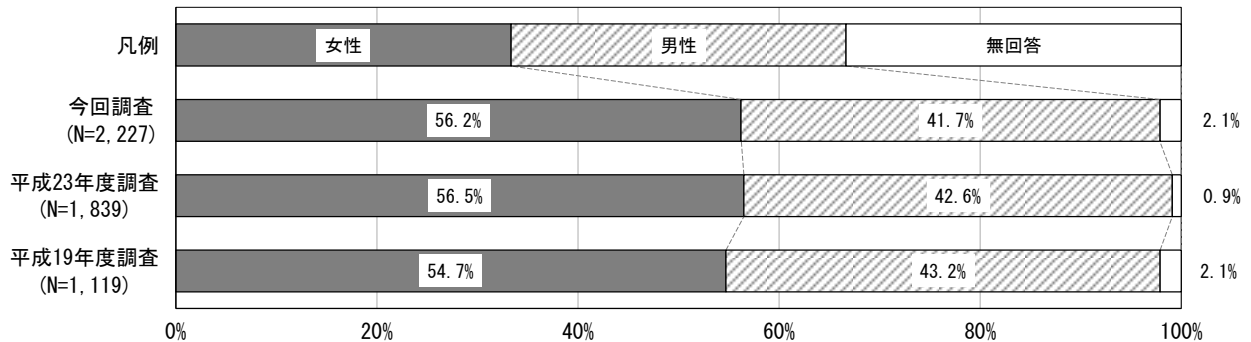
III. 調査結果

1. 回答者の属性

① 性別

性別は、「女性」が56.2%、「男性」が41.7%となっている。

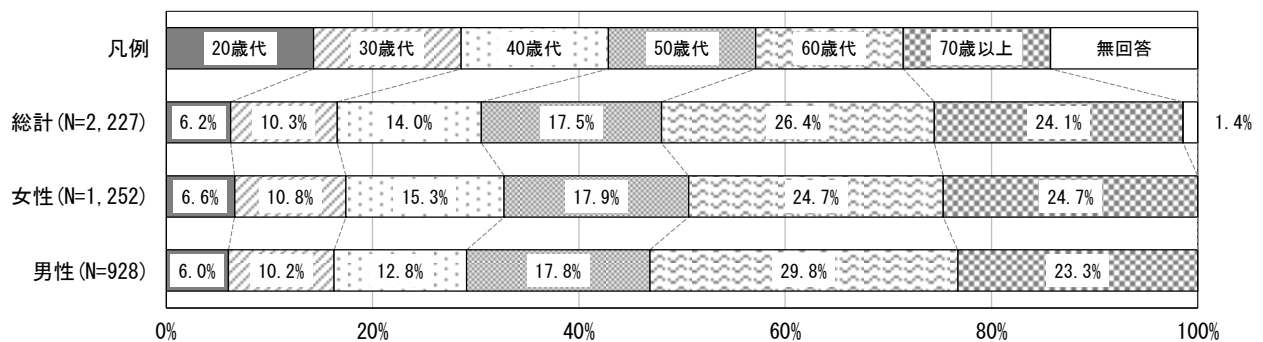
図表 1-1 性別



② 年齢

年齢は、「60歳代」(26.4%)が最も多く、次いで「70歳以上」(24.1%)、「50歳代」(17.5%)、「40歳代」(14.0%)、「30歳代」(10.3%)、「20歳代」(6.2%)の順となっている。

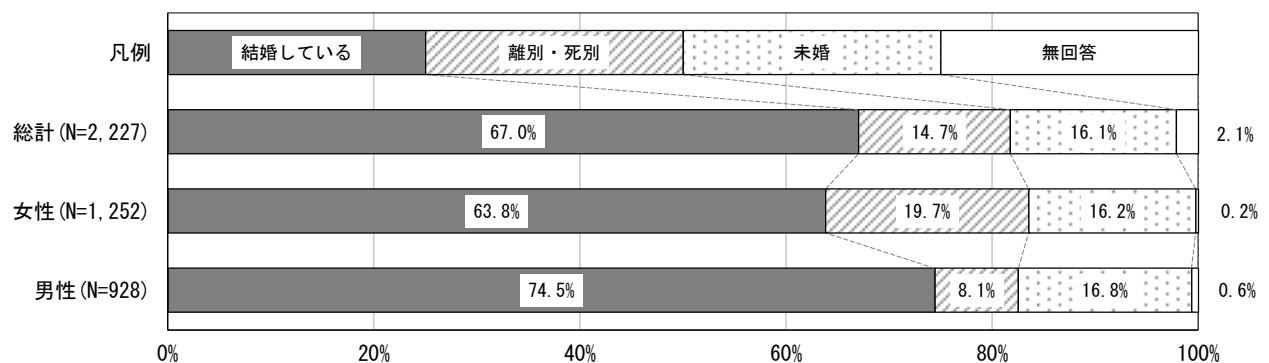
図表 1-2 年齢



③ 結婚の有無

結婚の有無は、「結婚している」(67.0%)が最も多く、次いで「未婚」(16.1%)、「離別・死別」(14.7%)の順となっている。

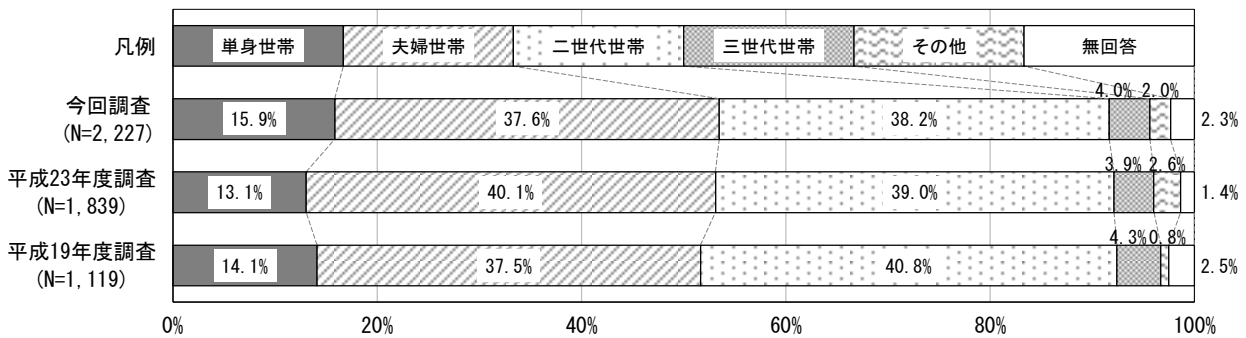
図表 1-3 結婚の有無



④ 世帯構成

世帯構成は、「二世帯世帯」(38.2%)が最も高く、次いで「夫婦世帯」(37.6%),「単身世帯」(15.9%),「三世帯世帯」(4.0%),「その他」(2.0%)の順となっている。

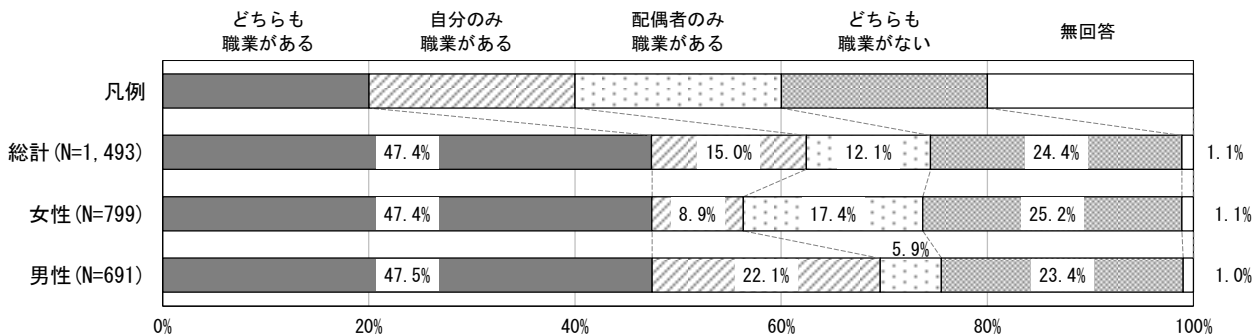
図表 1-4 世帯構成



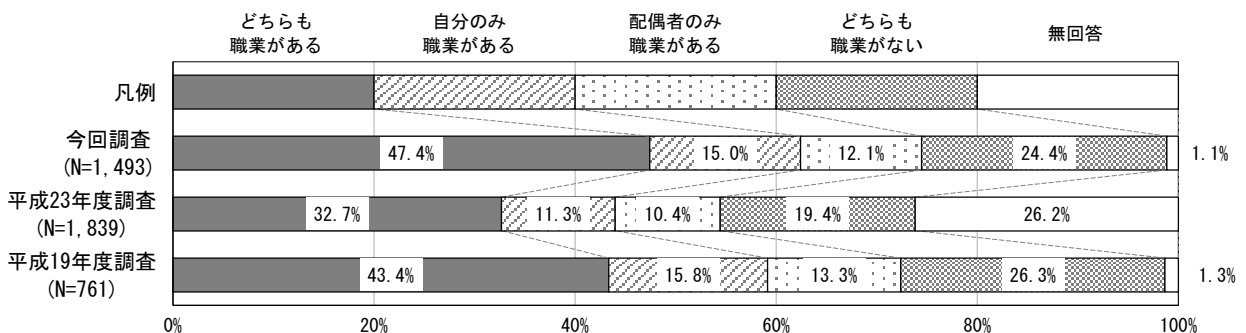
⑤ 夫婦の就労状況 (P.7「③結婚の有無」で「結婚している」と回答した1,493人が対象)

夫婦の就労状況は、「どちらも職業がある」(47.4%)が最も多く、次いで「どちらも職業がない」(24.4%),「自分のみ職業がある」(15.0%),「配偶者のみ職業がある」(12.1%)の順となっている。

図表 1-5 夫婦の就労状況【性別】



図表 1-6 夫婦の就労状況【前回調査】

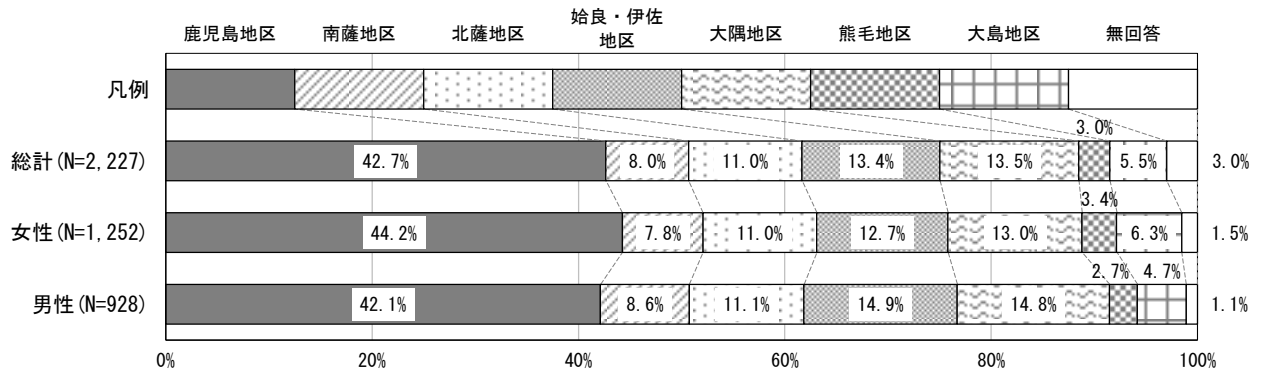


※ 平成23年度調査では、「離別・死別」、「未婚」、「無回答」を含む1,839人全員が回答している。

⑥ 居住地域

居住地域は、「鹿児島地区」(42.7%)で最も多く、次いで「大隅地区」(13.5%),「始良・伊佐地区」(13.4%),「北薩地区」(11.0%),「南薩地区」(8.0%),「大島地区」(5.5%),「熊毛地区」(3.0%)となっている。

図表 1-7 居住地域



2. 男女平等の意識について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

問1 あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(各項目についてあてはまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 2-1)

各分野の男女の地位の平等感についてみると、「平等である」と回答した割合は「学校教育の中で」(60.7%)が最も高く、次いで「法律や制度で」(39.2%)、「家庭の中で」(39.0%)、「地域社会の中で」(29.1%)、「職場の中で」(25.6%)、「社会通念、慣習・しきたりなどで」(16.7%)の順となっている。

また、全ての分野で『男性優遇』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)が『女性優遇』(「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」)を上回っており、特に「社会通念、慣習・しきたりなどで」、「職場の中で」、「地域社会の中で」、「家庭の中で」は、『男性優遇』が『女性優遇』より40ポイント以上高くなっている。

[性別、性・年代別] (図表 2-2～図表 2-10)

性別でみると、全ての分野で「平等である」と回答した割合は男性が女性を上回っており、『男性優遇』は女性が男性を上回っている。特に「法律や制度で」についてはその差が最も大きく、「平等である」と回答した割合は男性が女性を19.9ポイント上回っているのに対し、『男性優遇』と回答した割合は女性が男性を18.5ポイント上回っている。また、『男性優遇』と回答した女性の割合は「社会通念、慣習・しきたりなどで」で71.6%と各分野の中で最も高くなっている。

性・年代別でみると、女性は「平等である」と回答した割合が「家庭生活」、「学校教育の中で」、「職場の中で」の分野で年代が上がるほど低い傾向がみられ、「地域社会の中で」、「法律や制度で」、「社会通念、慣習・しきたりなどで」では50歳代までは年代が上がるほど低く、60歳以上では再び高くなる傾向がみられた。男性も若い年代で「平等である」と回答した割合が高い傾向にあるが、「社会通念、慣習・しきたりなどで」で30歳代男性は約1割にとどまっている。また、全ての分野で『男性優遇』と回答した女性の割合は、50歳代までは年代が上がるごとに高くなり、60歳以上では年代が上がるごとに低くなっている。また『女性優遇』と回答した割合は男女とも年代が下がるほど高くなる傾向がみられ、特に若い男性は「学校教育の中で」、「職場の中で」、「地域社会の中で」、「法律や制度で」、「社会通念、慣習・しきたりなどで」で高くなっている。

[「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別] (図表 2-11～図表 2-16)

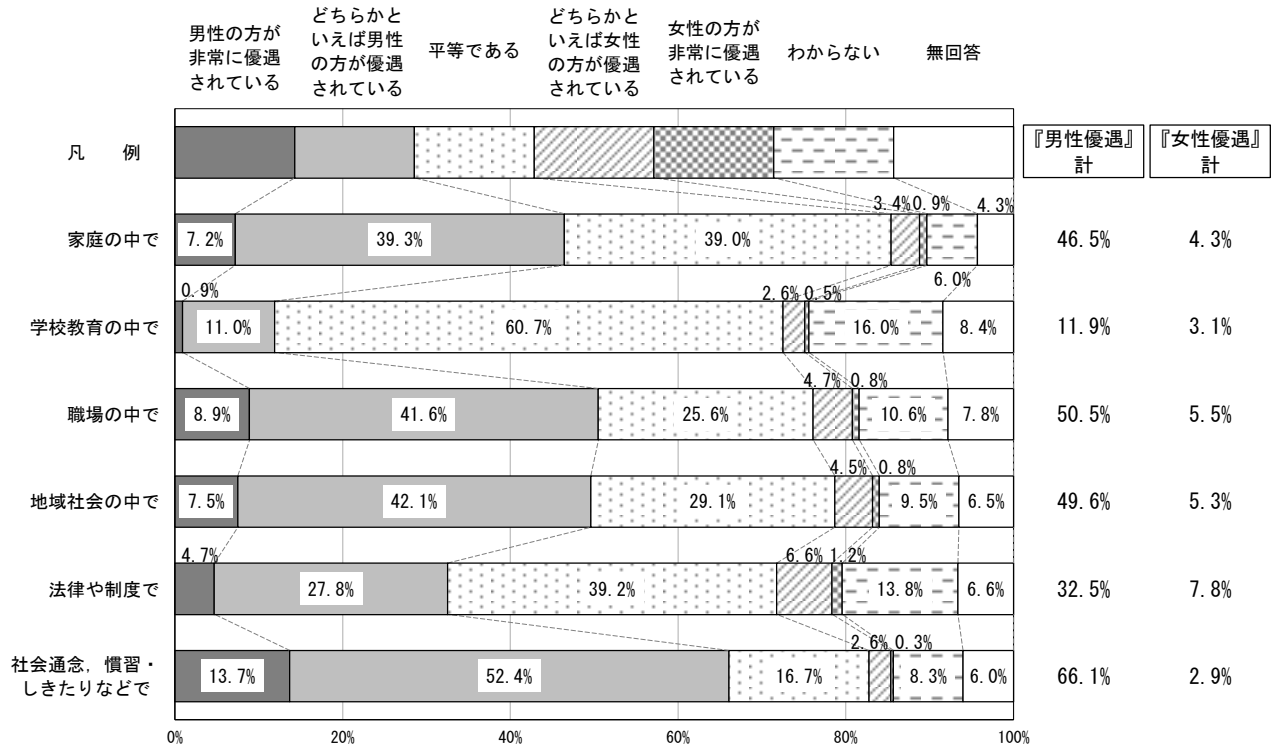
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別でみると、全ての分野で、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について「反対」の人は、『男性優遇』と回答した割合が高い傾向がみられた。

[前回調査、内閣府調査との比較] (図表 2-17～図表 2-22)

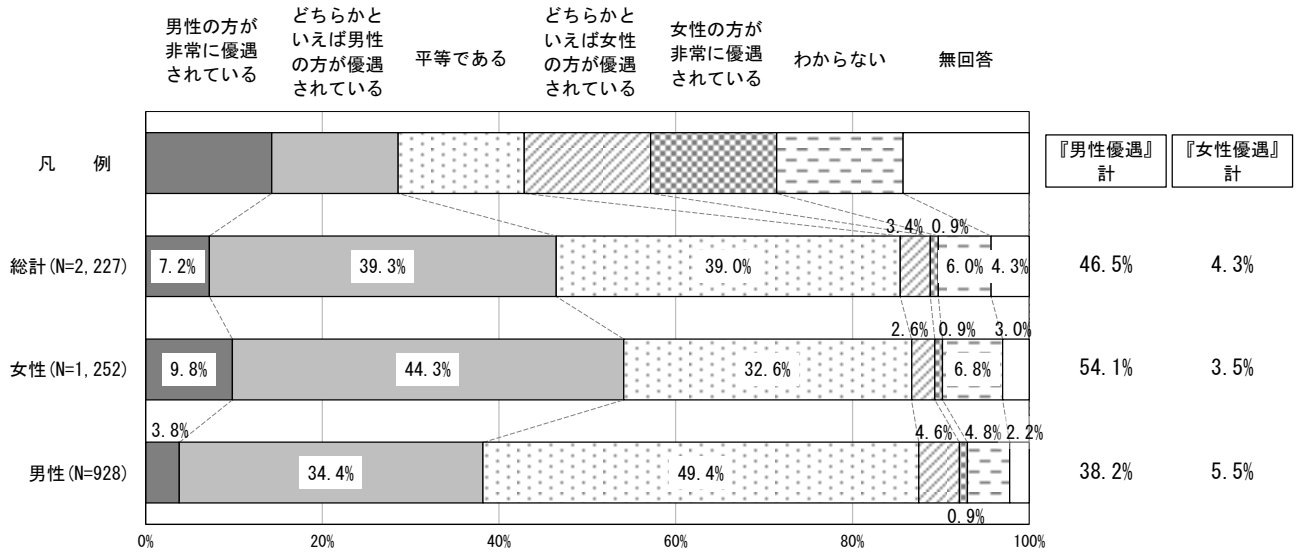
前回調査と比較すると、「平等である」と回答した割合は「学校教育の中で」、「職場の中で」、「地域社会の中で」、「法律や制度で」で減少しており、その中で「学校教育の中で」、「職場の中で」、「法律や制度で」は『男性優遇』が増加している。

内閣府調査と比較すると、全ての分野で「平等である」と回答した割合は低く、特に「地域社会の中で」は内閣府調査より18.1ポイント低くなっている。

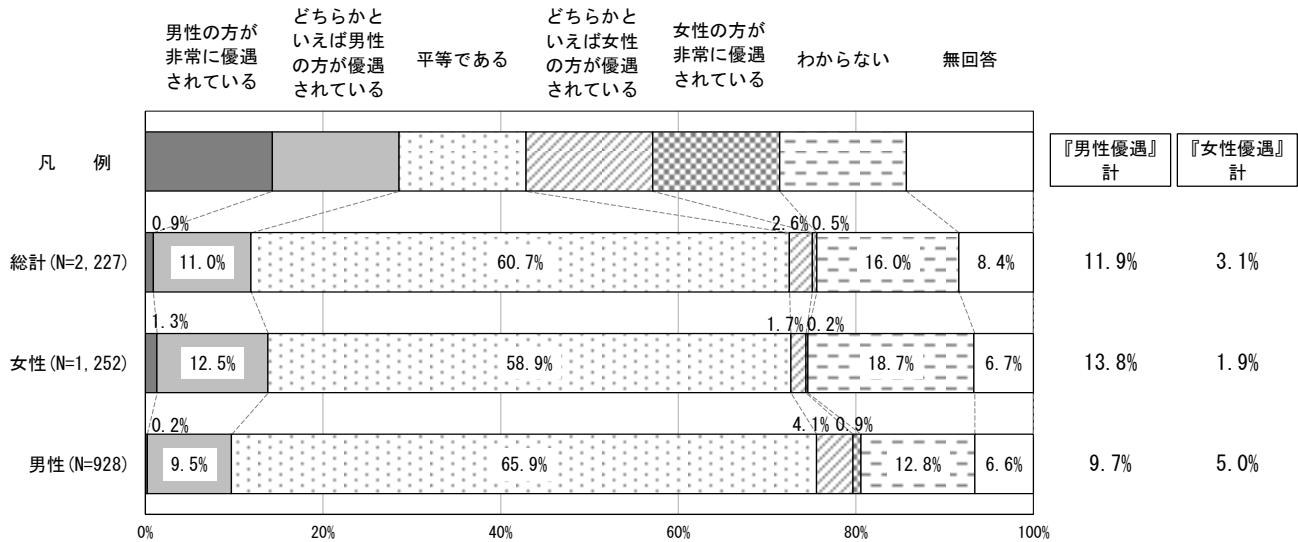
図表 2-1 各分野の男女の地位の平等感【総計】



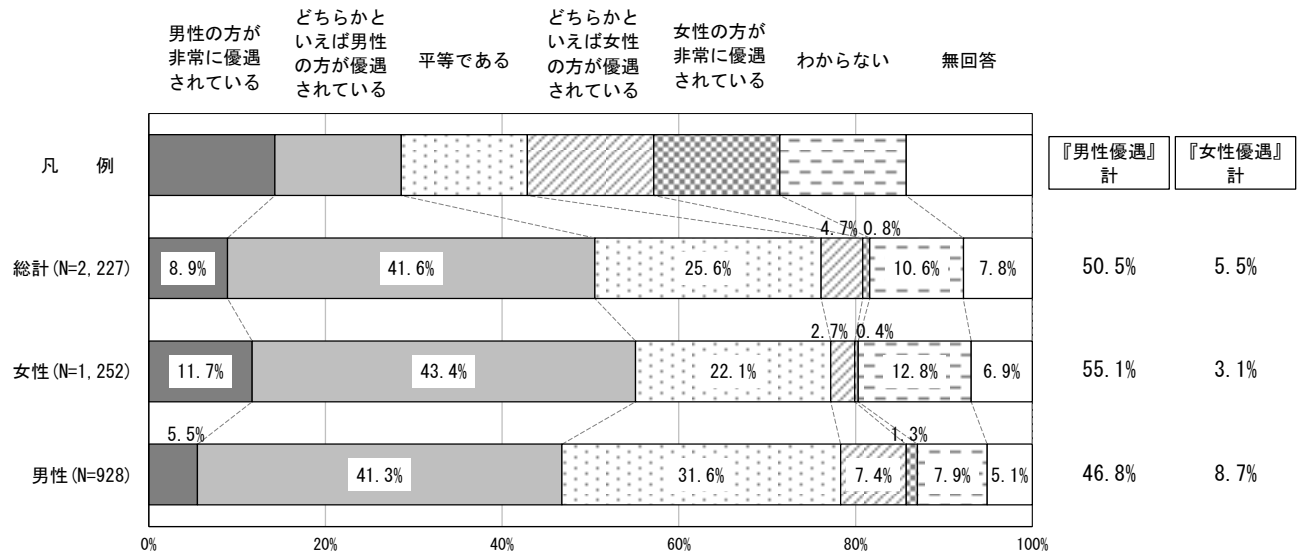
図表 2-2 各分野の男女の地位の平等感・家庭の中で【性別】



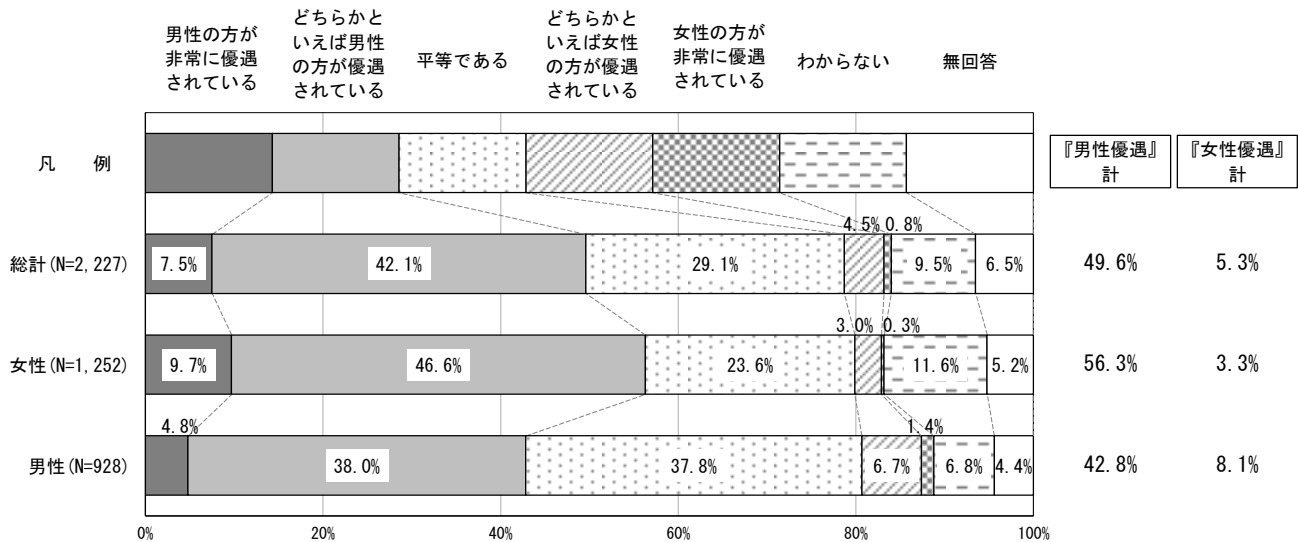
図表 2-3 各分野の男女の地位の平等感・学校教育の中で【性別】



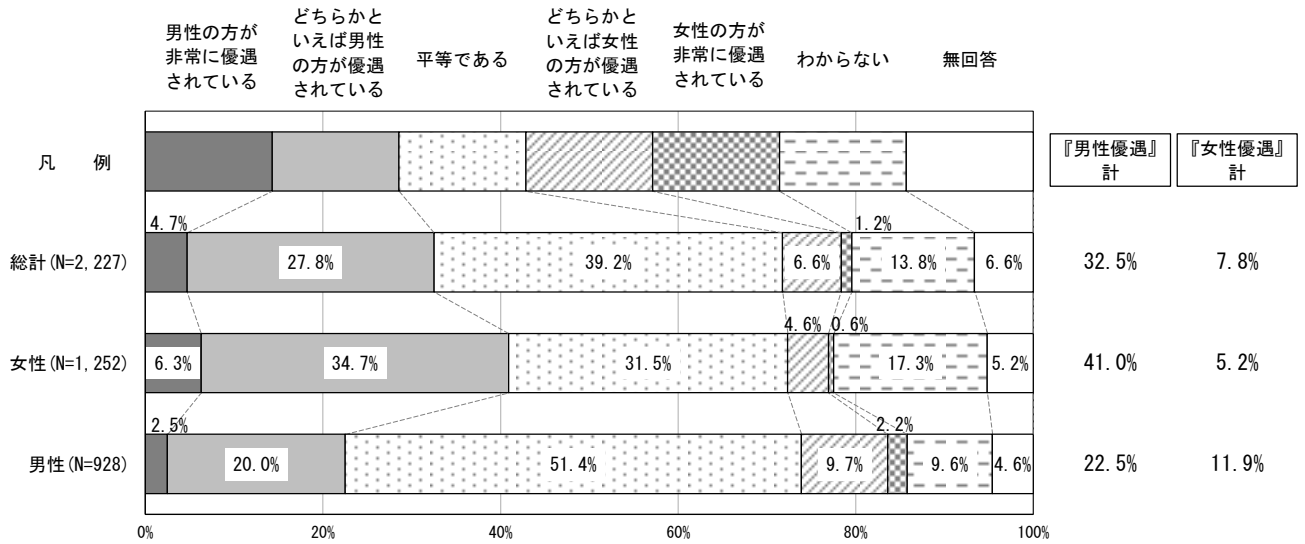
図表 2-4 各分野の男女の地位の平等感・職場の中で【性別】



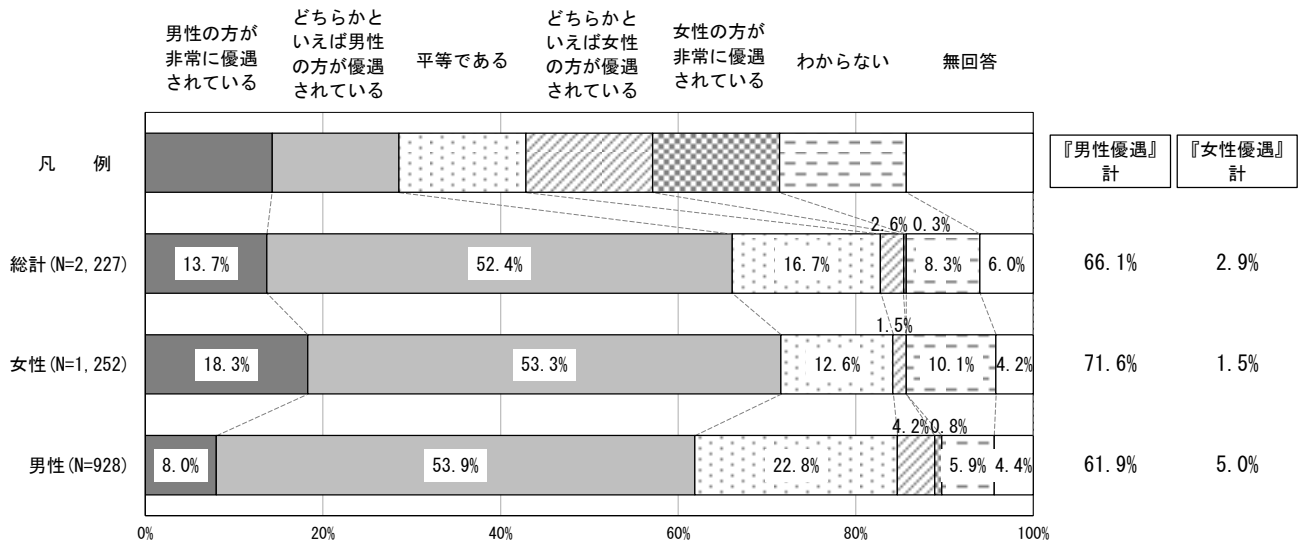
図表 2-5 各分野の男女の地位の平等感・地域社会の中で【性別】



図表 2-6 各分野の男女の地位の平等感・法律や制度で【性別】



図表 2-7 各分野の男女の地位の平等感・社会通念、慣習・しきたりなどで【性別】



図表 2-8 各分野の男女の地位の平等感【性・年代別】1/3

性・年代別	サンプル数	家庭の中で							学校教育の中で						
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
総計	2,227	160	875	869	75	19	133	96	19	244	1,351	59	11	357	186
	100.0%	7.2%	39.3%	39.0%	3.4%	0.9%	6.0%	4.3%	0.9%	11.0%	60.7%	2.6%	0.5%	16.0%	8.4%
女性	1,252	123	555	408	32	11	85	38	16	156	738	21	3	234	84
	100.0%	9.8%	44.3%	32.6%	2.6%	0.9%	6.8%	3.0%	1.3%	12.5%	58.9%	1.7%	0.2%	18.7%	6.7%
20歳代	83	6	18	47	3	1	8	0	1	8	60	3	0	11	0
	100.0%	7.2%	21.7%	56.6%	3.6%	1.2%	9.6%	0.0%	1.2%	9.6%	72.3%	3.6%	0.0%	13.3%	0.0%
30歳代	135	8	63	42	8	4	7	3	1	21	91	6	1	14	1
	100.0%	5.9%	46.7%	31.1%	5.9%	3.0%	5.2%	2.2%	0.7%	15.6%	67.4%	4.4%	0.7%	10.4%	0.7%
40歳代	192	26	84	64	3	1	14	0	4	25	123	1	1	34	4
	100.0%	13.5%	43.8%	33.3%	1.6%	0.5%	7.3%	0.0%	2.1%	13.0%	64.1%	0.5%	0.5%	17.7%	2.1%
50歳代	224	32	115	59	3	1	10	4	5	39	143	3	0	27	7
	100.0%	14.3%	51.3%	26.3%	1.3%	0.4%	4.5%	1.8%	2.2%	17.4%	63.8%	1.3%	0.0%	12.1%	3.1%
60歳代	309	27	151	100	7	2	14	8	4	27	190	5	1	62	20
	100.0%	8.7%	48.9%	32.4%	2.3%	0.6%	4.5%	2.6%	1.3%	8.7%	61.5%	1.6%	0.3%	20.1%	6.5%
70歳以上	309	24	124	96	8	2	32	23	1	36	131	3	0	86	52
	100.0%	7.8%	40.1%	31.1%	2.6%	0.6%	10.4%	7.4%	0.3%	11.7%	42.4%	1.0%	0.0%	27.8%	16.8%
男性	928	35	319	458	43	8	45	20	2	88	612	38	8	119	61
	100.0%	3.8%	34.4%	49.4%	4.6%	0.9%	4.8%	2.2%	0.2%	9.5%	65.9%	4.1%	0.9%	12.8%	6.6%
20歳代	56	1	11	38	5	0	1	0	0	3	38	9	3	2	1
	100.0%	1.8%	19.6%	67.9%	8.9%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	5.4%	67.9%	16.1%	5.4%	3.6%	1.8%
30歳代	95	2	26	49	7	3	6	2	0	5	69	5	2	12	2
	100.0%	2.1%	27.4%	51.6%	7.4%	3.2%	6.3%	2.1%	0.0%	5.3%	72.6%	5.3%	2.1%	12.6%	2.1%
40歳代	119	2	48	52	10	1	6	0	0	13	80	9	1	14	2
	100.0%	1.7%	40.3%	43.7%	8.4%	0.8%	5.0%	0.0%	0.0%	10.9%	67.2%	7.6%	0.8%	11.8%	1.7%
50歳代	165	6	54	90	7	1	6	1	0	20	123	5	0	13	4
	100.0%	3.6%	32.7%	54.5%	4.2%	0.6%	3.6%	0.6%	0.0%	12.1%	74.5%	3.0%	0.0%	7.9%	2.4%
60歳代	277	14	98	137	9	1	11	7	1	30	181	9	1	36	19
	100.0%	5.1%	35.4%	49.5%	3.2%	0.4%	4.0%	2.5%	0.4%	10.8%	65.3%	3.2%	0.4%	13.0%	6.9%
70歳以上	216	10	82	92	5	2	15	10	1	17	121	1	1	42	33
	100.0%	4.6%	38.0%	42.6%	2.3%	0.9%	6.9%	4.6%	0.5%	7.9%	56.0%	0.5%	0.5%	19.4%	15.3%

図表 2-9 各分野の男女の地位の平等感【性・年代別】2/3

性・年代別	サンプル数	職場の中で							地域社会の中で						
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
総計	2,227	199	927	571	104	17	236	173	168	937	649	100	17	211	145
	100.0%	8.9%	41.6%	25.6%	4.7%	0.8%	10.6%	7.8%	7.5%	42.1%	29.1%	4.5%	0.8%	9.5%	6.5%
女性	1,252	147	543	277	34	5	160	86	121	583	296	38	4	145	65
	100.0%	11.7%	43.4%	22.1%	2.7%	0.4%	12.8%	6.9%	9.7%	46.6%	23.6%	3.0%	0.3%	11.6%	5.2%
20歳代	83	10	33	27	3	0	10	0	4	27	33	4	1	13	1
	100.0%	12.0%	39.8%	32.5%	3.6%	0.0%	12.0%	0.0%	4.8%	32.5%	39.8%	4.8%	1.2%	15.7%	1.2%
30歳代	135	16	60	39	9	2	9	0	14	52	39	7	0	22	1
	100.0%	11.9%	44.4%	28.9%	6.7%	1.5%	6.7%	0.0%	10.4%	38.5%	28.9%	5.2%	0.0%	16.3%	0.7%
40歳代	192	31	80	58	8	1	13	1	25	100	42	5	2	16	2
	100.0%	16.1%	41.7%	30.2%	4.2%	0.5%	6.8%	0.5%	13.0%	52.1%	21.9%	2.6%	1.0%	8.3%	1.0%
50歳代	224	35	113	50	8	0	13	5	38	126	32	5	0	19	4
	100.0%	15.6%	50.4%	22.3%	3.6%	0.0%	5.8%	2.2%	17.0%	56.3%	14.3%	2.2%	0.0%	8.5%	1.8%
60歳代	309	31	142	65	4	2	45	20	20	158	78	12	1	31	9
	100.0%	10.0%	46.0%	21.0%	1.3%	0.6%	14.6%	6.5%	6.5%	51.1%	25.2%	3.9%	0.3%	10.0%	2.9%
70歳以上	309	24	115	38	2	0	70	60	20	120	72	5	0	44	48
	100.0%	7.8%	37.2%	12.3%	0.6%	0.0%	22.7%	19.4%	6.5%	38.8%	23.3%	1.6%	0.0%	14.2%	15.5%
男性	928	51	383	293	69	12	73	47	45	353	351	62	13	63	41
	100.0%	5.5%	41.3%	31.6%	7.4%	1.3%	7.9%	5.1%	4.8%	38.0%	37.8%	6.7%	1.4%	6.8%	4.4%
20歳代	56	1	17	21	11	2	3	1	2	13	25	10	0	4	2
	100.0%	1.8%	30.4%	37.5%	19.6%	3.6%	5.4%	1.8%	3.6%	23.2%	44.6%	17.9%	0.0%	7.1%	3.6%
30歳代	95	8	29	33	11	7	5	2	6	34	27	12	6	9	1
	100.0%	8.4%	30.5%	34.7%	11.6%	7.4%	5.3%	2.1%	6.3%	35.8%	28.4%	12.6%	6.3%	9.5%	1.1%
40歳代	119	10	42	49	13	1	3	1	4	42	54	11	3	5	0
	100.0%	8.4%	35.3%	41.2%	10.9%	0.8%	2.5%	0.8%	3.4%	35.3%	45.4%	9.2%	2.5%	4.2%	0.0%
50歳代	165	8	62	64	19	1	11	0	9	70	62	11	0	10	3
	100.0%	4.8%	37.6%	38.8%	11.5%	0.6%	6.7%	0.0%	5.5%	42.4%	37.6%	6.7%	0.0%	6.1%	1.8%
60歳代	277	18	135	79	12	1	22	10	17	117	105	13	1	13	11
	100.0%	6.5%	48.7%	28.5%	4.3%	0.4%	7.9%	3.6%	6.1%	42.2%	37.9%	4.7%	0.4%	4.7%	4.0%
70歳以上	216	6	98	47	3	0	29	33	7	77	78	5	3	22	24
	100.0%	2.8%	45.4%	21.8%	1.4%	0.0%	13.4%	15.3%	3.2%	35.6%	36.1%	2.3%	1.4%	10.2%	11.1%

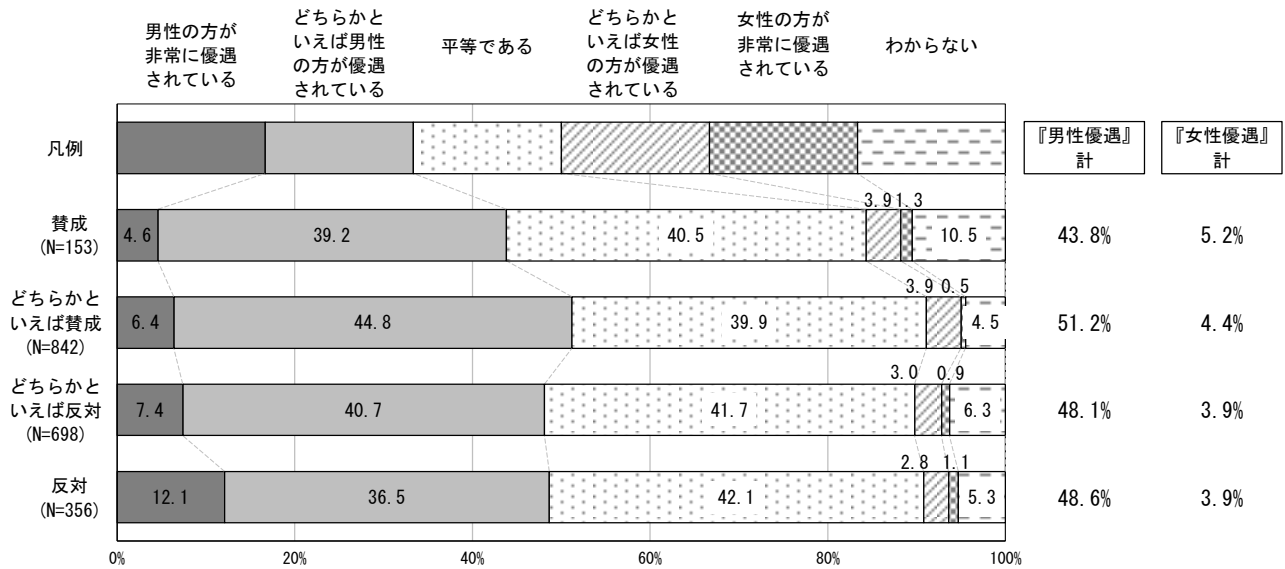
. % : 各属性で最も割合が高い

図表 2-10 各分野の男女の地位の平等感【性・年代別】3/3

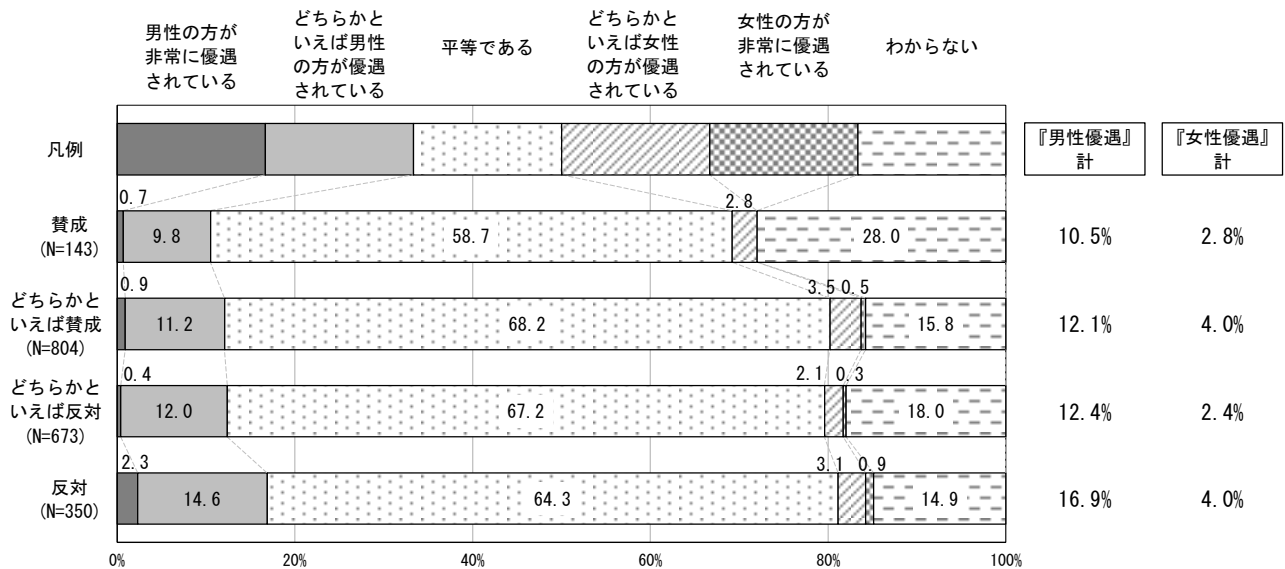
上段：度数 下段：構成比(%)	サンプル数	法律や制度で							社会通念、慣習・しきたりなどで						
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答	男性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が非常に優遇されている	わからない
総計	2,227	104	620	874	147	27	307	148	305	1,168	371	58	7	185	133
	100.0%	4.7%	27.8%	39.2%	6.6%	1.2%	13.8%	6.6%	13.7%	52.4%	16.7%	2.6%	0.3%	8.3%	6.0%
女性	1,252	79	434	394	57	7	216	65	229	667	158	19	0	127	52
	100.0%	6.3%	34.7%	31.5%	4.6%	0.6%	17.3%	5.2%	18.3%	53.3%	12.6%	1.5%	0.0%	10.1%	4.2%
20歳代	83	5	24	32	7	1	14	0	11	38	17	3	0	14	0
	100.0%	6.0%	28.9%	38.6%	8.4%	1.2%	16.9%	0.0%	13.3%	45.8%	20.5%	3.6%	0.0%	16.9%	0.0%
30歳代	135	7	49	45	12	0	21	1	29	72	17	3	0	12	2
	100.0%	5.2%	36.3%	33.3%	8.9%	0.0%	15.6%	0.7%	21.5%	53.3%	12.6%	2.2%	0.0%	8.9%	1.5%
40歳代	192	17	82	52	12	2	27	0	57	101	18	4	0	12	0
	100.0%	8.9%	42.7%	27.1%	6.3%	1.0%	14.1%	0.0%	29.7%	52.6%	9.4%	2.1%	0.0%	6.3%	0.0%
50歳代	224	24	98	57	13	0	27	5	56	133	18	2	0	11	4
	100.0%	10.7%	43.8%	25.4%	5.8%	0.0%	12.1%	2.2%	25.0%	59.4%	8.0%	0.9%	0.0%	4.9%	1.8%
60歳代	309	12	113	102	8	3	61	10	41	177	45	2	0	36	8
	100.0%	3.9%	36.6%	33.0%	2.6%	1.0%	19.7%	3.2%	13.3%	57.3%	14.6%	0.6%	0.0%	11.7%	2.6%
70歳以上	309	14	68	106	5	1	66	49	35	146	43	5	0	42	38
	100.0%	4.5%	22.0%	34.3%	1.6%	0.3%	21.4%	15.9%	11.3%	47.2%	13.9%	1.6%	0.0%	13.6%	12.3%
男性	928	23	186	477	90	20	89	43	74	500	212	39	7	55	41
	100.0%	2.5%	20.0%	51.4%	9.7%	2.2%	9.6%	4.6%	8.0%	53.9%	22.8%	4.2%	0.8%	5.9%	4.4%
20歳代	56	0	5	30	13	2	5	1	1	24	19	7	0	4	1
	100.0%	0.0%	8.9%	53.6%	23.2%	3.6%	8.9%	1.8%	1.8%	42.9%	33.9%	12.5%	0.0%	7.1%	1.8%
30歳代	95	2	18	42	16	7	8	2	10	59	9	6	3	5	3
	100.0%	2.1%	18.9%	44.2%	16.8%	7.4%	8.4%	2.1%	10.5%	62.1%	9.5%	6.3%	3.2%	5.3%	3.2%
40歳代	119	4	32	53	18	4	7	1	15	61	32	6	1	4	0
	100.0%	3.4%	26.9%	44.5%	15.1%	3.4%	5.9%	0.8%	12.6%	51.3%	26.9%	5.0%	0.8%	3.4%	0.0%
50歳代	165	3	37	94	18	0	11	2	15	102	33	5	0	9	1
	100.0%	1.8%	22.4%	57.0%	10.9%	0.0%	6.7%	1.2%	9.1%	61.8%	20.0%	3.0%	0.0%	5.5%	0.6%
60歳代	277	7	61	151	19	6	22	11	23	155	61	10	2	14	12
	100.0%	2.5%	22.0%	54.5%	6.9%	2.2%	7.9%	4.0%	8.3%	56.0%	22.0%	3.6%	0.7%	5.1%	4.3%
70歳以上	216	7	33	107	6	1	36	26	10	99	58	5	1	19	24
	100.0%	3.2%	15.3%	49.5%	2.8%	0.5%	16.7%	12.0%	4.6%	45.8%	26.9%	2.3%	0.5%	8.8%	11.1%

. % : 各属性で最も割合が高い

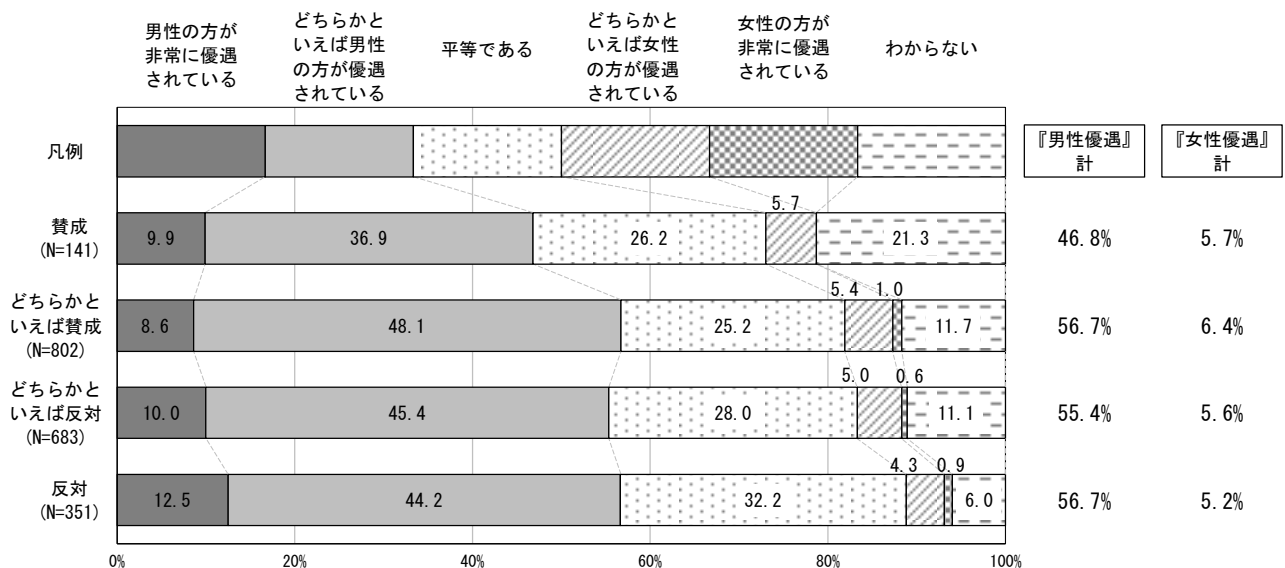
図表 2-11 各分野の男女の地位の平等感・家庭の中で【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



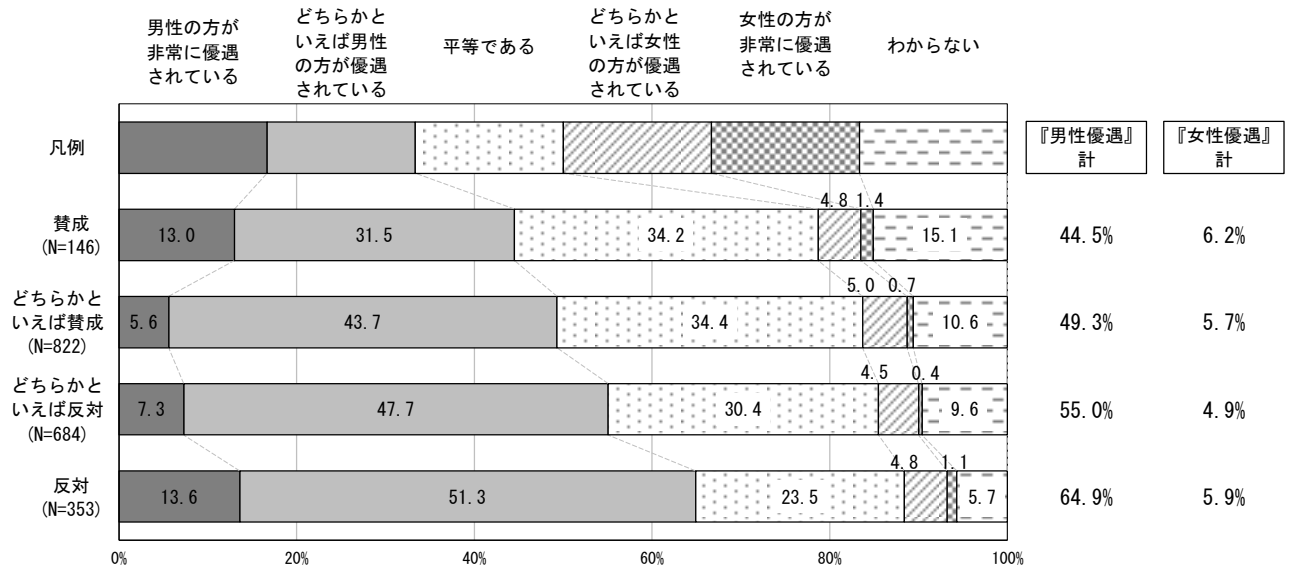
図表 2-12 各分野の男女の地位の平等感・学校教育の中で【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



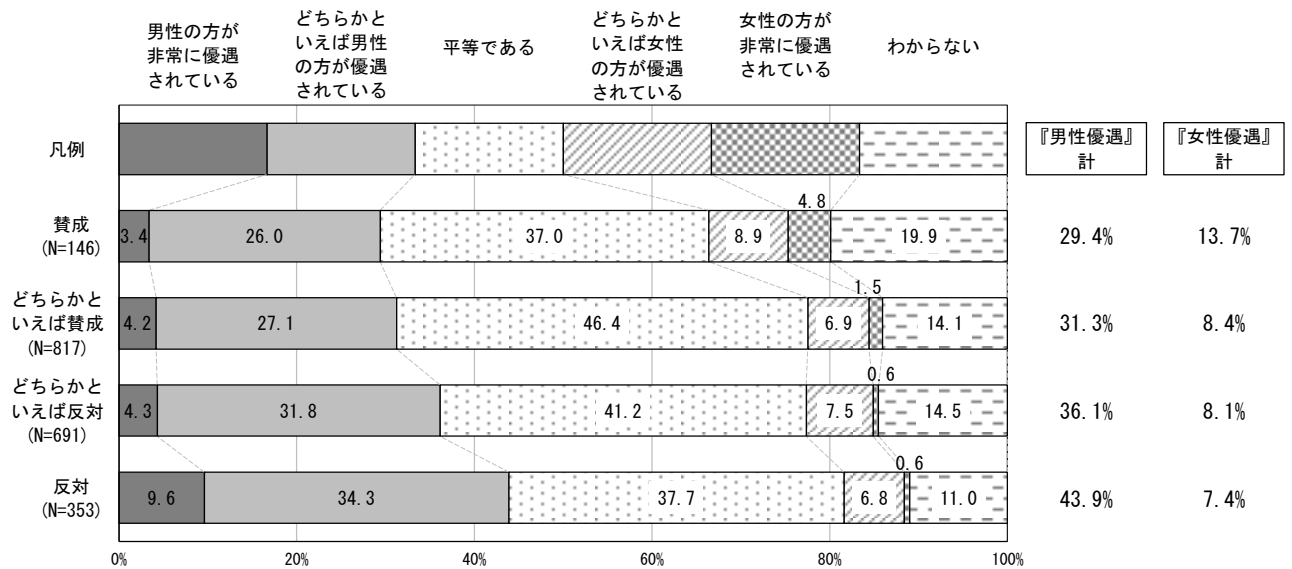
図表 2-13 各分野の男女の地位の平等感・職場の中で【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



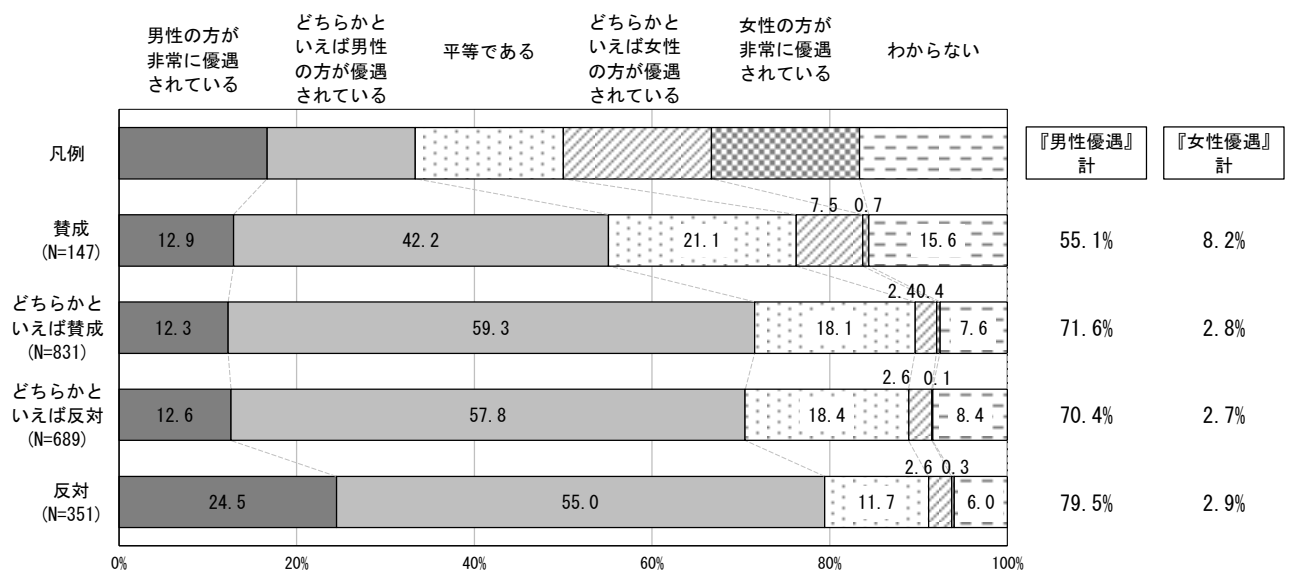
図表 2-14 各分野の男女の地位の平等感・地域社会の中で【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



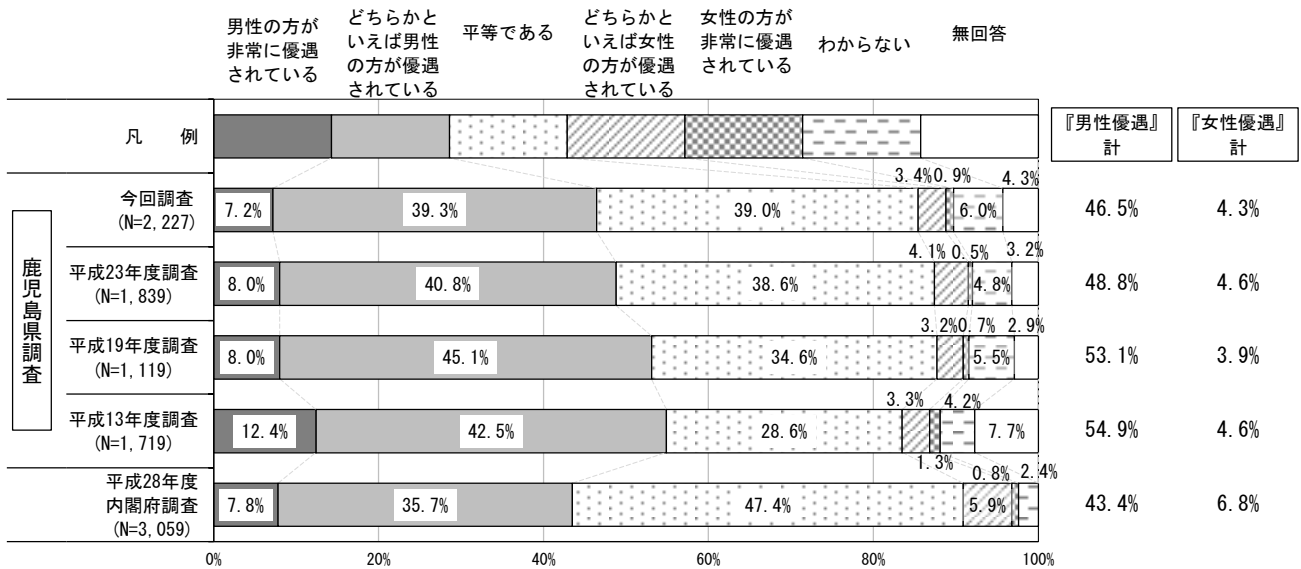
図表 2-15 各分野の男女の地位の平等感・法律や制度で【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



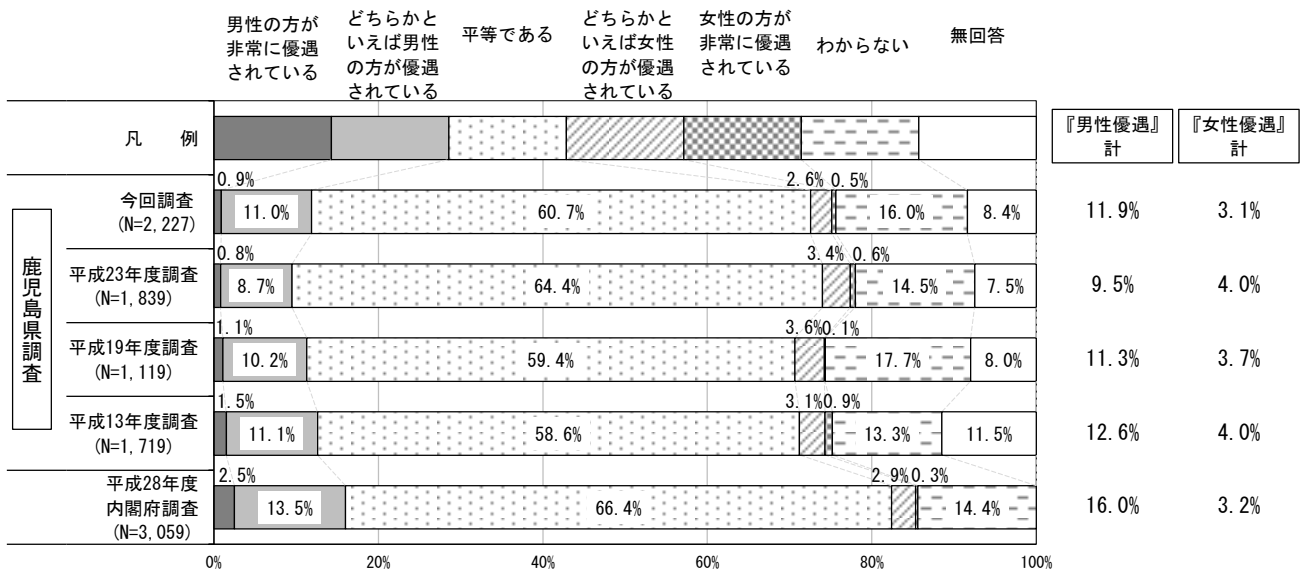
図表 2-16 各分野の男女の地位の平等感・社会通念、慣習・しきたりなどで【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



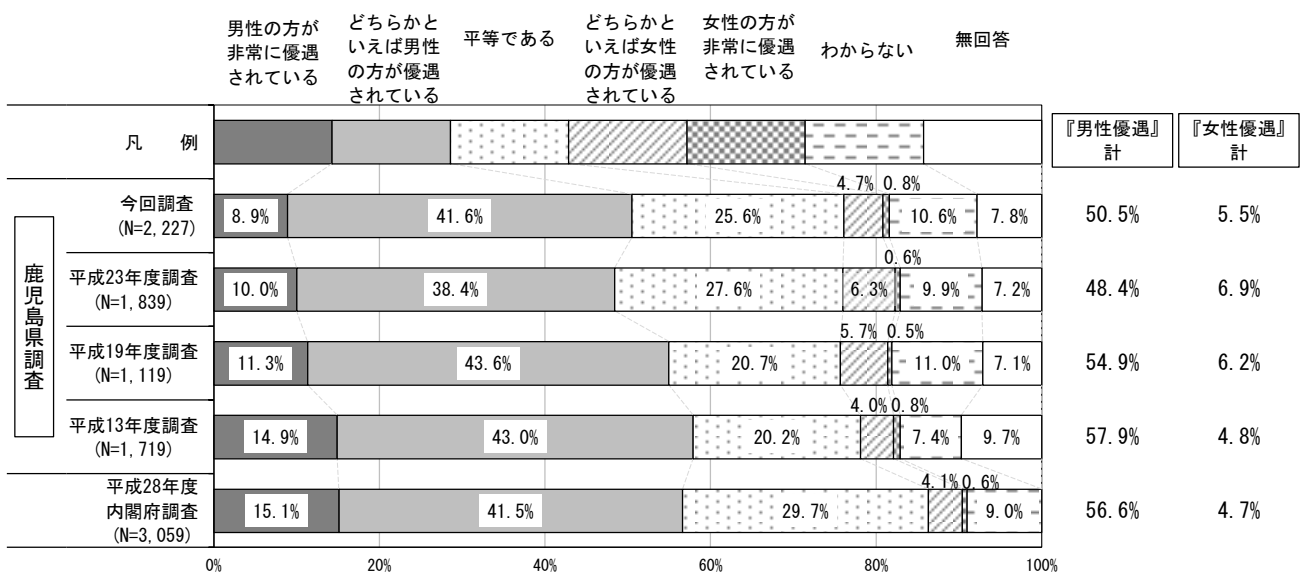
図表 2-17 各分野の男女の地位の平等感・家庭の中で【総計，前回調査，内閣府調査】



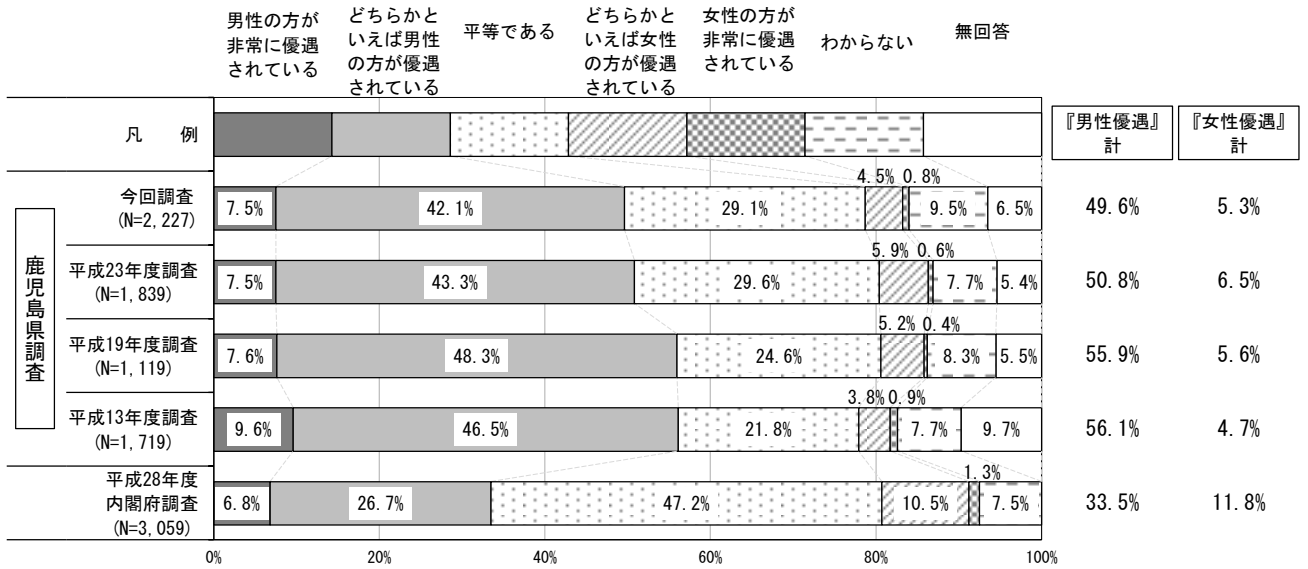
図表 2-18 各分野の男女の地位の平等感・学校教育の中で【総計，前回調査，内閣府調査】



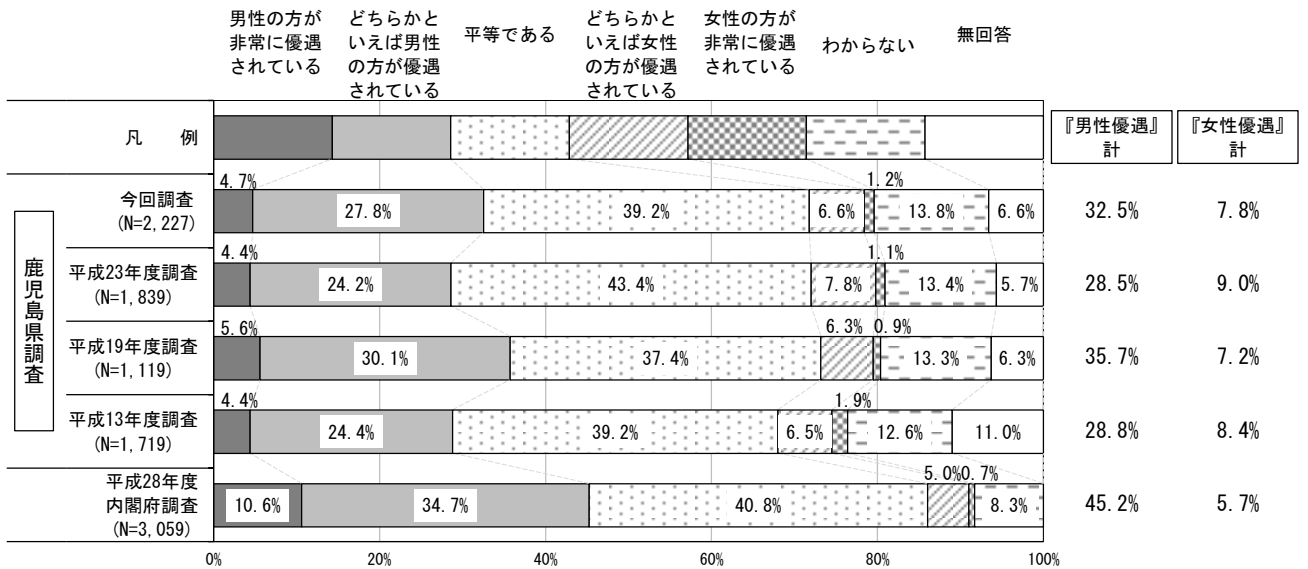
図表 2-19 各分野の男女の地位の平等感・職場の中で【総計，前回調査，内閣府調査】



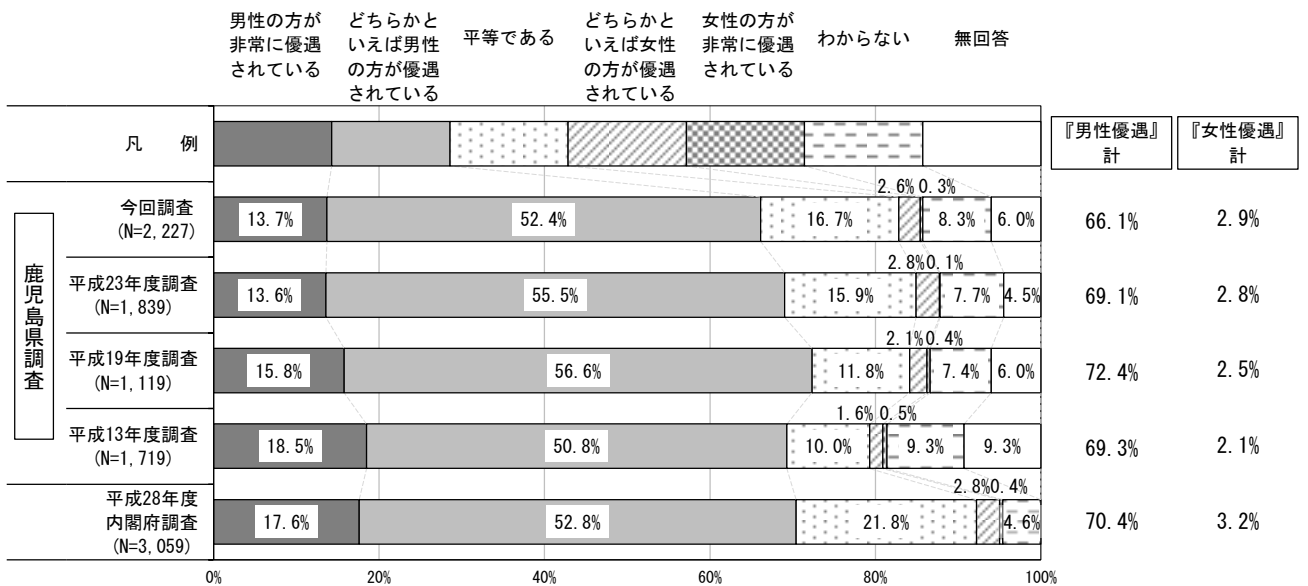
図表 2-20 各分野の男女の地位の平等感・地域社会の中で【総計，前回調査，内閣府調査】



図表 2-21 各分野の男女の地位の平等感・法律や制度で【総計，前回調査，内閣府調査】



図表 2-22 各分野の男女の地位の平等感・社会通念，慣習・しきたりなどで【総計，前回調査，内閣府調査】



(2) 男女共同参画の関連用語の認知度

問2 あなたは、男女共同参画に関連の深い用語について知っていますか。
(各項目についてあてはまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 2-23)

男女共同参画の関連用語の認知度についてみると、「よく知っている」と回答した割合は「男女雇用機会均等法」(35.6%)、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」(29.6%)、「男女共同参画社会」(18.8%)、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(10.8%)を除く他の用語は1割に満たない。また、「知らない」と回答した割合は「ダイバーシティ」(73.0%)、「鹿児島県男女共同参画基本計画(2次)」(72.5%)、「積極的改善処置(ポジティブ・アクション)」(66.5%)、「鹿児島県男女共同参画センター」(64.3%)、「鹿児島県男女共同参画推進条例」(62.6%)、「ジェンダー」(59.9%)で半数を超えている。

[性別、性・年代別] (図表 2-24, 図表 2-25~図表 2-27)

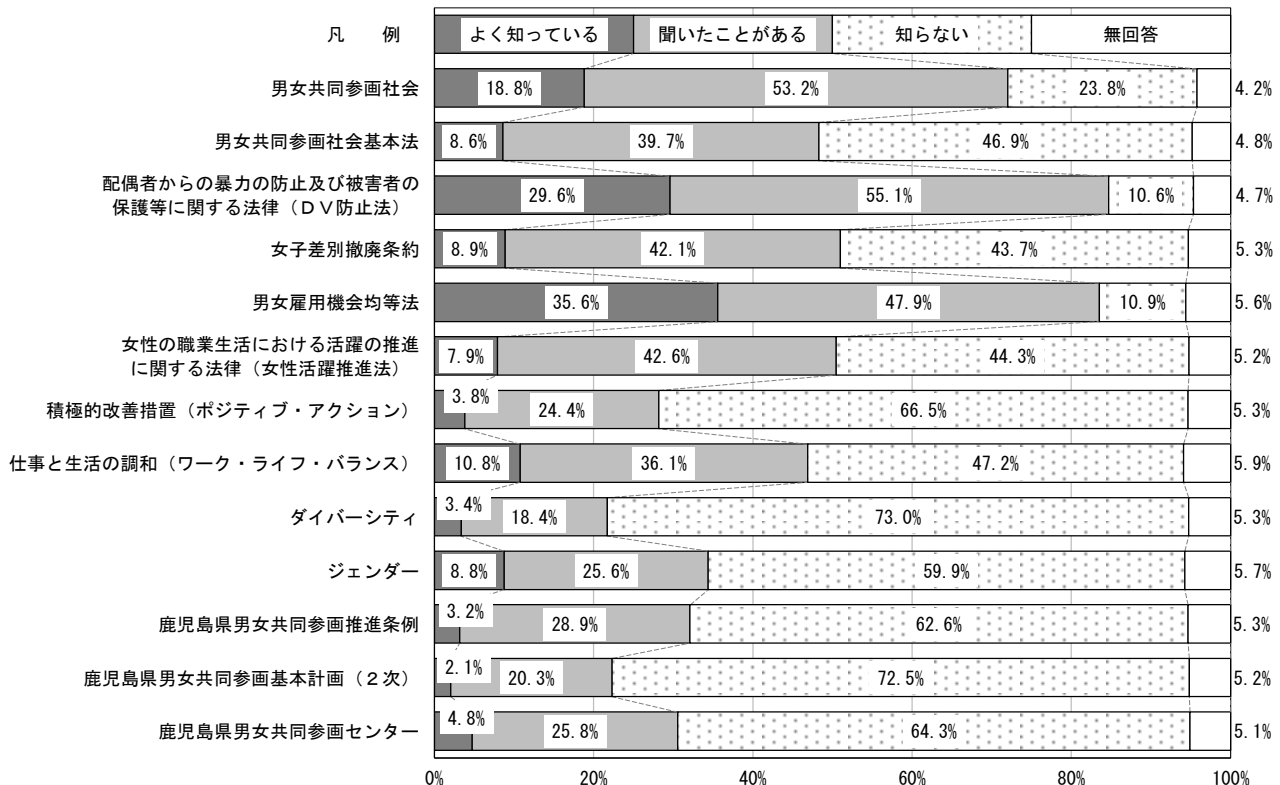
性別でみると、「よく知っている」と回答した割合は「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」、「ジェンダー」、「鹿児島県男女共同参画センター」を除く用語については男性が女性より高くなっている。

性・年代別でみると、男女とも「よく知っている」と回答した割合は「男女共同参画社会」、「男女共同参画社会基本法」、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」、「ダイバーシティ」「ジェンダー」で若い年代で高い傾向がみられた。一方、20歳代女性は「鹿児島県男女共同参画推進条例」、「鹿児島県男女共同参画基本計画(2次)」を「知っている」と回答した人はいなかった。

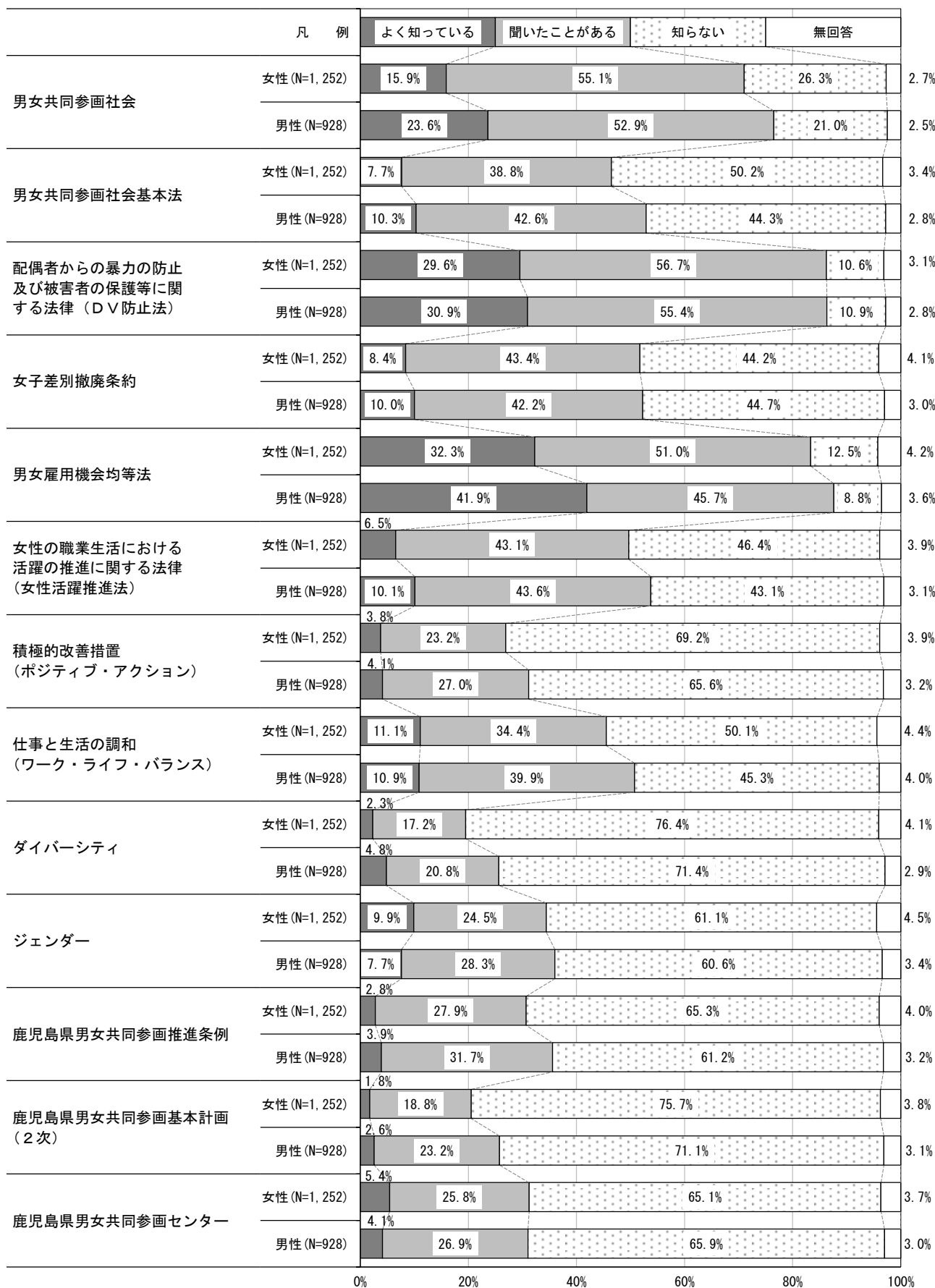
[前回調査との比較] (図表 2-28)

前回調査と比較すると、「よく知っている」と回答した割合は「鹿児島県男女共同参画基本計画(2次)」を除く全ての用語で増加しており、特に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」は10.1ポイント増加している。

図表 2-23 男女共同参画の関連用語の認知度【総計】



図表 2-24 男女共同参画の関連用語の認知度【性別】



図表 2-25 男女共同参画の関連用語の認知度【性・年代別】 1/3

性・年代別	サンプル数	男女共同参画社会				男女共同参画社会基本法				配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）				女子差別撤廃条約				男女雇用機会均等法			
		よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
		上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)
総計	2,227	18.8%	53.2%	23.8%	4.2%	8.6%	39.7%	46.9%	4.8%	29.6%	55.1%	10.6%	4.7%	8.9%	42.1%	43.7%	5.3%	35.6%	47.9%	10.9%	5.6%
女性	1,252	15.9%	55.1%	26.3%	2.7%	7.7%	38.8%	50.2%	3.4%	29.6%	56.7%	10.6%	3.1%	8.4%	43.4%	44.2%	4.1%	32.3%	51.0%	12.5%	4.2%
20歳代	83	26.5%	62.7%	10.8%	0.0%	19.3%	67.5%	13.3%	0.0%	12.0%	66.3%	21.7%	0.0%	9.6%	50.6%	38.6%	1.2%	37.3%	55.4%	6.0%	1.2%
30歳代	135	15.6%	52.6%	31.9%	0.0%	9.6%	37.8%	52.6%	0.0%	26.7%	68.9%	4.4%	0.0%	9.6%	48.9%	41.5%	0.0%	43.0%	52.6%	4.4%	0.0%
40歳代	192	14.6%	53.6%	31.3%	0.5%	7.3%	35.9%	56.3%	0.5%	32.3%	62.5%	4.7%	0.5%	6.3%	43.8%	47.9%	2.1%	37.5%	57.3%	4.2%	1.0%
50歳代	224	9.4%	68.8%	21.4%	0.4%	3.6%	42.0%	54.0%	0.4%	27.2%	67.9%	4.0%	0.9%	7.1%	42.0%	50.0%	0.9%	33.0%	57.6%	8.9%	0.4%
60歳代	309	18.8%	56.0%	23.6%	1.6%	8.1%	38.8%	50.8%	2.3%	39.5%	54.0%	4.9%	1.6%	8.7%	48.9%	40.5%	1.9%	33.3%	51.1%	12.6%	2.9%
70歳以上	309	15.9%	44.3%	31.1%	8.7%	6.5%	31.1%	51.8%	10.7%	25.6%	39.8%	24.6%	10.0%	9.4%	34.3%	44.0%	12.3%	21.4%	40.5%	25.2%	12.9%
男性	928	23.6%	52.9%	21.0%	2.5%	10.3%	42.6%	44.3%	2.8%	30.9%	55.4%	10.9%	2.8%	10.0%	42.2%	44.7%	3.0%	41.9%	45.7%	8.8%	3.6%
20歳代	56	28.6%	48.2%	21.4%	1.8%	17.9%	53.6%	26.8%	1.8%	17.9%	57.1%	23.2%	1.8%	3.6%	48.2%	46.4%	1.8%	35.7%	48.2%	14.3%	1.8%
30歳代	95	18.9%	53.7%	27.4%	0.0%	7.4%	44.2%	47.4%	1.1%	27.4%	62.1%	8.4%	2.1%	11.6%	38.9%	48.4%	1.1%	46.3%	45.3%	6.3%	2.1%
40歳代	119	19.3%	45.4%	35.3%	0.0%	6.7%	37.0%	56.3%	0.0%	26.9%	68.1%	5.0%	0.0%	6.7%	32.8%	60.5%	0.0%	47.1%	43.7%	9.2%	0.0%
50歳代	165	24.8%	57.0%	17.6%	0.6%	10.9%	43.0%	45.5%	0.6%	31.9%	60.6%	8.5%	0.0%	10.3%	40.6%	49.1%	0.0%	44.8%	50.3%	4.2%	0.6%
60歳代	277	22.7%	56.7%	18.8%	1.8%	10.1%	45.1%	42.2%	2.5%	36.5%	53.4%	8.3%	1.8%	11.2%	45.5%	40.1%	3.2%	42.2%	48.4%	7.2%	2.2%
70歳以上	216	26.9%	50.0%	15.7%	7.4%	11.6%	38.4%	42.6%	7.4%	31.0%	43.5%	17.1%	8.3%	11.1%	44.4%	36.6%	7.9%	36.1%	39.4%	13.9%	10.6%

図表 2-26 男女共同参画の関連用語の認知度【性・年代別】 2/3

性・年代別	サンプル数	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）				積極的改善措置（ポジティブ・アクション）				仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）				ダイバーシティ				ジェンダー			
		よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
		上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)	上段：度数	下段：構成比(%)
総計	2,227	7.9%	44.3%	42.6%	5.2%	3.8%	24.4%	66.5%	5.3%	10.8%	36.1%	47.2%	5.9%	3.4%	18.4%	73.0%	5.3%	8.8%	25.6%	59.9%	5.7%
女性	1,252	6.5%	43.1%	46.4%	3.9%	3.8%	23.2%	69.2%	3.9%	11.1%	34.4%	50.1%	4.4%	2.3%	17.2%	76.4%	4.1%	9.9%	24.7%	61.1%	4.5%
20歳代	83	7.2%	42.2%	50.6%	0.0%	4.8%	13.3%	81.9%	0.0%	16.9%	26.5%	56.6%	0.0%	3.6%	26.5%	69.9%	0.0%	27.7%	34.9%	36.1%	1.2%
30歳代	135	6.7%	50.4%	41.5%	1.5%	3.7%	25.2%	71.1%	0.0%	17.8%	36.3%	45.2%	0.7%	6.7%	32.6%	60.7%	0.0%	24.4%	34.8%	40.0%	0.7%
40歳代	192	5.7%	43.2%	50.5%	0.5%	2.1%	22.4%	75.0%	0.5%	14.6%	30.7%	53.6%	1.0%	3.1%	25.0%	70.3%	1.6%	13.5%	30.2%	55.2%	1.0%
50歳代	224	4.0%	47.3%	47.8%	0.9%	4.0%	19.6%	75.4%	0.9%	8.0%	31.7%	58.5%	1.8%	1.8%	21.0%	77.2%	0.0%	7.6%	30.8%	60.7%	0.9%
60歳代	309	8.1%	50.5%	38.8%	2.6%	5.5%	30.7%	60.8%	2.9%	10.7%	44.0%	42.4%	2.9%	1.0%	10.0%	85.8%	3.2%	4.2%	19.7%	73.5%	2.6%
70歳以上	309	7.1%	29.8%	51.5%	11.7%	2.6%	20.4%	65.0%	12.0%	7.1%	30.4%	49.8%	12.6%	1.3%	7.4%	79.0%	12.3%	3.9%	13.9%	68.6%	13.6%
男性	928	10.1%	43.6%	43.1%	3.1%	4.1%	27.0%	65.6%	3.2%	10.9%	39.9%	45.3%	4.0%	4.8%	20.8%	71.4%	2.9%	7.7%	28.3%	60.6%	3.4%
20歳代	56	5.4%	44.6%	48.2%	1.8%	1.8%	25.0%	71.4%	1.8%	17.9%	41.1%	39.3%	1.8%	14.3%	33.9%	50.0%	1.8%	19.6%	32.1%	46.4%	1.8%
30歳代	95	11.6%	41.1%	45.3%	2.1%	7.4%	23.2%	68.4%	1.1%	16.8%	41.1%	41.1%	1.1%	9.5%	31.6%	57.9%	1.1%	12.6%	45.3%	40.0%	2.1%
40歳代	119	9.2%	37.0%	51.3%	2.5%	2.5%	23.5%	73.9%	0.0%	14.3%	36.1%	49.6%	0.0%	6.7%	26.9%	66.4%	0.0%	9.2%	33.6%	57.1%	0.0%
50歳代	165	13.3%	45.5%	40.6%	0.6%	7.9%	30.9%	60.6%	0.6%	12.7%	42.4%	43.0%	1.8%	5.5%	25.5%	69.1%	0.0%	9.1%	30.9%	59.4%	0.6%
60歳代	277	9.0%	43.7%	44.4%	2.9%	2.9%	26.0%	67.5%	3.6%	8.3%	41.2%	46.9%	3.6%	3.2%	15.9%	78.3%	2.5%	5.4%	25.3%	66.1%	3.2%
70歳以上	216	10.2%	46.8%	36.6%	6.5%	2.8%	29.6%	59.7%	7.9%	6.5%	37.5%	45.8%	10.2%	0.9%	12.0%	78.7%	8.3%	3.2%	19.0%	69.0%	8.8%

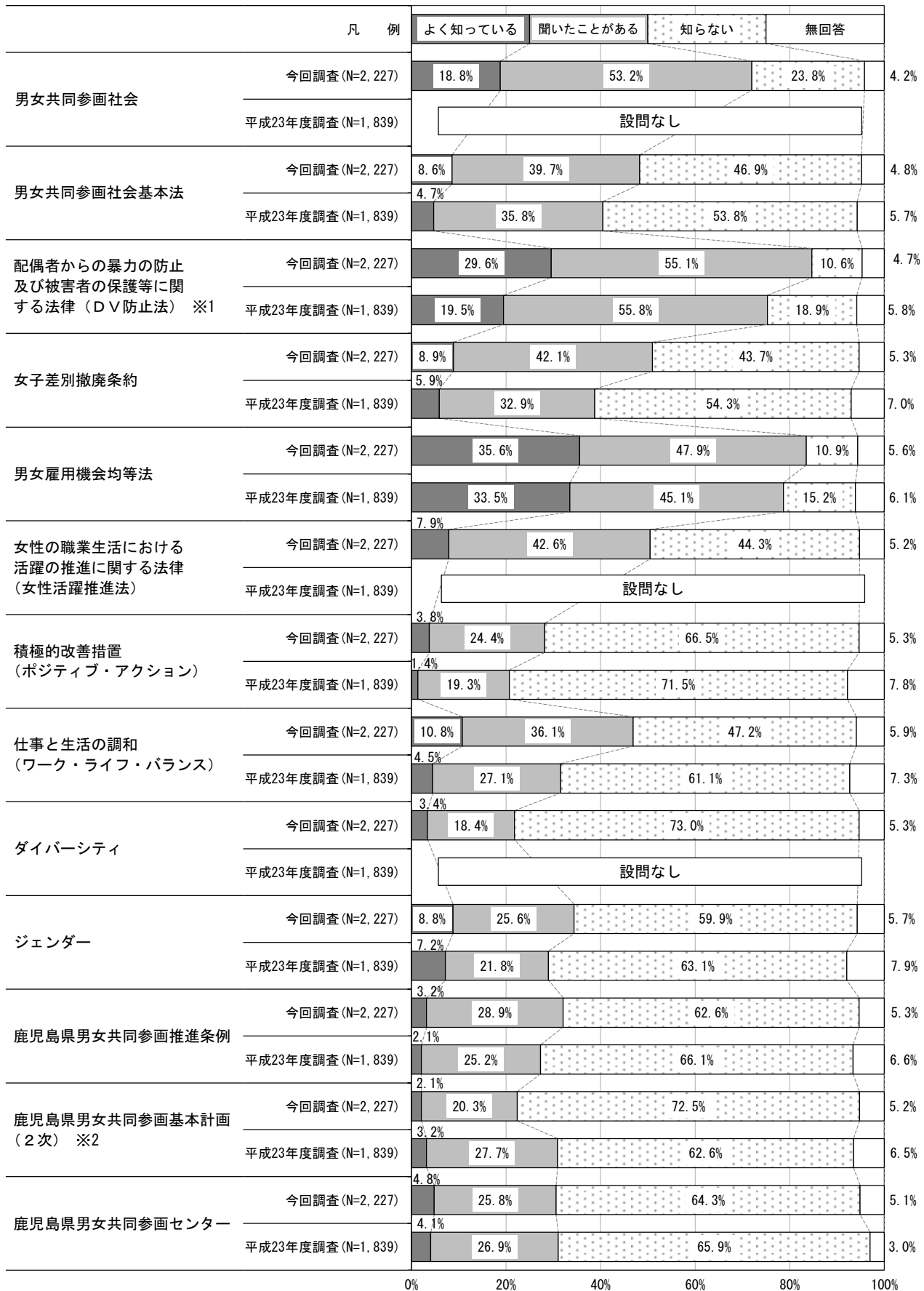
・%：各属性で最も割合が高い

図表 2-27 男女共同参画の関連用語の認知度【性・年代別】 3/3

	サンプル数	鹿児島県男女共同参画推進条例				鹿児島県男女共同参画基本計画 (2次)				鹿児島県男女共同参画センター			
		よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
上段：度数 下段：構成比(%)													
総計	2,227	71	644	1,393	119	46	451	1,615	115	106	575	1,433	113
	100.0%	3.2%	28.9%	62.6%	5.3%	2.1%	20.3%	72.5%	5.2%	4.8%	25.8%	64.3%	5.1%
女性	1,252	35	349	818	50	22	235	948	47	68	323	815	46
	100.0%	2.8%	27.9%	65.3%	4.0%	1.8%	18.8%	75.7%	3.8%	5.4%	25.8%	65.1%	3.7%
20歳代	83	0	21	62	0	0	16	67	0	5	26	52	0
	100.0%	0.0%	25.3%	74.7%	0.0%	0.0%	19.3%	80.7%	0.0%	6.0%	31.3%	62.7%	0.0%
30歳代	135	9	27	99	0	4	20	111	0	14	30	91	0
	100.0%	6.7%	20.0%	73.3%	0.0%	3.0%	14.8%	82.2%	0.0%	10.4%	22.2%	67.4%	0.0%
40歳代	192	5	50	135	2	3	33	155	1	11	61	119	1
	100.0%	2.6%	26.0%	70.3%	1.0%	1.6%	17.2%	80.7%	0.5%	5.7%	31.8%	62.0%	0.5%
50歳代	224	2	66	155	1	2	44	178	0	8	58	157	1
	100.0%	0.9%	29.5%	69.2%	0.4%	0.9%	19.6%	79.5%	0.0%	3.6%	25.9%	70.1%	0.4%
60歳代	309	10	105	187	7	6	63	232	8	15	80	207	7
	100.0%	3.2%	34.0%	60.5%	2.3%	1.9%	20.4%	75.1%	2.6%	4.9%	25.9%	67.0%	2.3%
70歳以上	309	9	80	180	40	7	59	205	38	15	68	189	37
	100.0%	2.9%	25.9%	58.3%	12.9%	2.3%	19.1%	66.3%	12.3%	4.9%	22.0%	61.2%	12.0%
男性	928	36	294	568	30	24	215	660	29	38	250	612	28
	100.0%	3.9%	31.7%	61.2%	3.2%	2.6%	23.2%	71.1%	3.1%	4.1%	26.9%	65.9%	3.0%
20歳代	56	2	12	41	1	1	9	44	2	2	12	41	1
	100.0%	3.6%	21.4%	73.2%	1.8%	1.8%	16.1%	78.6%	3.6%	3.6%	21.4%	73.2%	1.8%
30歳代	95	1	34	59	1	1	21	72	1	2	32	60	1
	100.0%	1.1%	35.8%	62.1%	1.1%	1.1%	22.1%	75.8%	1.1%	2.1%	33.7%	63.2%	1.1%
40歳代	119	3	29	86	1	2	22	95	0	3	27	88	1
	100.0%	2.5%	24.4%	72.3%	0.8%	1.7%	18.5%	79.8%	0.0%	2.5%	22.7%	73.9%	0.8%
50歳代	165	11	54	100	0	10	35	120	0	14	41	110	0
	100.0%	6.7%	32.7%	60.6%	0.0%	6.1%	21.2%	72.7%	0.0%	8.5%	24.8%	66.7%	0.0%
60歳代	277	10	90	168	9	5	70	194	8	11	76	182	8
	100.0%	3.6%	32.5%	60.6%	3.2%	1.8%	25.3%	70.0%	2.9%	4.0%	27.4%	65.7%	2.9%
70歳以上	216	9	75	114	18	5	58	135	18	6	62	131	17
	100.0%	4.2%	34.7%	52.8%	8.3%	2.3%	26.9%	62.5%	8.3%	2.8%	28.7%	60.6%	7.9%

. % : 各属性で最も割合が高い

図表 2-28 男女共同参画の関連用語の認知度【総計, 前回調査】



※1 平成23年度調査の「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV防止法)」と比較
 ※2 平成23年度調査の「鹿児島県男女共同参画基本計画」と比較

(3) 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、最も重要だと思うこと

問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、何が最も重要だと思いますか。(各項目についてあてはまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 2-29)

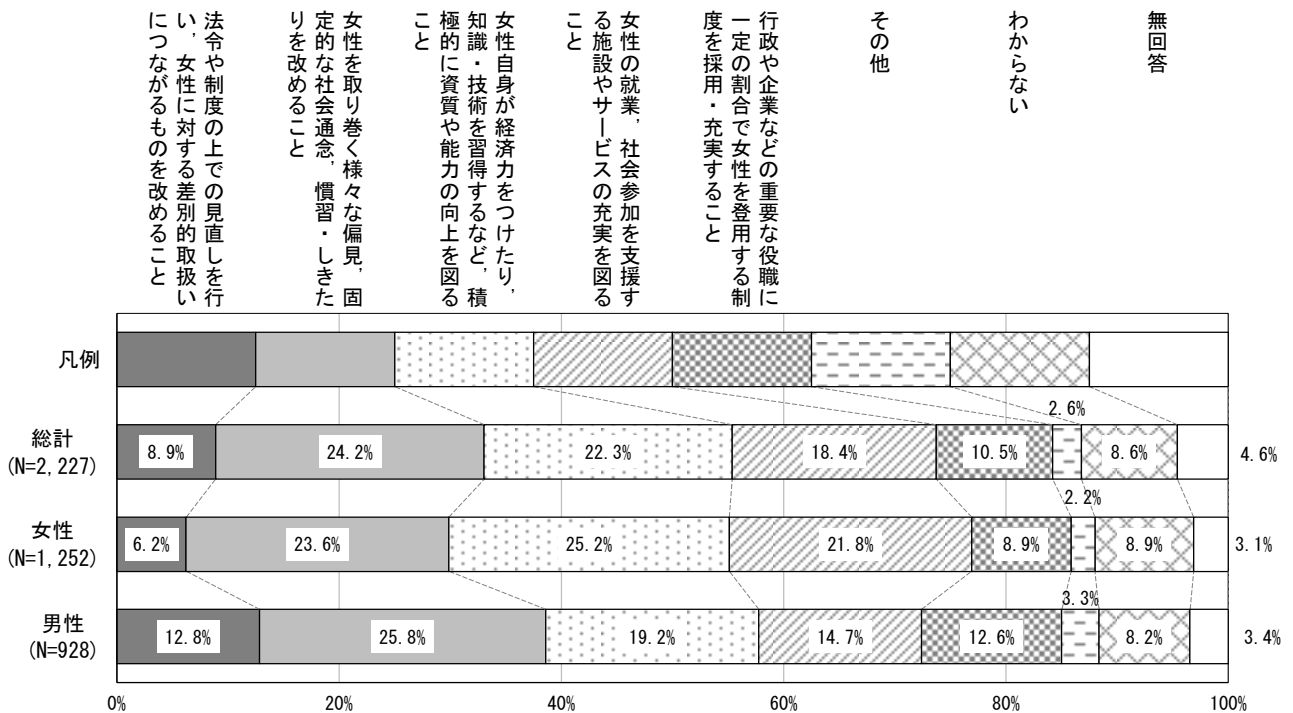
男女が社会のあらゆる分野で平等になるために最も重要だと思うことについてみると、「女性を取り巻く様々な偏見，固定的な社会通念，慣習・しきたりを改めること」(24.2%)と回答した割合が最も高く，次いで「女性自身が経済力をつけたり，知識・技術を習得するなど，積極的に資質や能力の向上を図ること」(22.3%)，「女性の就業，社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(18.4%)，「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」(10.5%)，「法令や制度の上での見直しを行い，女性に対する差別的取扱いにつながるものを改めること」(8.9%)の順となっている。

[性別，性・年代別] (図表 2-29，図表 2-30)

性別でみると，女性は「女性自身が経済力をつけたり，知識・技術を習得するなど，積極的に資質や能力の向上を図ること」(25.2%)と回答した割合が最も高く，男性は「女性を取り巻く様々な偏見，固定的な社会通念，慣習・しきたりを改めること」(25.8%)が最も高くなっている。また，女性は「女性自身が経済力をつけたり，知識・技術を習得するなど，積極的に資質や能力の向上を図ること」，「女性の就業，社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」と回答した割合が男性より高く，男性は「法令や制度の上での見直しを行い，女性に対する差別的取扱いにつながるものを改めること」，「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること」が女性より高くなっており，回答傾向に違いがみられた。

性・年代別でみると，男女ともに年代が上がるほど「女性自身が経済力をつけたり，知識・技術を習得するなど，積極的に資質や能力の向上を図ること」と回答した割合が高くなる傾向がみられた。

図表 2-29 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために最も重要だと思うこと【総計，性別】



図表 2-30 男女が社会のあらゆる分野で平等になるために最も重要だと思うこと【性・年代別】

	サンプル数	法令や制度の上での見直しを行い、女性に対する差別的取扱いにつながるものを改めること	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	その他	わからない	無回答	
										上段：度数 下段：構成比(%)
総計	2,227 100.0%	198 8.9%	538 24.2%	497 22.3%	409 18.4%	233 10.5%	58 2.6%	192 8.6%	102 4.6%	
性・年代別	女性	1,252 100.0%	78 6.2%	296 23.6%	316 25.2%	273 21.8%	112 8.9%	27 2.2%	111 8.9%	39 3.1%
	20歳代	83 100.0%	3 3.6%	26 31.3%	12 14.5%	26 31.3%	8 9.6%	3 3.6%	5 6.0%	0 0.0%
	30歳代	135 100.0%	7 5.2%	43 31.9%	23 17.0%	40 29.6%	11 8.1%	2 1.5%	7 5.2%	2 1.5%
	40歳代	192 100.0%	17 8.9%	48 25.0%	39 20.3%	46 24.0%	21 10.9%	10 5.2%	5 2.6%	6 3.1%
	50歳代	224 100.0%	16 7.1%	70 31.3%	39 17.4%	56 25.0%	21 9.4%	5 2.2%	14 6.3%	3 1.3%
	60歳代	309 100.0%	19 6.1%	62 20.1%	103 33.3%	62 20.1%	24 7.8%	5 1.6%	24 7.8%	10 3.2%
	70歳以上	309 100.0%	16 5.2%	47 15.2%	100 32.4%	43 13.9%	27 8.7%	2 0.6%	56 18.1%	18 5.8%
	男性	928 100.0%	119 12.8%	239 25.8%	178 19.2%	136 14.7%	117 12.6%	31 3.3%	76 8.2%	32 3.4%
	20歳代	56 100.0%	11 19.6%	17 30.4%	7 12.5%	7 12.5%	6 10.7%	4 7.1%	4 7.1%	0 0.0%
	30歳代	95 100.0%	12 12.6%	27 28.4%	16 16.8%	11 11.6%	8 8.4%	8 8.4%	8 8.4%	5 5.3%
	40歳代	119 100.0%	11 9.2%	35 29.4%	13 10.9%	26 21.8%	15 12.6%	9 7.6%	8 6.7%	2 1.7%
	50歳代	165 100.0%	22 13.3%	45 27.3%	32 19.4%	27 16.4%	23 13.9%	3 1.8%	12 7.3%	1 0.6%
	60歳代	277 100.0%	40 14.4%	78 28.2%	56 20.2%	37 13.4%	35 12.6%	2 0.7%	20 7.2%	9 3.2%
	70歳以上	216 100.0%	23 10.6%	37 17.1%	54 25.0%	28 13.0%	30 13.9%	5 2.3%	24 11.1%	15 6.9%

. % : 各属性で最も割合が高い

3. 就業について

(1) 女性が職業をもつことについての意識

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(あてはまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 3-1)

女性が職業をもつことについて聞いたところ、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(41.4%)と回答した割合が最も高く、初めて「子どもができたらか職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(39.5%)という回答の割合を上回った。次いで「子どもができたらか職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(39.5%)、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」(5.4%)、「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」(3.3%)、「女性は職業をもたない方がよい」(0.5%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 3-1, 図表 3-2)

性別でみると、女性は「子どもができたらか職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(42.7%)と回答した割合が最も高く、男性は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(42.8%)が最も高くなっており、回答傾向に差がみられた。

性・年代別でみると、男女とも「子どもができたらか職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合は年代が上がるほど高くなる傾向がみられた。また、30歳代の約半数が「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答している。

[性・職業別] (図表 3-2)

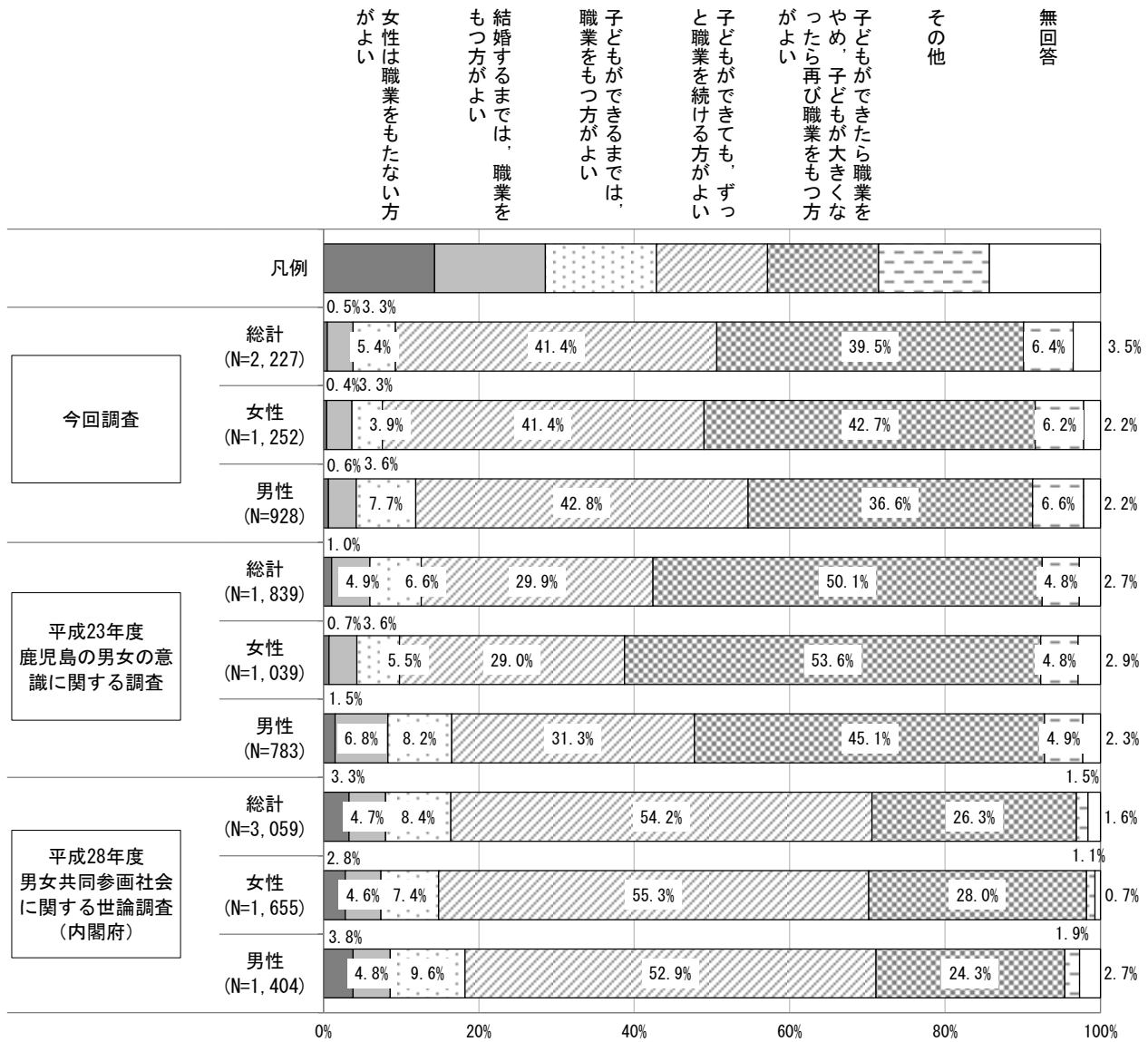
性・職業別でみると、女性は「雇用者」では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が最も高く、それ以外の職業は「子どもができたらか職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が最も高くなっている。男性は全ての職業で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が最も高くなっている。

[前回調査、内閣府調査との比較] (図表 3-1)

前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合は11.5ポイント高く、「子どもができたらか職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合は10.6ポイント減少している。

内閣府調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」と回答した割合は内閣府調査より12.8ポイント低くなっており、「子どもができたらか職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合は、内閣府調査より13.2ポイント高くなっている。

図表 3-1 女性が職業をもつことについての意識【総計，性別，前回調査，内閣府調査】



図表 3-2 女性が職業をもつことについての意識【性・年代別、性・職業別】

		サンプル数	女性は職業をもたない方がよい	結婚するまでは、職業をもつ方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	子どもができるまでも、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい	その他	無回答	
上段：度数 下段：構成比(%)										
総計		2,227 100.0%	11 0.5%	74 3.3%	121 5.4%	921 41.4%	880 39.5%	142 6.4%	78 3.5%	
性・年代別	女性	1,252 100.0%	5 0.4%	41 3.3%	49 3.9%	518 41.4%	534 42.7%	78 6.2%	27 2.2%	
	20歳代	83 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 9.6%	35 42.2%	32 38.6%	8 9.6%	0 0.0%	
	30歳代	135 100.0%	0 0.0%	4 3.0%	3 2.2%	67 49.6%	52 38.5%	9 6.7%	0 0.0%	
	40歳代	192 100.0%	1 0.5%	4 2.1%	5 2.6%	82 42.7%	81 42.2%	18 9.4%	1 0.5%	
	50歳代	224 100.0%	1 0.4%	7 3.1%	5 2.2%	98 43.8%	90 40.2%	19 8.5%	4 1.8%	
	60歳代	309 100.0%	1 0.3%	10 3.2%	8 2.6%	132 42.7%	139 45.0%	13 4.2%	6 1.9%	
	70歳以上	309 100.0%	2 0.6%	16 5.2%	20 6.5%	104 33.7%	140 45.3%	11 3.6%	16 5.2%	
	男性	928 100.0%	6 0.6%	33 3.6%	71 7.7%	397 42.8%	340 36.6%	61 6.6%	20 2.2%	
	20歳代	56 100.0%	0 0.0%	1 1.8%	4 7.1%	25 44.6%	17 30.4%	7 12.5%	2 3.6%	
	30歳代	95 100.0%	0 0.0%	3 3.2%	7 7.4%	46 48.4%	29 30.5%	9 9.5%	1 1.1%	
	40歳代	119 100.0%	4 3.4%	0 0.0%	9 7.6%	51 42.9%	40 33.6%	14 11.8%	1 0.8%	
	50歳代	165 100.0%	0 0.0%	2 1.2%	12 7.3%	71 43.0%	67 40.6%	12 7.3%	1 0.6%	
	60歳代	277 100.0%	1 0.4%	12 4.3%	19 6.9%	127 45.8%	101 36.5%	14 5.1%	3 1.1%	
	70歳以上	216 100.0%	1 0.5%	15 6.9%	20 9.3%	77 35.6%	86 39.8%	5 2.3%	12 5.6%	
性・職業別	女性	自営業主	82 100.0%	0 0.0%	4 4.9%	0 0.0%	24 29.3%	47 57.3%	6 7.3%	1 1.2%
		家族従事者	63 100.0%	1 1.6%	2 3.2%	4 6.3%	24 38.1%	26 41.3%	5 7.9%	1 1.6%
		雇用者	564 100.0%	0 0.0%	10 1.8%	10 1.8%	281 49.8%	218 38.7%	40 7.1%	5 0.9%
		無職	523 100.0%	4 0.8%	25 4.8%	34 6.5%	184 35.2%	239 45.7%	27 5.2%	10 1.9%
	男性	自営業主	164 100.0%	0 0.0%	9 5.5%	13 7.9%	72 43.9%	58 35.4%	8 4.9%	4 2.4%
		家族従事者	21 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	13 61.9%	6 28.6%	1 4.8%	0 0.0%
		雇用者	459 100.0%	4 0.9%	9 2.0%	30 6.5%	202 44.0%	174 37.9%	39 8.5%	1 0.2%
		無職	265 100.0%	2 0.8%	15 5.7%	24 9.1%	107 40.4%	100 37.7%	13 4.9%	4 1.5%

. % : 各属性で最も割合が高い

(2) 現在の職業

問 5-1 あなたのご職業をお選びください。(あてはまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 3-3, 図表 3-4)

現在の職業についてみると、『雇用者』(46.1%)と回答した割合が最も高く、次いで『無職』(35.7%), 『自営業主』(11.2%), 『家族従事者』(4.0%)の順となっている。詳細にみると、『雇用者』の「常勤の勤め」(27.5%)と回答した割合が最も高く、次いで『無職』の「主婦・主夫」(19.4%), 『雇用者』の「非常勤の勤め」(18.6%)の順となっている。

[性別, 性・年代別] (図表 3-3, 図表 3-4)

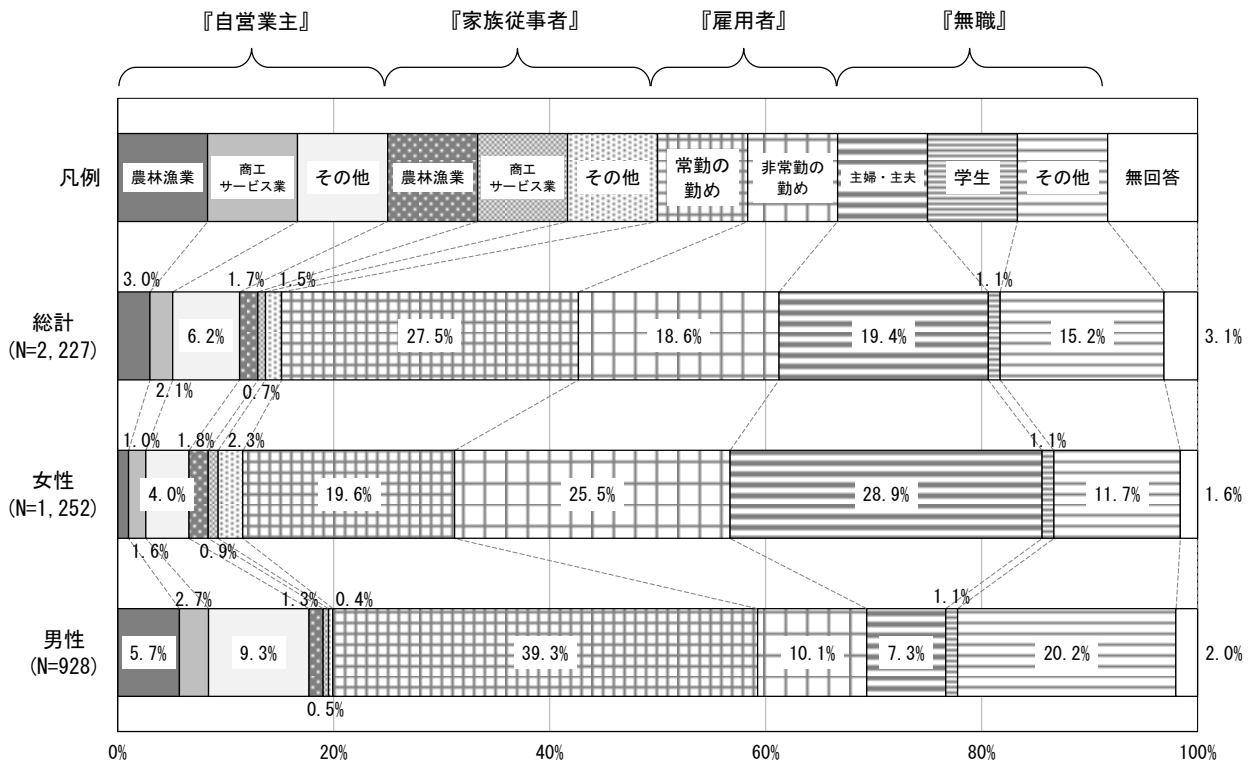
性別でみると、女性は『無職』が男性より13.2ポイント高く、特に「主婦・主夫」は21.6ポイント高くなっている。また、『雇用者』の「非常勤の勤め」も男性より15.4ポイント高くなっている。一方、男性は『自営業主』が女性より11.2ポイント、『雇用者』の「常勤の勤め」で19.7ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男女とも『自営業主』と回答した割合は60歳代まで年代が上がることに高くなる傾向がみられた。また、男女とも20~30歳代は『雇用者』の「常勤の勤め」と回答した割合が最も高いが、40~50歳代になると男性は『雇用者』の「常勤の勤め」が最も高く、女性は『雇用者』の「非常勤の勤め」が最も高くなっている。

[前回調査との比較] (図表 3-5)

前回調査と比較して、回答傾向に大きな差はみられなかったが、その中で平成19年度調査から『自営業主』, 「主婦・主夫」は減少, 「非常勤の勤め」は増加傾向がみられた。

図表 3-3 現在の職業【総計, 性別】

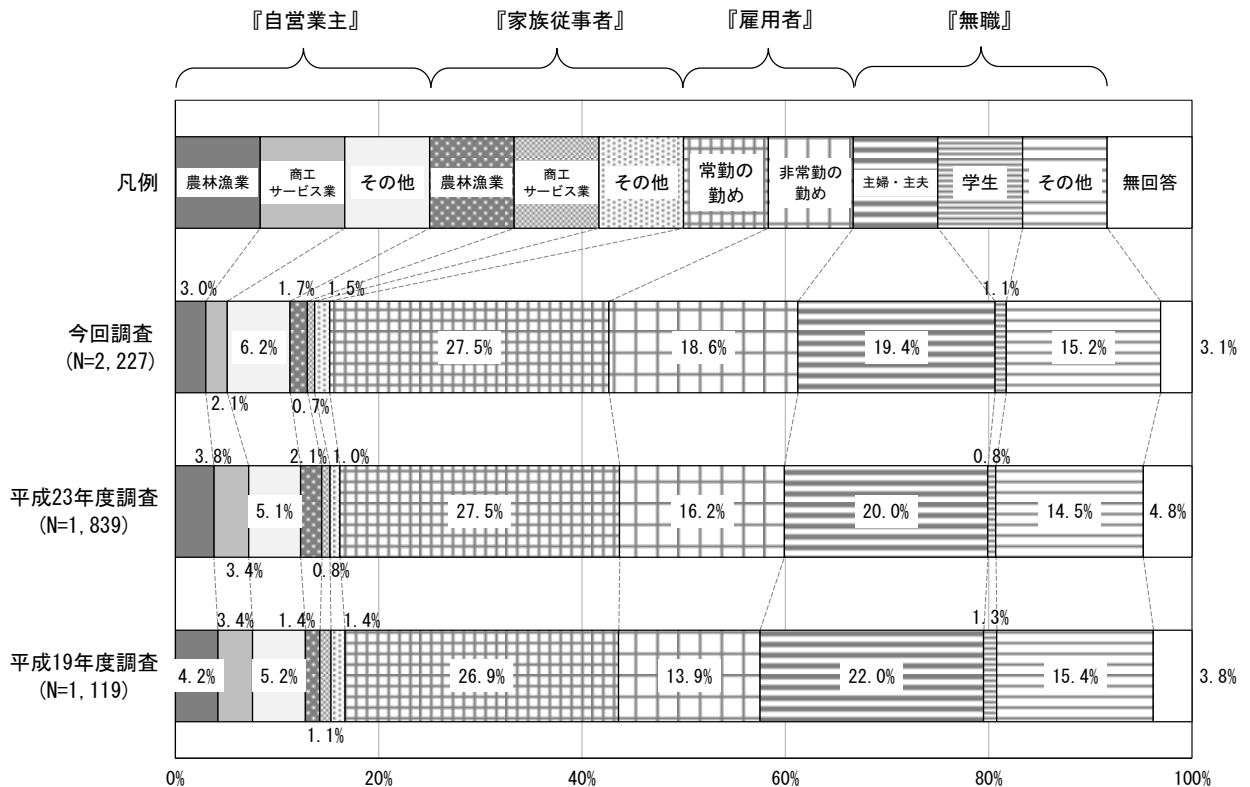


図表 3-4 現在の職業【性・年代別】

上段：度数 下段：構成比(%)	サンプル数	自営業主			家族従事者			雇用者			無職			無回答			
		農林漁業	商工サービス業	その他の自営業	農林漁業	商工サービス業	その他の家族従事者	常勤の勤め(社員、職員等)	非常勤の勤め(パート、アルバイト、臨時職員、嘱託等)	主婦・主夫	学生	その他の無職					
総計	2,227	249	66	46	137	88	38	16	34	1,026	612	414	795	432	24	339	69
	100.0%	11.2%	3.0%	2.1%	6.2%	4.0%	1.7%	0.7%	1.5%	46.1%	27.5%	18.6%	35.7%	19.4%	1.1%	15.2%	3.1%
女性	1,252	82	12	20	50	63	23	11	29	564	245	319	523	362	14	147	20
	100.0%	6.5%	1.0%	1.6%	4.0%	5.0%	1.8%	0.9%	2.3%	45.0%	19.6%	25.5%	41.8%	28.9%	1.1%	11.7%	1.6%
20歳代	83	1	1	0	0	0	0	0	0	56	37	19	26	5	14	7	0
	100.0%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	67.5%	44.6%	22.9%	31.3%	6.0%	16.9%	8.4%	0.0%
30歳代	135	3	0	0	3	4	0	1	3	97	49	48	31	27	0	4	0
	100.0%	2.2%	0.0%	0.0%	2.2%	3.0%	0.0%	0.7%	2.2%	71.9%	36.3%	35.6%	23.0%	20.0%	0.0%	3.0%	0.0%
40歳代	192	13	0	4	9	5	2	1	2	139	58	81	34	25	0	9	1
	100.0%	6.8%	0.0%	2.1%	4.7%	2.6%	1.0%	0.5%	1.0%	72.4%	30.2%	42.2%	17.7%	13.0%	0.0%	4.7%	0.5%
50歳代	224	15	0	5	10	13	2	4	7	157	72	85	37	30	0	7	2
	100.0%	6.7%	0.0%	2.2%	4.5%	5.8%	0.9%	1.8%	3.1%	70.1%	32.1%	37.9%	16.5%	13.4%	0.0%	3.1%	0.9%
60歳代	309	29	4	8	17	21	13	4	4	94	23	71	161	134	0	27	4
	100.0%	9.4%	1.3%	2.6%	5.5%	6.8%	4.2%	1.3%	1.3%	30.4%	7.4%	23.0%	52.1%	43.4%	0.0%	8.7%	1.3%
70歳以上	309	21	7	3	11	20	6	1	13	21	6	15	234	141	0	93	13
	100.0%	6.8%	2.3%	1.0%	3.6%	6.5%	1.9%	0.3%	4.2%	6.8%	1.9%	4.9%	75.7%	45.6%	0.0%	30.1%	4.2%
男性	928	164	53	25	86	21	12	5	4	459	365	94	265	68	10	187	19
	100.0%	17.7%	5.7%	2.7%	9.3%	2.3%	1.3%	0.5%	0.4%	49.5%	39.3%	10.1%	28.6%	7.3%	1.1%	20.2%	2.0%
20歳代	56	2	2	0	0	2	0	1	1	37	33	4	12	0	10	2	3
	100.0%	3.6%	3.6%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	1.8%	1.8%	66.1%	58.9%	7.1%	21.4%	0.0%	17.9%	3.6%	5.4%
30歳代	95	11	1	1	9	0	0	0	0	77	73	4	5	0	0	5	2
	100.0%	11.6%	1.1%	1.1%	9.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	81.1%	76.8%	4.2%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%	2.1%
40歳代	119	16	5	1	10	2	2	0	0	93	87	6	7	0	0	7	1
	100.0%	13.4%	4.2%	0.8%	8.4%	1.7%	1.7%	0.0%	0.0%	78.2%	73.1%	5.0%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	0.8%
50歳代	165	31	4	8	19	4	2	1	1	124	113	11	6	1	0	5	0
	100.0%	18.8%	2.4%	4.8%	11.5%	2.4%	1.2%	0.6%	0.6%	75.2%	68.5%	6.7%	3.6%	0.6%	0.0%	3.0%	0.0%
60歳代	277	65	24	7	34	8	4	2	2	110	57	53	90	27	0	63	4
	100.0%	23.5%	8.7%	2.5%	12.3%	2.9%	1.4%	0.7%	0.7%	39.7%	20.6%	19.1%	32.5%	9.7%	0.0%	22.7%	1.4%
70歳以上	216	39	17	8	14	5	4	1	0	18	2	16	145	40	0	105	9
	100.0%	18.1%	7.9%	3.7%	6.5%	2.3%	1.9%	0.5%	0.0%	8.3%	0.9%	7.4%	67.1%	18.5%	0.0%	48.6%	4.2%

・% : 各属性で最も割合が高い

図表 3-5 現在の職業【総計, 前回調査】



(3) 今後希望する就労形態

問 5-2 【問 5-1 で無職「9」～「11」と答えた方へお尋ねします。】
 あなたはどのような形で働きたいですか。(あてはまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 3-6)

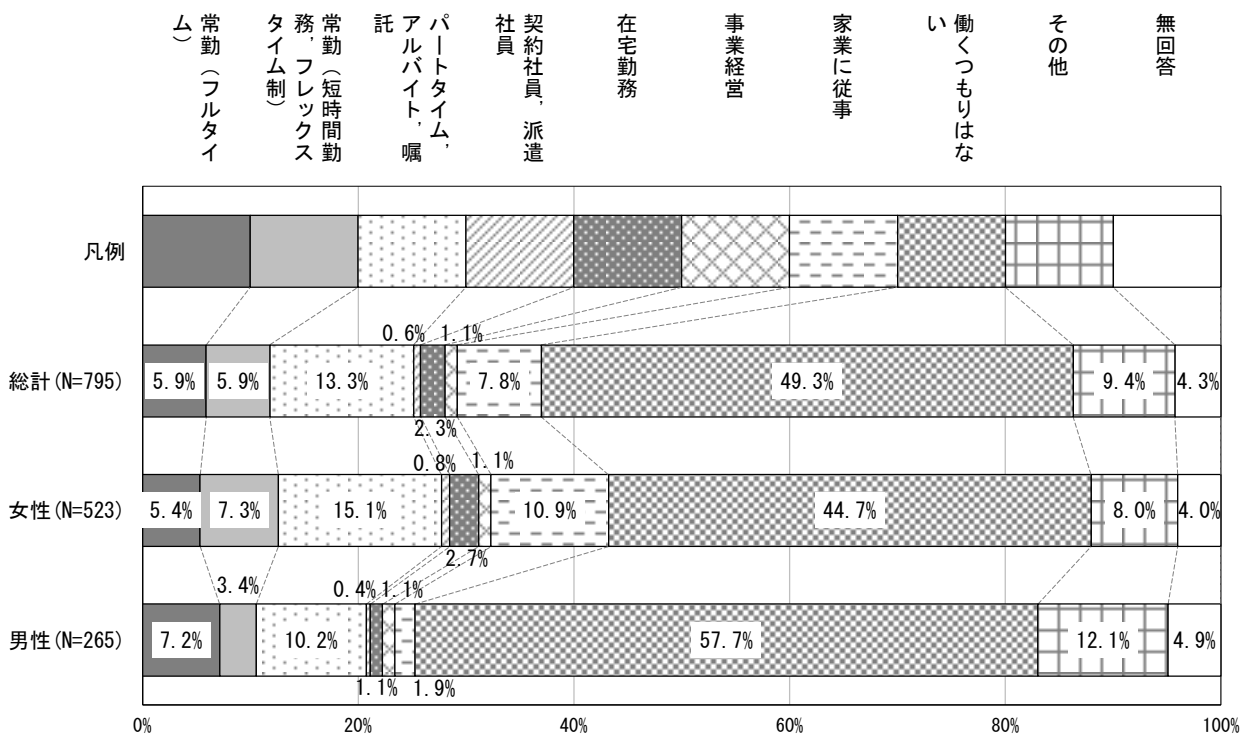
今後希望する就労形態についてみると、「働くつもりはない」(49.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「パートタイム、アルバイト、嘱託」(13.3%)、「家業に従事」(7.8%)、「常勤(フルタイム)」と「常勤(短時間勤務、フレックスタイム制)」(5.9%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 3-6, 図表 3-7)

性別でみると、女性は「家業に従事」、「常勤(短時間勤務、フレックスタイム制)」、「パートタイム、アルバイト、嘱託」、「在宅勤務」などで回答した割合が男性より高くなっている一方、男性は「働くつもりはない」と6割近くが回答している

性・年代別でみると、男女とも20歳代は「常勤(フルタイム)」と回答した割合が最も高く、30～40歳代では男性は「常勤(フルタイム)」が最も高いが、女性は「パートタイム、アルバイト、嘱託」が最も高くなっている。また、60歳以上では女性は5割以上、男性は6割以上が「働くつもりはない」と回答している。

図表 3-6 今後希望する就労形態【総計、性別】



図表 3-7 今後希望する就労形態【性・年代別】

	サンプル数	常勤（フルタイム）	常勤（短時間勤務、フレックスタイム制）	パートタイム、アルバイト、嘱託	契約社員、派遣社員	在宅勤務	事業経営	家業に従事	働くつもりはない（働くことができない場合を含む）	その他	無回答	
												上段：度数 下段：構成比(%)
総計	795	47	47	106	5	18	9	62	392	75	34	
	100.0%	5.9%	5.9%	13.3%	0.6%	2.3%	1.1%	7.8%	49.3%	9.4%	4.3%	
性・年代別	女性	523	28	38	79	4	14	6	57	234	42	21
		100.0%	5.4%	7.3%	15.1%	0.8%	2.7%	1.1%	10.9%	44.7%	8.0%	4.0%
	20歳代	26	15	3	6	0	0	0	0	2	0	0
		100.0%	57.7%	11.5%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%
	30歳代	31	2	8	15	0	1	2	1	2	0	0
		100.0%	6.5%	25.8%	48.4%	0.0%	3.2%	6.5%	3.2%	6.5%	0.0%	0.0%
	40歳代	34	4	7	10	2	3	0	0	3	2	3
		100.0%	11.8%	20.6%	29.4%	5.9%	8.8%	0.0%	0.0%	8.8%	5.9%	8.8%
	50歳代	37	0	4	14	1	2	0	5	9	1	1
		100.0%	0.0%	10.8%	37.8%	2.7%	5.4%	0.0%	13.5%	24.3%	2.7%	2.7%
	60歳代	161	2	11	24	0	4	2	26	79	9	4
		100.0%	1.2%	6.8%	14.9%	0.0%	2.5%	1.2%	16.1%	49.1%	5.6%	2.5%
	70歳以上	234	5	5	10	1	4	2	25	139	30	13
		100.0%	2.1%	2.1%	4.3%	0.4%	1.7%	0.9%	10.7%	59.4%	12.8%	5.6%
	男性	265	19	9	27	1	3	3	5	153	32	13
		100.0%	7.2%	3.4%	10.2%	0.4%	1.1%	1.1%	1.9%	57.7%	12.1%	4.9%
	20歳代	12	8	1	0	0	0	1	0	0	0	2
		100.0%	66.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
30歳代	5	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	
	100.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	
40歳代	7	2	1	1	0	0	1	0	1	1	0	
	100.0%	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	
50歳代	6	1	0	2	0	0	0	0	1	1	1	
	100.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	
60歳代	90	3	5	18	1	2	0	0	53	7	1	
	100.0%	3.3%	5.6%	20.0%	1.1%	2.2%	0.0%	0.0%	58.9%	7.8%	1.1%	
70歳以上	145	3	2	5	0	1	1	5	98	21	9	
	100.0%	2.1%	1.4%	3.4%	0.0%	0.7%	0.7%	3.4%	67.6%	14.5%	6.2%	

・%：各属性で最も割合が高い

(4) 職場における性別による処遇の違い

問 6 【問 5-1 で雇用者「7」又は「8」と答えた方へお尋ねします。】
あなたの職場では、性別によって処遇が異なりますか。(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 3-8)

職場における性別による処遇の違いについてみると、「特に性別により処遇が異なっていることはない」(45.2%)と回答した割合が最も高く、次いで「賃金に格差がある」(19.9%)、「女性に補助的な業務や雑用(お茶汲み等)に従事させる傾向がある」(15.8%)、「管理職への登用に差がある」(13.0%)、「昇進、昇格に格差がある」(12.2%)の順となっており、半数以上の人職場における性別による処遇の違いがあると回答している。

[性別、性・年代別] (図表 3-8, 図表 3-9)

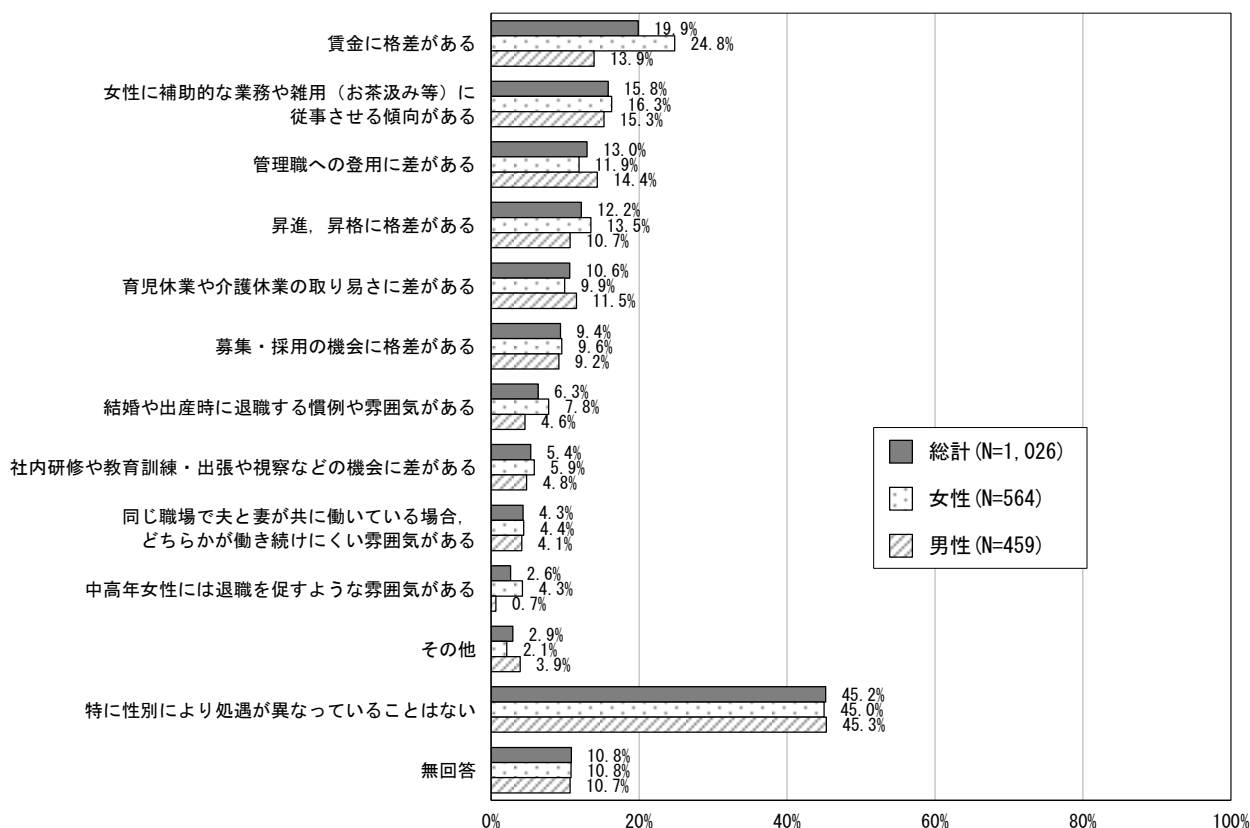
性別でみると、女性は「賃金に格差がある」と回答した割合が男性より 10.9 ポイント高く、その他に「中高年女性には退職を促すような雰囲気がある」、「結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある」などでも高くなっている。一方、「管理職への登用に差がある」、「育児休業や介護休業の取り易さに差がある」と回答した割合は、男性が女性を上回っている。

性・年代別でみると、女性は「特に性別により処遇が異なっていることはない」と回答した割合は 40 歳代までは年代が上がるほど高くなっているが、50 歳以上では低くなる傾向がみられた。一方、男性は全ての年代を通して年代が上がるほど高くなる傾向がみられた。

[前回調査との比較] (図表 3-10)

前回調査と比較すると、回答傾向に大きな差はみられなかった。その中で「特に性別により処遇が異なっていることはない」と「育児休業や介護休業の取り易さに差がある」と回答した割合は増加、その他の処遇については減少傾向がみられた。

図表 3-8 職場における性別による処遇の違い・複数回答【総計、性別】

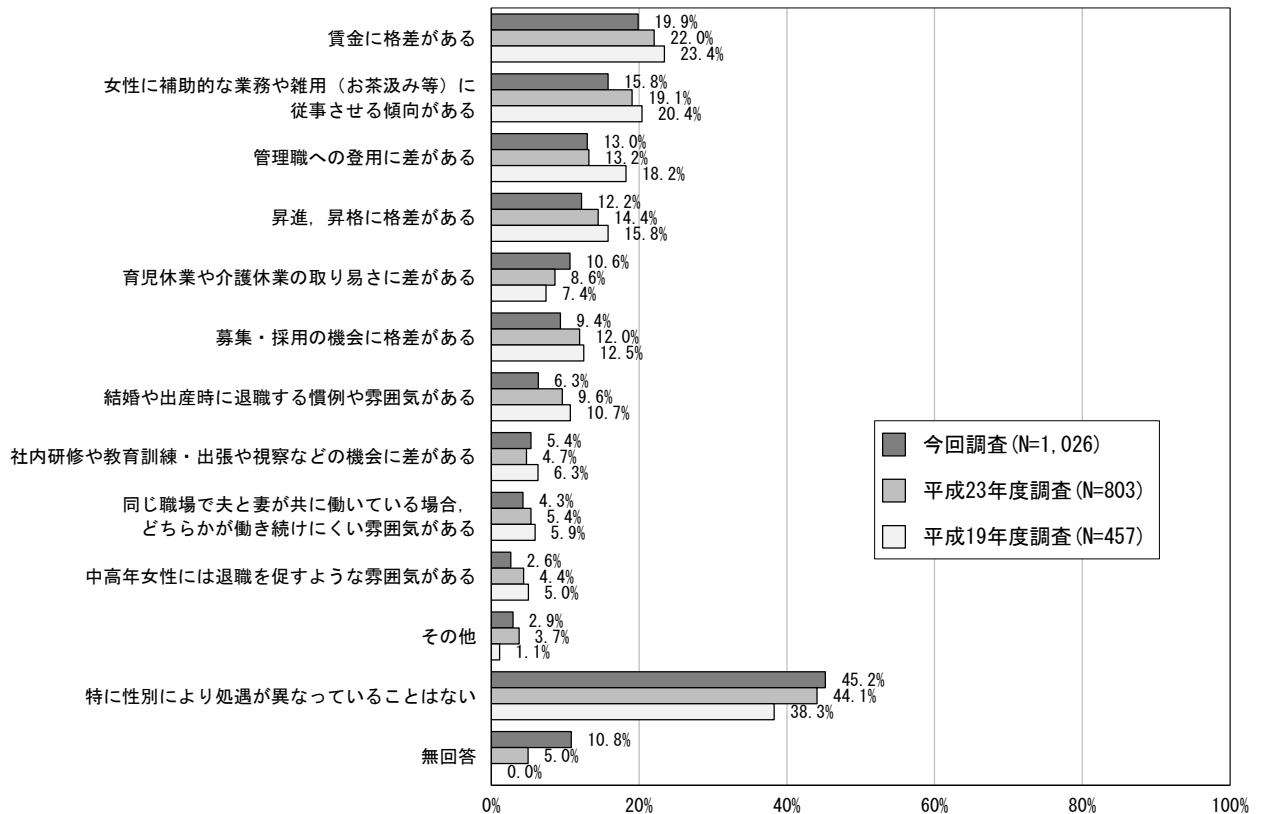


図表 3-9 職場における性別による処遇の違い・複数回答【性・年代別】

	サンプル数	募集・採用の機会に格差がある	賃金に格差がある	女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある	昇進、昇格に格差がある	管理職への登用に差がある	結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある	中高年女性には退職を促すような雰囲気がある	社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある	育児休業や介護休業の取り易さに差がある	同じ職場で夫と妻が共に働いている場合、どちらかが働き続けにくい雰囲気がある	その他	特に性別により処遇が異なっていることはない	無回答	
		上段：度数 下段：構成比(%)													
総計	1,026	96 9.4%	204 19.9%	162 15.8%	125 12.2%	133 13.0%	65 6.3%	27 2.6%	55 5.4%	109 10.6%	44 4.3%	30 2.9%	464 45.2%	111 10.8%	
性・年代別	女性	564	54 9.6%	140 24.8%	92 16.3%	76 13.5%	67 11.9%	44 7.8%	24 4.3%	33 5.9%	56 9.9%	25 4.4%	12 2.1%	254 45.0%	61 10.8%
	20歳代	56	4 7.1%	10 17.9%	17 30.4%	13 23.2%	9 16.1%	11 19.6%	1 1.8%	4 7.1%	8 14.3%	3 5.4%	2 3.6%	26 46.4%	4 7.1%
	30歳代	97	7 7.2%	16 16.5%	16 16.5%	11 11.3%	10 10.3%	9 9.3%	0 0.0%	6 6.2%	14 14.4%	6 6.2%	0 0.0%	47 48.5%	11 11.3%
	40歳代	139	8 5.8%	25 18.0%	20 14.4%	19 13.7%	19 13.7%	6 4.3%	3 2.2%	7 5.0%	12 8.6%	2 1.4%	3 2.2%	71 51.1%	14 10.1%
	50歳代	157	23 14.6%	52 33.1%	26 16.6%	23 14.6%	17 10.8%	14 8.9%	10 6.4%	10 6.4%	16 10.2%	11 7.0%	5 3.2%	63 40.1%	12 7.6%
	60歳代	94	12 12.8%	28 29.8%	11 11.7%	10 10.6%	9 9.6%	4 4.3%	10 10.6%	5 5.3%	6 6.4%	3 3.2%	1 1.1%	41 43.6%	16 17.0%
	70歳以上	21	0 0.0%	9 42.9%	2 9.5%	0 0.0%	3 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	6 28.6%	4 19.0%
	男性	459	42 9.2%	64 13.9%	70 15.3%	49 10.7%	66 14.4%	21 4.6%	3 0.7%	22 4.8%	53 11.5%	19 4.1%	18 3.9%	208 45.3%	49 10.7%
	20歳代	37	4 10.8%	5 13.5%	7 18.9%	5 13.5%	5 13.5%	3 8.1%	0 0.0%	0 0.0%	6 16.2%	4 10.8%	2 5.4%	12 32.4%	7 18.9%
	30歳代	77	9 11.7%	7 9.1%	13 16.9%	11 14.3%	11 14.3%	3 3.9%	0 0.0%	3 3.9%	15 19.5%	2 2.6%	3 3.9%	32 41.6%	4 5.2%
	40歳代	93	10 10.8%	12 12.9%	11 11.8%	8 8.6%	16 17.2%	8 8.6%	0 0.0%	5 5.4%	12 12.9%	8 8.6%	6 6.5%	42 45.2%	7 7.5%
	50歳代	124	9 7.3%	16 12.9%	17 13.7%	11 8.9%	17 13.7%	4 3.2%	1 0.8%	5 4.0%	10 8.1%	2 1.6%	5 4.0%	60 48.4%	14 11.3%
	60歳代	110	10 9.1%	21 19.1%	19 17.3%	13 11.8%	16 14.5%	3 2.7%	1 0.9%	9 8.2%	10 9.1%	3 2.7%	1 0.9%	52 47.3%	14 12.7%
	70歳以上	18	0 0.0%	3 16.7%	3 16.7%	1 5.6%	1 5.6%	0 0.0%	1 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.6%	10 55.6%	3 16.7%

. % : 各属性で最も割合が高い

図表 3-10 職場における性別による処遇の違い・複数回答【総計，前回調査】



(5) 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの

問7 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いませんか。(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 3-11)

政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについてみると、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」(44.1%)と回答した割合が最も高く、次いで「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(42.1%)、「長時間労働の改善が十分でないこと」(27.7%)、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(23.7%)、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」(22.6%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 3-11, 図表 3-12)

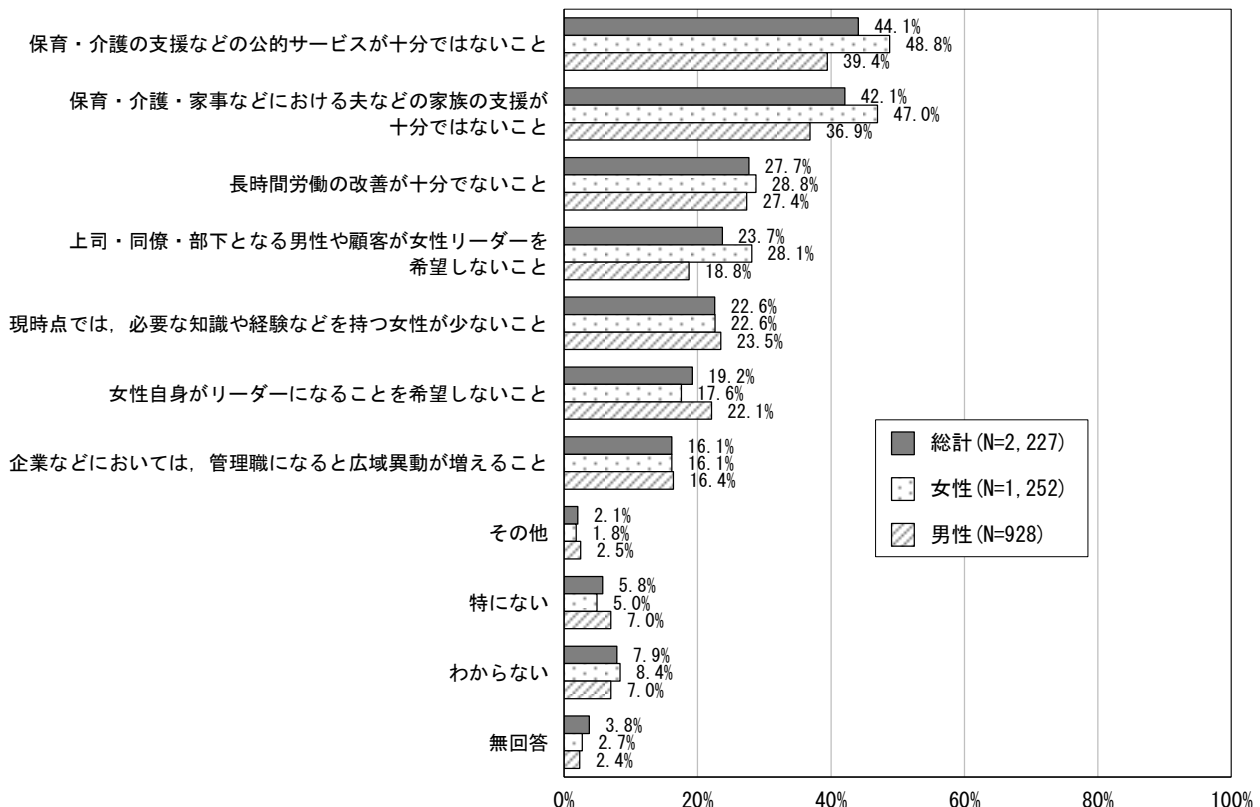
性別でみると、女性は、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」と回答した割合が男性より約10ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、男女とも全ての年代で「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」が上位1位と2位を占めている。また、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」と回答した割合は男女とも年代が下がるほど高い傾向がみられた。

[内閣府調査との比較] (図表 3-13)

内閣府調査と比較すると、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」と回答した割合が内閣府調査より6.3ポイント高くなっている。一方「長時間労働の改善が十分でないこと」と回答した割合は11.1ポイント低く、その他に「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」などでも低くなっている。

図表 3-11 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの・複数回答【総計、性別】

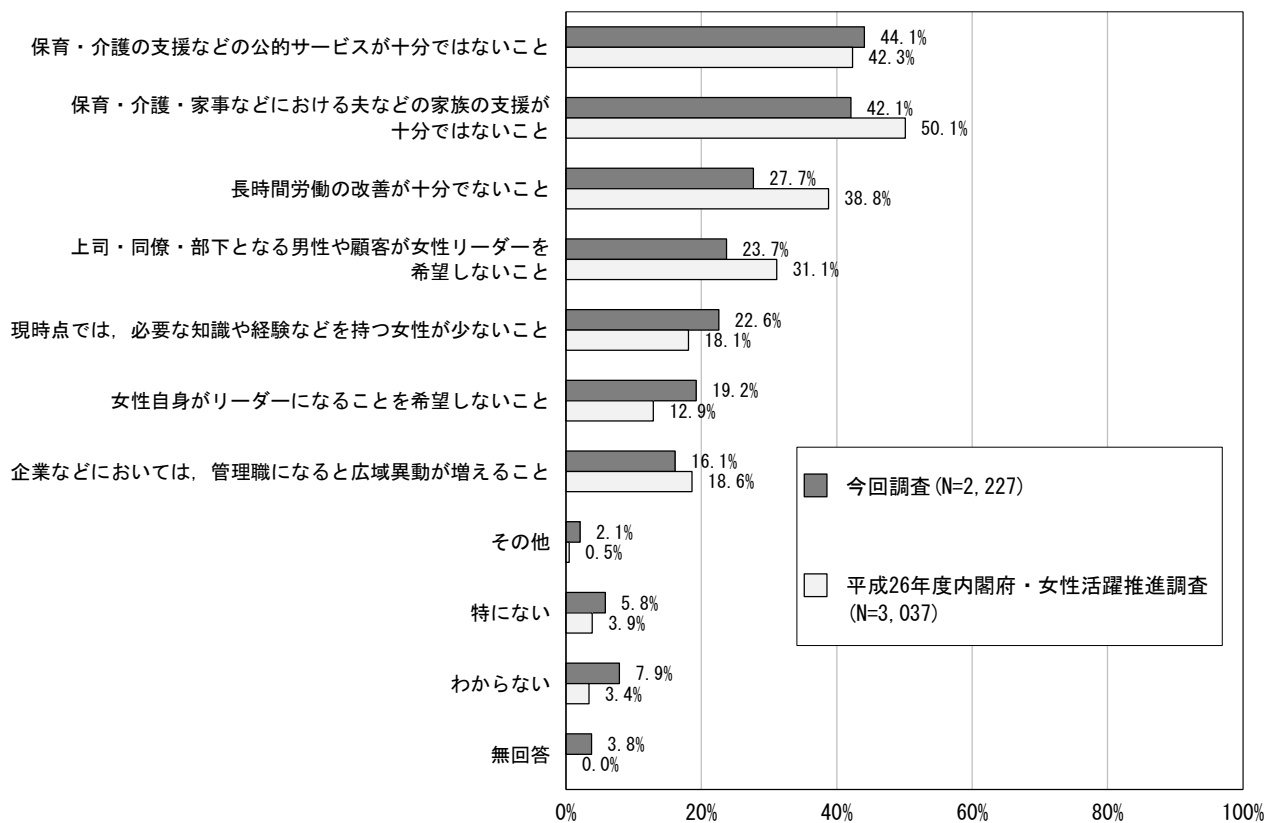


図表 3-12 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの・複数回答【性・年代別】

	サンプル数	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分でないこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	その他	特にない	わからない	無回答	
総計	2,227	503	428	528	617	359	937	982	46	129	176	84	
	-	22.6%	19.2%	23.7%	27.7%	16.1%	42.1%	44.1%	2.1%	5.8%	7.9%	3.8%	
性・年代別	女性	1,252	283	220	352	360	202	588	611	23	62	105	34
		-	22.6%	17.6%	28.1%	28.8%	16.1%	47.0%	48.8%	1.8%	5.0%	8.4%	2.7%
	20歳代	83	10	19	37	27	15	39	52	4	1	9	0
		-	12.0%	22.9%	44.6%	32.5%	18.1%	47.0%	62.7%	4.8%	1.2%	10.8%	0.0%
	30歳代	135	23	24	50	52	26	89	83	2	2	5	0
		-	17.0%	17.8%	37.0%	38.5%	19.3%	65.9%	61.5%	1.5%	1.5%	3.7%	0.0%
	40歳代	192	41	33	78	66	38	103	113	5	7	1	3
		-	21.4%	17.2%	40.6%	34.4%	19.8%	53.6%	58.9%	2.6%	3.6%	0.5%	1.6%
	50歳代	224	42	58	79	76	47	130	129	4	9	9	1
		-	18.8%	25.9%	35.3%	33.9%	21.0%	58.0%	57.6%	1.8%	4.0%	4.0%	0.4%
	60歳代	309	95	48	74	93	42	139	122	4	16	26	10
		-	30.7%	15.5%	23.9%	30.1%	13.6%	45.0%	39.5%	1.3%	5.2%	8.4%	3.2%
	70歳以上	309	72	38	34	46	34	88	112	4	27	55	20
		-	23.3%	12.3%	11.0%	14.9%	11.0%	28.5%	36.2%	1.3%	8.7%	17.8%	6.5%
	男性	928	218	205	174	254	152	342	366	23	65	65	22
		-	23.5%	22.1%	18.8%	27.4%	16.4%	36.9%	39.4%	2.5%	7.0%	7.0%	2.4%
20歳代	56	10	10	17	17	7	22	14	1	4	5	2	
	-	17.9%	17.9%	30.4%	30.4%	12.5%	39.3%	25.0%	1.8%	7.1%	8.9%	3.6%	
30歳代	95	17	20	22	24	12	37	47	7	8	3	0	
	-	17.9%	21.1%	23.2%	25.3%	12.6%	38.9%	49.5%	7.4%	8.4%	3.2%	0.0%	
40歳代	119	19	25	16	36	15	54	48	5	7	6	2	
	-	16.0%	21.0%	13.4%	30.3%	12.6%	45.4%	40.3%	4.2%	5.9%	5.0%	1.7%	
50歳代	165	45	44	33	47	32	58	79	3	8	3	0	
	-	27.3%	26.7%	20.0%	28.5%	19.4%	35.2%	47.9%	1.8%	4.8%	1.8%	0.0%	
60歳代	277	68	68	52	86	51	107	116	2	12	15	6	
	-	24.5%	24.5%	18.8%	31.0%	18.4%	38.6%	41.9%	0.7%	4.3%	5.4%	2.2%	
70歳以上	216	59	38	34	44	35	64	62	5	26	33	12	
	-	27.3%	17.6%	15.7%	20.4%	16.2%	29.6%	28.7%	2.3%	12.0%	15.3%	5.6%	

■ . % : 各属性で最も割合が高い

図表 3-13 政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるもの・複数回答【総計，内閣府調査】



(6) 管理職への昇進に対するイメージ

問 8 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。
(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 3-14)

管理職以上への昇進に対するイメージについてみると、「責任が重くなる」(65.2%)と回答した割合が最も高く、次いで「能力が認められた結果である」(49.5%)、「仕事と家庭の両立が困難になる」(35.1%)、「賃金が上がる」(35.0%)、「やりがいのある仕事ができる」(31.3%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 3-14, 図表 3-15)

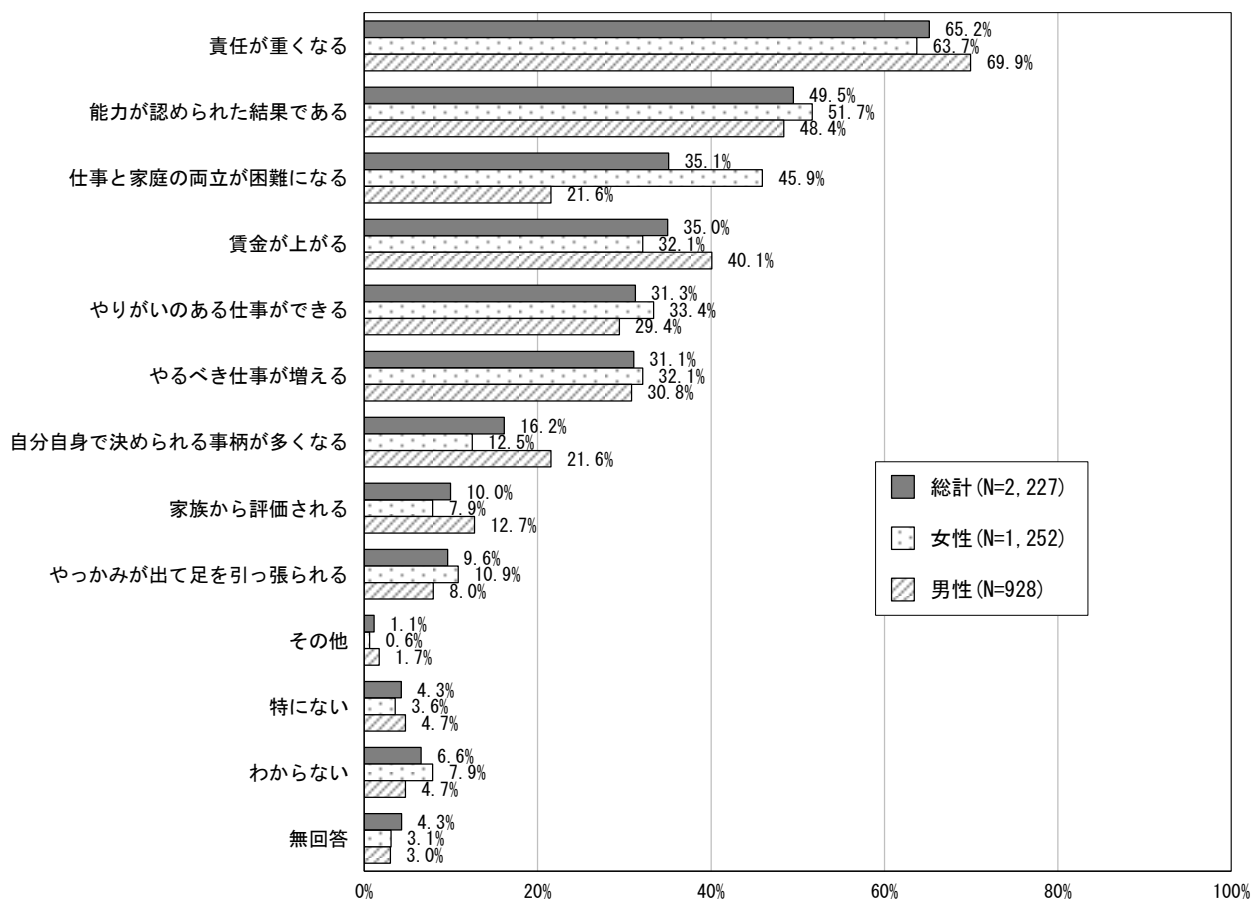
性別でみると、女性は「仕事と家庭の両立が困難になる」と回答した割合が男性より24.3ポイント高く、男性は「自分自身で決められる事柄が多くなる」で9.1ポイント、「賃金が上がる」で8ポイント女性より高くなっている。

性・年代別でみると、男女とも「賃金が上がる」と回答した割合は年代が下がるほど高くなり、「責任が重くなる」、「やるべき仕事が増える」でも20歳代男性を除いて同じ傾向がみられた。また、30～50歳代女性の半数以上が「仕事と家庭の両立が困難になる」と回答している。

[内閣府調査との比較] (図表 3-16)

内閣府調査と比較すると、調査結果に差があるものとして、「仕事と家庭の両立が困難になる」と回答した割合は内閣府調査より5.9ポイント高くなっている。一方「自分自身で決められる事柄が多くなる」と回答した割合は内閣府調査より10.6ポイント低く、その他に「やりがいのある仕事ができる」、「能力が認められた結果である」などでも低くなっている。

図表 3-14 管理職への昇進に対するイメージ・複数回答【総計、性別】

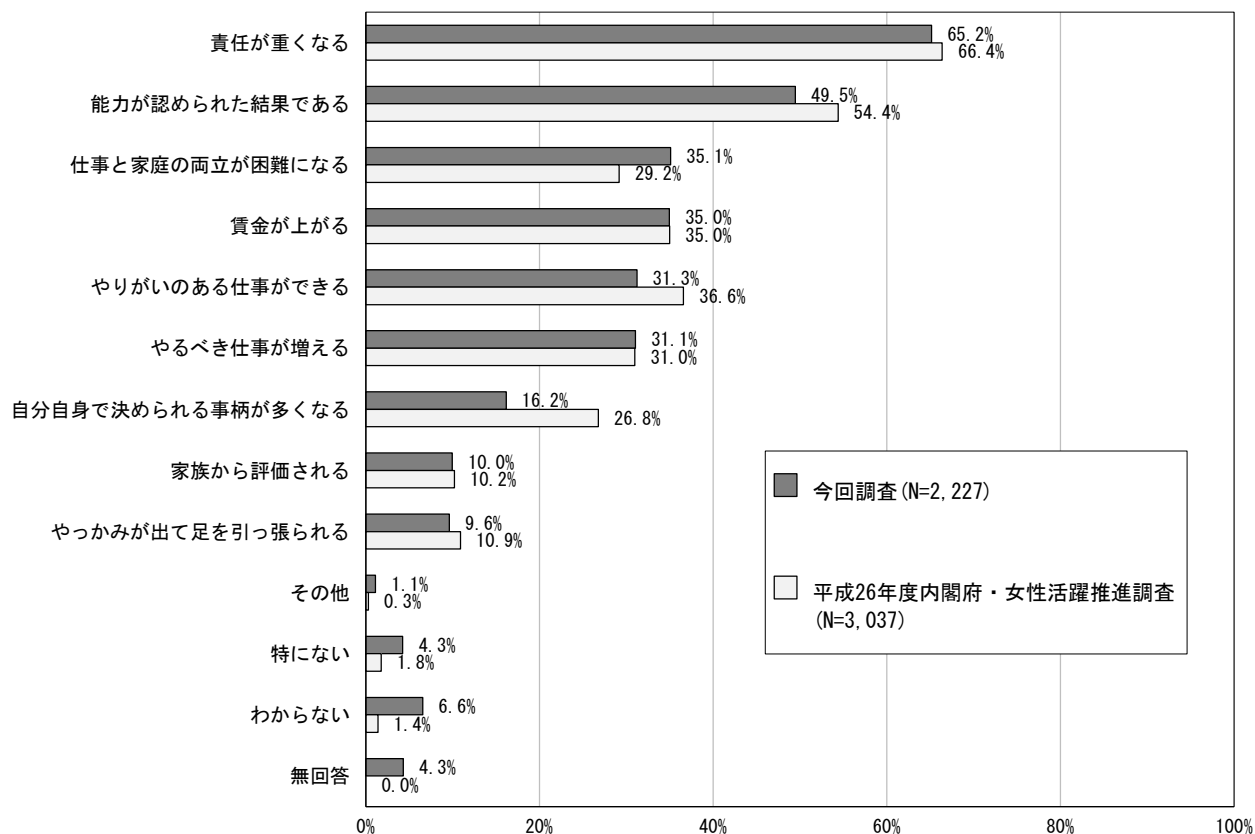


図表 3-15 管理職への昇進に対するイメージ・複数回答【性・年代別】

	サンプル数	やりがいのある仕事 ができる	賃金 が上がる	果 能力が認められた結 果である	家族 から評価される	自分 自身で決められる事柄が多くなる	やる べき仕事が増える	責任 が重くなる	引っ かみが出て足を引 張られる	仕事 と家庭の両立が 困難になる	その他	特 にない	わ からない	無 回答	
総計	2,227	696	779	1,102	222	360	692	1,451	214	782	25	95	146	96	
	-	31.3%	35.0%	49.5%	10.0%	16.2%	31.1%	65.2%	9.6%	35.1%	1.1%	4.3%	6.6%	4.3%	
性・年代別	女性	1,252	418	402	647	99	156	402	798	136	575	8	45	99	39
		-	33.4%	32.1%	51.7%	7.9%	12.5%	32.1%	63.7%	10.9%	45.9%	0.6%	3.6%	7.9%	3.1%
	20歳代	83	30	48	50	12	13	44	71	9	40	1	1	2	0
		-	36.1%	57.8%	60.2%	14.5%	15.7%	53.0%	85.5%	10.8%	48.2%	1.2%	1.2%	2.4%	0.0%
	30歳代	135	60	67	88	12	20	60	107	13	82	1	0	2	0
		-	44.4%	49.6%	65.2%	8.9%	14.8%	44.4%	79.3%	9.6%	60.7%	0.7%	0.0%	1.5%	0.0%
	40歳代	192	67	85	104	14	18	89	148	21	110	1	4	2	3
		-	34.9%	44.3%	54.2%	7.3%	9.4%	46.4%	77.1%	10.9%	57.3%	0.5%	2.1%	1.0%	1.6%
	50歳代	224	80	91	133	16	24	85	170	30	117	1	4	5	1
		-	35.7%	40.6%	59.4%	7.1%	10.7%	37.9%	75.9%	13.4%	52.2%	0.4%	1.8%	2.2%	0.4%
	60歳代	309	109	74	159	27	46	74	182	40	132	2	13	21	8
		-	35.3%	23.9%	51.5%	8.7%	14.9%	23.9%	58.9%	12.9%	42.7%	0.6%	4.2%	6.8%	2.6%
	70歳以上	309	72	37	113	18	35	50	120	23	94	2	23	67	27
		-	23.3%	12.0%	36.6%	5.8%	11.3%	16.2%	38.8%	7.4%	30.4%	0.6%	7.4%	21.7%	8.7%
	男性	928	273	372	449	118	200	286	649	74	200	16	44	44	28
		-	29.4%	40.1%	48.4%	12.7%	21.6%	30.8%	69.9%	8.0%	21.6%	1.7%	4.7%	4.7%	3.0%
	20歳代	56	17	36	23	8	19	20	35	5	11	1	2	3	1
	-	30.4%	64.3%	41.1%	14.3%	33.9%	35.7%	62.5%	8.9%	19.6%	1.8%	3.6%	5.4%	1.8%	
30歳代	95	26	57	53	16	21	48	80	5	27	3	2	3	0	
	-	27.4%	60.0%	55.8%	16.8%	22.1%	50.5%	84.2%	5.3%	28.4%	3.2%	2.1%	3.2%	0.0%	
40歳代	119	33	59	58	12	29	43	94	16	35	4	4	2	1	
	-	27.7%	49.6%	48.7%	10.1%	24.4%	36.1%	79.0%	13.4%	29.4%	3.4%	3.4%	1.7%	0.8%	
50歳代	165	42	81	91	27	32	69	133	13	32	2	5	4	1	
	-	25.5%	49.1%	55.2%	16.4%	19.4%	41.8%	80.6%	7.9%	19.4%	1.2%	3.0%	2.4%	0.6%	
60歳代	277	90	97	123	37	56	72	199	21	55	4	14	11	8	
	-	32.5%	35.0%	44.4%	13.4%	20.2%	26.0%	71.8%	7.6%	19.9%	1.4%	5.1%	4.0%	2.9%	
70歳以上	216	65	42	101	18	43	34	108	14	40	2	17	21	17	
	-	30.1%	19.4%	46.8%	8.3%	19.9%	15.7%	50.0%	6.5%	18.5%	0.9%	7.9%	9.7%	7.9%	

■ . % : 各属性で最も割合が高い

図表 3-16 管理職への昇進に対するイメージ・複数回答【総計, 内閣府調査】



(7) 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと

問9 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 3-17)

女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことについてみると、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」(72.5%)と回答した割合が最も高く、次いで「男性の家事・育児参画への理解・意識改革」(46.1%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(44.0%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(40.4%)、「介護支援サービスの充実」(37.0%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 3-17, 図表 3-18)

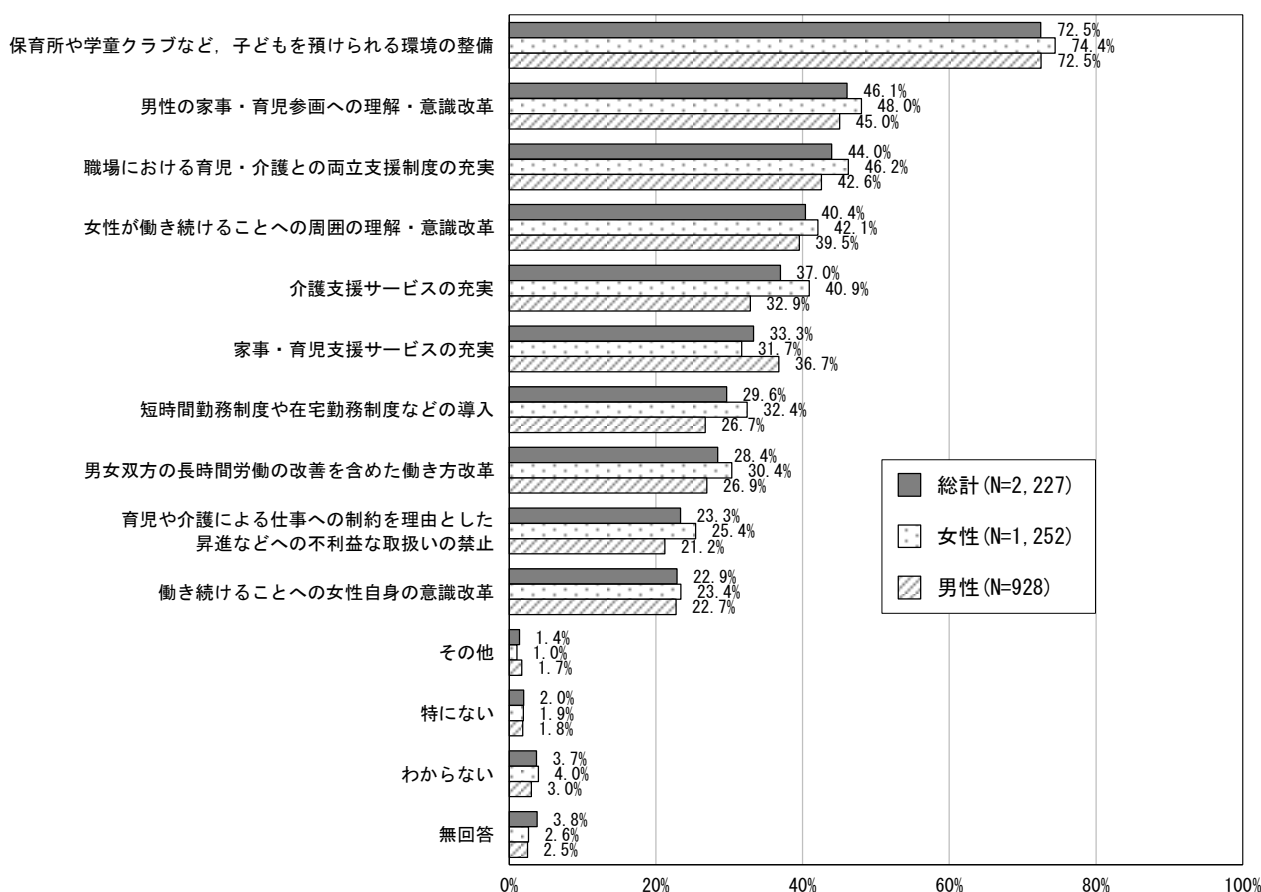
性別でみると、「介護支援サービスの充実」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」などで女性の回答した割合が男性より高く、「家事・育児支援サービスの充実」などで男性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、男女とも全ての年代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も高く、特に20～50歳代女性と30歳代男性の約8割が回答しており、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」と回答した女性の割合は、年代が下がるにつれ高くなっている。

[内閣府調査との比較] (図表 3-19)

内閣府調査と比較して回答傾向に差があるものとして、「家事・育児支援サービスの充実」で13.8ポイント、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」で9.2ポイント低くなっている

図表 3-17 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと・複数回答【総計、性別】

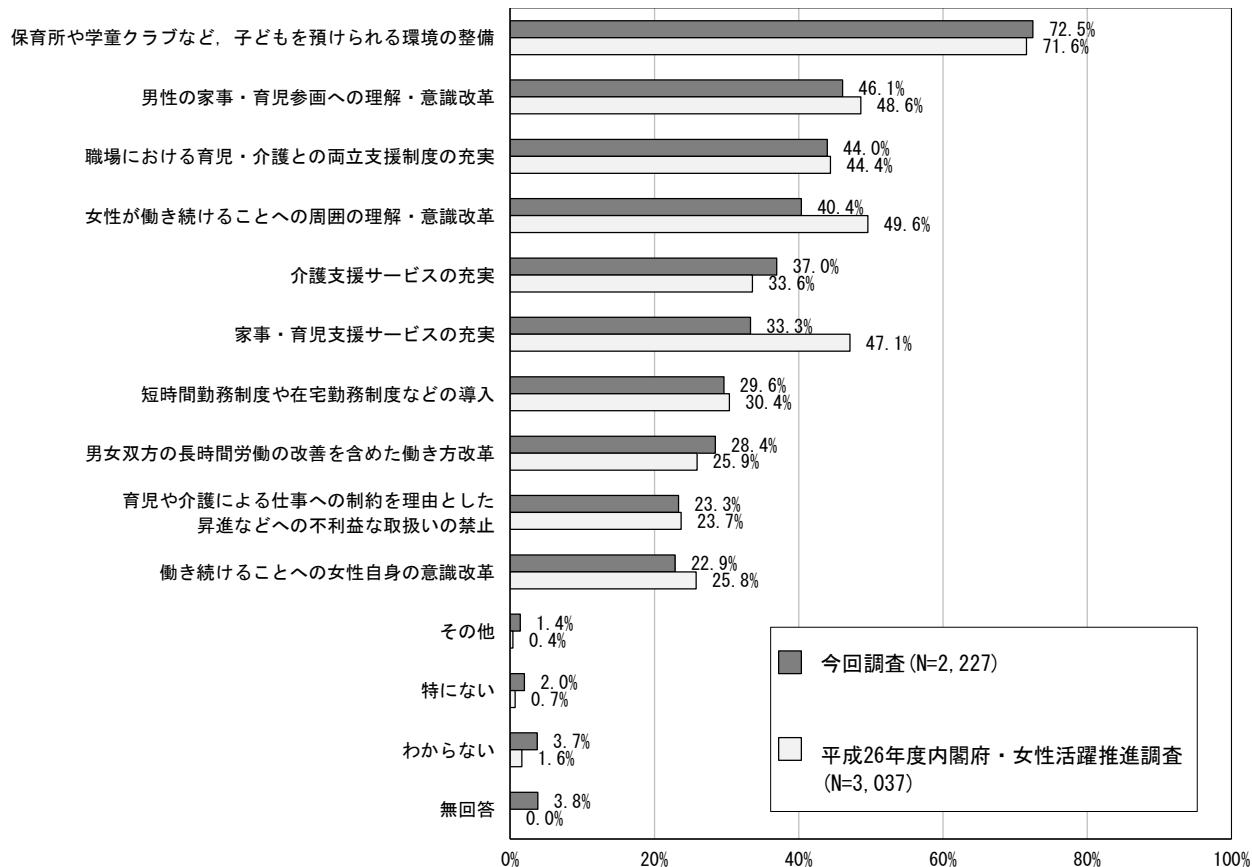


図表 3-18 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと・複数回答【性・年代別】

性・年代別	サンプル数	整備 子どもを預けられる環境の 保育所や学童クラブなど、	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事・育児参画への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	特にない	わからない	無回答
総計	2,227	1,614 72.5%	823 37.0%	742 33.3%	1,026 46.1%	899 40.4%	509 22.9%	633 28.4%	979 44.0%	660 29.6%	520 23.3%	31 1.4%	44 2.0%	83 3.7%	85 3.8%
女性	1,252	932 74.4%	512 40.9%	397 31.7%	601 48.0%	527 42.1%	293 23.4%	380 30.4%	579 46.2%	406 32.4%	318 25.4%	13 1.0%	24 1.9%	50 4.0%	33 2.6%
20歳代	83	72 86.7%	37 44.6%	36 43.4%	39 47.0%	45 54.2%	19 22.9%	36 43.4%	51 61.4%	44 53.0%	34 41.0%	3 3.6%	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%
30歳代	135	116 85.9%	40 29.6%	58 43.0%	84 62.2%	75 55.6%	26 19.3%	60 44.4%	78 57.8%	61 45.2%	47 34.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%	0 0.0%
40歳代	192	153 79.7%	96 50.0%	82 42.7%	116 60.4%	86 44.8%	47 24.5%	72 37.5%	109 56.8%	66 34.4%	56 29.2%	5 2.6%	2 1.0%	1 0.5%	3 1.6%
50歳代	224	181 80.8%	120 53.6%	91 40.6%	132 58.9%	106 47.3%	66 29.5%	78 34.8%	126 56.3%	91 40.6%	66 29.5%	1 0.4%	1 0.4%	3 1.3%	1 0.4%
60歳代	309	225 72.8%	117 37.9%	82 26.5%	144 46.6%	125 40.5%	86 27.8%	82 26.5%	120 38.8%	83 26.9%	67 21.7%	1 0.3%	7 2.3%	9 2.9%	5 1.6%
70歳以上	309	185 59.9%	102 33.0%	48 15.5%	86 27.8%	90 29.1%	49 15.9%	52 16.8%	95 30.7%	61 19.7%	48 15.5%	3 1.0%	14 4.5%	35 11.3%	24 7.8%
男性	928	673 72.5%	305 32.9%	341 36.7%	418 45.0%	367 39.5%	211 22.7%	250 26.9%	395 42.6%	248 26.7%	197 21.2%	16 1.7%	17 1.8%	28 3.0%	23 2.5%
20歳代	56	39 69.6%	14 25.0%	23 41.1%	25 44.6%	25 44.6%	12 21.4%	20 35.7%	26 46.4%	10 17.9%	14 25.0%	1 1.8%	1 1.8%	1 1.8%	1 1.8%
30歳代	95	82 86.3%	32 33.7%	43 45.3%	51 53.7%	38 40.0%	26 27.4%	32 33.7%	44 46.3%	37 38.9%	23 24.2%	2 2.1%	1 1.1%	2 2.1%	2 2.1%
40歳代	119	91 76.5%	47 39.5%	45 37.8%	61 51.3%	49 41.2%	22 18.5%	39 32.8%	52 43.7%	35 29.4%	33 27.7%	5 4.2%	2 1.7%	1 0.8%	0 0.0%
50歳代	165	128 77.6%	65 39.4%	74 44.8%	84 50.9%	62 37.6%	42 25.5%	43 26.1%	68 41.2%	44 26.7%	23 13.9%	0 0.0%	2 1.2%	2 1.2%	1 0.6%
60歳代	277	204 73.6%	89 32.1%	101 36.5%	124 44.8%	108 39.0%	59 21.3%	65 23.5%	126 45.5%	82 29.6%	65 23.5%	5 1.8%	6 2.2%	6 2.2%	5 1.8%
70歳以上	216	129 59.7%	58 26.9%	55 25.5%	73 33.8%	85 39.4%	50 23.1%	51 23.6%	79 36.6%	40 18.5%	39 18.1%	3 1.4%	5 2.3%	16 7.4%	14 6.5%

. % : 各属性で最も割合が高い

図表 3-19 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと・複数回答【総計，内閣府調査】



4. 家庭生活について

(1) 家庭における夫婦の役割分担について

問 10 【現在、結婚している方にお尋ねします。】

あなたの家庭では、現在、次のような事柄を主に誰が行っていますか。
(各項目でははまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 4-1)

家庭における夫婦の役割分担についてみると、「妻」と回答した割合は「家事」(69.3%)、「育児」(41.8%)、「介護・看護」(27.7%)（「該当しない」を除く）などで最も高くなっている。一方、「夫」と回答した割合は「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」(24.4%)を除くと1%前後である。また「夫と妻が分担」と回答した割合は、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」(30.9%)で最も高くなっており、「家事」(23.3%)、「育児」(21.0%)、「介護・看護」ではいずれも「妻」に続いて2番目に高くなっている。

[性別、性・年代別] (図表 4-2, 図表 4-3～図表 4-4)

性別でみると、全ての役割分担で女性は「妻」と回答した割合が男性より高く、男性は「夫」、「夫と妻が分担」で女性より高くなっており、男女間での意識の差がみられた。

性・年代別でみると、男女とも「夫と妻が分担」と回答した割合は「家事」、「育児」で20歳代を除いて年代が下がるほど高くなる傾向がみられ、「介護、看護」、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」でも50歳代までは年代が上がるほど高くなり、60歳以上では低くなっている。

[性・夫婦の就労状況別] (図表 4-3～図表 4-4)

性・夫婦の就労状況別でみると、「どちらも職業がない」と回答した女性は、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」について「夫」と回答した割合が最も高くなっている。一方、「どちらも職業がある」、「自分のみ職業がある」と回答した男性は、「介護・看護」、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」について「夫と妻が分担」と回答した割合が最も高くなっている（「該当しない」を除く）。

[性・職業別] (図表 4-3～図表 4-4)

性・職業別でみると、「家族従事者」、「雇用者」と回答した男性は「介護・看護」について「夫と妻が分担」と回答した割合が最も高くなっている。また、「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」について、「自営業主」、「家族従事者」と回答した男性は「夫」と回答した割合が最も高く、「自営業主」、「家族従事者」と回答した女性は「夫と妻が分担」が最も高くなっている。

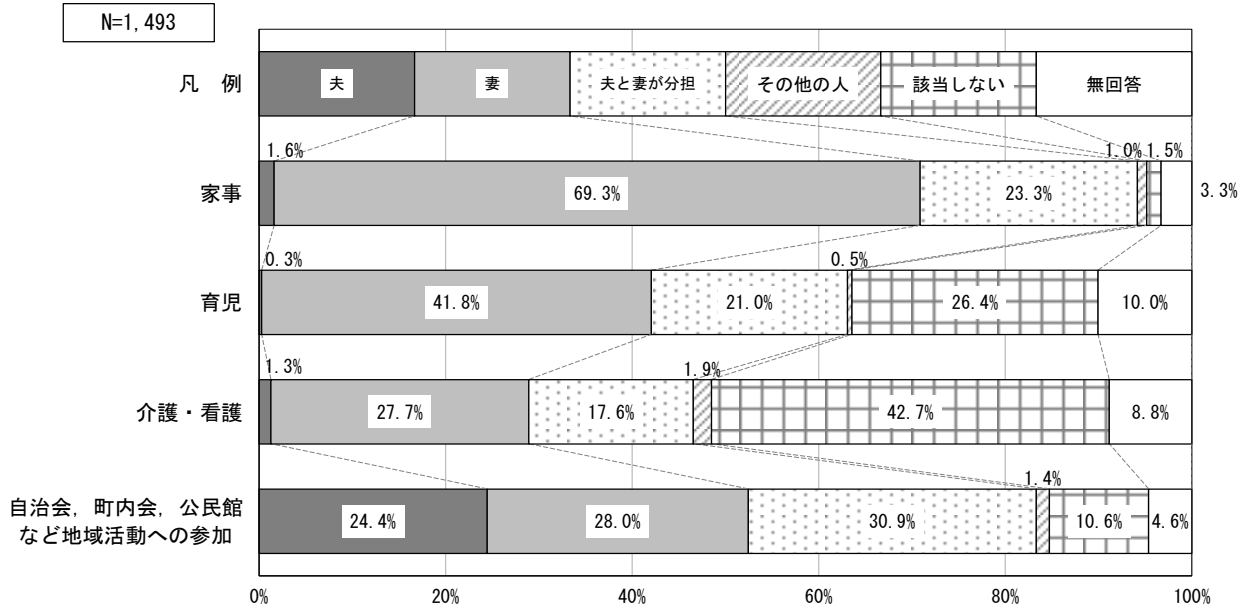
[「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別] (図表 4-5～図表 4-8)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別でみると、「賛成」の人は「自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加」について「夫」と回答した割合が高く、また「反対」の人は全ての役割分担において「夫と妻が分担」と回答した割合が高くなっている。

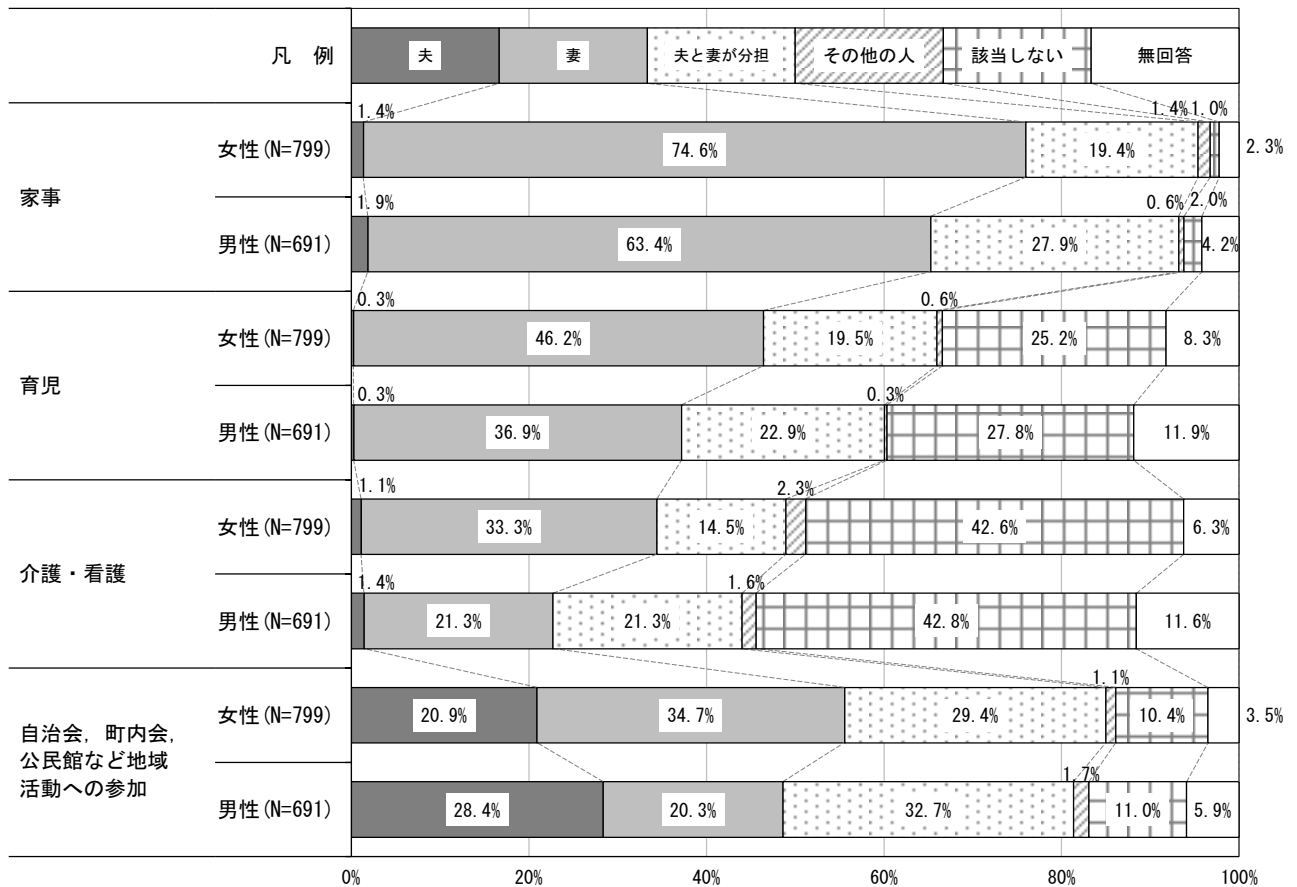
[前回調査との比較] (図表 4-9～図表 4-12)

前回調査と比較すると、全ての役割分担で「妻」と回答した割合が減少しており、「家事」、「育児」、「介護・看護」では「夫と妻が分担」が増加している。

図表 4-1 家庭における夫婦の役割分担について【総計】



図表 4-2 家庭における夫婦の役割分担について【性別】



図表 4-3 家庭における夫婦の役割分担について【性・年代別、性・就労状況、性・職業別】 1/2

	サンプル数	家事						育児							
		夫	妻	夫と妻が分担	その他の人	該当しない	無回答	夫	妻	夫と妻が分担	その他の人	該当しない	無回答		
上段：度数 下段：構成比(%)															
総計	1,493 100.0%	24 1.6%	1,034 69.3%	348 23.3%	15 1.0%	23 1.5%	49 3.3%	4 0.3%	624 41.8%	314 21.0%	7 0.5%	394 26.4%	150 10.0%		
性・年代別	女性	799 100.0%	11 1.4%	596 74.6%	155 19.4%	11 1.4%	8 1.0%	18 2.3%	2 0.3%	369 46.2%	156 19.5%	5 0.6%	201 25.2%	66 8.3%	
	20歳代	15 100.0%	0 0.0%	11 73.3%	3 20.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	6 40.0%	4 26.7%	0 0.0%	5 33.3%	0 0.0%	
	30歳代	84 100.0%	0 0.0%	59 70.2%	25 29.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	41 48.8%	30 35.7%	0 0.0%	13 15.5%	0 0.0%	
	40歳代	135 100.0%	1 0.7%	101 74.8%	28 20.7%	2 1.5%	1 0.7%	2 1.5%	1 0.7%	76 56.3%	40 29.6%	0 0.0%	16 11.9%	2 1.5%	
	50歳代	166 100.0%	0 0.0%	135 81.3%	29 17.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.2%	1 0.6%	83 50.0%	37 22.3%	1 0.6%	36 21.7%	8 4.8%	
	60歳代	230 100.0%	3 1.3%	165 71.7%	52 22.6%	5 2.2%	0 0.0%	5 2.2%	0 0.0%	111 48.3%	28 12.2%	3 1.3%	70 30.4%	18 7.8%	
	70歳以上	169 100.0%	7 4.1%	125 74.0%	18 10.7%	4 2.4%	6 3.6%	9 5.3%	0 0.0%	52 30.8%	17 10.1%	1 0.6%	61 36.1%	38 22.5%	
	男性	691 100.0%	13 1.9%	438 63.4%	193 27.9%	4 0.6%	14 2.0%	29 4.2%	2 0.3%	255 36.9%	158 22.9%	2 0.3%	192 27.8%	82 11.9%	
	20歳代	10 100.0%	0 0.0%	5 50.0%	5 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	4 40.0%	0 0.0%	5 50.0%	0 0.0%	
	30歳代	54 100.0%	0 0.0%	29 53.7%	22 40.7%	2 3.7%	0 0.0%	1 1.9%	1 1.9%	20 37.0%	21 38.9%	0 0.0%	10 18.5%	2 3.7%	
	40歳代	85 100.0%	2 2.4%	56 65.9%	25 29.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%	1 1.2%	38 44.7%	36 42.4%	0 0.0%	8 9.4%	2 2.4%	
	50歳代	133 100.0%	1 0.8%	83 62.4%	47 35.3%	0 0.0%	2 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	53 39.8%	40 30.1%	0 0.0%	35 26.3%	5 3.8%	
	60歳代	229 100.0%	5 2.2%	156 68.1%	55 24.0%	0 0.0%	6 2.6%	7 3.1%	0 0.0%	97 42.4%	35 15.3%	0 0.0%	74 32.3%	23 10.0%	
	70歳以上	180 100.0%	5 2.8%	109 60.6%	39 21.7%	2 1.1%	6 3.3%	19 10.6%	0 0.0%	46 25.6%	22 12.2%	2 1.1%	60 33.3%	50 27.8%	
	性・夫婦の就労状況別	女性	379 100.0%	2 0.5%	286 75.5%	80 21.1%	4 1.1%	1 0.3%	6 1.6%	1 0.3%	182 48.0%	101 26.6%	2 0.5%	76 20.1%	17 4.5%
		自分のみ 職業がある	71 100.0%	1 1.4%	47 66.2%	21 29.6%	1 1.4%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	36 50.7%	14 19.7%	0 0.0%	17 23.9%	4 5.6%
配偶者のみ 職業がある		139 100.0%	2 1.4%	122 87.8%	13 9.4%	0 0.0%	1 0.7%	1 0.7%	0 0.0%	82 59.0%	18 12.9%	0 0.0%	30 21.6%	9 6.5%	
どちらも 職業がない		201 100.0%	5 2.5%	135 67.2%	41 20.4%	5 2.5%	5 2.5%	10 5.0%	1 0.5%	68 33.8%	23 11.4%	2 1.0%	74 36.8%	33 16.4%	
男性		328 100.0%	1 0.3%	192 58.5%	123 37.5%	3 0.9%	1 0.3%	8 2.4%	1 0.3%	122 37.2%	106 32.3%	1 0.3%	73 22.3%	25 7.6%	
自分のみ 職業がある		153 100.0%	5 3.3%	117 76.5%	23 15.0%	0 0.0%	3 2.0%	5 3.3%	0 0.0%	69 45.1%	29 19.0%	0 0.0%	42 27.5%	13 8.5%	
配偶者のみ 職業がある		41 100.0%	3 7.3%	22 53.7%	10 24.4%	0 0.0%	5 12.2%	1 2.4%	1 2.4%	13 31.7%	1 2.4%	0 0.0%	22 53.7%	4 9.8%	
どちらも 職業がない		162 100.0%	4 2.5%	103 63.6%	35 21.6%	1 0.6%	5 3.1%	14 8.6%	0 0.0%	50 30.9%	22 13.6%	1 0.6%	52 32.1%	37 22.8%	
性・職業別	女性	60 100.0%	1 1.7%	46 76.7%	10 16.7%	1 1.7%	0 0.0%	2 3.3%	0 0.0%	29 48.3%	9 15.0%	0 0.0%	16 26.7%	6 10.0%	
	家族従事者	54 100.0%	2 3.7%	38 70.4%	10 18.5%	2 3.7%	0 0.0%	2 3.7%	0 0.0%	21 38.9%	11 20.4%	1 1.9%	15 27.8%	6 11.1%	
	雇用者	344 100.0%	2 0.6%	252 73.3%	82 23.8%	3 0.9%	1 0.3%	4 1.2%	1 0.3%	166 48.3%	93 27.0%	2 0.6%	66 19.2%	16 4.7%	
	無職	331 100.0%	6 1.8%	253 76.4%	53 16.0%	5 1.5%	7 2.1%	7 2.1%	1 0.3%	148 44.7%	43 13.0%	2 0.6%	102 30.8%	35 10.6%	
	男性	135 100.0%	2 1.5%	90 66.7%	36 26.7%	2 1.5%	1 0.7%	4 3.0%	0 0.0%	57 42.2%	26 19.3%	0 0.0%	35 25.9%	17 12.6%	
	家族従事者	13 100.0%	0 0.0%	10 76.9%	3 23.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 23.1%	4 30.8%	0 0.0%	3 23.1%	3 23.1%	
	雇用者	340 100.0%	3 0.9%	215 63.2%	110 32.4%	1 0.3%	2 0.6%	9 2.6%	1 0.3%	136 40.0%	105 30.9%	0 0.0%	78 22.9%	20 5.9%	
	無職	192 100.0%	7 3.6%	118 61.5%	44 22.9%	1 0.5%	9 4.7%	13 6.8%	1 0.5%	56 29.2%	23 12.0%	2 1.0%	73 38.0%	37 19.3%	

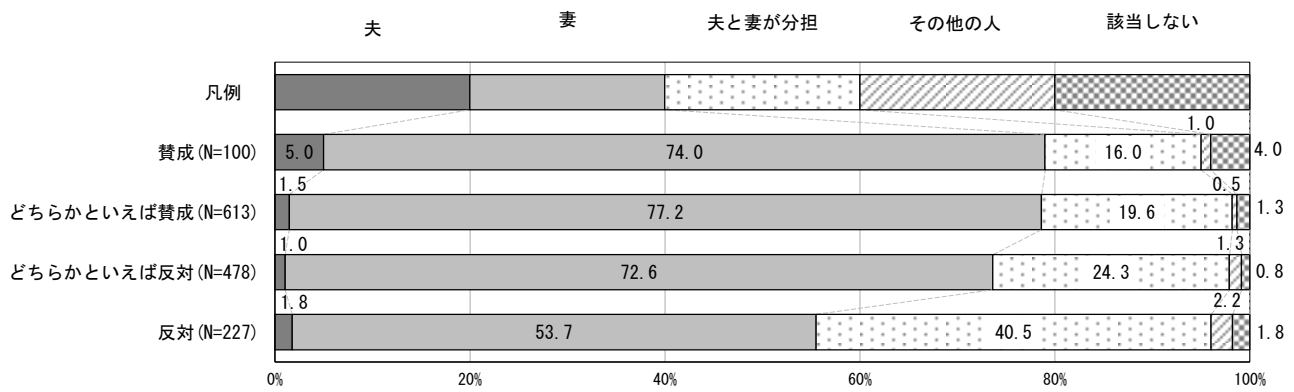
. % : 各属性で最も割合が高い

図表 4-4 家庭における夫婦の役割分担について【性・年代別、性・就労状況、性・職業別】 2/2

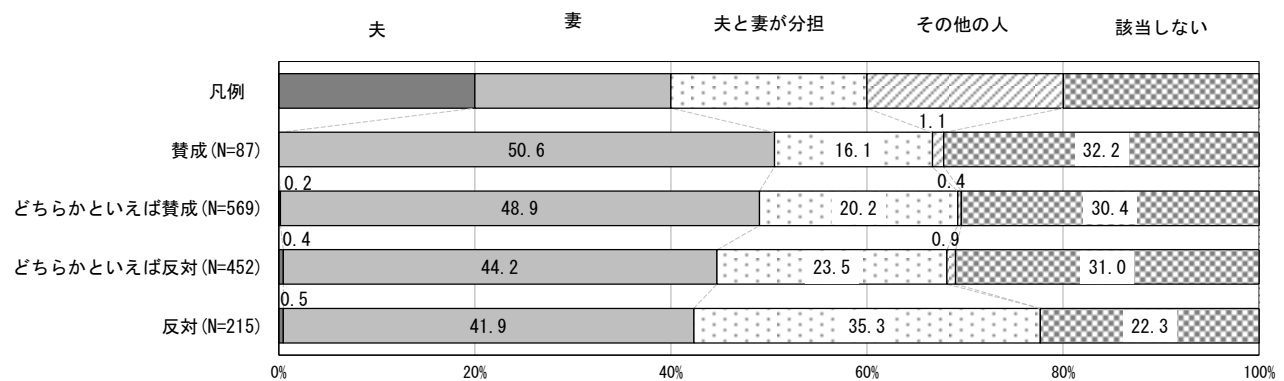
	サンプル数	介護・看護						自治会、町内会、公民館など地域活動への参加						
		夫	妻	夫と妻が分担	その他の人	該当しない	無回答	夫	妻	夫と妻が分担	その他の人	該当しない	無回答	
総計	1,493	19	413	263	29	637	132	365	418	461	21	159	69	
	100.0%	1.3%	27.7%	17.6%	1.9%	42.7%	8.8%	24.4%	28.0%	30.9%	1.4%	10.6%	4.6%	
性・年代別	女性	799	9	266	116	18	340	50	167	277	235	9	83	28
		100.0%	1.1%	33.3%	14.5%	2.3%	42.6%	6.3%	20.9%	34.7%	29.4%	1.1%	10.4%	3.5%
	20歳代	15	0	2	0	0	13	0	1	1	4	1	8	0
		100.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	86.7%	0.0%	6.7%	6.7%	26.7%	6.7%	53.3%	0.0%
	30歳代	84	0	12	1	1	69	1	13	25	27	0	18	1
		100.0%	0.0%	14.3%	1.2%	1.2%	82.1%	1.2%	15.5%	29.8%	32.1%	0.0%	21.4%	1.2%
	40歳代	135	0	43	14	3	72	3	11	61	45	2	14	2
		100.0%	0.0%	31.9%	10.4%	2.2%	53.3%	2.2%	8.1%	45.2%	33.3%	1.5%	10.4%	1.5%
	50歳代	166	1	69	39	1	52	4	21	71	60	1	11	2
		100.0%	0.6%	41.6%	23.5%	0.6%	31.3%	2.4%	12.7%	42.8%	36.1%	0.6%	6.6%	1.2%
	60歳代	230	1	96	41	9	69	14	65	74	68	2	13	8
		100.0%	0.4%	41.7%	17.8%	3.9%	30.0%	6.1%	28.3%	32.2%	29.6%	0.9%	5.7%	3.5%
	70歳以上	169	7	44	21	4	65	28	56	45	31	3	19	15
		100.0%	4.1%	26.0%	12.4%	2.4%	38.5%	16.6%	33.1%	26.6%	18.3%	1.8%	11.2%	8.9%
男性	691	10	147	147	11	296	80	196	140	226	12	76	41	
	100.0%	1.4%	21.3%	21.3%	1.6%	42.8%	11.6%	28.4%	20.3%	32.7%	1.7%	11.0%	5.9%	
20歳代	10	0	0	1	0	9	0	3	0	2	0	5	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	90.0%	0.0%	30.0%	0.0%	20.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
30歳代	54	0	5	7	1	39	2	9	6	14	4	19	2	
	100.0%	0.0%	9.3%	13.0%	1.9%	72.2%	3.7%	16.7%	11.1%	25.9%	7.4%	35.2%	3.7%	
40歳代	85	1	16	17	1	48	2	15	24	32	2	11	1	
	100.0%	1.2%	18.8%	20.0%	1.2%	56.5%	2.4%	17.6%	28.2%	37.6%	2.4%	12.9%	1.2%	
50歳代	133	2	31	38	2	56	4	30	30	59	1	10	3	
	100.0%	1.5%	23.3%	28.6%	1.5%	42.1%	3.0%	22.6%	22.6%	44.4%	0.8%	7.5%	2.3%	
60歳代	229	3	60	53	3	86	24	85	46	67	2	17	12	
	100.0%	1.3%	26.2%	23.1%	1.3%	37.6%	10.5%	37.1%	20.1%	29.3%	0.9%	7.4%	5.2%	
70歳以上	180	4	35	31	4	58	48	54	34	52	3	14	23	
	100.0%	2.2%	19.4%	17.2%	2.2%	32.2%	26.7%	30.0%	18.9%	28.9%	1.7%	7.8%	12.8%	
性・夫婦の就労状況別	女性	379	0	128	57	7	171	16	54	141	137	4	36	7
		100.0%	0.0%	33.8%	15.0%	1.8%	45.1%	4.2%	14.2%	37.2%	36.1%	1.1%	9.5%	1.8%
	自分のみ職業がある	71	1	29	15	2	21	3	21	28	14	1	6	1
		100.0%	1.4%	40.8%	21.1%	2.8%	29.6%	4.2%	29.6%	39.4%	19.7%	1.4%	8.5%	1.4%
	配偶者のみ職業がある	139	2	42	13	1	77	4	24	53	39	2	20	1
		100.0%	1.4%	30.2%	9.4%	0.7%	55.4%	2.9%	17.3%	38.1%	28.1%	1.4%	14.4%	0.7%
	どちらも職業がない	201	5	66	30	7	68	25	66	52	43	2	21	17
		100.0%	2.5%	32.8%	14.9%	3.5%	33.8%	12.4%	32.8%	25.9%	21.4%	1.0%	10.4%	8.5%
男性	328	4	71	79	5	145	24	91	63	117	6	39	12	
	100.0%	1.2%	21.6%	24.1%	1.5%	44.2%	7.3%	27.7%	19.2%	35.7%	1.8%	11.9%	3.7%	
自分のみ職業がある	153	1	29	29	2	75	17	38	43	44	2	16	10	
	100.0%	0.7%	19.0%	19.0%	1.3%	49.0%	11.1%	24.8%	28.1%	28.8%	1.3%	10.5%	6.5%	
配偶者のみ職業がある	41	0	9	7	0	21	4	18	6	10	0	5	2	
	100.0%	0.0%	22.0%	17.1%	0.0%	51.2%	9.8%	43.9%	14.6%	24.4%	0.0%	12.2%	4.9%	
どちらも職業がない	162	5	34	32	4	54	33	46	26	55	3	16	16	
	100.0%	3.1%	21.0%	19.8%	2.5%	33.3%	20.4%	28.4%	16.0%	34.0%	1.9%	9.9%	9.9%	
性・職業別	女性	60	1	25	8	1	20	5	13	20	21	1	3	2
		100.0%	1.7%	41.7%	13.3%	1.7%	33.3%	8.3%	21.7%	33.3%	35.0%	1.7%	5.0%	3.3%
	家族従事者	54	0	21	8	1	20	4	12	12	26	2	1	1
		100.0%	0.0%	38.9%	14.8%	1.9%	37.0%	7.4%	22.2%	22.2%	48.1%	3.7%	1.9%	1.9%
	雇用者	344	2	114	55	8	152	13	54	140	104	3	37	6
		100.0%	0.6%	33.1%	16.0%	2.3%	44.2%	3.8%	15.7%	40.7%	30.2%	0.9%	10.8%	1.7%
	無職	331	6	102	43	8	147	25	88	102	80	3	42	16
		100.0%	1.8%	30.8%	13.0%	2.4%	44.4%	7.6%	26.6%	30.8%	24.2%	0.9%	12.7%	4.8%
男性	135	1	33	29	3	50	19	50	21	44	2	11	7	
	100.0%	0.7%	24.4%	21.5%	2.2%	37.0%	14.1%	37.0%	15.6%	32.6%	1.5%	8.1%	5.2%	
家族従事者	13	1	2	4	0	2	4	4	2	4	0	2	1	
	100.0%	7.7%	15.4%	30.8%	0.0%	15.4%	30.8%	30.8%	15.4%	30.8%	0.0%	15.4%	7.7%	
雇用者	340	4	68	78	4	167	19	81	84	116	6	41	12	
	100.0%	1.2%	20.0%	22.9%	1.2%	49.1%	5.6%	23.8%	24.7%	34.1%	1.8%	12.1%	3.5%	
無職	192	4	41	36	4	74	33	59	31	61	4	20	17	
	100.0%	2.1%	21.4%	18.8%	2.1%	38.5%	17.2%	30.7%	16.1%	31.8%	2.1%	10.4%	8.9%	

. % : 各属性で最も割合が高い

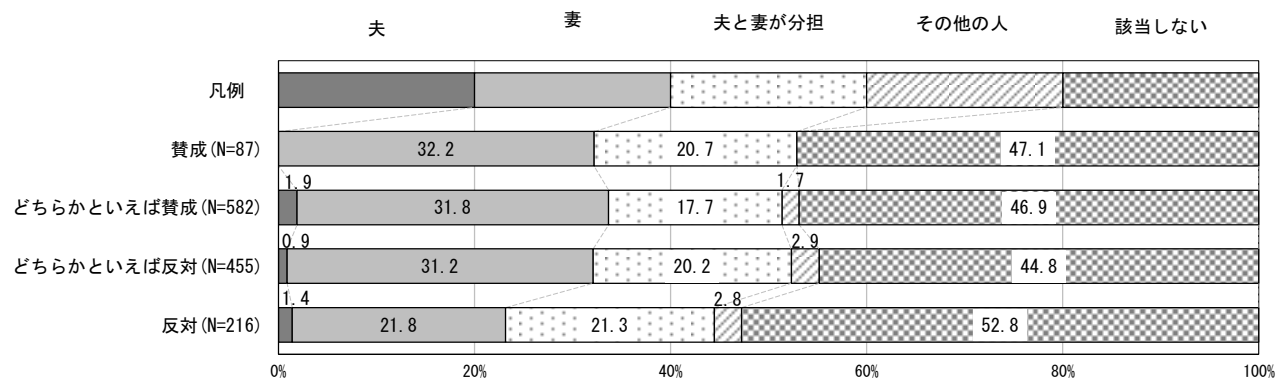
図表 4-5 家庭における夫婦の役割分担について・家事【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



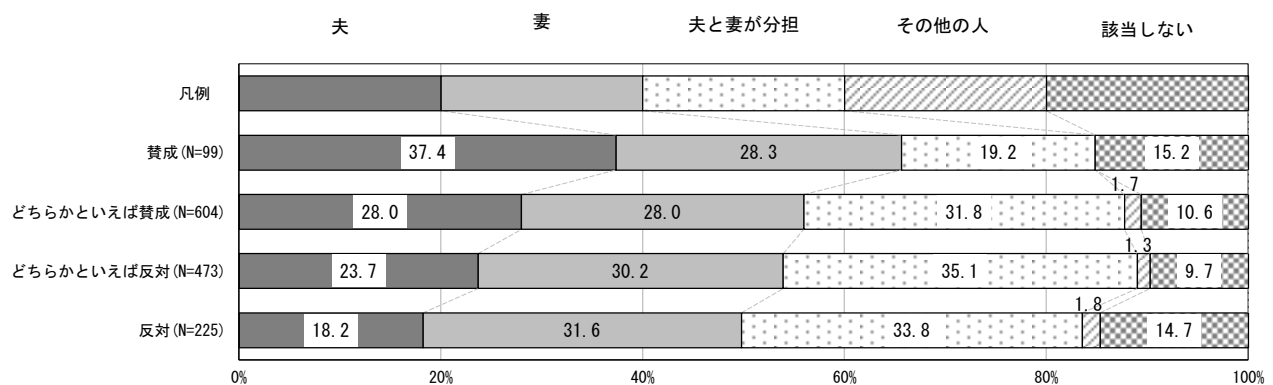
図表 4-6 家庭における夫婦の役割分担について・育児【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



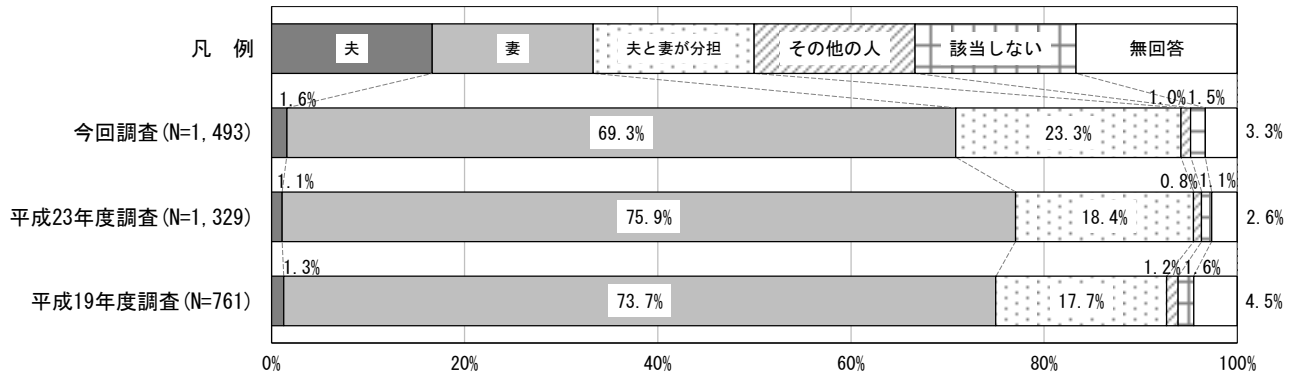
図表 4-7 家庭における夫婦の役割分担について・介護・看護【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



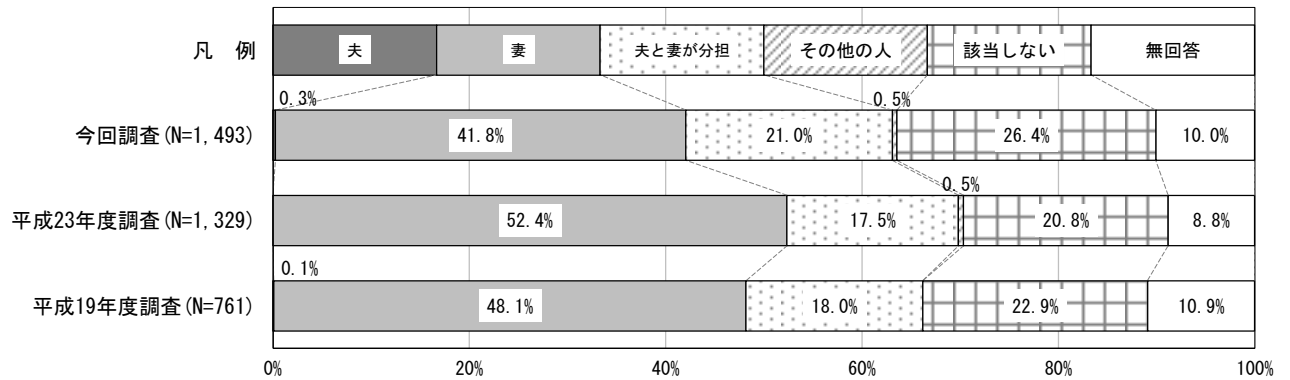
図表 4-8 家庭における夫婦の役割分担について・自治会、町内会、公民館などの地域活動への参加【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方別】



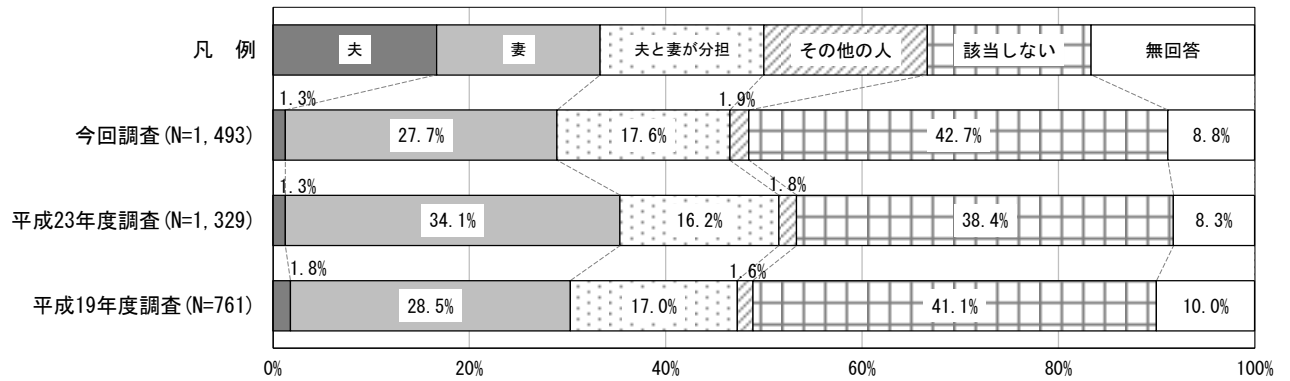
図表 4-9 家庭における夫婦の役割分担について・家事【総計, 前回調査】



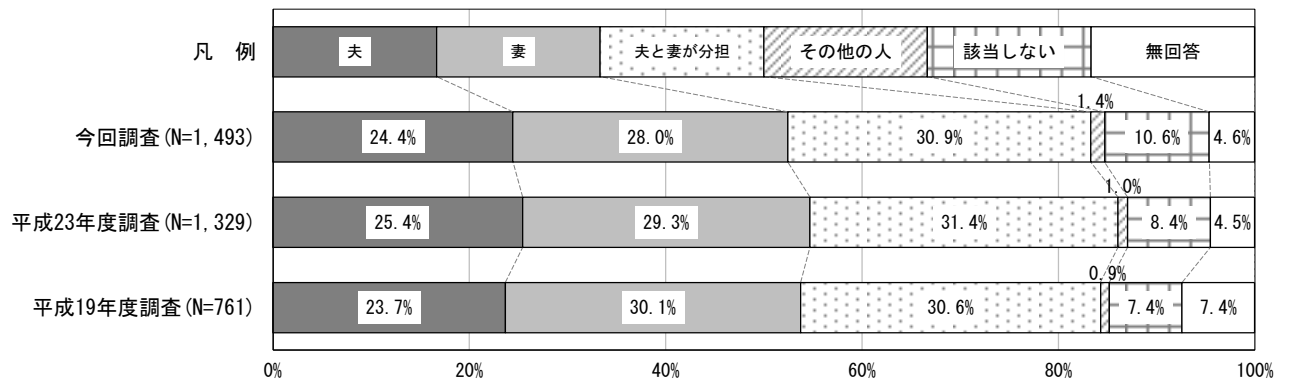
図表 4-10 家庭における夫婦の役割分担について・育児【総計, 前回調査】



図表 4-11 家庭における夫婦の役割分担について・介護・看護【総計, 前回調査】



図表 4-12 家庭における夫婦の役割分担について・自治会, 町内会, 公民館などの地域活動への参加【総計, 前回調査】



(2) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

問 11 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのようにお考えですか。(あてはまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 4-13)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について聞いてみたところ、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『否定』、「賛成」と「どちらかといえば賛成」と合わせて『肯定』とすると、今回初めて『否定』(48.3%)する人の割合が『肯定』(45.8%)する人の割合を上回り、「どちらかといえば賛成」(38.8%)と回答した割合が最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(32.1%)、「反対」(16.2%)、「賛成」(7.0%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 4-13, 図表 4-14)

性別でみると、女性は「どちらかといえば反対」(36.0%)、男性は「どちらかといえば賛成」(44.4%)と回答した割合が最も高くなっている。また、男性では『肯定』(51.4%)が『否定』(43.6%)を7.8ポイント上回り、女性では『否定』(53.1%)が『肯定』(42.5%)を10.6ポイント上回っている。

性・年代別でみると、『賛成』の割合が高いのは女性の70歳代、男性の20歳代、70歳代で、10%を超えている。『反対』と回答した割合は、女性は40歳代、男性は30歳代で高くなっている。

[性・職業別] (図表 4-14)

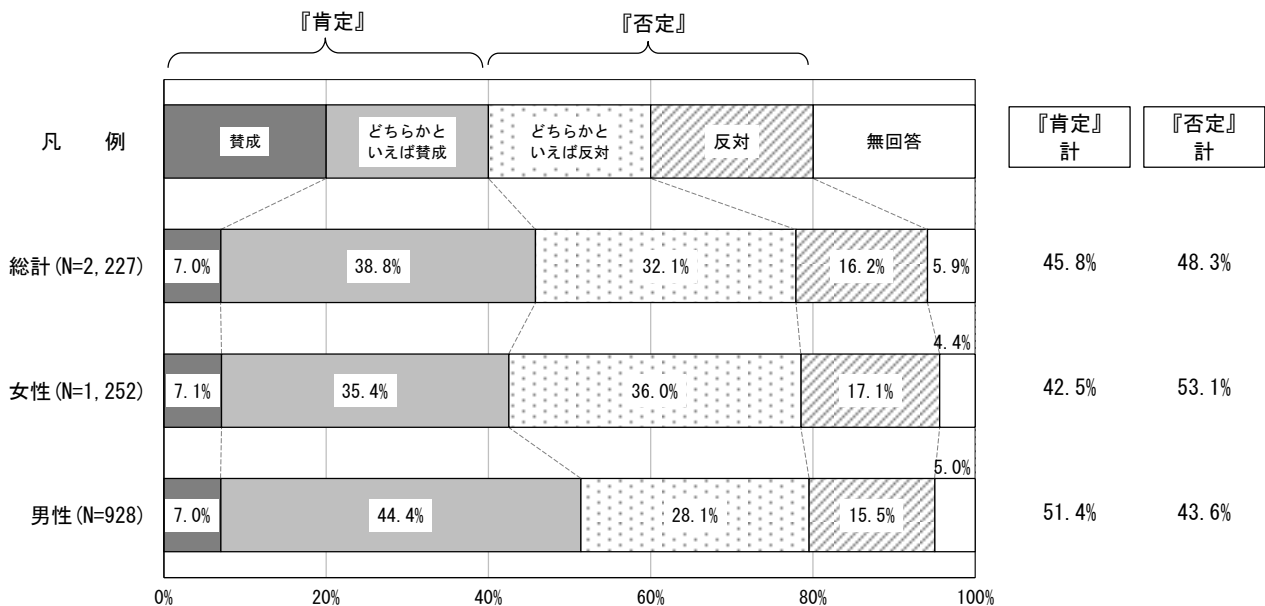
性・職業別でみると、女性の「雇用者」は「どちらかといえば反対」と回答した割合が最も高く、その他の職業は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。

[前回調査、内閣府調査との比較] (図表 4-15)

前回調査と比較すると、前回調査では『肯定』が『否定』を上回っていたが、初めて『否定』が『肯定』を上回った。

内閣府調査と比較すると、『否定』する人の割合は内閣府調査より6.0ポイント下回り、『肯定』する人の割合は、5.2ポイント上回っている。また、内閣府調査は『否定』が『肯定』を13.7ポイント上回っており、今回調査の『否定』と『肯定』の差2.5ポイントと比較してその差は大きくなっている。

図表 4-13 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について【総計、性別】

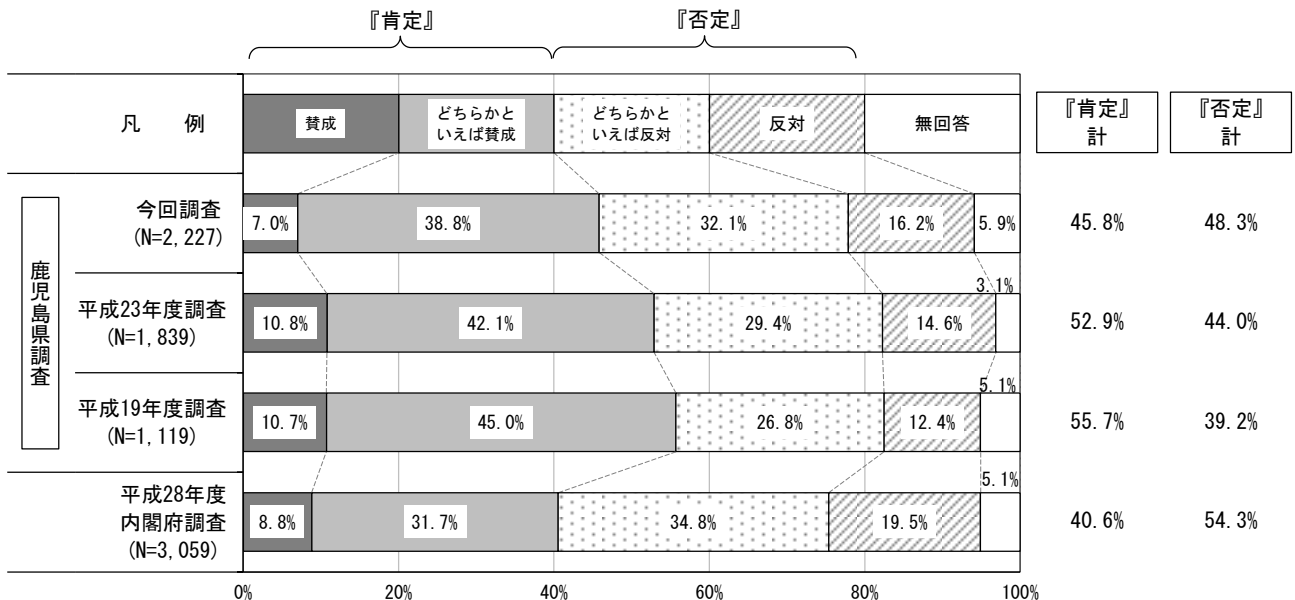


図表 4-14 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について【性・年代別，性・職業別】

		サンプル数	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	無回答
		上段：度数 下段：構成比(%)					
総計		2,227 100.0%	156 7.0%	863 38.8%	715 32.1%	361 16.2%	132 5.9%
性・年代別	女性	1252 100.0%	89 7.1%	443 35.4%	451 36.0%	214 17.1%	55 4.4%
	20歳代	83 100.0%	5 6.0%	31 37.3%	26 31.3%	15 18.1%	6 7.2%
	30歳代	135 100.0%	9 6.7%	44 32.6%	61 45.2%	21 15.6%	0 0.0%
	40歳代	192 100.0%	6 3.1%	69 35.9%	66 34.4%	43 22.4%	8 4.2%
	50歳代	224 100.0%	10 4.5%	72 32.1%	96 42.9%	41 18.3%	5 2.2%
	60歳代	309 100.0%	25 8.1%	111 35.9%	104 33.7%	61 19.7%	8 2.6%
	70歳以上	309 100.0%	34 11.0%	116 37.5%	98 31.7%	33 10.7%	28 9.1%
	男性	928 100.0%	65 7.0%	412 44.4%	261 28.1%	144 15.5%	46 5.0%
	20歳代	56 100.0%	6 10.7%	18 32.1%	19 33.9%	9 16.1%	4 7.1%
	30歳代	95 100.0%	4 4.2%	35 36.8%	29 30.5%	22 23.2%	5 5.3%
	40歳代	119 100.0%	7 5.9%	54 45.4%	35 29.4%	18 15.1%	5 4.2%
	50歳代	165 100.0%	5 3.0%	70 42.4%	52 31.5%	35 21.2%	3 1.8%
	60歳代	277 100.0%	20 7.2%	131 47.3%	76 27.4%	40 14.4%	10 3.6%
	70歳以上	216 100.0%	23 10.6%	104 48.1%	50 23.1%	20 9.3%	19 8.8%
性・職業別	女性	82 100.0%	10 12.2%	31 37.8%	24 29.3%	13 15.9%	4 4.9%
	家族従事者	63 100.0%	3 4.8%	32 50.8%	21 33.3%	6 9.5%	1 1.6%
	雇用者	564 100.0%	21 3.7%	160 28.4%	242 42.9%	125 22.2%	16 2.8%
	無職	523 100.0%	54 10.3%	215 41.1%	159 30.4%	70 13.4%	25 4.8%
	男性	164 100.0%	20 12.2%	75 45.7%	43 26.2%	22 13.4%	4 2.4%
	家族従事者	21 100.0%	0 0.0%	8 38.1%	6 28.6%	5 23.8%	2 9.5%
	雇用者	459 100.0%	18 3.9%	198 43.1%	143 31.2%	80 17.4%	20 4.4%
	無職	265 100.0%	26 9.8%	124 46.8%	65 24.5%	37 14.0%	13 4.9%

● . % : 各属性で最も割合が高い

図表 4-15 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について【総計，前回調査，内閣府調査】



5. 仕事と家庭・地域への取組について

(1) 地域における活動への参加状況

問 12-1 あなたは、現在、次のような地域における活動に参加していますか。
(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 5-1)

地域における活動への参加状況についてみると、「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」(41.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「スポーツや趣味、文化振興などに関わるサークル活動」(16.8%)、「子ども会、PTA、スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動」(12.6%)、「婦人(女性)会、老人クラブ、青年団などの団体活動」(12.2%)「特定の団体やグループに属さず、個人として地域に貢献する活動」(4.3%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 5-1, 図表 5-2)

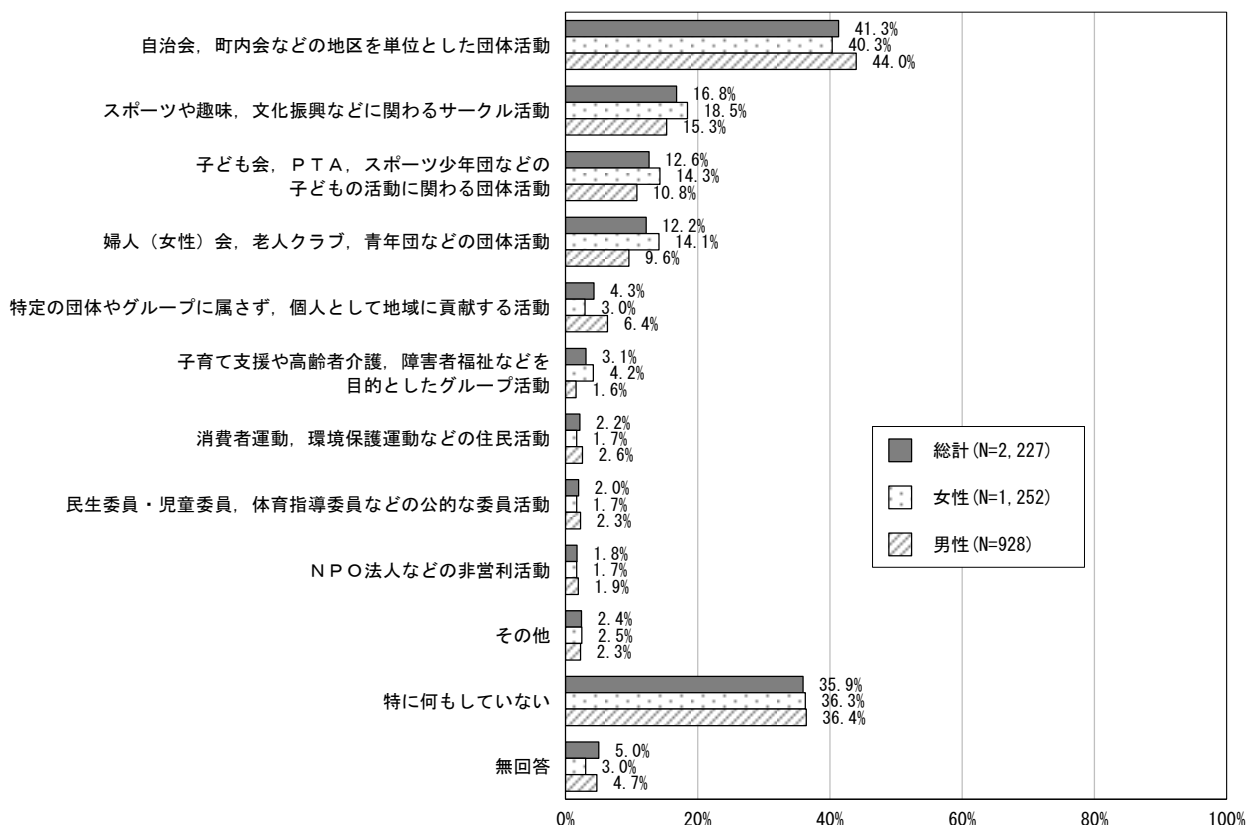
性別でみると、女性は「婦人(女性)会、老人クラブ、青年団などの団体活動」、「子ども会、PTA、スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動」、「子育て支援や高齢者介護、障害者福祉などを目的としたグループ活動」などと回答した割合が男性より高く、男性は「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」などで女性より高くなっている。

性・年代別でみると、男女とも20歳代は「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」と回答した人は約1割にとどまっておき、「特に何もしていない」は約6割となっている。また、男女とも30～40歳代は「子ども会、PTA、スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動」と回答した割合が高くなっており、特に40歳代女性は約半数となっている。

[前回調査との比較] (図表 5-3)

前回調査と比較すると、「自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動」と回答した割合は前回調査より高く、「婦人(女性)会、老人クラブ、青年団などの団体活動」は低くなっている。

図表 5-1 地域における活動への参加状況・複数回答【総計、性別】

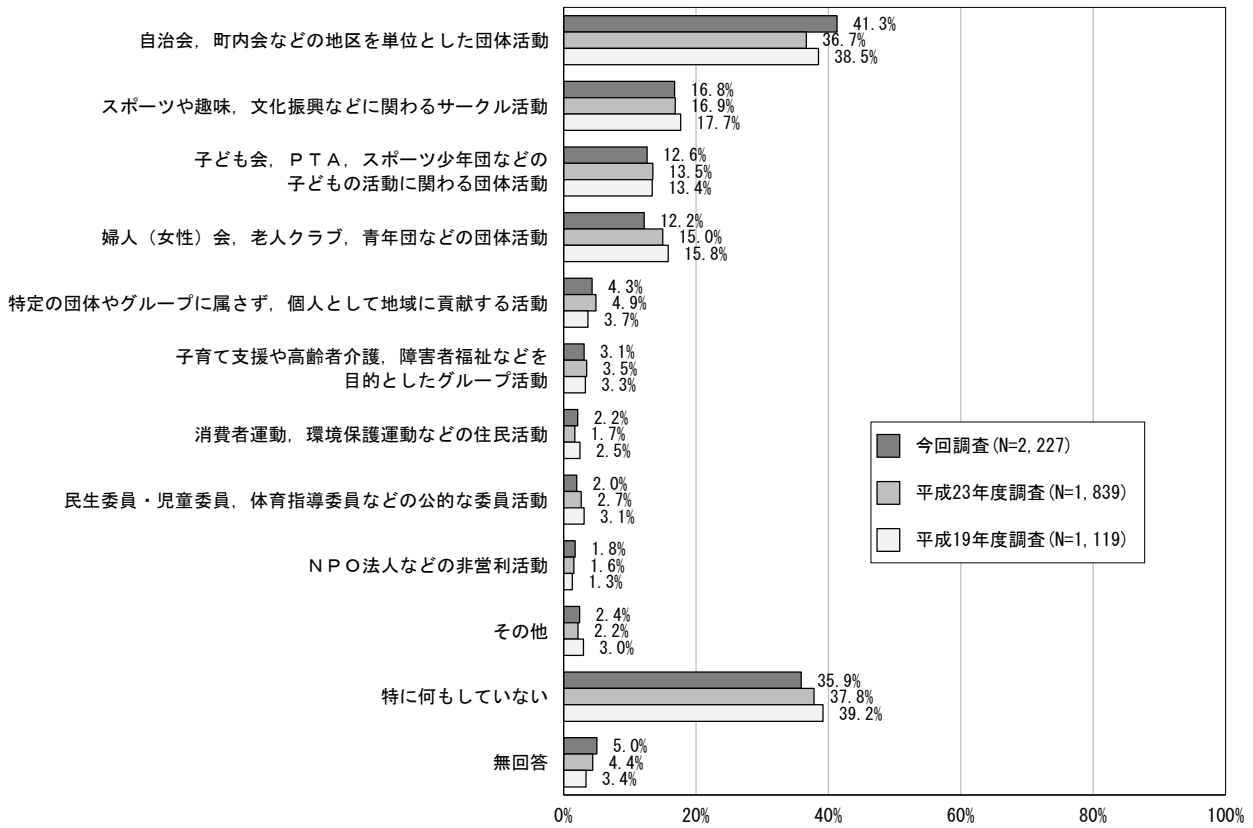


図表 5-2 地域における活動への参加状況・複数回答【性・年代別、性・職業別】

	サンプル数	自治会、町内会などの地区を単 位とした団体活動 婦人（女性）会、老人クラブ、 青年団などの団体活動 子ども会、PTA、スポーツ少 年団などの子どもの活動に関わ る団体活動 消費者運動、環境保護運動など の住民活動 民生委員・児童委員、体育指導 委員などの公的な委員活動 子育て支援や高齢者介護、障害 者福祉などを目的としたグルー プ活動 NPO法人などの非営利活動 スポーツや趣味、文化振興など に関するサークル活動 その他 特に何もしていない 無回答													
		上段：度数 下段：構成比(%)													
総計	2,227	920	271	281	48	44	69	39	96	374	54	800	112		
	-	41.3%	12.2%	12.6%	2.2%	2.0%	3.1%	1.8%	4.3%	16.8%	2.4%	35.9%	5.0%		
性・年代別	女性	1,252	505	177	179	21	21	53	21	37	231	31	454	38	
		-	40.3%	14.1%	14.3%	1.7%	1.7%	4.2%	1.7%	3.0%	18.5%	2.5%	36.3%	3.0%	
	20歳代	83	7	3	4	0	0	5	1	3	13	1	52	0	
		-	8.4%	3.6%	4.8%	0.0%	0.0%	6.0%	1.2%	3.6%	15.7%	1.2%	62.7%	0.0%	
	30歳代	135	42	8	41	0	2	4	2	0	12	1	66	0	
		-	31.1%	5.9%	30.4%	0.0%	1.5%	3.0%	1.5%	0.0%	8.9%	0.7%	48.9%	0.0%	
	40歳代	192	95	12	92	0	1	5	3	1	24	3	48	1	
		-	49.5%	6.3%	47.9%	0.0%	0.5%	2.6%	1.6%	0.5%	12.5%	1.6%	25.0%	0.5%	
	50歳代	224	106	29	28	6	4	9	2	7	36	1	82	4	
		-	47.3%	12.9%	12.5%	2.7%	1.8%	4.0%	0.9%	3.1%	16.1%	0.4%	36.6%	1.8%	
	60歳代	309	140	52	7	10	9	18	9	14	75	9	93	12	
		-	45.3%	16.8%	2.3%	3.2%	2.9%	5.8%	2.9%	4.5%	24.3%	2.9%	30.1%	3.9%	
	70歳以上	309	115	73	7	5	5	12	4	12	71	16	113	21	
		-	37.2%	23.6%	2.3%	1.6%	1.6%	3.9%	1.3%	3.9%	23.0%	5.2%	36.6%	6.8%	
男性	928	408	89	100	24	21	15	18	59	142	21	338	44		
	-	44.0%	9.6%	10.8%	2.6%	2.3%	1.6%	1.9%	6.4%	15.3%	2.3%	36.4%	4.7%		
20歳代	56	6	4	2	0	0	1	1	2	9	1	33	2		
	-	10.7%	7.1%	3.6%	0.0%	0.0%	1.8%	1.8%	3.6%	16.1%	1.8%	58.9%	3.6%		
30歳代	95	35	6	19	0	1	1	2	3	18	0	42	5		
	-	36.8%	6.3%	20.0%	0.0%	1.1%	1.1%	2.1%	3.2%	18.9%	0.0%	44.2%	5.3%		
40歳代	119	49	8	44	1	2	1	0	2	16	3	42	4		
	-	41.2%	6.7%	37.0%	0.8%	1.7%	0.8%	0.0%	1.7%	13.4%	2.5%	35.3%	3.4%		
50歳代	165	82	12	16	0	3	3	5	8	15	4	60	3		
	-	49.7%	7.3%	9.7%	0.0%	1.8%	1.8%	3.0%	4.8%	9.1%	2.4%	36.4%	1.8%		
60歳代	277	136	18	15	12	8	3	4	25	40	6	96	8		
	-	49.1%	6.5%	5.4%	4.3%	2.9%	1.1%	1.4%	9.0%	14.4%	2.2%	34.7%	2.9%		
70歳以上	216	100	41	4	11	7	6	6	19	44	7	65	22		
	-	46.3%	19.0%	1.9%	5.1%	3.2%	2.8%	2.8%	8.8%	20.4%	3.2%	30.1%	10.2%		
性・職業別	女性	自営業主	82	37	17	6	1	2	3	3	17	2	21	4	
			-	45.1%	20.7%	7.3%	1.2%	2.4%	3.7%	3.7%	20.7%	2.4%	25.6%	4.9%	
		家族従事者	63	39	17	9	1	3	3	2	3	10	2	17	1
			-	61.9%	27.0%	14.3%	1.6%	4.8%	4.8%	3.2%	4.8%	15.9%	3.2%	27.0%	1.6%
	雇用者	564	222	54	125	12	11	22	7	13	86	11	214	9	
		-	39.4%	9.6%	22.2%	2.1%	2.0%	3.9%	1.2%	2.3%	15.2%	2.0%	37.9%	1.6%	
	無職	523	197	85	38	7	5	24	9	18	115	16	200	16	
		-	37.7%	16.3%	7.3%	1.3%	1.0%	4.6%	1.7%	3.4%	22.0%	3.1%	38.2%	3.1%	
男性	自営業主	164	91	26	17	10	12	5	8	13	26	6	43	8	
		-	55.5%	15.9%	10.4%	6.1%	7.3%	3.0%	4.9%	7.9%	15.9%	3.7%	26.2%	4.9%	
	家族従事者	21	10	3	2	1	0	0	0	2	0	1	5	2	
		-	47.6%	14.3%	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	4.8%	23.8%	9.5%	
雇用者	459	189	27	74	5	5	7	6	22	64	5	188	11		
	-	41.2%	5.9%	16.1%	1.1%	1.1%	1.5%	1.3%	4.8%	13.9%	1.1%	41.0%	2.4%		
無職	265	113	31	7	8	4	3	4	21	49	8	95	17		
	-	42.6%	11.7%	2.6%	3.0%	1.5%	1.1%	1.5%	7.9%	18.5%	3.0%	35.8%	6.4%		

.% : 各属性で最も割合が高い

図表 5-3 地域における活動への参加状況・複数回答【総計，前回調査】



(2) 地域における活動のやりがいや苦勞していること

問 12-2 【問 12-1 で「1」～「10」を選んだ方にお尋ねします。】

あなたが地域における活動に参加するなかで感じている、活動のやりがいや苦勞していることなどがありましたら教えてください。(自由記述)

地域における活動のやりがいや苦勞していることについて聞いたところ、回答件数は 486 件で、その内訳は「活動のやりがい」が 130 件、「苦勞していること」が 265 件、「その他」が 91 件だった。

また、その内容は、「活動のやりがい」については、「人とのつながり・ふれあい、仲間づくり」(57 件)、「活動自体の楽しみ」(13 件)、「地域貢献・社会貢献」(6 件)、「高齢者が喜ぶ姿」(6 件)といったことがあげられている。

また、「苦勞していること」については、「参加者の減少・固定化」(137 件)、「仕事との両立が困難」(33 件)、「高齢化の影響」(27 件)、「時間の確保が困難」(17 件)、「役員のなり手の不足」(12 件)といったことがあげられている。

[活動のやりがい (130 件)]

■ 人とのつながり・ふれあい、仲間づくり (57 件)

【主な意見】

- 地域の人達との交流ができて楽しい。自分の住んでいる場所にもっと興味が生まれて、地元のことが好きになる。(女性・20 歳代)
- 地域の人たちとの交流で、自ら元気をもらうとともに高齢者に楽しみと元気を与えられる。地域に交流の場が在ることで、高齢者の健康寿命を伸ばすことにつながる。(女性・20 歳代)
- 近隣と顔見知りになれて、困った時に頼り、頼られるとやりがいというか、活動しててよかったと思います。(女性・30 歳代)
- 転勤が多いので、地域の方々と深く関わっていくことが難しいと思いますが、子育て等地域の方々の助けで乗り越えてこれたと思うので、地域の活動は大切だと思います。(女性・40 歳代)
- 普段仕事しているが、休みの時、活動していると普段会話していない人とのコミュニケーションが図れる事がある。こればかりではないが、他の人にも周りとのコミュニケーションが図れる場を一緒に提供できたらと思う。(女性・50 歳代)
- 自治会や老人クラブへの参加で、今まで、出会ったことのない異世代の人々との交流ができ、いろいろな考え方を知る事ができ、とても充実した生活ができています。(女性・60 歳代)
- 自治会や町内会などで、地域の人達とふれあえて、とても楽しくやりがいがあります。(男性・30 歳代)
- 地域の方々の協力や理解があり、快適に生活させて頂いています。(男性・40 歳代)
- 地域活動に参加する事で異年齢の方々と交流ができ、それに伴い自治会等の活性化につながる。(男性・50 歳代)
- 地域活動に参加することで、友達の輪が出来、みんなが明るくなるのがとても素敵なことです。(男性・60 歳代)

■ 活動自体の楽しみ (13 件)

【主な意見】

- 自分で作ったものが、完成し発表できる場がある。(女性・20 歳代)
- 地域での文化活動にやりがいを感じている。(女性・60 歳代)
- 高齢者クラブ活動、グラウンドゴルフ等でボランティア活動等楽しくやっています。(女性・70 歳以上)
- 地区、老人会の作業、運動会楽しく参加しています。(男性・60 歳代)

■ 地域貢献・社会貢献（6件）

【主な意見】

- 地域の一員として、協力できることに、喜びを感じる。(女性・50歳代)
- 祭りなどの場で町民のみなさまのために会場を設営する手伝いをする社会貢献していると感じる。(男性・20歳代)
- 地域が活性化していくことの手助けをしていることに生きがいを感じます。(男性・50歳代)
- イベントをすることにより地域が活性化している。(男性・60歳代)

■ 高齢者が喜ぶ姿（6件）

【主な意見】

- 高齢者向きサロン等を行っていますが、なかなか男性は敬遠され声かけしにくいですが、一旦中に入られると協力してくださり楽しんでます。(女性・60歳代)
- 高齢者の多い地域に住んでいる為、少しでも元気で長く自宅で過ごせる様に声かけや、見守り、市役所の委託を受けた体操教室を行い、高齢の方に感謝されてうれしいです。(女性・60歳代)
- 70歳以上の方々12人でサロンをやっています。皆さん何処にも行く所がない。皆と話すこともないので、ここに来るのが一番の楽しみと言ってくれます。(女性・70歳以上)
- ボランティアグループ（10人）が施設訪問で高齢者の方達の笑顔のふれあいが楽しい。サークル活動、老人クラブ活動など、友達の輪が広がり、生きがいを感じる。(女性・70歳以上)

■ 子どもとのふれあいや子どもが喜ぶこと（5件）

【主な意見】

- 子どもの喜ぶ姿や成長の場面に対峙することができる。(女性・30歳代)
- スポーツ少年団、親子共々成長できる。(女性・40歳代)
- 子ども会の役員をしていますが、活動の中で子供の笑顔が見られるとうれしい。(女性・40歳代)

■ ストレスの解消・気分転換（5件）

【主な意見】

- 日課として体を動かしながら、老後の事、子供の事、その他雑談的話をしながら、リフレッシュできること。(女性・60歳代)
- スポーツをしているのですが、介護が入っても好きなことをしているので何とか介護を頑張れるという事が、あったように思います。(女性・60歳代)
- スポーツで仲間が沢山出来て、又身体を動かす事で、ストレス解消し、気分がよくなる。健康維持のためのスポーツ活動を続けたい。(男性・70歳以上)

■ 参加者が喜ぶ姿（1件）

- 更生保護活動の中で、社会人として更生した時、老人施設に慰問に行き踊ったり、歌ったりして、喜んでいる姿を見た時。(男性・70歳以上)

■ その他（37件）

【主な意見】

- 何か役員をすることで、会合に参加、様々な情報が耳に入り、知ることが出来るし、責任もあり、日々を過ごす姿勢が違いますよね。(女性・50歳代)
- 今年町内会の班長と専門部の係になって、町内会活動に参加する事が多く、知らなかった事が多くて役員にならないとなかなか参加出来なかったのが専門部員になって良かったと思っています。(女性・60歳代)

- 地区の清掃活動に参加しますが、不参加でもペナルティーがないので気持ちよく参加できます。お互い、都合の悪い時は又の機会にと考えます。(女性・60歳代)
- 町内会活動を通し、親睦が深まり災害時等の連携強化につながる。(女性・70歳以上)
- 地域情勢などが理解しやすい。(男性・20歳代)
- 実際の災害時に連携のとれた行動が出来た。(男性・30歳代)
- いろいろな世代と作業をし、汗を流し話すのは、やりがいを感じます。ただ、その中に女性はいません。(男性・40歳代)
- 活動にやりがいがあるし、協働することは楽しみのひとつでもあるので苦勞していません。(男性・50歳代)
- 障害児療育の学生グループ支援を通じて、障害の理解と支援者・理解者の広がり社会全体の理解・支援につながっていくと思う。(男性・50歳代)

【苦勞していること：265件】

■ 参加者の減少・固定化（137件）

【主な意見】

- 自治会活動においては高齢者世帯が多く、子ども会活動においては、子どもの数が減っており、今後の活動に関する負担が増える。または、運営の存続が危ぶまれる。(女性・40歳代)
- 町内会加入率が悪いいため、加入している方が損をしている気分になる。平等感がない。近所に住んでいるのに加入者と非加入者の仲がギクシャクしている。地域によって差がある。(町内会活動や加入システムなど)(女性・40歳代)
- 子育て中の参加率が少ない。(女性・40歳代)
- P T A活動で児童数が少ないことから、1世帯が数回役員をしなければならない。(女性・40歳代)
- 今頃は地域活動に無関心、不参加の方が多く、喜ばれない。(女性・50歳代)
- 町内会の離脱者が多くなってくる事。係をやってみて、いかに行政のお世話になっているかわかった事は良かった。(女性・60歳代)
- 青年団として地域活動に参加していますが、登録はしているが参加できない方が多い。(男性・40歳代)
- 地域活動を行う人と行わない人の二極化があるようです。地域活動を行い協力する人は他の団体と複数で役を引き受け、まったく協力しない人は何もしない状態。(男性・50歳代)
- 若手の消防団員の確保が必要(男性・50歳代)
- 高齢化が進み、少子化の為自治会の運動会等、選手集めが困難です。大きな自治会ですが、子供が大変少ないです。(男性・60歳代)

■ 仕事との両立が困難（33件）

【主な意見】

- 平日、決まった曜日に活動があるので、休みが全く合わず、仕事に復帰してからは全く参加できていない。(女性・20歳代)
- イベントが多く、子供のために良いが、常勤で仕事をしている。休みがとりにくく、参加しにくさがある。(女性・40歳代)
- 自治会の役が回ってくると、仕事との両立が困難になる事があり、脱会したくなる時もあった。ストレスとなる部分でもある。(女性・50歳代)
- 各々、勤務時間、休みの日が異なり、それを強制して役割を負担させるのに無理がある。特に平日の昼の会など。(女性・60歳代)
- 地域活動の日程と仕事の調整。(男性・50歳代)

■ 高齢化の影響（27件）

【主な意見】

- 高齢の方が多く、地域活動で役職などや当番も若い世代でやってほしいと言われ、地域活動の役割も子育て世代に比重が重くなってきている気がする。（女性・30歳代）
- 一人暮らしの高齢者が生活するのが困難になっていく人が増えつつある。（女性・50歳代）
- 独居老人・老老介護・障害者（超高齢者社会）の対応について（普段の生活上、又、特に災害が起きた時の事が課題）（女性・60歳代）
- 公民館の掃除や自治会活動が年齢を重ねるたびに辛くなりました。（女性・70歳以上）
- 高齢化が進み、地域に若い人が少なく、年々作業等がつかっている。（男性・50歳代）
- 自治会全体の高齢化で活動が苦しい。（男性・60歳代）

■ 時間の確保が困難（17件）

【主な意見】

- 地域の仕事なのに、主に活動するのが子供会の親が中心になっているので、仕事や家事を両立するのが難しい事。（女性・30歳代）
- 地域の活動に参加し、交流することは好きだけど、役員を決めたり役員の話し合いの回数が多いと、仕事と家庭の事をしながらでは忙しすぎる。（女性・30歳代）
- 時間が固定していることで、時間を合わせにくい。（女性・40歳代）
- 自治会活動は、役所が関係することも多く、現役世代には、時間的制約があるので、なかなかむずかしいです。仕方なくやっている部分もありました。（女性・50歳代）
- 活動に参加するにも、介護中なので時間が取れない。（女性・60歳代）

■ 役員のなり手の不足（12件）

【主な意見】

- 自治会もPTAも役員を決める時に、いつも苦勞をし、活動に参加するのが、それだけで億劫になります。（女性・40歳代）
- 町内会や子供会に若い世代が加入しておらず、役員等になる確率が高く、負担を感じる。（女性・40歳代）

■ 子育てとの両立が困難（8件）

【主な意見】

- 小さい子供がいる中でさせられる役員。（女性・30歳代）
- PTA活動は、子供たちの為になると思いつながりながら活動しているが、夜の話し合い時など、子供を預ける先がない場合、連れて行かなければならず、非常に困難を感じる場合がある。小さな子供のいる家庭は免除されるような制度づくり、雰囲気作りが必要と感じる。（女性・40歳代）

■ 男性優位の風土・慣習（8件）

【主な意見】

- 男性団員の中にも女性団員に対する理解や支援が少ない人がいること。（女性・30歳代）
- 高齢者の参加も多いが、女性（若い人）ばかりが気をくばり、動いている。（女性・40歳代）
- やはり、男性社会でトップは男性ばかりで女性はどうしてもサブとなり、どちらかと言えば、それを支える立場になり、意見も通らない。（女性・60歳代）
- 町内会の役員の中に女性がいない。高齢者や女性の声を聞いて年間計画を立ててほしい。（女性・70歳以上）
- 自治会など地域活動については、全て男性社会である。改善していこうというより通念に従う。

新しい意見や試みなどは関心持たない傾向にある。又、サークル活動の男女は平等意識がありポジティブである。(性別・年齢は無回答)

■ 慣習の押しつけ（8件）

【主な意見】

- 昔ながらの慣習がいまだに続いており、今のライフスタイルと見合っていない。(女性・30歳代)
- 町内会にて、お年寄りが多い為、すぐ若い人に…という押しつけが多く、また「昔は…」と言い、一つ一つに小言が多いこともあり、たまに嫌になることがある。(女性・40歳代)
- 昔ながらの慣習が根強く、変革が行えない。(男性・40歳代)

■ 過疎化の影響（5件）

【主な意見】

- 年々人口が減ってきて、限界集落になりつつあり、いつまで、この活動が続くか将来に不安を感じる。(女性・50歳代)
- 地域の過疎化、少子化による地域活動が出来なくなっており苦労しています。(男性・60歳代)

■ 男性の参加の不足（5件）

【主な意見】

- PTAはまだまだ母親中心なので、男性が長になるとコミュニケーションを図りにくい（変な噂がたったり）(男性・40歳代)
- 高齢者活動の中で男のひとり住まいの人を参加させる事がなかなかできない。(男性・70歳以上)
- 男性の入会者が少ない。(男性・70歳以上)

■ 排他的な風土（3件）

- 長くやっている人たちの中に入りづらい。(女性・20歳代)
- 地域の人との交流をすることでしか、地域になじめないという閉鎖的な空気、家に係わることは女性がやって当たり前。年齢を聞かれ結婚、育児について言われて困る。(女性・20歳代)
- もともとの住人には、新しく入った住人の意見は聞いてもらえず無視されて、やはり新入りは新入りでしかありません。(女性・50歳代)

■ 女性の参加者の不足（2件）

- 女性の参加が少ない。(世帯から一人となると男性が出る) (女性・40歳代)
- 地域の公民館活動における役員は男性が多数。女性でも、リーダーになれる資質を持った人がいるということを知ってほしい。(女性・70歳以上)

(3) 男女の仕事, 家庭生活, 地域活動の優先度

問 13-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたはどのようにお考えですか。
（あてはまるものを1つだけ選択）

問 13-2 それでは、あなたの希望はどれに当てはまりますか。（あてはまるものを1つだけ選択）

[全体] (図表 5-4～図表 5-5)

男女の仕事, 家庭生活, 地域活動の優先度についてみると、『現状』では、「仕事と家庭生活」をともに優先（25.5%）と回答した割合が最も高く、次いで「家庭生活」を優先（22.0%）, 「仕事」を優先（16.1%）の順となっている。一方、『希望』では「仕事と家庭生活」をともに優先（26.1%）と回答した割合が最も高く、次いで「家庭生活」を優先（21.7%）, 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先（16.4%）となっている。

『現状』と『希望』を比較すると、「仕事と家庭」をともに優先は回答に差は見られなかったが、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先と回答した割合は『現状』より7.4ポイント高く、「仕事」を優先と回答した割合は『現状』より11.4ポイント低くなっている。

[性別, 性・年代別] (図表 5-4～図表 5-5, 図表 5-6～図表 5-7)

性別でみると、『現状』では、女性は「家庭生活」を優先（28.7%）と回答した割合が最も高く、男性は「仕事と家庭生活」を優先（27.3%）が最も高くなっている。また、女性は「家庭生活」を優先（28.7%）と回答した割合が男性より15ポイント高く、男性は「仕事」を優先（22.7%）が女性よりも11.2ポイント高いことから、女性は家庭生活を優先し、男性は家庭生活以外に仕事も優先している傾向がみられた。一方、『希望』では、男女とも「仕事と家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が現状より高く、「仕事」を優先が低くなっており、回答傾向に差はみられなかった。

性・年代別でみると、『現状』では、30歳代と60歳以上女性、70歳以上男性で「家庭生活」を優先と回答した割合が最も高く、その他の年代は「仕事と家庭生活」をともに優先が最も高くなっている。また、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先と回答した割合は男女とも60歳以上で高くなっている。一方『希望』では、女性は20歳代で「仕事と家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先と回答した割合が最も高く、60歳代で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が最も高くなっている。男性は「家庭生活」を優先と回答した割合が30～40歳代で高くなっている。

[性・職業別] (図表 5-6～図表 5-7)

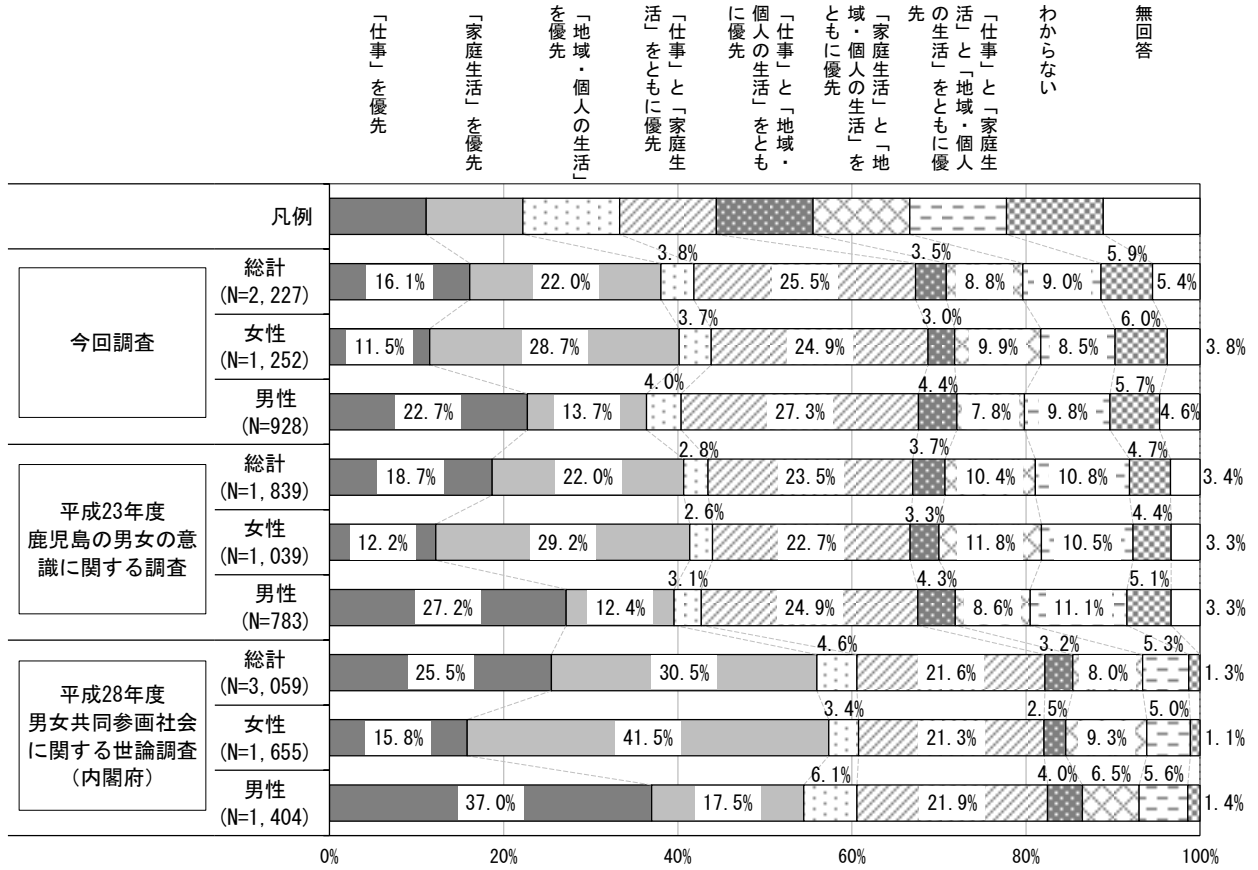
性・職業別でみると、『現状』では、男女とも「無職」と回答した人は「家庭生活」を優先と回答した割合が最も高く、その他の「自営業主」, 「家族従事者」, 「雇用者」は「仕事と家庭生活」を優先が最も高くなっている。『希望』でも、男女とも「無職」と回答した人は「家庭生活」を優先と回答した割合が最も高くなっている。また、「自営業主」の女性と「家族従事者」の男性は、「仕事と家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が最も高く、その他の職業は「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が最も高くなっている。

[前回調査, 内閣府調査との比較] (図表 5-4～図表 5-5)

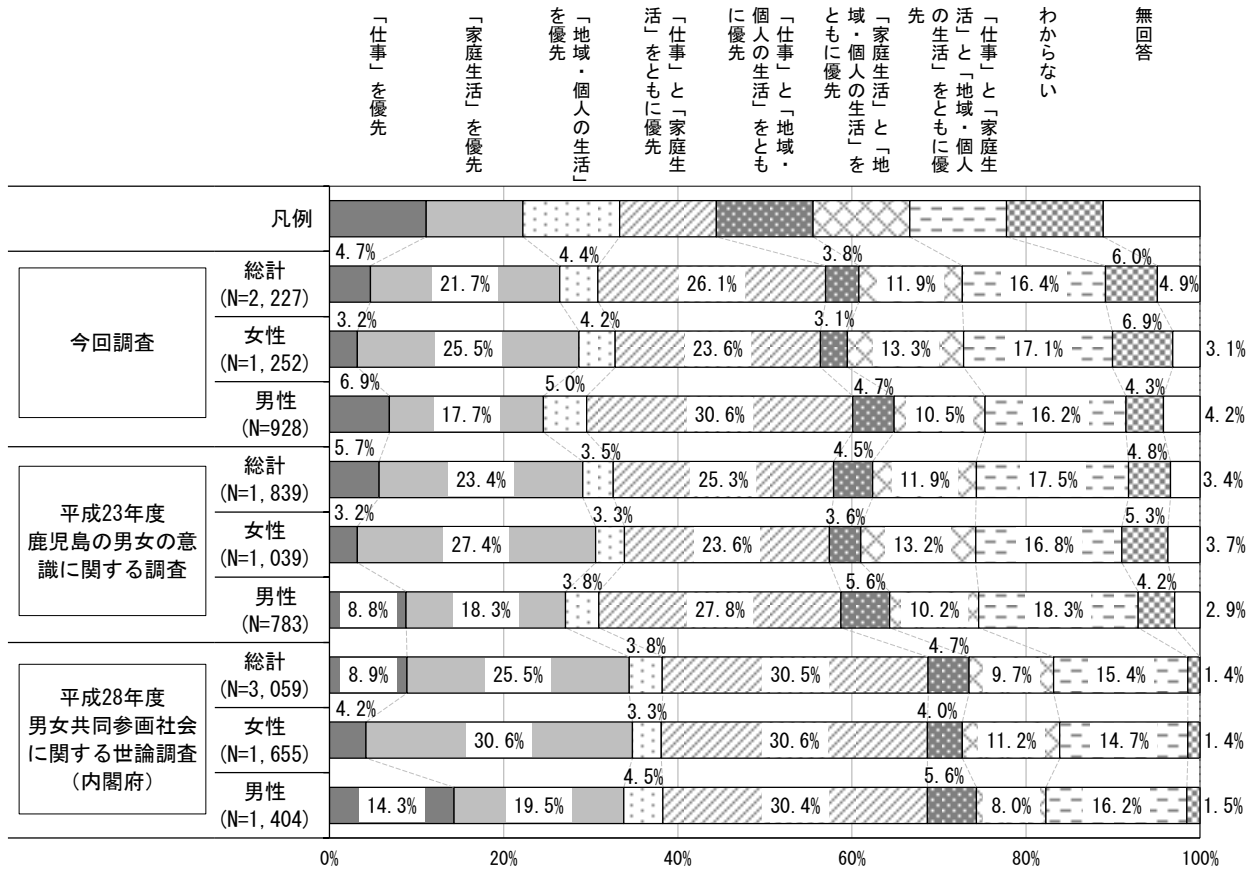
前回調査と比較すると、『現状』では、「仕事」を優先と回答した割合は減少、「仕事と家庭生活」を優先は増加の傾向がみられた。『希望』では、回答傾向に大きな差はみられなかった。

内閣府調査と比較すると、『現状』では、「仕事」を優先と回答した割合が内閣府調査より9.4ポイント、「家庭生活」を優先は8.5ポイント低くなっている一方、「仕事と家庭生活」をともに優先, 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先などでは高くなっている。『希望』では、「仕事と家庭生活」をともに優先と回答した割合が内閣府調査より4.4ポイント、「仕事」を優先は4.2ポイント低くなっている。

図表 5-4 男女の仕事，家庭生活，地域活動の優先度（現状）【総計，性別，前回調査，内閣府調査】



図表 5-5 男女の仕事，家庭生活，地域活動の優先度（希望）【総計，性別，前回調査，内閣府調査】



図表 5-6 男女の仕事、家庭生活、地域活動の優先度（現状）【性・年代別、性・職業別】

		サンプル数	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答	
上段：度数 下段：構成比(%)											
総計		2,227 100.0%	359 16.1%	489 22.0%	84 3.8%	567 25.5%	79 3.5%	196 8.8%	200 9.0%	132 5.9%	121 5.4%
性・年代別	女性	1,252 100.0%	144 11.5%	359 28.7%	46 3.7%	312 24.9%	38 3.0%	124 9.9%	107 8.5%	75 6.0%	47 3.8%
	20歳代	83 100.0%	16 19.3%	16 19.3%	7 8.4%	20 24.1%	7 8.4%	7 8.4%	7 8.4%	2 2.4%	1 1.2%
	30歳代	135 100.0%	16 11.9%	48 35.6%	2 1.5%	46 34.1%	3 2.2%	4 3.0%	8 5.9%	8 5.9%	0 0.0%
	40歳代	192 100.0%	29 15.1%	55 28.6%	0 0.0%	70 36.5%	4 2.1%	7 3.6%	21 10.9%	3 1.6%	3 1.6%
	50歳代	224 100.0%	39 17.4%	55 24.6%	0 0.0%	91 40.6%	6 2.7%	6 2.7%	17 7.6%	5 2.2%	5 2.2%
	60歳代	309 100.0%	32 10.4%	89 28.8%	7 2.3%	60 19.4%	14 4.5%	46 14.9%	35 11.3%	13 4.2%	13 4.2%
	70歳以上	309 100.0%	12 3.9%	96 31.1%	30 9.7%	25 8.1%	4 1.3%	54 17.5%	19 6.1%	44 14.2%	25 8.1%
	男性	928 100.0%	211 22.7%	127 13.7%	37 4.0%	253 27.3%	41 4.4%	72 7.8%	91 9.8%	53 5.7%	43 4.6%
	20歳代	56 100.0%	13 23.2%	4 7.1%	3 5.4%	18 32.1%	3 5.4%	5 8.9%	3 5.4%	6 10.7%	1 1.8%
	30歳代	95 100.0%	25 26.3%	6 6.3%	1 1.1%	34 35.8%	8 8.4%	1 1.1%	9 9.5%	4 4.2%	7 7.4%
	40歳代	119 100.0%	37 31.1%	11 9.2%	4 3.4%	45 37.8%	5 4.2%	4 3.4%	8 6.7%	3 2.5%	2 1.7%
	50歳代	165 100.0%	58 35.2%	15 9.1%	2 1.2%	64 38.8%	5 3.0%	1 0.6%	14 8.5%	3 1.8%	3 1.8%
	60歳代	277 100.0%	60 21.7%	36 13.0%	10 3.6%	66 23.8%	14 5.1%	30 10.8%	37 13.4%	18 6.5%	6 2.2%
	70歳以上	216 100.0%	18 8.3%	55 25.5%	17 7.9%	26 12.0%	6 2.8%	31 14.4%	20 9.3%	19 8.8%	24 11.1%
性・職業別	女性	82 100.0%	20 24.4%	10 12.2%	2 2.4%	27 32.9%	6 7.3%	0 0.0%	13 15.9%	0 0.0%	4 4.9%
	家族従事者	63 100.0%	3 4.8%	16 25.4%	0 0.0%	22 34.9%	3 4.8%	8 12.7%	8 12.7%	1 1.6%	2 3.2%
	雇用者	564 100.0%	109 19.3%	100 17.7%	8 1.4%	231 41.0%	23 4.1%	8 1.4%	67 11.9%	7 1.2%	11 2.0%
	無職	523 100.0%	11 2.1%	232 44.4%	35 6.7%	28 5.4%	6 1.1%	107 20.5%	17 3.3%	64 12.2%	23 4.4%
	男性	164 100.0%	46 28.0%	7 4.3%	6 3.7%	57 34.8%	14 8.5%	9 5.5%	13 7.9%	5 3.0%	7 4.3%
	家族従事者	21 100.0%	3 14.3%	1 4.8%	1 4.8%	6 28.6%	1 4.8%	2 9.5%	4 19.0%	2 9.5%	1 4.8%
	雇用者	459 100.0%	144 31.4%	35 7.6%	8 1.7%	179 39.0%	17 3.7%	8 1.7%	50 10.9%	8 1.7%	10 2.2%
	無職	265 100.0%	10 3.8%	84 31.7%	22 8.3%	10 3.8%	8 3.0%	52 19.6%	23 8.7%	36 13.6%	20 7.5%

. % : 各属性で最も割合が高い

図表 5-7 男女の仕事，家庭生活，地域活動の優先度（希望）【性・年代別，性・職業別】

		サンプル数	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
上段：度数 下段：構成比(%)												
総計		2,227 100.0%	105 4.7%	484 21.7%	98 4.4%	582 26.1%	85 3.8%	265 11.9%	366 16.4%	133 6.0%	109 4.9%	
性・年代別	女性	1,252 100.0%	40 3.2%	319 25.5%	52 4.2%	295 23.6%	39 3.1%	167 13.3%	214 17.1%	87 6.9%	39 3.1%	
	20歳代	83 100.0%	1 1.2%	13 15.7%	8 9.6%	20 24.1%	2 2.4%	12 14.5%	23 27.7%	4 4.8%	0 0.0%	
	30歳代	135 100.0%	6 4.4%	42 31.1%	5 3.7%	41 30.4%	4 3.0%	4 3.0%	25 18.5%	6 4.4%	2 1.5%	
	40歳代	192 100.0%	29 3.1%	54 28.1%	2 1.0%	69 35.9%	6 3.1%	12 6.3%	37 19.3%	5 2.6%	1 0.5%	
	50歳代	224 100.0%	7 3.1%	55 24.6%	2 0.9%	86 38.4%	9 4.0%	9 4.0%	44 19.6%	10 4.5%	2 0.9%	
	60歳代	309 100.0%	13 4.2%	64 20.7%	10 3.2%	53 17.2%	12 3.9%	68 22.0%	59 19.1%	22 7.1%	8 2.6%	
	70歳以上	309 100.0%	7 2.3%	91 29.4%	25 8.1%	26 8.4%	6 1.9%	62 20.1%	26 8.4%	40 12.9%	26 8.4%	
	男性	928 100.0%	64 6.9%	164 17.7%	46 5.0%	284 30.6%	44 4.7%	97 10.5%	150 16.2%	40 4.3%	39 4.2%	
	20歳代	56 100.0%	5 8.9%	8 14.3%	5 8.9%	17 30.4%	3 5.4%	7 12.5%	9 16.1%	1 1.8%	1 1.8%	
	30歳代	95 100.0%	2 2.1%	20 21.1%	3 3.2%	35 36.8%	6 6.3%	2 2.1%	19 20.0%	3 3.2%	5 5.3%	
	40歳代	119 100.0%	9 7.6%	22 18.5%	4 3.4%	48 40.3%	4 3.4%	9 7.6%	16 13.4%	2 1.7%	5 4.2%	
	50歳代	165 100.0%	15 9.1%	22 13.3%	7 4.2%	71 43.0%	10 6.1%	5 3.0%	29 17.6%	3 1.8%	3 1.8%	
	60歳代	277 100.0%	23 8.3%	42 15.2%	12 4.3%	83 30.0%	13 4.7%	34 12.3%	52 18.8%	15 5.4%	3 1.1%	
	70歳以上	216 100.0%	10 4.6%	50 23.1%	15 6.9%	30 13.9%	8 3.7%	40 18.5%	25 11.6%	16 7.4%	22 10.2%	
性・職業別	女性	自営業主	82 100.0%	7 8.5%	9 11.0%	3 3.7%	22 26.8%	7 8.5%	3 3.7%	25 30.5%	3 3.7%	3 3.7%
		家族従事者	63 100.0%	3 4.8%	14 22.2%	1 1.6%	16 25.4%	5 7.9%	7 11.1%	13 20.6%	2 3.2%	2 3.2%
		雇用者	564 100.0%	20 3.5%	119 21.1%	15 2.7%	212 37.6%	21 3.7%	24 4.3%	130 23.0%	18 3.2%	5 0.9%
		無職	523 100.0%	10 1.9%	175 33.5%	32 6.1%	42 8.0%	6 1.1%	131 25.0%	43 8.2%	61 11.7%	23 4.4%
	男性	自営業主	164 100.0%	23 14.0%	22 13.4%	5 3.0%	59 36.0%	11 6.7%	13 7.9%	23 14.0%	4 2.4%	4 2.4%
		家族従事者	21 100.0%	3 14.3%	0 0.0%	1 4.8%	3 14.3%	2 9.5%	2 9.5%	9 42.9%	0 0.0%	1 4.8%
		雇用者	459 100.0%	24 5.2%	69 15.0%	16 3.5%	199 43.4%	23 5.0%	21 4.6%	89 19.4%	7 1.5%	11 2.4%
		無職	265 100.0%	8 3.0%	72 27.2%	24 9.1%	21 7.9%	7 2.6%	59 22.3%	28 10.6%	27 10.2%	19 7.2%

. % : 各属性で最も割合が高い

(4) 男性が家事，子育て，介護，地域活動へ参加するために必要なこと

問 14 あなたは、今後、男性が女性とともに家事，子育て，介護，地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものを3つ以内で選択）

[全体] (図表 5-8)

男性が家事，子育て，介護，地域活動へ参加するために必要なことについてみると、「夫婦や家族間で互いの立場を理解し，コミュニケーションをよくはかること」(50.3%)と回答した割合が最も高く，次いで「家事などについて，性別によらず，身に付けることができるような育て方をすること」(36.3%)，「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(30.0%)，「労働時間短縮や休暇制度を普及することで，仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(23.0%)，「社会の中で男性による家事，子育て，介護，地域活動についてもその評価を高めること」(20.0%)の順となっている。

[性別，性・年代別] (図表 5-8，図表 5-9)

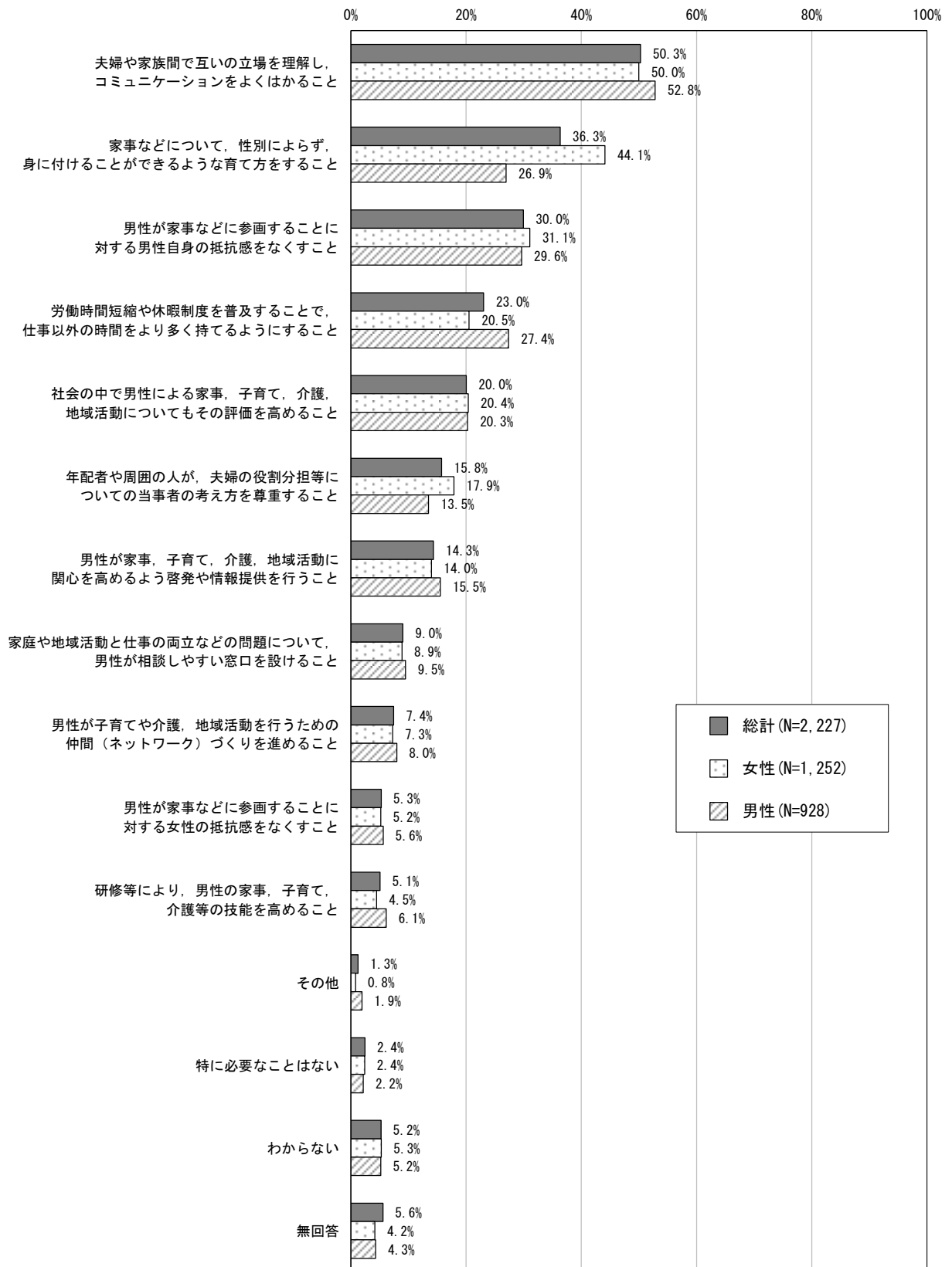
性別でみると，女性は「家事などについて，性別によらず，身に付けることができるような育て方をすること」と回答した割合が男性より17.2ポイント高く，その他に「年配者や周囲の人が，夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」などでも高くなっている。一方，男性は「労働時間短縮や休暇制度を普及することで，仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」などで女性より高くなっている。

性・年代別でみると，30歳代の女性を除いた全ての年代において，「夫婦や家族間で互いの立場を理解し，コミュニケーションをよくはかること」という回答が最も多かった。また，男女とも「労働時間短縮や休暇制度を普及することで，仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」と回答した割合は年代が下がるほど高くなる傾向がみられた。他にも，女性の30歳代，60歳代で「家事などについて，性別によらず，身に付けることができるような育て方をすること」と回答した割合が高く，半数を超えている。

[前回調査との比較] (図表 5-10)

前回調査と比較すると，「夫婦や家族間で互いの立場を理解し，コミュニケーションをよくはかること」，「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について，男性が相談しやすい窓口を設けること」がわずかに増加している以外は減少している。

図表 5-8 男性が家事，子育て，介護，地域活動へ参加するために必要なこと・複数回答【総計，性別】

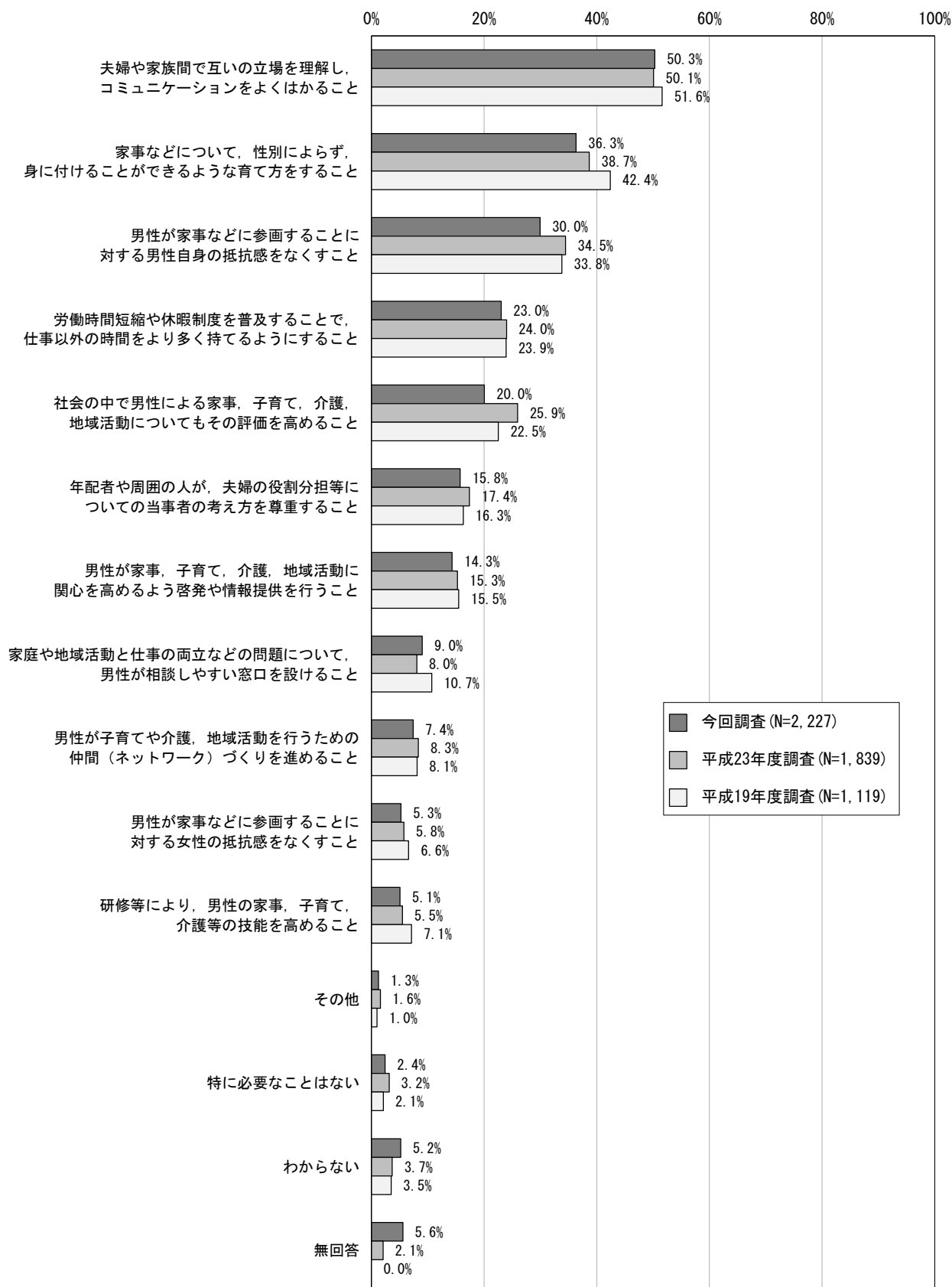


図表 5-9 男性が家事、子育て、介護、地域活動へ参加するために必要なこと・複数回答【性・年代別、性・職業別】

		サンプル数	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること	年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること	家事などについて、性別によらず、身に付けることができるような育て方をすること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	研修等により、男性の家事、子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
上段：度数 下段：構成比(%)																	
総計		2,227 -	667 30.0%	117 5.3%	1,120 50.3%	351 15.8%	446 20.0%	809 36.3%	513 23.0%	319 14.3%	113 5.1%	165 7.4%	201 9.0%	28 1.3%	54 2.4%	116 5.2%	124 5.6%
性・年代別	女性	1,252 -	389 31.1%	65 5.2%	626 50.0%	224 17.9%	255 20.4%	552 44.1%	257 20.5%	175 14.0%	56 4.5%	91 7.3%	111 8.9%	10 0.8%	30 2.4%	66 5.3%	52 4.2%
	20歳代	83 -	28 33.7%	0 0.0%	44 53.0%	14 16.9%	16 19.3%	24 28.9%	36 43.4%	4 4.8%	2 2.4%	8 9.6%	11 13.3%	3 3.6%	0 0.0%	4 4.8%	2 2.4%
	30歳代	135 -	49 36.3%	8 5.9%	65 48.1%	31 23.0%	37 27.4%	71 52.6%	47 34.8%	14 10.4%	4 3.0%	6 4.4%	10 7.4%	1 0.7%	0 0.0%	3 2.2%	2 1.5%
	40歳代	192 -	58 30.2%	10 5.2%	91 47.4%	39 20.3%	47 24.5%	85 44.3%	58 30.2%	27 14.1%	11 5.7%	16 8.3%	12 6.3%	3 1.6%	1 0.5%	1 0.5%	8 4.2%
	50歳代	224 -	77 34.4%	7 3.1%	112 50.0%	40 17.9%	65 29.0%	96 42.9%	57 25.4%	40 17.9%	3 1.3%	18 8.0%	22 9.8%	0 0.0%	4 1.8%	5 2.2%	8 3.6%
	60歳代	309 -	106 34.3%	21 6.8%	174 56.3%	49 15.9%	51 16.5%	162 52.4%	33 10.7%	54 17.5%	21 6.8%	24 7.8%	23 7.4%	3 1.0%	11 3.6%	11 3.6%	7 2.3%
	70歳以上	309 -	71 23.0%	19 6.1%	140 45.3%	51 16.5%	39 12.6%	114 36.9%	26 8.4%	36 11.7%	15 4.9%	19 6.1%	33 10.7%	0 0.0%	14 4.5%	42 13.6%	25 8.1%
	男性	928 -	275 29.6%	52 5.6%	490 52.8%	125 13.5%	188 20.3%	250 26.9%	254 27.4%	144 15.5%	57 6.1%	74 8.0%	88 9.5%	18 1.9%	20 2.2%	48 5.2%	40 4.3%
	20歳代	56 -	17 30.4%	4 7.1%	27 48.2%	8 14.3%	14 25.0%	17 30.4%	14 25.0%	5 8.9%	3 5.4%	2 3.6%	3 5.4%	0 0.0%	3 5.4%	6 10.7%	1 1.8%
	30歳代	95 -	20 21.1%	5 5.3%	53 55.8%	17 17.9%	18 18.9%	23 24.2%	39 41.1%	7 7.4%	4 4.2%	4 4.2%	13 13.7%	3 3.2%	1 1.1%	4 4.2%	5 5.3%
	40歳代	119 -	37 31.1%	4 3.4%	59 49.6%	18 15.1%	28 23.5%	23 19.3%	51 42.9%	17 14.3%	7 5.9%	10 8.4%	9 7.6%	7 5.9%	1 0.8%	6 5.0%	5 4.2%
	50歳代	165 -	52 31.5%	10 6.1%	83 50.3%	20 12.1%	43 26.1%	53 32.1%	50 30.3%	28 17.0%	7 4.2%	15 9.1%	15 9.1%	1 0.6%	1 0.6%	5 3.0%	4 2.4%
	60歳代	277 -	89 32.1%	17 6.1%	155 56.0%	31 11.2%	56 20.2%	83 30.0%	66 23.8%	55 19.9%	17 6.1%	24 8.7%	28 10.1%	2 0.7%	10 3.6%	8 2.9%	5 1.8%
	70歳以上	216 -	60 27.8%	12 5.6%	113 52.3%	31 14.4%	29 13.4%	51 23.6%	34 15.7%	32 14.8%	19 8.8%	19 8.8%	20 9.3%	5 2.3%	4 1.9%	19 8.8%	20 9.3%
性・職業別	女性																
	自営業主	82 -	25 30.5%	6 7.3%	39 47.6%	19 23.2%	10 12.2%	32 39.0%	8 9.8%	14 17.1%	3 3.7%	7 8.5%	5 6.1%	1 1.2%	1 1.2%	5 6.1%	4 4.9%
	家族従事者	63 -	15 23.8%	5 7.9%	41 65.1%	19 30.2%	11 17.5%	30 47.6%	9 14.3%	6 9.5%	4 6.3%	3 4.8%	4 6.3%	0 0.0%	1 1.6%	1 1.6%	2 3.2%
	雇用者	564 -	187 33.2%	22 3.9%	282 50.0%	103 18.3%	152 27.0%	262 46.5%	164 29.1%	76 13.5%	14 2.5%	41 7.3%	53 9.4%	6 1.1%	9 1.6%	10 1.8%	20 3.5%
	無職	523 -	156 29.8%	32 6.1%	260 49.7%	83 15.9%	80 15.3%	222 42.4%	76 14.5%	76 14.5%	35 6.7%	39 7.5%	46 8.8%	3 0.6%	19 3.6%	49 9.4%	18 3.4%
	自営業主	164 -	52 31.7%	14 8.5%	97 59.1%	24 14.6%	31 18.9%	47 28.7%	24 14.6%	29 17.7%	8 4.9%	17 10.4%	19 11.6%	3 1.8%	4 2.4%	7 4.3%	6 3.7%
	家族従事者	21 -	5 23.8%	0 0.0%	13 61.9%	0 0.0%	6 28.6%	3 14.3%	6 28.6%	2 9.5%	3 14.3%	6 28.6%	2 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.8%	1 4.8%
	雇用者	459 -	127 27.7%	24 5.2%	244 53.2%	65 14.2%	101 22.0%	132 28.8%	167 36.4%	67 14.6%	26 5.7%	29 6.3%	40 8.7%	10 2.2%	5 1.1%	18 3.9%	13 2.8%
無職	265 -	85 32.1%	14 5.3%	132 49.8%	34 12.8%	49 18.5%	60 22.6%	55 20.8%	44 16.6%	18 6.8%	22 8.3%	25 9.4%	5 1.9%	10 3.8%	19 7.2%	15 5.7%	

. % : 各属性で最も割合が高い

図表 5-10 男性が家事，子育て，介護，地域活動へ参加するために必要なこと・複数回答【総計，前回調査】



6. 男女の人権について

(1) 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験

問 15 【これまでに結婚したことのある方に、お尋ねします。】

あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。
(各項目ではまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 6-1, 図表 6-2)

これまでに結婚（事実婚含む）したことがある 1,821 人を対象に、配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験について聞いたところ、「何度もあった」(10.0%)と「1, 2度あった」(18.4%)を合わせて、約3割の人が『あった』と回答している。

暴力の種類別でみると、『あった』と回答した割合は「身体に対する暴行」(20.4%)が最も高く、次いで「精神的な嫌がらせ・脅迫」(16.5%)、「性的な行為の強要」(12.4%)となっている。

[性別, 性・年代別] (図表 6-1, 図表 6-3, 図表 6-4)

性別でみると、暴力や嫌がらせを受けた経験が『あった』と回答した割合は、女性(36.6%)が男性(17.2%)を大きく上回っている。また、「身体に対する暴行」(女性:26.4%, 男性:12.2%)、「精神的な嫌がらせ・脅迫」(女性:21.0%, 男性:10.4%)、「性的な行為の強要」(女性:19.4%, 男性:2.6%)といずれの暴力でも2割以上の女性が『あった』と回答し、女性が男性より10ポイント以上高くなっており、「身体に対する暴行」では、女性の約4人に1人が経験があると回答している。

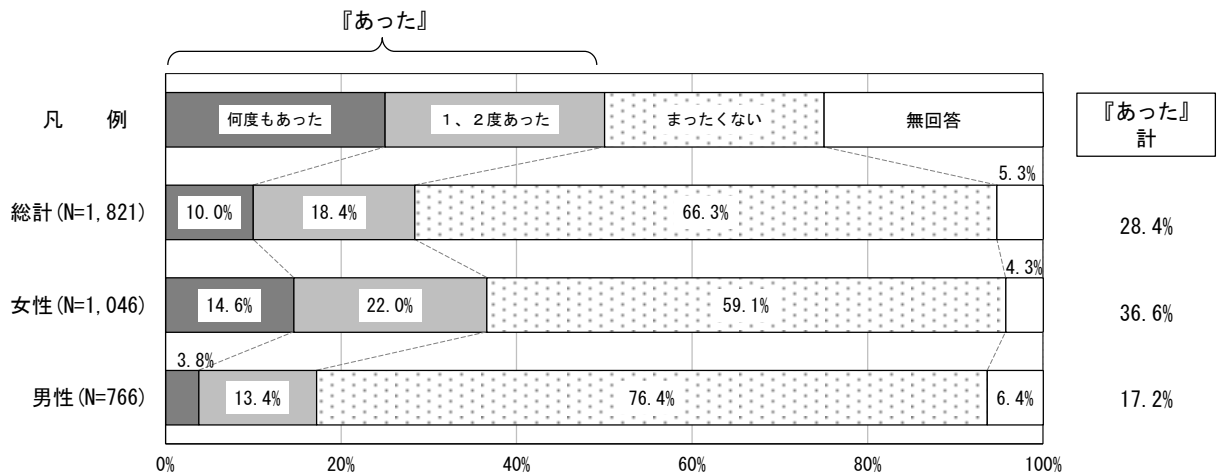
性・年代別でみると、女性は各年代で大きな差はみられないが、男性は20歳代でいずれの暴力についても『あった』と回答した割合が全ての年代で最も高くなっている。

[前回調査, 内閣府調査との比較] (図表 6-5~図表 6-8)

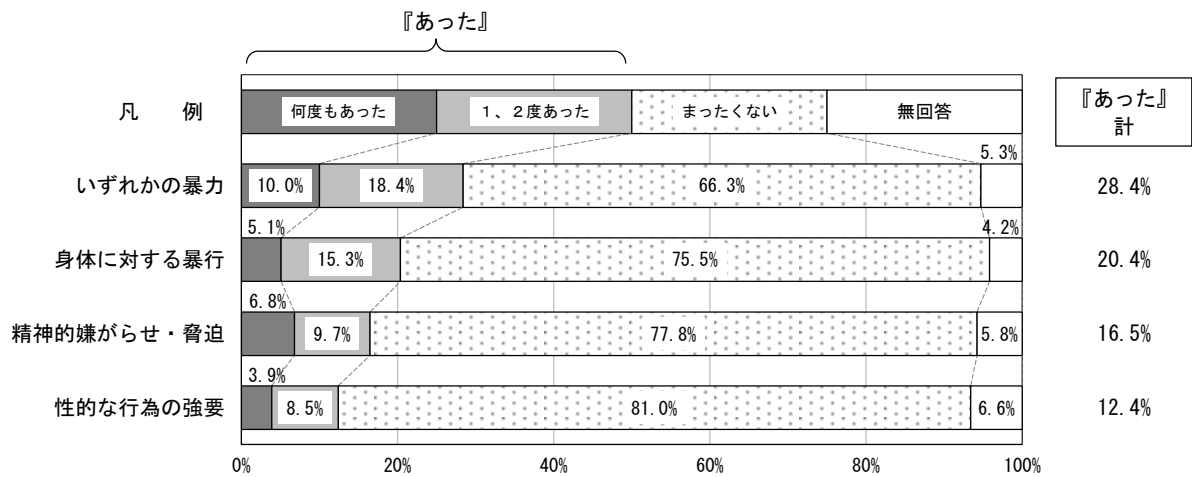
前回調査と比較すると、回答傾向に大きな差はみられなかった。

内閣府調査と比較すると、いずれの暴力についても「何度もあった」, 「1, 2度あった」の割合は県の今回調査の方が高くなっている。

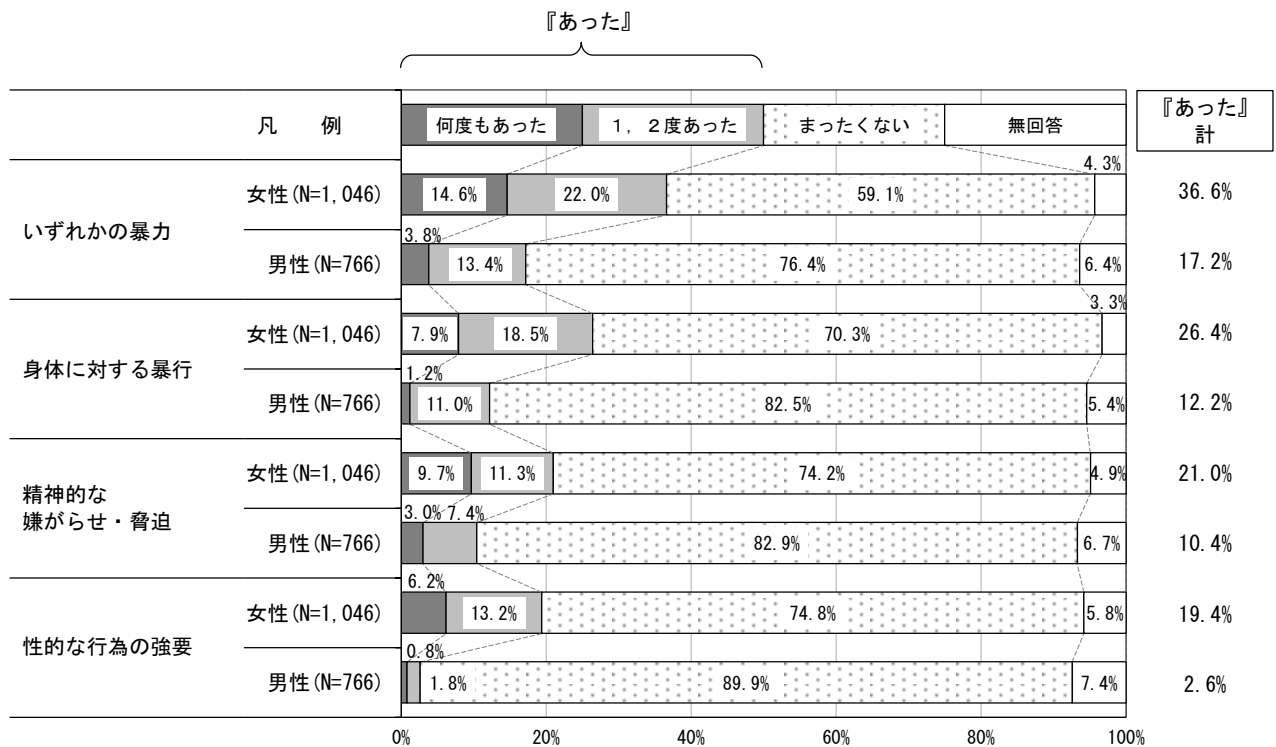
図表 6-1 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験【総計，性別】



図表 6-2 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験【総計，暴行の種類別】



図表 6-3 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験【性別，暴行の種類別】

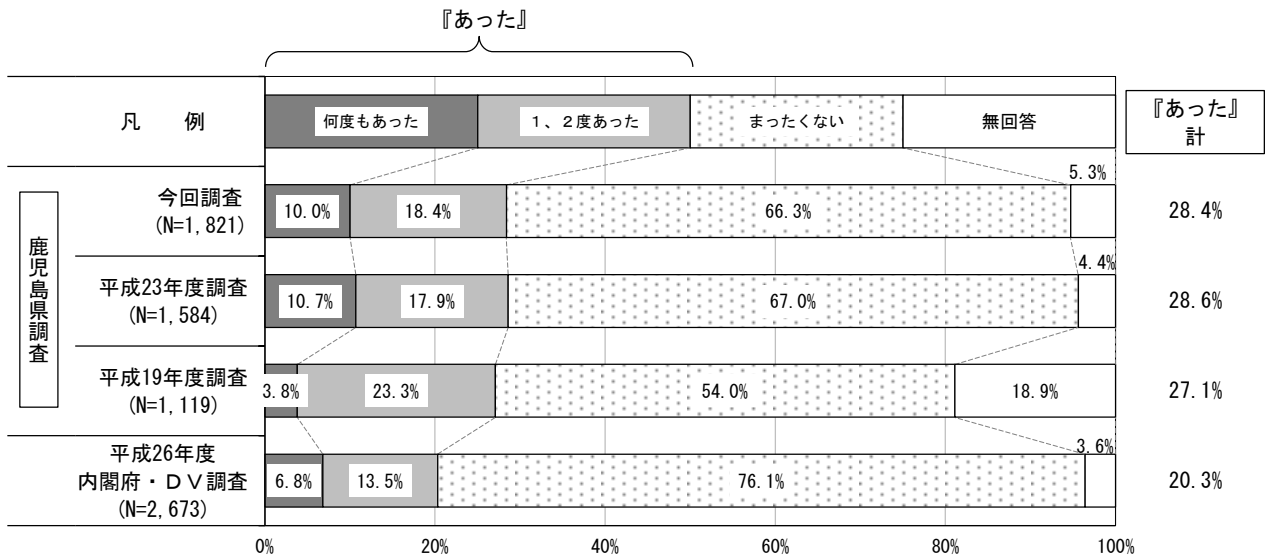


図表 6-4 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験【性・年代別】

	サンプル数	いずれかの暴力 「身体に対する暴力」、 「精神的な嫌がらせ・脅迫」、 「性的な行為の強要」 のいずれかの暴力を受けた				身体に対する暴力 なくったり、けったり、物を 投げつけたり、突き飛ばした りするなどの身体に対する暴 行を受けた				精神的な嫌がらせ・脅迫 人格を否定するような暴言や 交友関係を細かく監視するな どの精神的な嫌がらせを受け た。あるいは、あなたもしく はあなたの家族に危害を加え られるのではないかと恐怖を 感じるような脅迫を受けた				性的な行為の強要 いやがっているのに性的な行 為を強要された			
		何度もあつた	1、 2度あつた	ま ったく ない	無 回 答	何度もあつた	1、 2度あつた	ま ったく ない	無 回 答	何度もあつた	1、 2度あつた	ま ったく ない	無 回 答	何度もあつた	1、 2度あつた	ま ったく ない	無 回 答
総計	1,821	182	335	1,207	97	92	278	1,375	76	124	176	1,416	105	71	154	1,475	121
	100.0%	10.0%	18.4%	66.3%	5.3%	5.1%	15.3%	75.5%	4.2%	6.8%	9.7%	77.8%	5.8%	3.9%	8.5%	81.0%	6.6%
女性	1,046	153	230	618	45	83	193	735	35	101	118	776	51	65	138	782	61
	100.0%	14.6%	22.0%	59.1%	4.3%	7.9%	18.5%	70.3%	3.3%	9.7%	11.3%	74.2%	4.9%	6.2%	13.2%	74.8%	5.8%
20歳代	15	1	4	10	0	1	3	11	0	0	3	12	0	0	1	14	0
	100.0%	6.7%	26.7%	66.7%	0.0%	6.7%	20.0%	73.3%	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	6.7%	93.3%	0.0%
30歳代	93	14	14	65	0	6	12	75	0	11	10	72	0	5	10	78	0
	100.0%	15.1%	15.1%	69.9%	0.0%	6.5%	12.9%	80.6%	0.0%	11.8%	10.8%	77.4%	0.0%	5.4%	10.8%	83.9%	0.0%
40歳代	153	24	36	89	4	12	32	107	2	18	23	110	2	7	21	120	5
	100.0%	15.7%	23.5%	58.2%	2.6%	7.8%	20.9%	69.9%	1.3%	11.8%	15.0%	71.9%	1.3%	4.6%	13.7%	78.4%	3.3%
50歳代	197	33	44	117	3	16	35	143	3	25	19	149	4	19	25	149	4
	100.0%	16.8%	22.3%	59.4%	1.5%	8.1%	17.8%	72.6%	1.5%	12.7%	9.6%	75.6%	2.0%	9.6%	12.7%	75.6%	2.0%
60歳代	290	45	69	170	6	28	59	198	5	24	37	222	7	18	51	214	7
	100.0%	15.5%	23.8%	58.6%	2.1%	9.7%	20.3%	68.3%	1.7%	8.3%	12.8%	76.6%	2.4%	6.2%	17.6%	73.8%	2.4%
70歳以上	298	36	63	167	32	20	52	201	25	23	26	211	38	16	30	207	45
	100.0%	12.1%	21.1%	56.0%	10.7%	6.7%	17.4%	67.4%	8.4%	7.7%	8.7%	70.8%	12.8%	5.4%	10.1%	69.5%	15.1%
男性	766	29	103	585	49	9	84	632	41	23	57	635	51	6	14	689	57
	100.0%	3.8%	13.4%	76.4%	6.4%	1.2%	11.0%	82.5%	5.4%	3.0%	7.4%	82.9%	6.7%	0.8%	1.8%	89.9%	7.4%
20歳代	12	0	5	7	0	0	2	10	0	0	5	7	0	0	0	12	0
	100.0%	0.0%	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
30歳代	61	5	5	50	1	2	6	52	1	3	5	52	1	1	2	56	2
	100.0%	8.2%	8.2%	82.0%	1.6%	3.3%	9.8%	85.2%	1.6%	4.9%	8.2%	85.2%	1.6%	1.6%	3.3%	91.8%	3.3%
40歳代	94	7	7	76	4	2	6	83	3	6	8	76	4	0	2	88	4
	100.0%	7.4%	7.4%	80.9%	4.3%	2.1%	6.4%	88.3%	3.2%	6.4%	8.5%	80.9%	4.3%	0.0%	2.1%	93.6%	4.3%
50歳代	139	3	22	110	4	0	17	118	4	2	14	120	3	1	0	133	5
	100.0%	2.2%	15.8%	79.1%	2.9%	0.0%	12.2%	84.9%	2.9%	1.4%	10.1%	86.3%	2.2%	0.7%	0.0%	95.7%	3.6%
60歳代	248	9	37	188	14	3	29	205	11	8	18	211	11	2	5	225	16
	100.0%	3.6%	14.9%	75.8%	5.6%	1.2%	11.7%	82.7%	4.4%	3.2%	7.3%	85.1%	4.4%	0.8%	2.0%	90.7%	6.5%
70歳以上	212	5	27	154	26	2	24	164	22	4	7	169	32	2	5	175	30
	100.0%	2.4%	12.7%	72.6%	12.3%	0.9%	11.3%	77.4%	10.4%	1.9%	3.3%	79.7%	15.1%	0.9%	2.4%	82.5%	14.2%

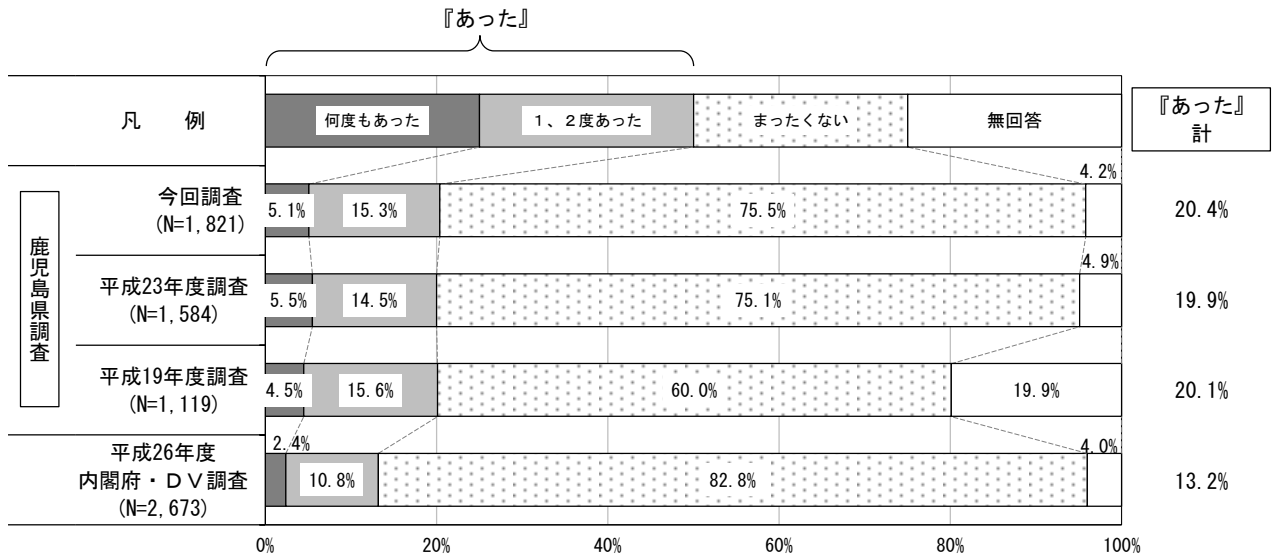
. % : 各属性で最も割合が高い

図表 6-5 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験【総計、前回調査、内閣府調査】

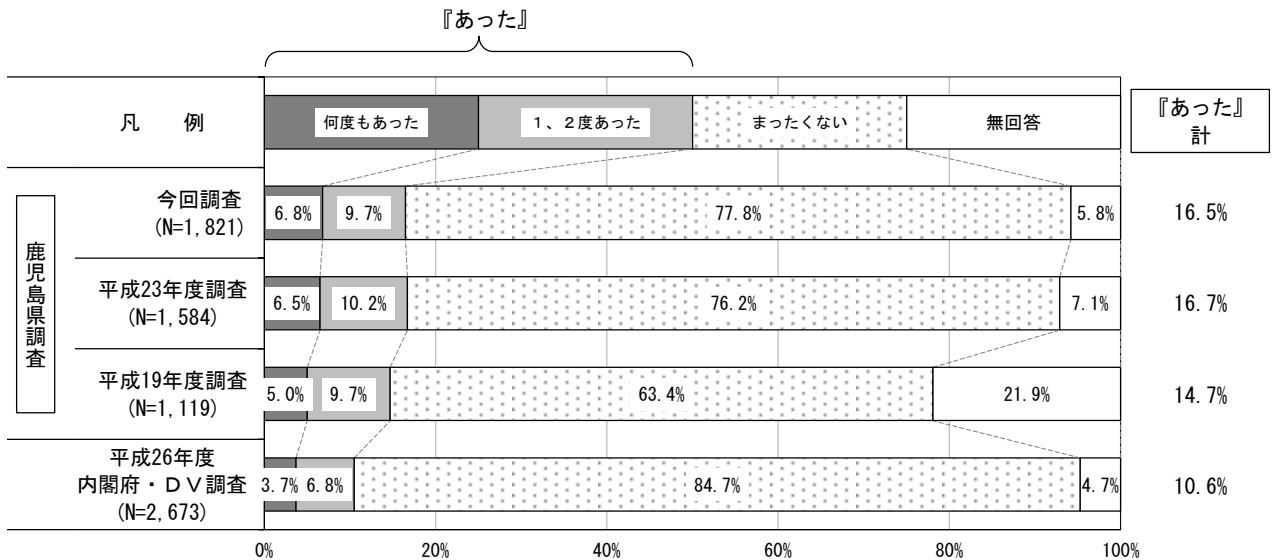


※ 平成19年度調査では、「未婚」、「不明（無回答）」を含む1,119人全員が回答している。

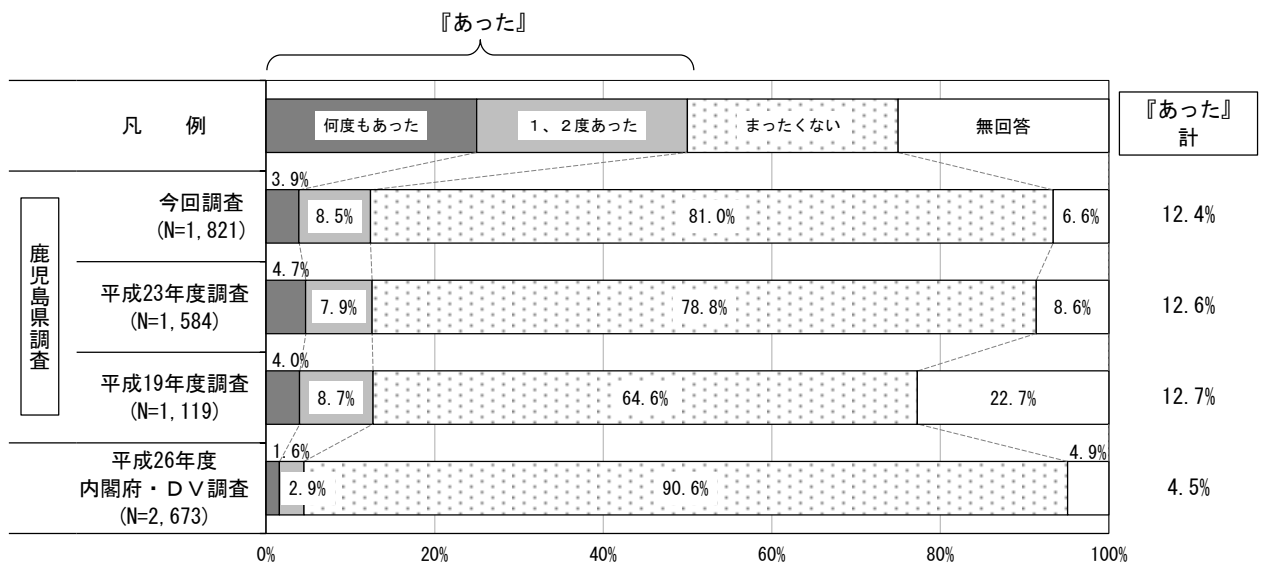
図表 6-6 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験（身体に対する暴行）【総計，前回調査，内閣府調査】



図表 6-7 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験（精神的な嫌がらせ・脅迫）【総計，前回調査，内閣府調査】



図表 6-8 配偶者や親しい異性から暴力や嫌がらせを受けた経験（性的な行為の強要）【総計，前回調査，内閣府調査】



※ 平成19年度調査では、「未婚」，「不明（無回答）」を含む1,119人全員が回答している。

(2) 10 歳代又は 20 歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験

問 16 あなたは、10 歳代又は 20 歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。(各項目ではまるものを 1 つだけ選択)

[全体] (図表 6-9)

10 歳代又は 20 歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験についてみると、「10 歳代にあった」、「20 歳代にあった」、「10・20 歳代ともあった」を合わせた『あった』と回答した人の割合は、「精神的な嫌がらせ・脅迫」(6.6%) が最も高く、次いで「身体に対する暴行」(6.0%)、「性的な行為の強要」(4.9%) となっている。また、いずれの暴力も「20 歳代にあった」と回答した人の割合が高くなっている。

[性別、性・年代別] (図表 6-10, 図表 6-11)

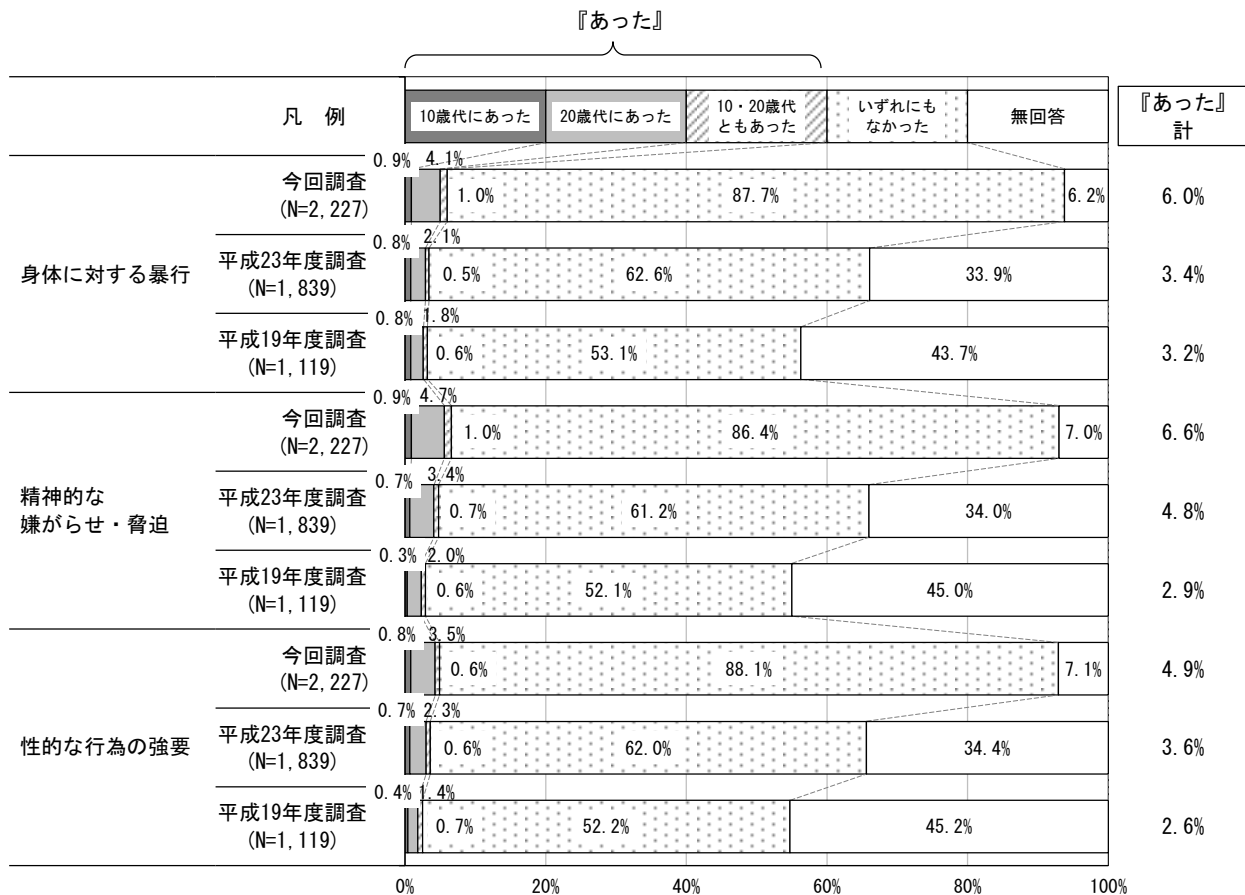
性別でみると、「身体に対する暴行」(女性：8.5%，男性：3.2%)、「精神的な嫌がらせ・脅迫」(女性：9.1%，男性：3.7%)、「性的な行為の強要」(女性：8.1%，男性：0.7%) といずれの暴力でも 1 割弱の女性が『あった』と回答しており、男性より高くなっている。

性・年代別でみると、いずれの暴力でも『あった』と回答した人の割合は男女とも年代が下がるごとに増加の傾向がみられた。

[前回調査との比較] (図表 6-9)

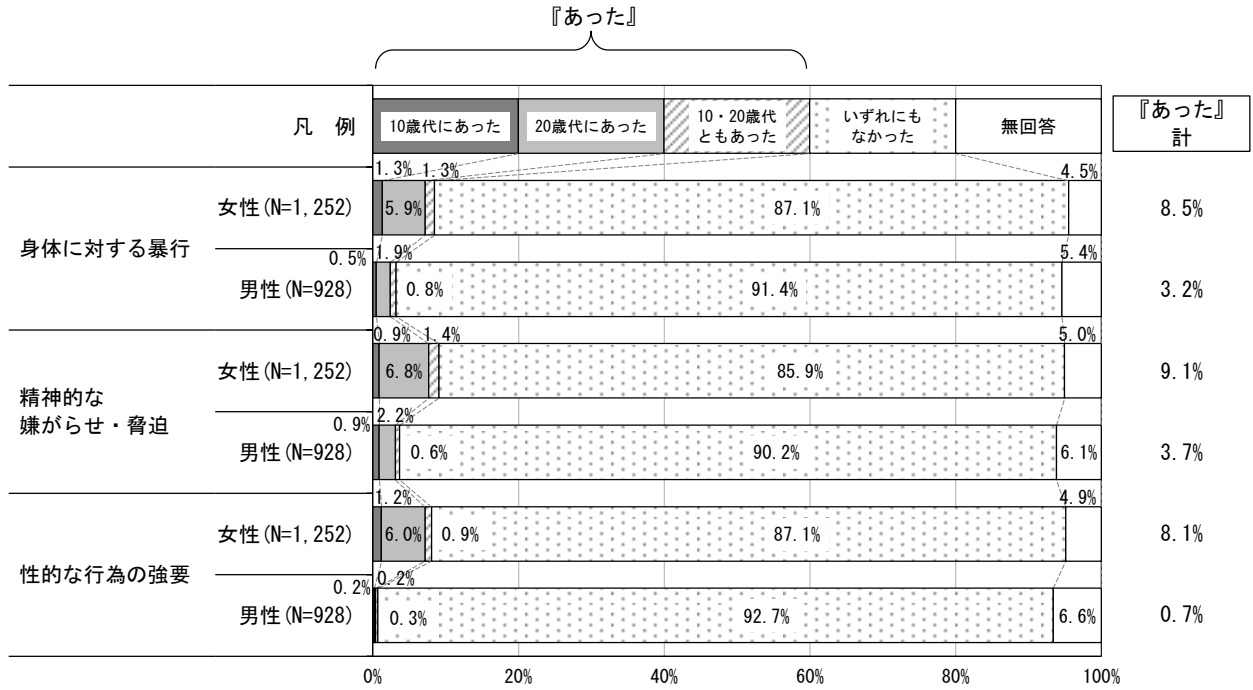
前回調査と比較すると、「身体に対する暴行」、「精神的な嫌がらせ・脅迫」、「性的な行為の強要」のいずれの暴力でも『あった』と回答した人の割合は増加傾向がみられた。

図表 6-9 10 歳代又は 20 歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験【総計、前回調査】



※ 平成 23 年度調査では、「10 歳代又は 20 歳代に交際相手がいた (いる)」と回答した 1,227 人を対象に調査している。ここでは、今回調査と比較するため、「10 歳代又は 20 歳代に交際相手がいなかった (いない)」474 人と「無回答」138 人を「無回答」に計上し、比較している。

図表 6-10 10歳代又は20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験【性別】



図表 6-11 10歳代又は20歳代に交際相手から暴力や嫌がらせを受けた経験【性・年代別】

上段：度数 下段：構成比(%)	サンプル数	身体に対する暴力 なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた					精神的嫌がらせ・脅迫 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた					性的な行為の強要 いやがっているのに性的な行為を強要された				
		10歳代にあった	20歳代にあった	10・20歳代ともあった	いずれにもなかった	無回答	10歳代にあった	20歳代にあった	10・20歳代ともあった	いずれにもなかった	無回答	10歳代にあった	20歳代にあった	10・20歳代ともあった	いずれにもなかった	無回答
		総計	2,227	21	92	23	1,953	138	20	105	23	1,924	155	17	77	14
女性	1,252	16	74	16	1,090	56	11	85	17	1,076	63	15	75	11	1,090	61
20歳代	83	3	7	3	66	4	3	4	2	70	4	3	1	2	73	4
30歳代	135	4	13	3	114	4	2	17	4	111	1	4	13	1	116	1
40歳代	192	3	13	3	169	4	1	18	2	168	3	1	14	1	172	4
50歳代	224	1	13	4	204	2	2	19	4	196	3	1	19	1	201	2
60歳代	309	2	15	2	282	8	2	18	3	278	8	4	18	3	277	7
70歳以上	309	3	13	1	255	37	1	9	2	253	44	2	10	3	251	43
男性	928	5	18	7	848	50	8	20	6	837	57	2	2	3	860	61
20歳代	56	0	0	0	53	3	1	3	0	50	2	0	0	0	53	3
30歳代	95	0	4	1	85	5	2	3	2	84	4	1	0	1	88	5
40歳代	119	1	3	0	109	6	3	4	1	105	6	1	1	0	111	6
50歳代	165	0	3	2	157	3	0	3	2	157	3	0	0	1	161	3
60歳代	277	2	5	2	256	12	2	7	1	254	13	0	1	1	260	15
70歳以上	216	2	3	2	188	21	0	0	0	187	29	0	0	0	187	29

. % : 各属性で最も割合が高い

(3) 暴力や嫌がらせ等についての相談先

問 17-1 【問 15 又は問 16 で1つでも行為を受けたことがあった方にお尋ねします。】
あなたはそのことを、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。
(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 6-12)

暴力や嫌がらせ等についての相談先についてみると、「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」(42.2%)と回答した割合が最も高く、次いで「友人、知人に相談した」(23.8%)、「家族や親戚に相談した」(18.1%)など身近な人への相談、「医療関係者に相談した」(2.7%)、「警察に連絡・相談した」(2.2%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 6-13, 図表 6-14)

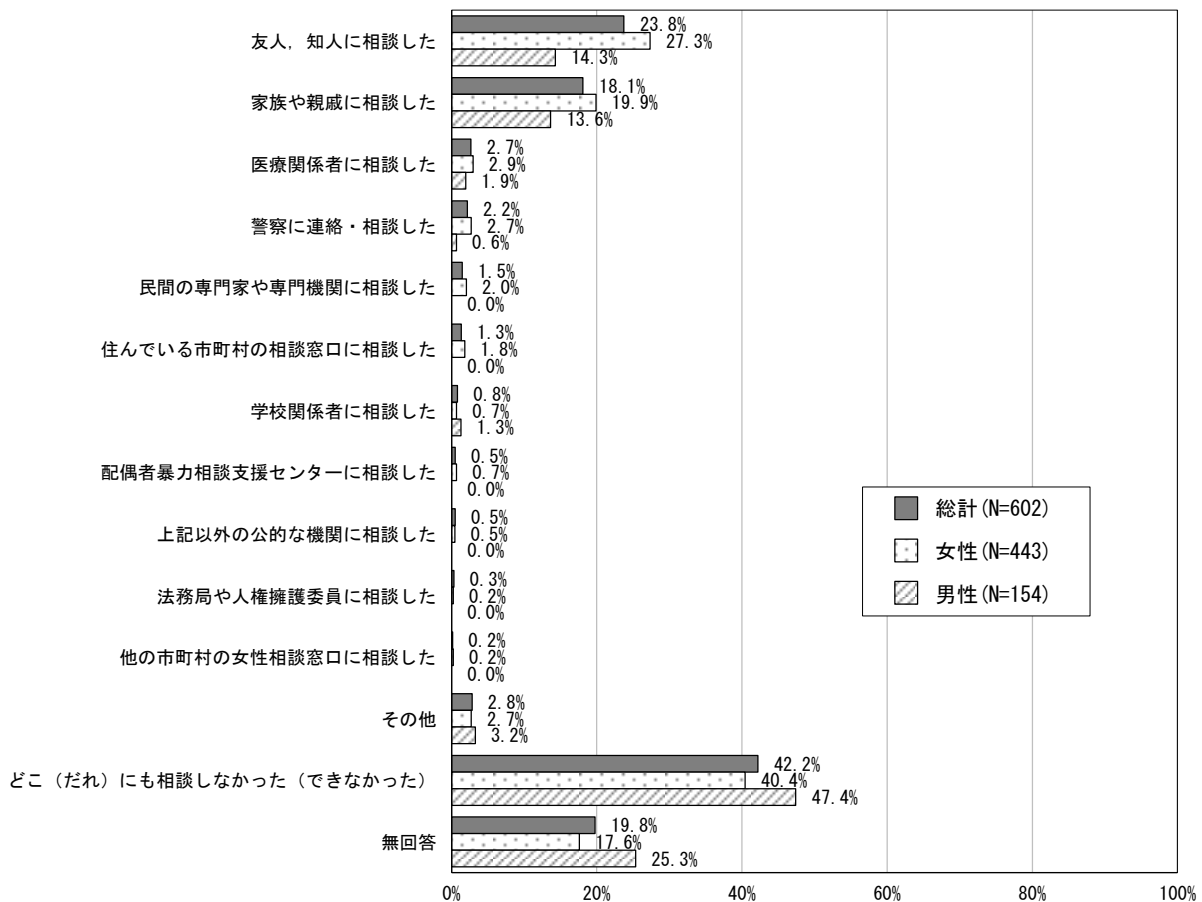
性別でみると、女性は「友人、知人に相談した」と回答した割合が男性より13ポイント高く、男性は「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」と回答した割合が女性より7ポイント高くなっている。また、男性は学校関係者を除き民間の専門機関や公的機関に相談した人はいなかった。

性・年代別でみると、20～40歳代の女性と20歳代男性は「友人、知人に相談した」と回答した割合が最も高く、それ以外では年代では「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」が最も高くなっている。

[前回調査との比較] (図表 6-12)

前回調査と比較すると、「どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)」と回答した割合は12.9ポイント増加しているが、「友人や知人に相談した」、「家族や親戚に相談した」などでも増加している。

図表 6-12 暴力や嫌がらせ等についての相談先・複数回答【総計、性別】

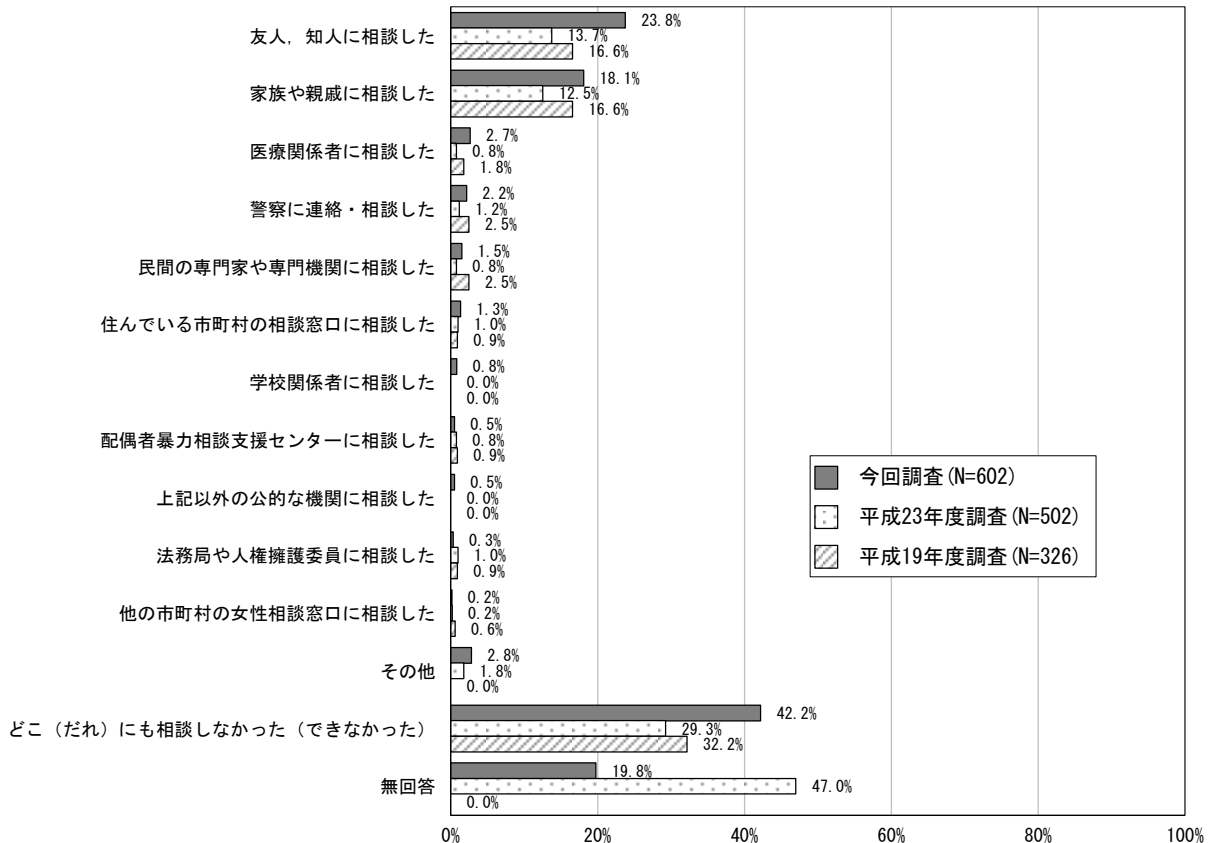


図表 6-13 暴力や嫌がらせ等についての相談先・複数回答【性・年代別】

性・年代別	サンプル数	家族や親戚に相談した	友人、知人に相談した	学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)に相談した	医療関係者(医師、看護師、助産師など)に相談した	民間の専門家や専門機関(弁護士・弁護士会、カウンセラー、カウンセラーセンターなど)に相談した	配偶者暴力相談支援センター(県女性相談センター、県男女共同参画センターなど)に相談した	警察に連絡・相談した	法務局や人権擁護委員に相談した	住んでいる市町村の相談窓口(住民相談、婦人相談員や女性相談など)に相談した	住んでいる市町村の相談窓口(市町村の女性相談窓口(婦人相談員や女性相談など)に相談した)	上記(6~10)以外の公的な機関に相談した	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった(できなかった)	無回答
		上段:度数 下段:構成比(%)													
総計	602	109	143	5	16	9	3	13	2	8	1	3	17	254	119
	-	18.1%	23.8%	0.8%	2.7%	1.5%	0.5%	2.2%	0.3%	1.3%	0.2%	0.5%	2.8%	42.2%	19.8%
女性	443	88	121	3	13	9	3	12	1	8	1	2	12	179	78
	-	19.9%	27.3%	0.7%	2.9%	2.0%	0.7%	2.7%	0.2%	1.8%	0.2%	0.5%	2.7%	40.4%	17.6%
20歳代	19	4	11	0	1	0	0	2	0	1	0	0	2	5	0
	-	21.1%	57.9%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	26.3%	0.0%
30歳代	46	11	26	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	12	5
	-	23.9%	56.5%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	26.1%	10.9%
40歳代	70	20	25	0	3	3	0	1	0	0	0	0	2	24	9
	-	28.6%	35.7%	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	34.3%	12.9%
50歳代	85	16	22	1	2	3	2	4	0	1	1	0	0	44	9
	-	18.8%	25.9%	1.2%	2.4%	3.5%	2.4%	4.7%	0.0%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%	51.8%	10.6%
60歳代	119	15	24	1	5	3	0	3	1	5	0	2	4	47	33
	-	12.6%	20.2%	0.8%	4.2%	2.5%	0.0%	2.5%	0.8%	4.2%	0.0%	1.7%	3.4%	39.5%	27.7%
70歳以上	104	22	13	1	1	0	1	1	0	1	0	0	4	47	22
	-	21.2%	12.5%	1.0%	1.0%	0.0%	1.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	3.8%	45.2%	21.2%
男性	154	21	22	2	3	0	0	1	0	0	0	0	5	73	39
	-	13.6%	14.3%	1.3%	1.9%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	47.4%	25.3%
20歳代	8	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1
	-	25.0%	37.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	12.5%
30歳代	17	3	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	10	2
	-	17.6%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	58.8%	11.8%
40歳代	19	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	11	3
	-	15.8%	15.8%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	57.9%	15.8%
50歳代	26	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	3
	-	7.7%	19.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	61.5%	11.5%
60歳代	50	6	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	21	17
	-	12.0%	6.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	42.0%	34.0%
70歳以上	34	5	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	12	13
	-	14.7%	11.8%	5.9%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	35.3%	38.2%

. % : 各属性で最も割合が高い

図表 6-14 暴力や嫌がらせ等についての相談先・複数回答【総計, 前回調査】



(4) 相談しなかった（できなかった）理由

問 17-2 【問 17-1 で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）」を選んだ方にお尋ねします。】
あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。
(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 6-15)

暴力や嫌がらせ等を受けたとき相談しなかった（できなかった）理由についてみると、「相談するほどのことではないと思ったから」 (36.2%) と回答した割合が最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」 (31.9%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」 (26.8%)、「相談してもむだだと思ったから」 (21.7%)、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」 (20.1%) の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 6-15, 図表 6-16)

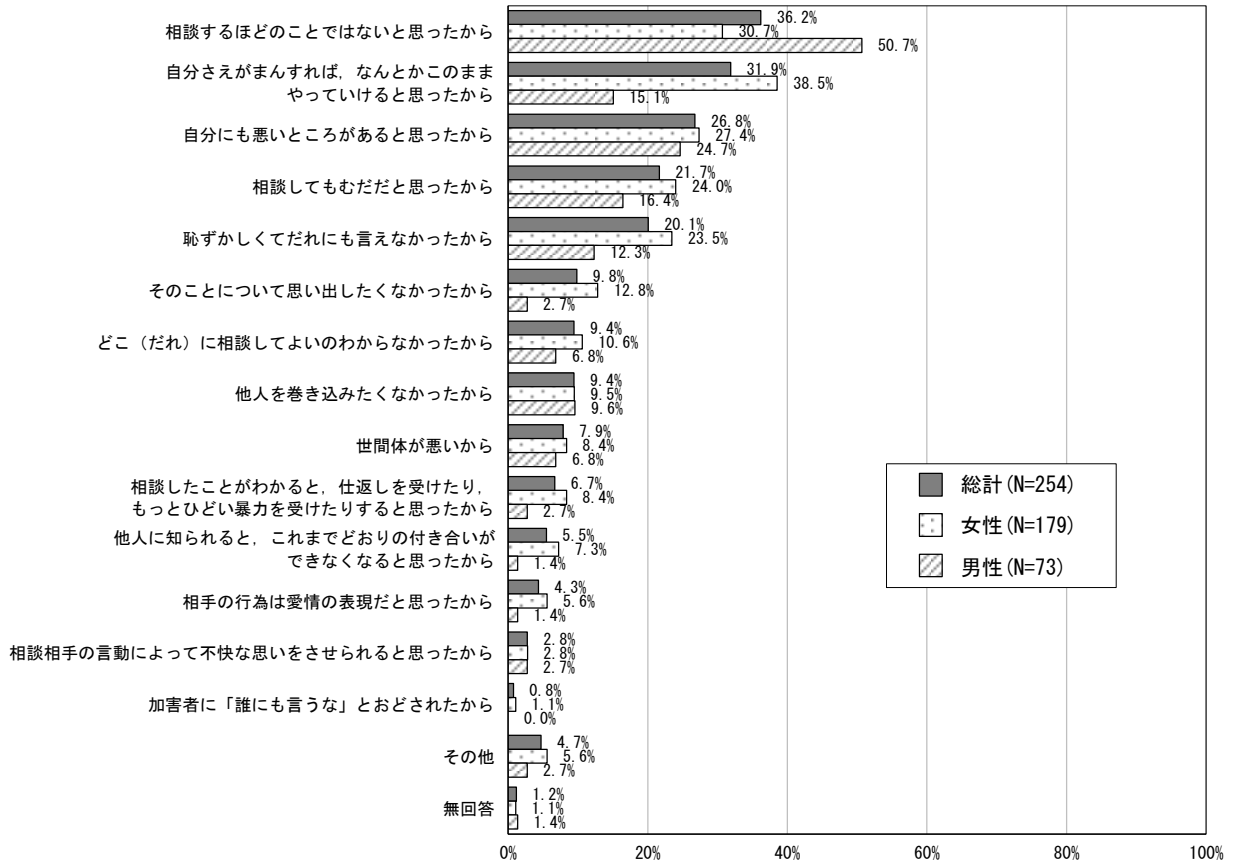
性別でみると、女性は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と回答した割合が最も高く、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」、「そのことについて思い出したくなかったから」などで男性より 10 ポイント以上高くなっている。一方、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、女性より 20 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、女性の 40 歳代、60 歳以上は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と回答した割合が高く、その他の年代では「相談するほどのことではないと思ったから」が高くなっている。また、女性は年代が上がるほど「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」と回答した割合が高く、「自分にも悪いところがあると思ったから」が低くなる傾向がみられた。

[前回調査との比較] (図表 6-17)

前回調査と比較すると、「自分にも悪いところがあると思ったから」と回答した割合は前回調査より高く、一方「相談してもむだだと思ったから」、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」などは低くなっている。

図表 6-15 相談しなかった(できなかった)理由・複数回答【総計, 性別】

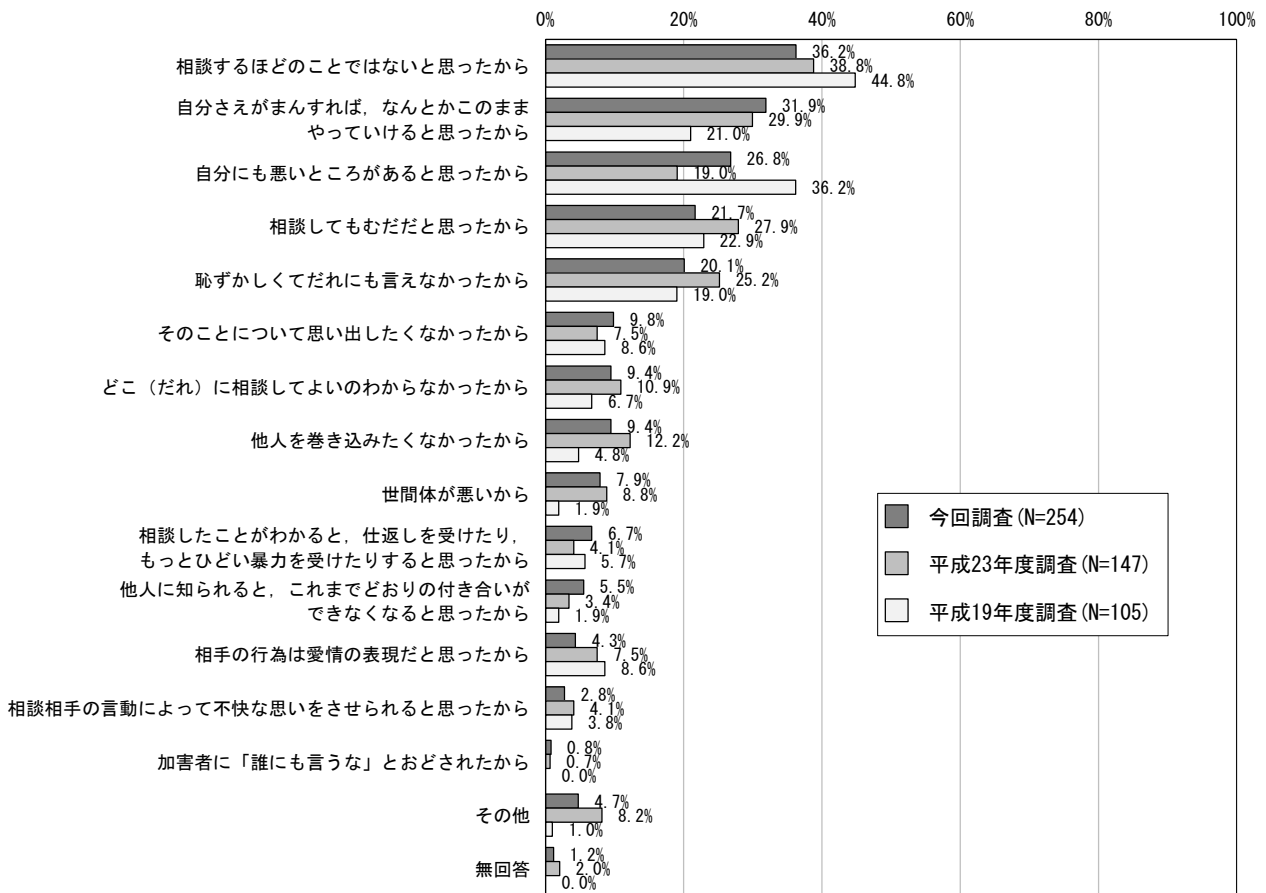


図表 6-16 相談しなかった(できなかった)理由・複数回答【性・年代別】

性・年代別	サンプル数	理由														
		相談するほどのことではないと思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談してもむだだと思ったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	そのことについて思い出したくなかったから	どこ(だれ)に相談してよいのわからなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	世間体が悪いから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから	他人に知られると、これまでどおりの付き合いができなくなると思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	その他
総計	254	9.4%	20.1%	21.7%	6.7%	0.8%	2.8%	31.9%	7.9%	9.4%	5.5%	4.3%	2.8%	0.8%	4.7%	1.2%
女性	179	19	42	43	15	2	5	69	15	17	13	23	49	10	55	10
	20歳代	5	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	2	0	2	1
	30歳代	12	3	2	2	1	0	2	2	0	2	4	1	4	1	0
	40歳代	24	4	5	7	4	0	1	12	2	3	5	9	2	5	4
	50歳代	44	3	10	13	5	0	2	16	3	5	4	8	13	1	20
	60歳代	47	6	12	8	4	2	1	19	6	6	1	3	13	1	12
	70歳以上	47	3	13	11	1	0	1	19	4	2	2	5	8	5	12
	男性	73	5	9	12	2	0	2	11	5	7	1	2	18	1	37
	20歳代	3	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	2
	30歳代	10	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3	0	7
	40歳代	11	1	2	2	1	0	0	2	0	1	0	1	2	0	2
	50歳代	16	1	3	3	1	0	0	1	2	0	0	4	1	9	
	60歳代	21	2	2	3	0	0	0	3	2	1	0	7	0	13	
	70歳以上	12	1	1	4	0	0	0	3	0	3	0	1	2	0	

. % : 各属性で最も割合が高い

図表 6-17 相談しなかった(できなかった)理由・複数回答【総計, 前回調査】



(5) 男女間における暴力を防止するために必要なこと

問 18 あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 6-18)

男女間における暴力を防止するために必要なことについてみると、「学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」(56.3%)と回答した割合が最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」(48.4%)、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(43.3%)、「加害者への罰則を強化する」(35.0%)、「暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる」(26.6%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 6-18, 図表 6-19)

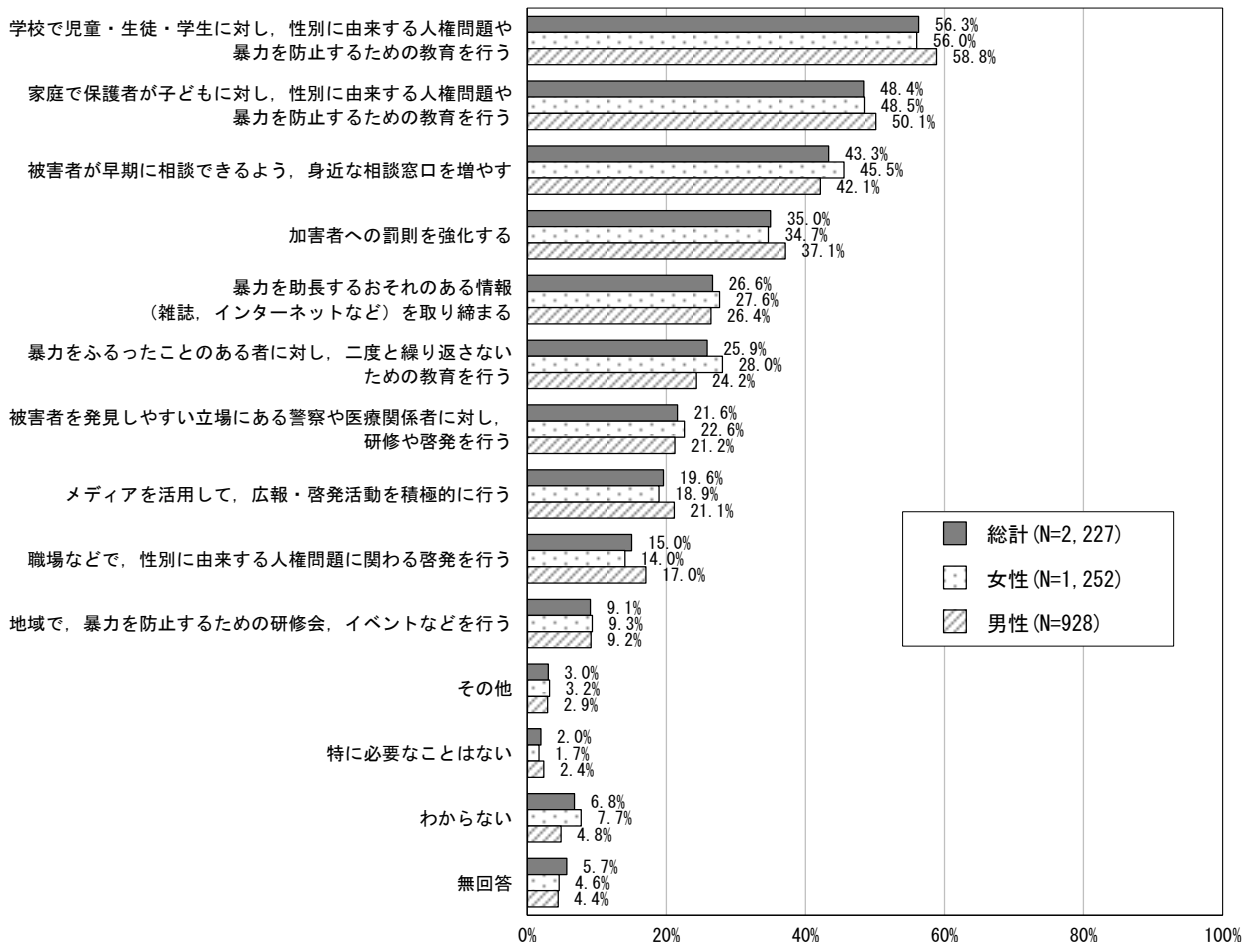
性別でみると、回答傾向に大きな差はみられなかった。

性・年代別でみると、女性の20歳代は「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、男性の30歳代は「加害者への罰則を強化する」と回答した割合が最も高く、その他の年代では「学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う」が最も高くなっており、人権問題や暴力を防止するための若年層への教育が求められていると思われる。

[前回調査との比較] (図表 6-20)

前回調査と比較すると、回答傾向に大きな差はみられなかった。

図表 6-18 男女間における暴力を防止するために必要なこと・複数回答【総計、性別】

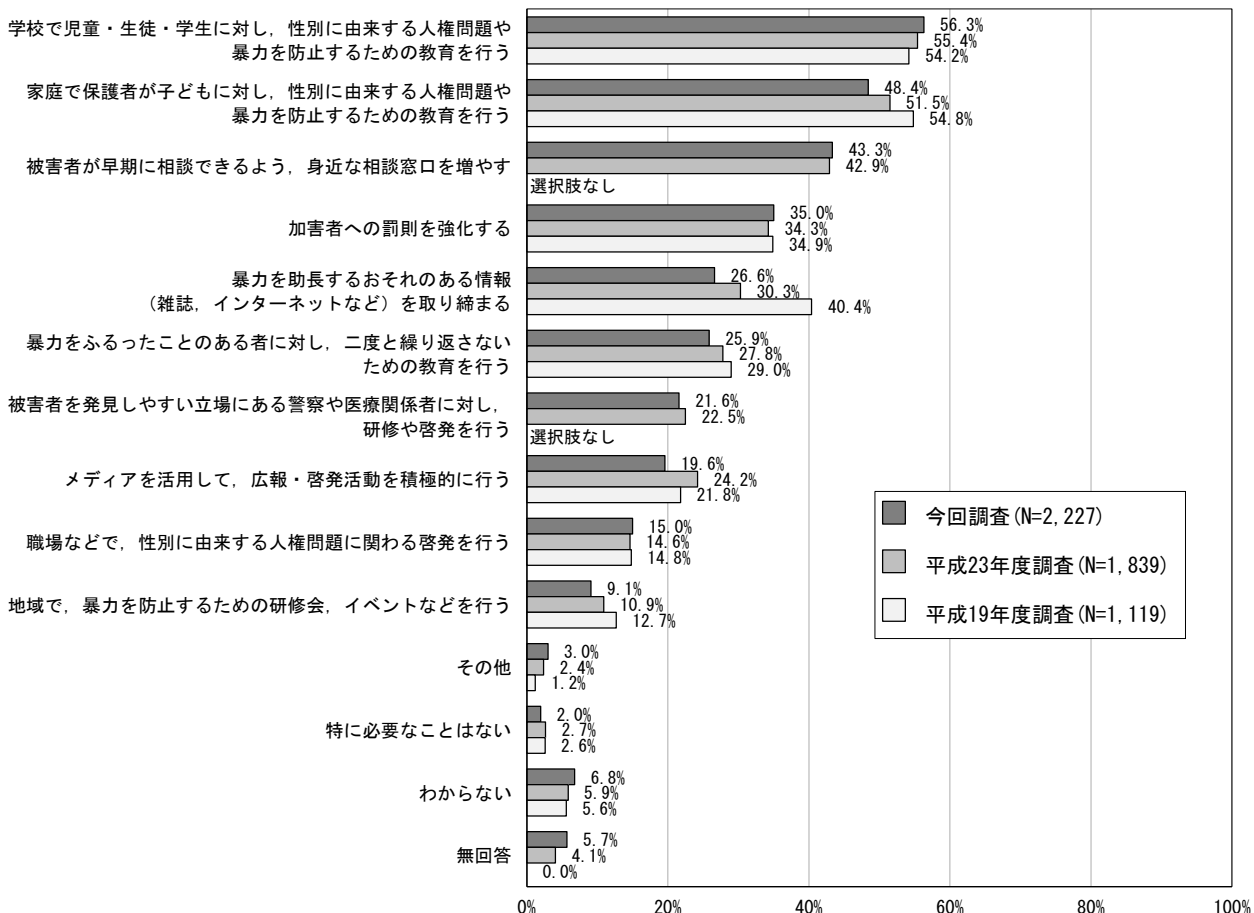


図表 6-19 男女間における暴力を防止するために必要なこと・複数回答【性・年代別】

性・年代別	サンプル数	上段：度数 下段：構成比(%)													
		学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う	家庭で保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
総計	2,227	1,078	1,254	334	203	436	576	780	593	965	481	67	44	151	127
	-	48.4%	56.3%	15.0%	9.1%	19.6%	25.9%	35.0%	26.6%	43.3%	21.6%	3.0%	2.0%	6.8%	5.7%
女性	1,252	607	701	175	117	237	351	434	346	570	283	40	21	97	57
	-	48.5%	56.0%	14.0%	9.3%	18.9%	28.0%	34.7%	27.6%	45.5%	22.6%	3.2%	1.7%	7.7%	4.6%
20歳代	83	29	42	12	9	15	25	38	14	52	20	7	1	4	0
	-	34.9%	50.6%	14.5%	10.8%	18.1%	30.1%	45.8%	16.9%	62.7%	24.1%	8.4%	1.2%	4.8%	0.0%
30歳代	135	65	86	23	12	33	52	75	36	67	44	5	1	6	0
	-	48.1%	63.7%	17.0%	8.9%	24.4%	38.5%	55.6%	26.7%	49.6%	32.6%	3.7%	0.7%	4.4%	0.0%
40歳代	192	115	123	35	16	45	61	85	59	97	58	8	3	4	3
	-	59.9%	64.1%	18.2%	8.3%	23.4%	31.8%	44.3%	30.7%	50.5%	30.2%	4.2%	1.6%	2.1%	1.6%
50歳代	224	126	140	37	22	57	75	79	68	121	61	7	2	10	4
	-	56.3%	62.5%	16.5%	9.8%	25.4%	33.5%	35.3%	30.4%	54.0%	27.2%	3.1%	0.9%	4.5%	1.8%
60歳代	309	154	176	38	30	55	68	95	97	136	59	8	8	28	10
	-	49.8%	57.0%	12.3%	9.7%	17.8%	22.0%	30.7%	31.4%	44.0%	19.1%	2.6%	2.6%	9.1%	3.2%
70歳以上	309	118	134	30	28	32	70	62	72	97	41	5	6	45	40
	-	38.2%	43.4%	9.7%	9.1%	10.4%	22.7%	20.1%	23.3%	31.4%	13.3%	1.6%	1.9%	14.6%	12.9%
男性	928	465	546	158	85	196	225	344	245	391	197	27	22	45	41
	-	50.1%	58.8%	17.0%	9.2%	21.1%	24.2%	37.1%	26.4%	42.1%	21.2%	2.9%	2.4%	4.8%	4.4%
20歳代	56	26	26	10	3	10	15	22	5	25	14	2	1	2	2
	-	46.4%	46.4%	17.9%	5.4%	17.9%	26.8%	39.3%	8.9%	44.6%	25.0%	3.6%	1.8%	3.6%	3.6%
30歳代	95	47	47	18	4	14	23	49	18	45	29	5	4	5	1
	-	49.5%	49.5%	18.9%	4.2%	14.7%	24.2%	51.6%	18.9%	47.4%	30.5%	5.3%	4.2%	5.3%	1.1%
40歳代	119	65	76	20	10	25	38	49	26	50	27	7	1	6	2
	-	54.6%	63.9%	16.8%	8.4%	21.0%	31.9%	41.2%	21.8%	42.0%	22.7%	5.9%	0.8%	5.0%	1.7%
50歳代	165	92	111	31	12	40	39	70	53	70	36	4	1	3	3
	-	55.8%	67.3%	18.8%	7.3%	24.2%	23.6%	42.4%	32.1%	42.4%	21.8%	2.4%	0.6%	1.8%	1.8%
60歳代	277	131	170	46	28	62	63	94	82	126	55	7	7	14	10
	-	47.3%	61.4%	16.6%	10.1%	22.4%	22.7%	33.9%	29.6%	45.5%	19.9%	2.5%	2.5%	5.1%	3.6%
70歳以上	216	104	116	33	28	45	47	60	61	75	36	2	8	15	23
	-	48.1%	53.7%	15.3%	13.0%	20.8%	21.8%	27.8%	28.2%	34.7%	16.7%	0.9%	3.7%	6.9%	10.6%

. % : 各属性で最も割合が高い

図表 6-20 男女間における暴力を防止するために必要なこと・複数回答【総計，前回調査】



(6) メディアにおける性・暴力表現についての意識

問 19 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えますか。(あてはまるものをすべて選択)

[全体] (図表 6-21)

メディアにおける性・暴力表現についての意識についてみると、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」(46.6%)と回答した割合が最も高く、次いで「女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく」(32.8%)、「性に関する社会規範が損なわれている」(29.1%)、「児童に対する性犯罪を助長させる」(23.1%)、「女性に対する暴力を助長させる」(11.8%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 6-21, 図表 6-22)

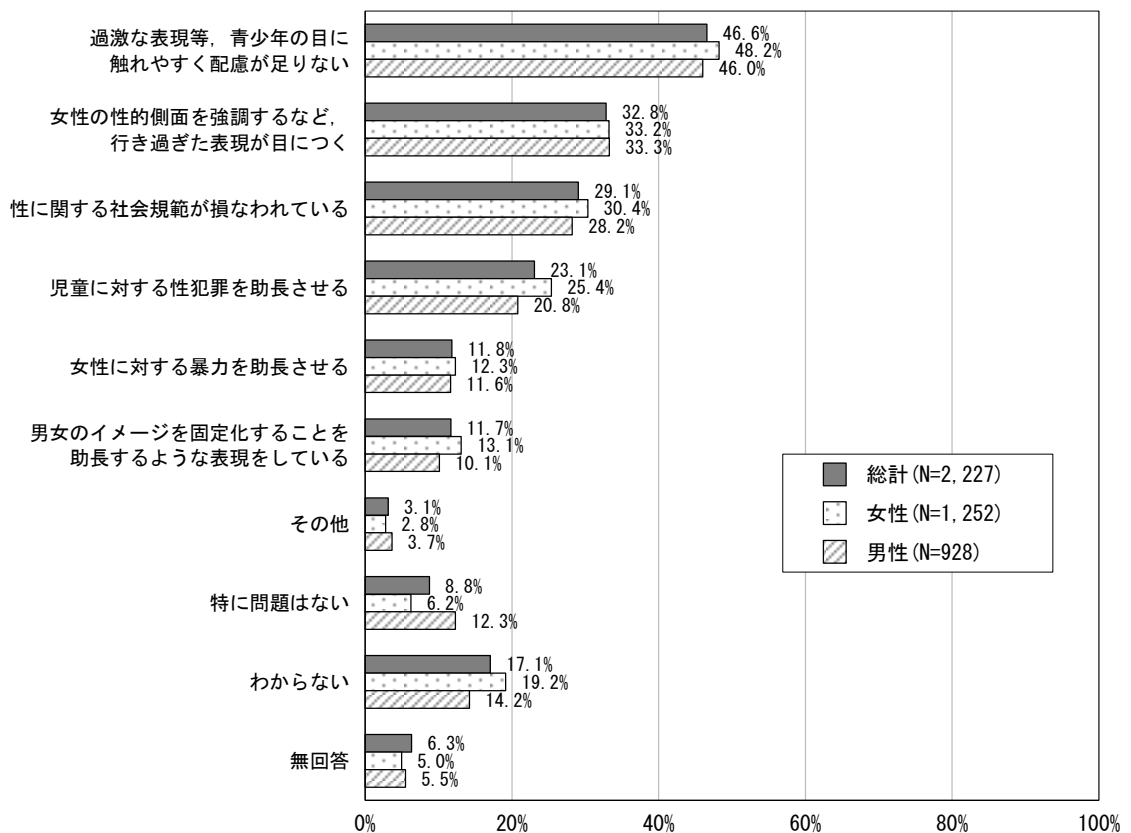
性別でみると、回答傾向に大きな差はみられなかった。

性・年代別でみると、「過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない」と回答した割合は男女とも 50～60 歳代で半数を超えており、また「女性に対する暴力を助長させる」についても 50 歳代でその他の年代より高くなっている。一方、「特に問題はない」は、男女ともに年代が下がるほど高く、20 歳代男性では 35.7%が回答している。

[前回調査との比較] (図表 6-23)

前回調査と比較して、回答傾向に大きな差はみられなかったが、「特に問題はない」、「わからない」は増加の傾向がみられ、各メディアにおける性・暴力表現についての意識は減少の傾向がみられた。

図表 6-21 メディアにおける性・暴力表現についての意識・複数回答【総計、性別】

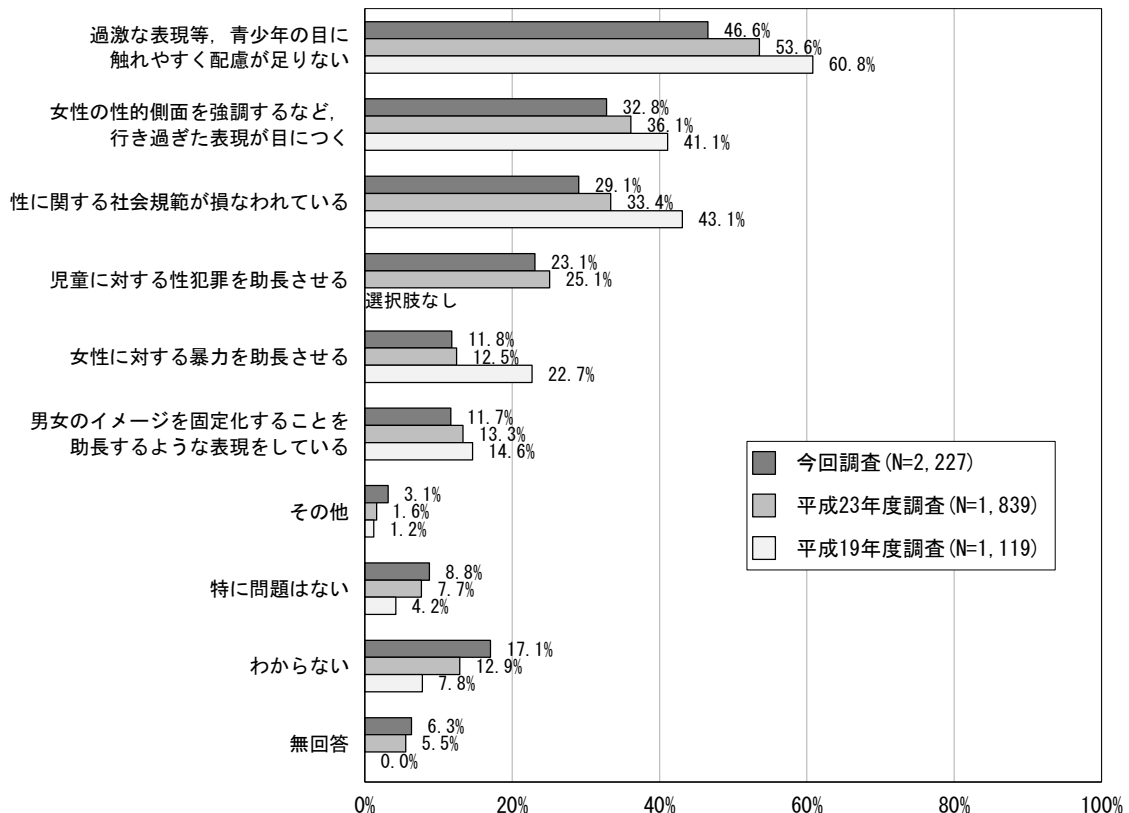


図表 6-22 メディアにおける性・暴力表現についての意識・複数回答【性・年代別】

	サンプル数	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性
		性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく	性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく
総計	2,227	731	647	263	1,037	260	514	70	195	380	141				
	-	32.8%	29.1%	11.8%	46.6%	11.7%	23.1%	3.1%	8.8%	17.1%	6.3%				
女性	1,252	416	380	154	604	164	318	35	78	240	62				
	-	33.2%	30.4%	12.3%	48.2%	13.1%	25.4%	2.8%	6.2%	19.2%	5.0%				
20歳代	83	16	14	8	27	15	19	5	14	17	0				
	-	19.3%	16.9%	9.6%	32.5%	18.1%	22.9%	6.0%	16.9%	20.5%	0.0%				
30歳代	135	38	20	15	58	12	29	5	10	37	1				
	-	28.1%	14.8%	11.1%	43.0%	8.9%	21.5%	3.7%	7.4%	27.4%	0.7%				
40歳代	192	59	56	20	92	26	55	9	13	33	5				
	-	30.7%	29.2%	10.4%	47.9%	13.5%	28.6%	4.7%	6.8%	17.2%	2.6%				
50歳代	224	93	77	41	125	36	68	5	9	35	5				
	-	41.5%	34.4%	18.3%	55.8%	16.1%	30.4%	2.2%	4.0%	15.6%	2.2%				
60歳代	309	113	123	34	163	38	88	8	19	53	9				
	-	36.6%	39.8%	11.0%	52.8%	12.3%	28.5%	2.6%	6.1%	17.2%	2.9%				
70歳以上	309	97	90	36	139	37	59	3	13	65	42				
	-	31.4%	29.1%	11.7%	45.0%	12.0%	19.1%	1.0%	4.2%	21.0%	13.6%				
男性	928	309	262	108	427	94	193	34	114	132	51				
	-	33.3%	28.2%	11.6%	46.0%	10.1%	20.8%	3.7%	12.3%	14.2%	5.5%				
20歳代	56	14	10	2	7	5	4	2	20	12	3				
	-	25.0%	17.9%	3.6%	12.5%	8.9%	7.1%	3.6%	35.7%	21.4%	5.4%				
30歳代	95	15	14	10	32	10	17	8	26	13	2				
	-	15.8%	14.7%	10.5%	33.7%	10.5%	17.9%	8.4%	27.4%	13.7%	2.1%				
40歳代	119	37	23	14	48	14	29	8	18	15	2				
	-	31.1%	19.3%	11.8%	40.3%	11.8%	24.4%	6.7%	15.1%	12.6%	1.7%				
50歳代	165	51	64	27	97	23	32	5	11	18	3				
	-	30.9%	38.8%	16.4%	58.8%	13.9%	19.4%	3.0%	6.7%	10.9%	1.8%				
60歳代	277	118	98	30	154	27	66	8	17	35	11				
	-	42.6%	35.4%	10.8%	55.6%	9.7%	23.8%	2.9%	6.1%	12.6%	4.0%				
70歳以上	216	74	53	25	89	15	45	3	22	39	30				
	-	34.3%	24.5%	11.6%	41.2%	6.9%	20.8%	1.4%	10.2%	18.1%	13.9%				

.% : 各属性で最も割合が高い

図表 6-23 メディアにおける性・暴力表現についての意識・複数回答【総計, 前回調査】



7. 男女共同参画センターについて

(1) 「県男女共同参画センター」の認知・利用経験

問 20 県では、男女共同参画を推進するための総合的活動拠点施設として、かごしま県民交流センター内に「県男女共同参画センター」を設置していますが、あなたは、同センターの事業を利用したことがありますか。(各項目であてはまるものを1つだけ選択)

[全体] (図表 7-1)

「県男女共同参画センター」の認知・利用経験についてみると、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた割合は「意識啓発・人材育成事業」(13.9%)が最も高く、次いで「情報提供事業」(12.1%)、「相談事業」(10.4%)となっている。一方、利用したことが「まったくない」と回答した割合は、「意識啓発・人材育成事業」(81.1%)、「相談事業」(83.8%)、「情報提供事業」(81.9%)で全ての事業において8割を超えている。

[性別、性・年代別] (図表 7-2, 図表 7-3)

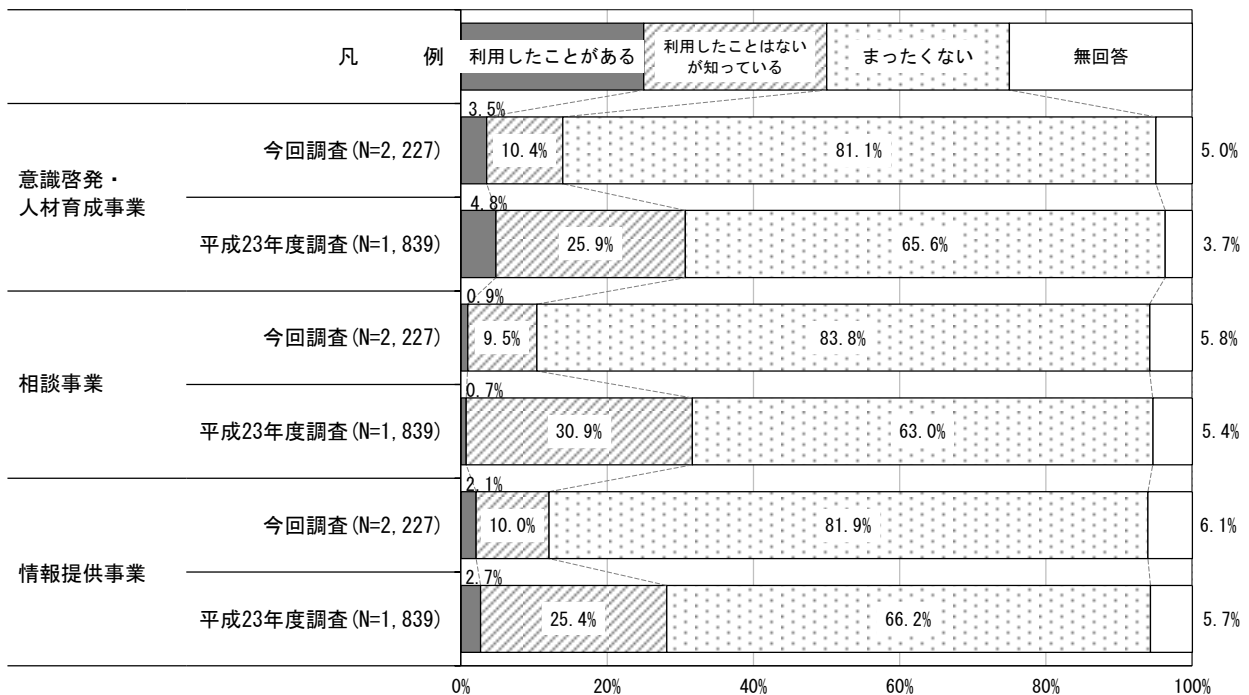
性別でみると、全ての事業で「利用したことがある」、「利用したことはないが知っている」と回答した割合が女性の方が男性より高くなっている。

性・年代別でみると、女性は全ての事業について40歳代で「利用したことがある」と回答した割合が高くなっている。男性は年代による回答傾向に大きな差はみられなかった。

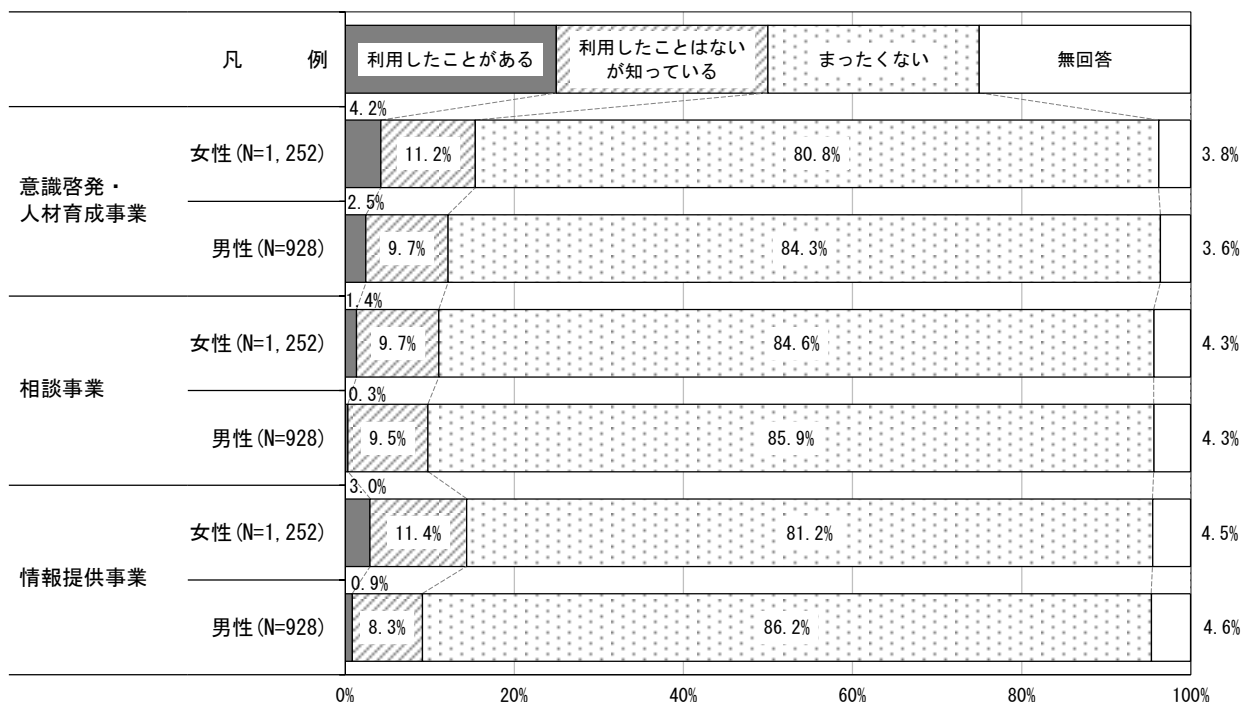
[前回比較との比較] (図表 7-1)

前回調査と比較すると、全ての事業で「利用したことがある」と回答した割合はほぼ同じである。

図表 7-1 「県男女共同参画センター」の認知・利用経験【総計、前回調査】



図表 7-2 「県男女共同参画センター」の認知・利用経験【性別】



図表 7-3 「県男女共同参画センター」の認知・利用経験【性・年代別】

	サンプル数	意識啓発・人材育成事業				相談事業				情報提供事業					
		利用したことがある	利用したことはないが知っている	まったくない	無回答	利用したことがある	利用したことはないが知っている	まったくない	無回答	利用したことがある	利用したことはないが知っている	まったくない	無回答		
総計	2,227	78	232	1,806	111	20	211	1,866	130	46	222	1,824	135		
		100.0%	3.5%	10.4%	81.1%	5.0%	0.9%	9.5%	83.8%	5.8%	2.1%	10.0%	81.9%	6.1%	
性・年代別	女性	1,252	53	140	1012	47	17	122	1059	54	37	143	1016	56	
			100.0%	4.2%	11.2%	80.8%	3.8%	1.4%	9.7%	84.6%	4.3%	3.0%	11.4%	81.2%	4.5%
	20歳代	83	3	7	73	0	1	6	76	0	2	8	73	0	
			100.0%	3.6%	8.4%	88.0%	0.0%	1.2%	7.2%	91.6%	0.0%	2.4%	9.6%	88.0%	0.0%
	30歳代	135	4	10	121	0	2	10	123	0	6	14	115	0	
			100.0%	3.0%	7.4%	89.6%	0.0%	1.5%	7.4%	91.1%	0.0%	4.4%	10.4%	85.2%	0.0%
	40歳代	192	12	27	150	3	4	27	157	4	5	32	152	3	
			100.0%	6.3%	14.1%	78.1%	1.6%	2.1%	14.1%	81.8%	2.1%	2.6%	16.7%	79.2%	1.6%
	50歳代	224	8	21	192	3	4	16	201	3	7	24	191	2	
			100.0%	3.6%	9.4%	85.7%	1.3%	1.8%	7.1%	89.7%	1.3%	3.1%	10.7%	85.3%	0.9%
	60歳代	309	13	46	246	4	6	33	265	5	6	42	254	7	
			100.0%	4.2%	14.9%	79.6%	1.3%	1.9%	10.7%	85.8%	1.6%	1.9%	13.6%	82.2%	2.3%
	70歳以上	309	13	29	230	37	0	30	237	42	11	23	231	44	
			100.0%	4.2%	9.4%	74.4%	12.0%	0.0%	9.7%	76.7%	13.6%	3.6%	7.4%	74.8%	14.2%
男性	928	23	90	782	33	3	88	797	40	8	77	800	43		
		100.0%	2.5%	9.7%	84.3%	3.6%	0.3%	9.5%	85.9%	4.3%	0.9%	8.3%	86.2%	4.6%	
20歳代	56	0	4	49	3	0	7	46	3	2	3	49	2		
		100.0%	0.0%	7.1%	87.5%	5.4%	0.0%	12.5%	82.1%	5.4%	3.6%	5.4%	87.5%	3.6%	
30歳代	95	2	9	81	3	0	12	81	2	1	8	85	1		
		100.0%	2.1%	9.5%	85.3%	3.2%	0.0%	12.6%	85.3%	2.1%	1.1%	8.4%	89.5%	1.1%	
40歳代	119	2	12	103	2	0	13	104	2	0	12	104	3		
		100.0%	1.7%	10.1%	86.6%	1.7%	0.0%	10.9%	87.4%	1.7%	0.0%	10.1%	87.4%	2.5%	
50歳代	165	2	17	145	1	0	14	150	1	0	14	148	3		
		100.0%	1.2%	10.3%	87.9%	0.6%	0.0%	8.5%	90.9%	0.6%	0.0%	8.5%	89.7%	1.8%	
60歳代	277	9	27	237	4	1	24	245	7	2	25	243	7		
		100.0%	3.2%	9.7%	85.6%	1.4%	0.4%	8.7%	88.4%	2.5%	0.7%	9.0%	87.7%	2.5%	
70歳以上	216	8	21	167	20	2	18	171	25	3	15	171	27		
		100.0%	3.7%	9.7%	77.3%	9.3%	0.9%	8.3%	79.2%	11.6%	1.4%	6.9%	79.2%	12.5%	

. % : 各属性で最も割合が高い

(2) 男女共同参画の拠点施設として「県男女共同参画センター」に期待する役割

問 21 あなたは今後、「県男女共同参画センター」に男女共同参画の拠点施設としてどのような役割を期待しますか。(あてはまるものを3つ以内で選択)

[全体] (図表 7-4)

男女共同参画の拠点施設として「県男女共同参画センター」に期待する役割についてみると、「男女共同参画を各地域で推進する人材の育成」(22.7%)と回答した割合が最も高く、次いで「企業や学校等を対象とした男女共同参画を推進するためのセミナーの開催」(21.6%)と「女性の再就職やキャリアアップなどを支援するための講座の開催」(21.6%)、「男女共同参画に関する多様な学習機会の提供」(18.6%)、「男女共同参画に関する講演会、フォーラム等の開催」(16.3%)の順となっている。

[性別／性・年代別] (図表 7-4, 図表 7-5)

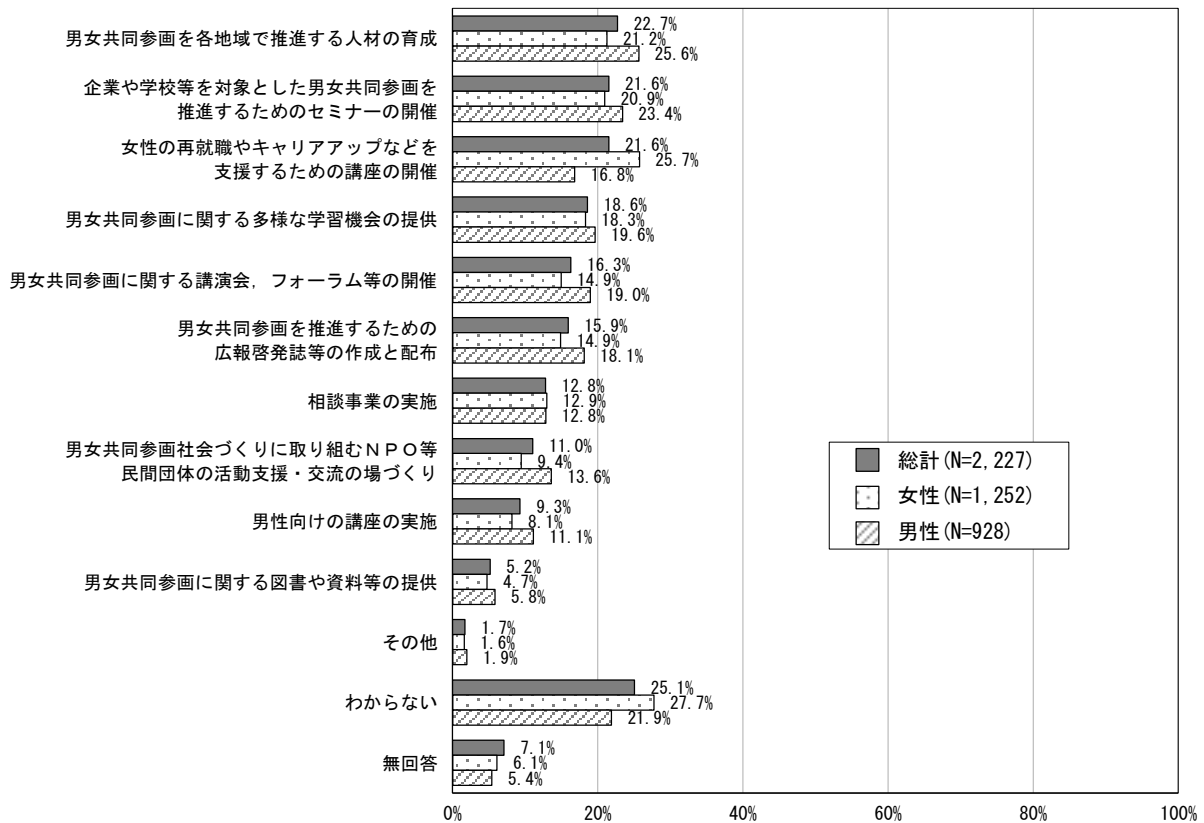
性別でみると、女性は「女性の再就職やキャリアアップなどを支援するための講座の開催」と回答した割合が男性より8.9ポイント高く、男性は「男女共同参画を各地域で推進する人材の育成」、「男女共同参画社会づくりに取り組むNPO等民間団体の活動支援・交流の場づくり」などで回答割合が女性より高くなっている。

性・年代別でみると、女性の20～50歳代と男性の40歳代の各年代において「女性の再就職やキャリアアップなどを支援するための講座の開催」と回答した割合が最も高くなっている。

[前回調査との比較] (図表 7-6)

前回調査と比較して、回答傾向に大きな差はみられなかった。

図表 7-4 男女共同参画の拠点施設として「県男女共同参画センター」に期待する役割・複数回答【総計, 性別】

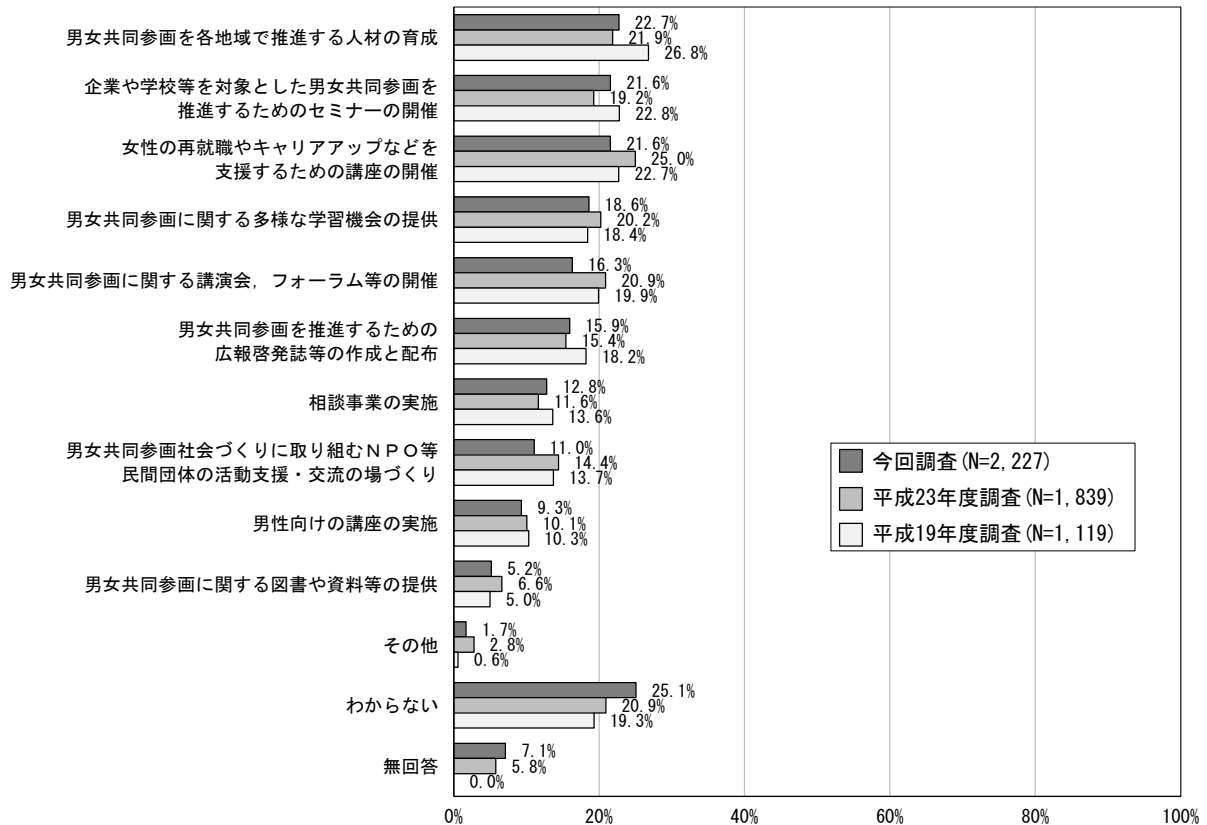


図表 7-5 男女共同参画の拠点施設として「県男女共同参画センター」に期待する役割・複数回答【性・年代別】

サンプル数	期待する役割・複数回答													
	男女共同参画に関する講演会、フォーラム等の開催	男女共同参画に関する多様な学習機会の提供	男女共同参画を各地域で推進する人材の育成	企業や学校等を対象とした男女共同参画を推進するためのセミナーの開催	女性の再就職やキャリアアップなどを支援するための講座の開催	男性向けの講座の実施	相談事業の実施	男女共同参画社会づくりに取り組むNPO等民間団体の活動支援・交流の場づくり	男女共同参画に関する図書や資料等の提供	その他	わからない	無回答		
総計	2,227	363	414	506	480	480	207	285	246	115	355	38	558	158
	-	16.3%	18.6%	22.7%	21.6%	21.6%	9.3%	12.8%	11.0%	5.2%	15.9%	1.7%	25.1%	7.1%
女性	1,252	187	229	266	262	322	102	162	118	59	186	20	347	76
	-	14.9%	18.3%	21.2%	20.9%	25.7%	8.1%	12.9%	9.4%	4.7%	14.9%	1.6%	27.7%	6.1%
20歳代	83	2	9	15	24	30	11	19	12	6	9	1	23	0
	-	2.4%	10.8%	18.1%	28.9%	36.1%	13.3%	22.9%	14.5%	7.2%	10.8%	1.2%	27.7%	0.0%
30歳代	135	14	22	23	32	56	15	22	12	5	16	2	29	3
	-	10.4%	16.3%	17.0%	23.7%	41.5%	11.1%	16.3%	8.9%	3.7%	11.9%	1.5%	21.5%	2.2%
40歳代	192	33	41	34	54	66	20	30	13	6	19	6	39	6
	-	17.2%	21.4%	17.7%	28.1%	34.4%	10.4%	15.6%	6.8%	3.1%	9.9%	3.1%	20.3%	3.1%
50歳代	224	39	49	48	50	71	18	32	22	11	35	3	54	7
	-	17.4%	21.9%	21.4%	22.3%	31.7%	8.0%	14.3%	9.8%	4.9%	15.6%	1.3%	24.1%	3.1%
60歳代	309	58	67	92	56	66	21	42	32	21	53	3	81	15
	-	18.8%	21.7%	29.8%	18.1%	21.4%	6.8%	13.6%	10.4%	6.8%	17.2%	1.0%	26.2%	4.9%
70歳以上	309	41	41	54	46	33	17	17	27	10	54	5	121	45
	-	13.3%	13.3%	17.5%	14.9%	10.7%	5.5%	5.5%	8.7%	3.2%	17.5%	1.6%	39.2%	14.6%
男性	928	176	182	238	217	156	103	119	126	54	168	18	203	50
	-	19.0%	19.6%	25.6%	23.4%	16.8%	11.1%	12.8%	13.6%	5.8%	18.1%	1.9%	21.9%	5.4%
20歳代	56	6	6	15	14	12	11	8	6	5	4	0	16	3
	-	10.7%	10.7%	26.8%	25.0%	21.4%	19.6%	14.3%	10.7%	8.9%	7.1%	0.0%	28.6%	5.4%
30歳代	95	10	18	19	18	21	14	16	9	5	14	3	22	2
	-	10.5%	18.9%	20.0%	18.9%	22.1%	14.7%	16.8%	9.5%	5.3%	14.7%	3.2%	23.2%	2.1%
40歳代	119	14	12	29	25	32	23	24	14	6	11	5	29	4
	-	11.8%	10.1%	24.4%	21.0%	26.9%	19.3%	20.2%	11.8%	5.0%	9.2%	4.2%	24.4%	3.4%
50歳代	165	34	43	43	46	27	15	26	25	8	34	3	39	1
	-	20.6%	26.1%	26.1%	27.9%	16.4%	9.1%	15.8%	15.2%	4.8%	20.6%	1.8%	23.6%	0.6%
60歳代	277	62	57	77	75	43	27	32	33	18	59	4	50	14
	-	22.4%	20.6%	27.8%	27.1%	15.5%	9.7%	11.6%	11.9%	6.5%	21.3%	1.4%	18.1%	5.1%
70歳以上	216	50	46	55	39	21	13	13	39	12	46	3	47	26
	-	23.1%	21.3%	25.5%	18.1%	9.7%	6.0%	6.0%	18.1%	5.6%	21.3%	1.4%	21.8%	12.0%

● : 各属性で最も割合が高い

図表 7-6 男女共同参画の拠点施設として「県男女共同参画センター」に期待する役割・複数回答【総計、前回調査】



8. 県の男女共同参画施策について

(1) 「男女共同参画社会」を形成していくために県が力を入れるべきこと

問 22 あなたは、「男女共同参画社会」を形成していくために、県は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものを3つ以内で選択)

[全体] (図表 8-1)

「男女共同参画社会」を形成していくために県が力を入れるべきことについてみると、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」(43.0%)と回答した割合が最も高く、次いで「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」(32.8%)、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」(32.1%)、「女性に対する暴力(セクハラやDVなど)の防止や被害者支援に取り組む」(15.3%)、「学校や家庭で、男女の人権に関わる啓発を進める」(12.6%)の順となっている。

[性別、性・年代別] (図表 8-1, 図表 8-2)

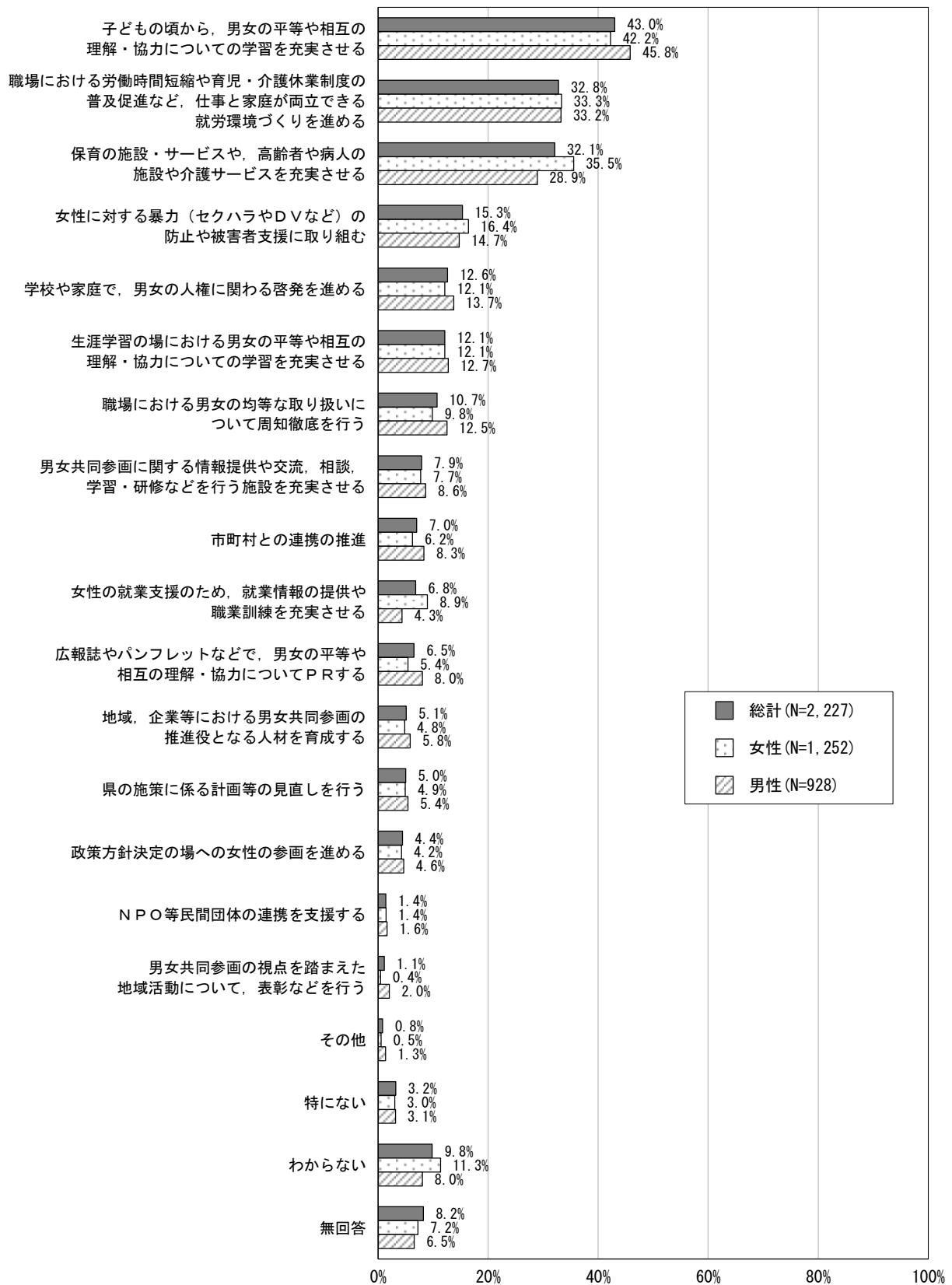
性別で見ると、回答傾向に大きな差はみられなかったが、その中で女性は「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」、「女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実させる」などで、回答割合が男性より高くなっている。

性・年代別で見ると、男女とも30歳代は「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」と回答した割合が最も高くなっている。

[前回調査との比較] (図表 8-3)

前回調査と比較して、「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」と回答した割合は6.4ポイント減少しているが、依然として他の項目より10ポイント以上高くなっており、また「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」と回答した割合が増加傾向にある。

図表 8-1 「男女共同参画社会」を形成していくために県が力を入れるべきこと・複数回答【総計，性別】

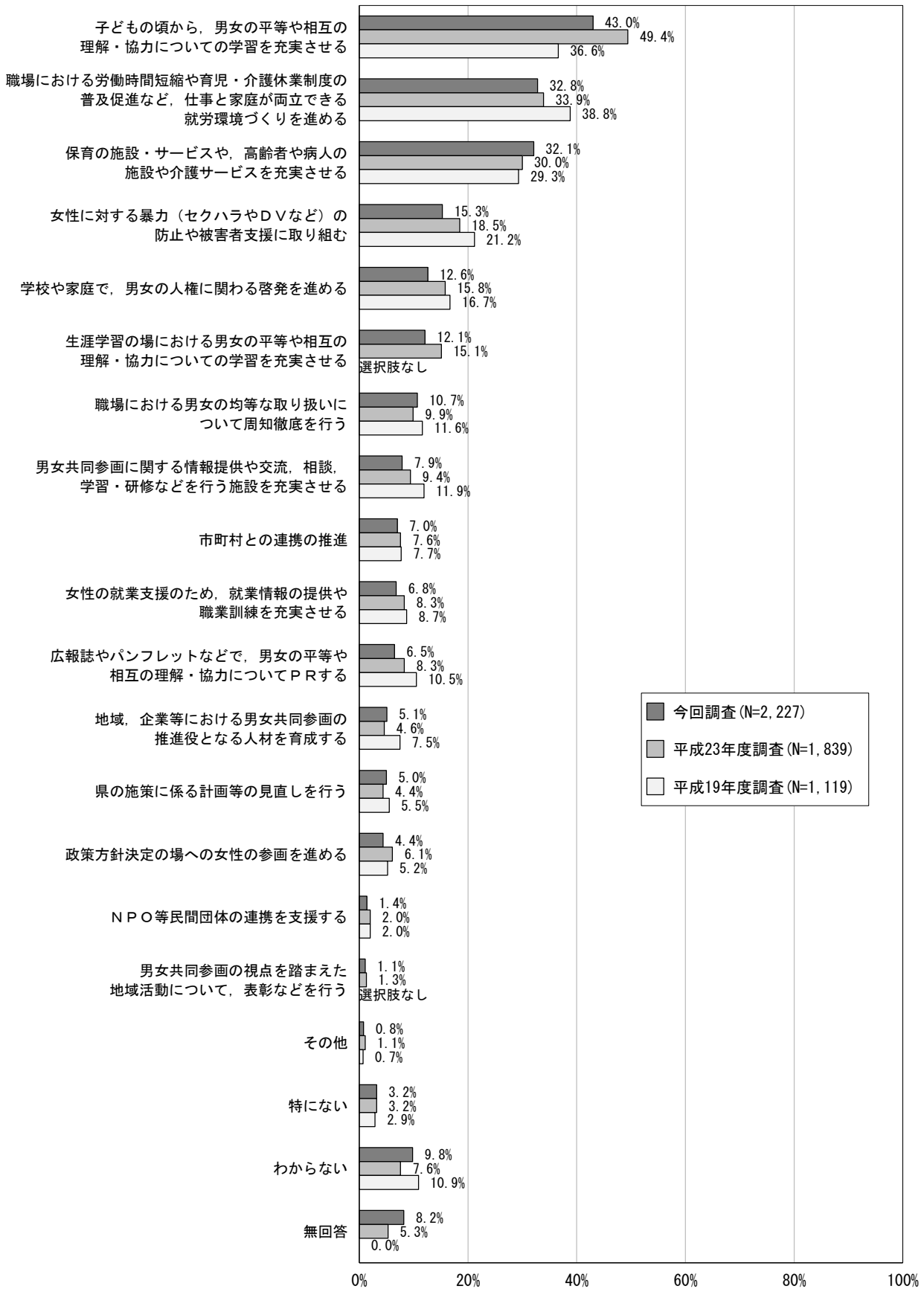


図表 8-2 「男女共同参画社会」を形成していくために県が力を入れるべきこと・複数回答【性・年代別】

	サンプル数	県の実策に係る計画等の見直しを行う																				
		子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる	生涯学習の場における男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる	学校や家庭で、男女の人権に関わる啓発を進める	広報紙やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解・協力についてPRする	女性に対する暴力（セクハラやDVなど）の防止や被害者支援に取り組む	政策方針決定の場への女性の参画を進める	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就業環境づくりを進める	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる	女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実させる	地域・企業等における男女共同参画の推進役となる人材を育成する	NPO等民間団体の連携を支援する	男女共同参画に関する情報提供や交流、相談、学習・研修などを行う施設を充実させる	市町村との連携の推進	男女共同参画の視点を踏まえた地域活動について、表彰などを行う	その他	特になし	わからない	無回答		
上段：度数	下段：構成比(%)																					
総計	2,227	112	958	270	280	144	341	97	239	730	715	152	114	32	176	155	24	18	71	218	182	
	-	5.0%	43.0%	12.1%	12.6%	6.5%	15.3%	4.4%	10.7%	32.8%	32.1%	6.8%	5.1%	1.4%	7.9%	7.0%	1.1%	0.8%	3.2%	9.8%	8.2%	
女性	1,252	61	528	151	151	68	205	52	123	417	444	111	60	17	96	77	5	6	37	142	90	
	-	4.9%	42.2%	12.1%	12.1%	5.4%	16.4%	4.2%	9.8%	33.3%	35.5%	8.9%	4.8%	1.4%	7.7%	6.2%	0.4%	0.5%	3.0%	11.3%	7.2%	
	20歳代	83	9	30	6	6	5	16	3	5	36	39	8	1	1	5	5	1	0	3	8	4
	-	10.8%	36.1%	7.2%	7.2%	6.0%	19.3%	3.6%	6.0%	43.4%	47.0%	9.6%	1.2%	1.2%	6.0%	6.0%	1.2%	0.0%	3.6%	9.6%	4.8%	
	30歳代	135	3	52	12	14	3	28	7	21	74	52	29	4	2	6	13	0	1	1	9	2
	-	2.2%	38.5%	8.9%	10.4%	2.2%	20.7%	5.2%	15.6%	54.8%	38.5%	21.5%	3.0%	1.5%	4.4%	9.6%	0.0%	0.7%	0.7%	6.7%	1.5%	
	40歳代	192	8	92	24	29	7	25	9	28	70	78	17	7	1	17	5	1	2	7	14	10
	-	4.2%	47.9%	12.5%	15.1%	3.6%	13.0%	4.7%	14.6%	36.5%	40.6%	8.9%	3.6%	0.5%	8.9%	2.6%	0.5%	1.0%	3.6%	7.3%	5.2%	
	50歳代	224	9	102	20	35	12	55	11	22	74	71	31	14	3	21	12	1	0	7	25	9
	-	4.0%	45.5%	8.9%	15.6%	5.4%	24.6%	4.9%	9.8%	33.0%	31.7%	13.8%	6.3%	1.3%	9.4%	5.4%	0.4%	0.0%	3.1%	11.2%	4.0%	
	60歳代	309	18	155	43	37	25	46	10	25	97	110	16	20	6	27	25	1	2	8	26	18
	-	5.8%	50.2%	13.9%	12.0%	8.1%	14.9%	3.2%	8.1%	31.4%	35.6%	5.2%	6.5%	1.9%	8.7%	8.1%	0.3%	0.6%	2.6%	8.4%	5.8%	
	70歳以上	309	14	97	46	30	16	35	12	22	66	94	10	14	4	20	17	1	1	11	60	47
	-	4.5%	31.4%	14.9%	9.7%	5.2%	11.3%	3.9%	7.1%	21.4%	30.4%	3.2%	4.5%	1.3%	6.5%	5.5%	0.3%	0.3%	3.6%	19.4%	15.2%	
男性	928	50	425	118	127	74	136	43	116	308	268	40	54	15	80	77	19	12	29	74	60	
-	5.4%	45.8%	12.7%	13.7%	8.0%	14.7%	4.6%	12.5%	33.2%	28.9%	4.3%	5.8%	1.6%	8.6%	8.3%	2.0%	1.3%	3.1%	8.0%	6.5%		
20歳代	56	6	22	12	5	0	6	5	12	19	11	2	2	3	5	3	0	3	3	3	2	
-	10.7%	39.3%	21.4%	8.9%	0.0%	10.7%	8.9%	21.4%	33.9%	19.6%	3.6%	3.6%	5.4%	5.4%	8.9%	5.4%	0.0%	5.4%	5.4%	3.6%		
30歳代	95	7	35	6	7	4	19	3	10	45	32	7	2	1	1	7	2	4	7	7	6	
-	7.4%	36.8%	6.3%	7.4%	4.2%	20.0%	3.2%	10.5%	47.4%	33.7%	7.4%	2.1%	1.1%	1.1%	7.4%	2.1%	4.2%	7.4%	7.4%	6.3%		
40歳代	119	7	51	12	14	4	20	8	19	38	43	8	7	1	8	10	1	5	4	12	2	
-	5.9%	42.9%	10.1%	11.8%	3.4%	16.8%	6.7%	16.0%	31.9%	36.1%	6.7%	5.9%	0.8%	6.7%	8.4%	0.8%	4.2%	3.4%	10.1%	1.7%		
50歳代	165	9	88	24	21	17	34	7	21	60	50	9	14	2	14	16	3	1	2	9	3	
-	5.5%	53.3%	14.5%	12.7%	10.3%	20.6%	4.2%	12.7%	36.4%	30.3%	5.5%	8.5%	1.2%	8.5%	9.7%	1.8%	0.6%	1.2%	5.5%	1.8%		
60歳代	277	9	141	35	51	29	38	8	31	95	81	5	16	4	34	23	5	1	9	19	13	
-	3.2%	50.9%	12.6%	18.4%	10.5%	13.7%	2.9%	11.2%	34.3%	29.2%	1.8%	5.8%	1.4%	12.3%	8.3%	1.8%	0.4%	3.2%	6.9%	4.7%		
70歳以上	216	12	88	29	29	20	19	12	23	51	51	9	13	4	20	16	5	1	4	24	34	
-	5.6%	40.7%	13.4%	13.4%	9.3%	8.8%	5.6%	10.6%	23.6%	23.6%	4.2%	6.0%	1.9%	9.3%	7.4%	2.3%	0.5%	1.9%	11.1%	15.7%		

※ % : 各属性で最も割合が高い

図表 8-3 「男女共同参画社会」を形成していくために県が力を入れるべきこと・複数回答【総計, 前回調査】



(2) 男女共同参画社会の実現に向けた意見・要望等（自由意見）

問 23 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。（自由記述）

寄せられた自由意見の件数は 335 件であり、主な意見・要望を掲載した。

また、その内容は「男女共同参画に対する意識について」（59 件）「男女共同参画社会の形成について」（55 件）、「就業について」（31 件）、「男女共同参画に関する教育について」（21 件）、「男女共同参画に向けた啓発活動について」（20 件）、「子育てについて」（21 件）、「男女共同参画に向けた行政の取り組みについて」（14 件）、「家庭生活について」（5 件）、「その他」（109 件）となっている

■ 男女共同参画に対する意識について（59 件）

【主な意見】

- 男尊女卑であるといわれやすい鹿児島県ですが、少しずつ変化はあると感じています。（女性・30 歳代）
- 男らしさ、女らしさに固執し過ぎることなく、その人らしく生活できるのが理想ですが…。自分の足りない所は助けてもらったり、自分出来る事で相手に返す。お互いに助け合って尊重しあっていけたら、いいなと思います。的外れでしたらすみません。（女性・40 歳代）
- 女性の管理職が増えたり、男性の保育士や看護師が増えたり、仕事に関しては過去より偏りが無くなってきていると思う。しかし、女性が働き男性が家事をする家庭への偏見がある。（女性・40 歳代）
- 男女の人権についてで言えば、最近女性の言葉づかいはとてもきつくて、女性から男性への暴言や夫へ手をあげる妻も多くいると聞いています。そういう男性からの声も聞いてあげる場所も必要だと思います。職場や家庭においてもお互いへの感謝の気持ちをもっと大切にできたらと思います。（女性・50 歳代）
- 自分自身が女性として差別をあまり感じる事がなかったからかもしれないが、男女で考えるより、個人の特性をいかせる社会になって欲しい。他人のことを考えられる人は男だから女だからと差別することは無いと考えるので、まずは小さい頃からの家庭環境を整えることが大事ではないかと感じます。（女性・50 歳代）
- 人間としての個々の尊重、どう頑張っても、男性の力には勝てないし、でも子供は産めない、それぞれに助け合い思いやりを大切にして、男だから女だからではなく、人間として大切な事を教育していけばと思う。（女性・60 歳代）
- 男女が平等で、お互いに助け合っていく社会であって欲しいです。（女性・60 歳代）
- 女性だから男性だからとの思い込みをなくし、自ら意識を高く持ち、互いに尊敬し合う社会であってほしい。本県は歴史的に女性の地位が低いのか「オナゴンクセニ」という言葉が、どこかに残っているような気がする。地域活動においても、男性中心の風潮が強いとみます。（女性・70 歳以上）
- 現在、20 代の人はい少ないと思うが、40 代、50 代の方は女性が家庭を支え、男性が経済的な部分を支えれば良い思ってる人が多いと思う。今はその逆があっても良いと思う。それはおかしいと思ううちは、対等な社会の実現は、難しいと思う。（男性・20 歳代）
- 男・女の対等な立場、平等は重要な問題だと思う。（男性・30 歳代）
- 今後よりいっそう男女共同参画について勉強していきたいと考えている。（知識を得て、充実した日々を送りたい）（男性・40 歳代）
- 様々な事案があり、実現には困難もあろうかと思いますが、人権の尊重という憲法の理念の実現のために、一步一步進んで、住みよい社会が実現していけばと考えます。（男性・40 歳代）
- 女性側の意識改革を同時に行わなければ、行政がどんなに努力をしても徒労になってしまう。（男性・50 歳代）

- 男女共同参画，男女にかかわらず仕事ができる社会になってほしい。(男性・50歳代)
- 男女共同参画とは子供からお年寄りまで全ての人々が差別なく（ノーマライゼーション）社会に参加し，職場，地域，家庭において全てが平等の意識を共有すべきものであり，人としてお互い尊重の心を育てる雰囲気のニオイが漂う生活にある。(男性・60歳代)
- 特に男性の長時間労働が，家事や育児を女性任せにしてしまう要因だと思う。ワーク・ライフ・バランスの生活ができるように社会全体として取組み，意識づけすることが大切だと思います。(男性・60歳代)

■ 男女共同参画社会の形成について (55件)

【主な意見】

- 鹿児島は，まだ男尊女卑の考えが根付いている気がします。(特に年配の方々)女性が働きやすい環境が出来ていたら，ありがたいです。(女性・20歳代)
- 結婚をし，子供がいる女性の事を取りあげることが多いように思うが，未婚であったり子供を産むことができない女性への偏見のようなものを減らすことも頭のすみっこのほうにでも置いていて欲しいと思います。選択肢を広げ，お互い（年代，性別関係なく）を理解し，個々の判断した事をバックアップできるような社会人になるといいなと思います。(女性・30歳代)
- 女性自身も自覚をもつべきで，独立心の強い女性は生きにくい社会のようです。(特にここ鹿児島は)(女性・40歳代)
- 社会の中で「家事は女性がすべき」という考え方が変わる日が，いつか来る日を願っているが，当分の間は無理だと思う。特に，鹿児島は古い考え方の方々が多く，難しいと思う。(女性・40歳代)
- 男性が，家事，育児，介護等にそれだけ積極的に取り組んでいるか，人事考課の参考の1つにしてはどうかと思います。実際にやって，両立する大変さ，工夫等は，業務にも役立つことではないでしょうか。(女性・40歳代)
- 可能な範囲で，女性が様々な分野，部署で働けるよう職場や雇主にアピール，教育する。(視察，提案など)1：1の割合で。また，女性だけの職場にも男性を配置するなどして共同参画の意味を高める必要があると思う。(女性・50歳代)
- 男女共同参画社会…とは，就業していない女性（男性）は社会に参加していないかのように聞こえる。専業主婦（夫）や家事従事者を除外しているのか？専業主婦でも，婦人会やPTAなど地域の一員として立派に社会参加，社会貢献していることをもっと評価すべき。(女性・50歳代)
- 昔から言われている男，女だからとか，らしくなど，偏見を持たずお互い相手の意見をよく聞き，また自分の意見もはっきり言う。(女性・70歳以上)
- 私が勤務している職場でも女性の役席者が増えてきています。これからの社会に女性の力，知識，気づきなどが必要となってくると思いますので，ぜひ県の施策などにより男女共同の社会実現に向けて尽力を願います。(男性・20歳代)
- 出産後の女性の社会復帰しやすい環境づくりに力を入れてほしい。(男性・30歳代)
- 鹿児島県全域の活性化，新規事業者へのサポートなどで女性がリーダーになり活躍できる場が増えていくと良い。(男性・30歳代)
- 男女共同参画社会を進めていく上で，逆に専業主婦や昇進を希望しない方もしっかりフォロー（認める）が必要。(男性・40歳代)
- 能力は人それぞれ経験の積み重ねだと思います。より多くの経験が出来る環境があったらと思う。(男性・50歳代)
- 「男女共同参画社会の実現」について，認識が不足している。学校・職場・自治会等で講演を行い（あらゆる機会を通して）意識を向上させる施策が必要ではないかと思われる。(男性・60歳代)

- 各市町村における公的機関（学校・市町村等）の女性職員の管理職への登用が、重要である。（男性・70歳以上）
- 市町村の議会議員への女性の進出が必要である。（男性・70歳以上）

■ 就業について（31件）

【主な意見】

- 私が今の職場でもし出産ということになった時、産休や育児休暇といったものに非常に不安があります。出産後の職場復帰は私には難しい気がします。そういった企業が少しでも変わっていつでももらえるようによろしくお願いします。（女性・20歳代）
- 女性向けの再就職のための様々な研修があるが、いざ就活すると、子供が小さいなどの理由で採用にならない。フルタイムで働きたいが、そこには環境の整備や企業の理解が必要だと思う。そういう面では県や市の公務員職は割と理解があるように思うが、一般企業は厳しいのが現実。地域性（九州？）もあり、まだまだ男性社会であると思うので、幼少からの家庭教育（学校）地域の中で、男女差別のない教育が必要。でも10年前に比べると改善傾向にあると思う。（女性・30歳代）
- 男＝休暇制度を知らない、取得困難。（私のパートナーは育休を取りました。）女＝働きたくても家庭を優先しなければならない。（保育、介護の問題）「長時間労働ではなく時間内で効率のよい動きを」「男性は仕事、女性ではだめ、ではなく、同じスタッフとして同じ仕事を」「家庭を守るのは女性ではなく大人」生活をしていて、考え方を変えたら、「今よりもっと良くなるのに…」と思う事が多々あります。（女性・30歳代）
- 女性が子育てで離職するケースは多いですが、男女共に介護による離職もあり、再就職も厳しくなると聞いています。ブランクがあっても仕事が得やすい環境や、元気のある中小企業が鹿児島県に増えることを願います。（女性・30歳代）
- 育児休業を民間も3年、時間短縮勤務を長期間とれるようにしたり、夫のサポートももっと得られれば働ける人が多くなると思います。（女性・40歳代）
- 以前管理職になり、責任を持って働いていこうと努力していましたが、女性が指示をしたり責任の重い言動として扱われたりすることに対してまわりの様子はあまりよくなく、認めてもらいたいと毎日仕事に打ち込んでいたつもりでしたが、結局体調を悪くしてしまい降格する結果となりました。私自身の力不足もあると思うので、今の状態でも充実した仕事として納得しています。女性であっても男性であってもその人自身の力を発揮できる場があれば良いと思います。やりがいのある仕事を自分の力で探し、やり続けることが大切かと思います。そのためにも学生時代（小、中、高）しっかりと学び自分の力をしっかりとつけておく必要があるのではと思います。そのことが男女共同参画社会へとつながるのではないのでしょうか？女性であっても男性であってもその人自身がしっかりと自分の足で歩こうとすることが大切だと思います。（女性・40歳代）
- 結婚して、子供が生まれてからも女性が、働き続けられるように制度やサービスの充実を期待します。（女性・50歳代）
- 女性向けの職場改善だけでなく、男性も育児休暇等を取得できるような職場の意識改革。（男性・20歳代）
- 学校行事、PTA等に参加しやすくなるように、育児休業を年4日加える。また、必ず休業させることも指導する。（男性・40歳代）
- 女性は、仕事に対し責任感や向上心が低いように思います。子育て、介護等、家事を理由に……。今一つ前向きになれないように感じ、重要なポジションを与えようと考えた時に迷うことがある。（男性・60歳代）
- 鹿児島では、男女の賃金の差がありすぎる。女性でも優秀な人は沢山いるが、昇進できない状況がある。（男性・60歳代）

■ 男女共同参画に関する教育について (21 件)

【主な意見】

- 家庭の中でも日々葛藤で難しく、どうしても偏りがちになり、苦悩します。私も一人の人として、子育てが少し落ち着いたら、また仕事をして、そして家庭を守りながら、生き活きと社会で活躍出来たら良いなど願います。男の子の子育てをしています。小さい頃から、家事なども出来る自立した人に将来なれるように育てていきたいと思ひます。(女性・30 歳代)
- 大人では興味のある人となない人で温度差が大きいと思ひます。男女の性別を理由にした差別に慣れる前の子どもに教えてほしいです。(女性・40 歳代)
- 歴史的に男女が平等であるという考え方自体が定着していないように思ふ。まずはその考え方、個を尊重するという考え方を小学校入学前の教育より取り組むべきと考える。なので、長期的には小さい時からの教育のあり方を考えること。短期的には、実際の職場において、職場内の意識改革、環境作りが不可欠であるとする。(女性・50 歳代)
- 『家庭内での教育(道徳)』が最も大切で、その人の一生を左右するし、また代々良くも悪くも受け継がれていくので親の学習(親になる前の学習)もそれぞれ必要性を感じています。(女性・60 歳代)
- 子どものうちから男女平等について伝えていくことが大事だと思ひます。高齢の方と関わる事が多いのですが、年代によっても随分理解が異なります。引き続き、学ぶことが大事だと思ひます。(男性・20 歳代)
- 鹿児島は古くからの慣習で、どうしても男尊女卑の考えが他県より根深く残っている。法律や制度の整備も必要であるが、まずは幼少の頃からの教育を充実・徹底させることで、古い考え・慣習を改めていく必要があると思ふ。(男性・30 歳代)
- 大人への啓発活動を継続していく事はもちろんですが、やはり次世代を担う子供達に理解を充実させる事が大事ではないかと思ひます。(中、長期的視野)成人(大人)になってくると、頭が凝り固まってきますので…。理解を深めた子供(我が子)から言われた方が(どんな広報誌のPRより)親(大人)にとって効果があるかもしれません。(男性・40 歳代)
- 男女共同参画社会の人権、平等の教育を、子どもの頃から学習を徹底すべきである。人権、男女差別の啓発、環境づくり、改革、改善に取り組む連携強化を進める。意識改革をどのように進めるかが課題である。(男性・70 歳以上)

■ 男女共同参画に向けた啓発活動について (20 件)

【主な意見】

- もっとたくさんのセミナー、講演を開催してほしい。(女性・30 歳代)
- 「男女共同参画社会」という言葉を初めて知りました。この事が、もっと多くの人に知ってもらえるようになればと思ひます。(女性・30 歳代)
- 女性の貧困、子供の貧困、非正規雇用者の増加など、問題が複雑化している。私達の年代では男女平等はあたり前という意識が強いので、60 代以上の方々にもっと周知してもらえたらいい。(女性・50 歳代)
- 子育て、介護、家庭との両立となると男の方より女の方の負担が大きいと思ふのは私だけでしょうか。そうなるとうやはり職場、地域の目、男の人の女の人に対する見方、考え方意識改革が一番であると思ひますし、福祉の充実、女の人自立した考え方を受け入れてもらえる環境も大事だと思ひます。参画センターの活動状況ももっとよく知りたいです。広報をもっとわかりやすく見やすくしてもらいたいです。(女性・60 歳代)
- 男女共同参画社会などについて一般の人は余り知識がないので、新聞、フリーペーパーなどにわかりやすく掲載してほしい。(女性・60 歳代)
- 徐々にではあるが、共同参画社会が実現しつつあると実感している、今後も継続して男女平等、理解等の学習を行って欲しい。(男性・50 歳代)

- 鹿児島県外に長い事いた為、鹿児島県男女共同参画センターを知りませんでした。センターの事業のPRをもっと行った方がいいと思います。(男性・50歳代)
- 男女共同参画社会と言っても、まだ分からない人達多いと思います。分かりやすいパンフレットなどを作って、県民に配布したら良いと思います。(男性・60歳代)
- 男女共同参画については理解を得ているように思います。さらなる女性の各面での活躍が出来るようにしたら、明るい世の中になるのではないかと思います。(男性・70歳以上)

■ 子育てについて (21件)

【主な意見】

- 私は、職場などで男性と女性の差はほとんど感じることなく、管理職にも関係なく就いているが、女性の場合はやはり出産の時にどうしても一時的に仕事を離れることが出てくるので、その際の保育施設の充実や職場復帰しても保育施設での時間や曜日で、融通が利くような形が出来たらと思います。男性だから女性だからでなく、その人が選んだ選択がスムーズに進みやすい世の中になればと思います。(女性・30歳代)
- 働きやすくするために、保育所を増やしてほしい。又は、職場に託児所が併設されていれば、尚、働きやすいし、元の職場にも戻りやすいと思う。(女性・30歳代)
- 小さい子供をかかえて働くとき、必ず病気で休む時があります。長期にわたって休むことに対して、受け入れてくれない会社が多く、面接で落とされてしまいます。病気などで保育園に預けられない時などに預けられる病児保育施設の増設や一時預かりやベビーシッターなどの派遣などを行ってほしいです。(女性・30歳代)
- 男女平等に子育てできるような環境を作ってもらいたい。自分の父は昔、仕事で帰りが遅くほぼ平日は父の顔を見ることなく育った。お陰で父との会話は大人になるまで少なく、また退職後の父は家事ができず一緒にいる方が大変であった。そのようにならないよう家事、子育てを平等にできる社会にして欲しい。(女性・40歳代)
- 子育てしている若いお父さんたち(20代)は積極的に子育てに参加しているように思えるが、30代、40代のお父さんたちは子育てを母親に頼っているところが多々見られるような感じがする。(少数だと思うが)(女性・40歳代)
- 子育てにおいては、女性の方が出来る事が多いと感じるので、それをサポートする為に配偶者や職場、社会が協力できるように制度や雰囲気の良い方に変わっていけば、より良い社会になると思います。(女性・40歳代)
- 現在は夫だけの給料では生活が成り立たずに共稼ぎがほとんどです。なので少しでも夫婦共に働きやすくする為の社会環境を整えていただきたく思います。子供ができるとどうしても職場に迷惑がかかり、精神的につらいです。日々の暮らしを少しでもゆとりをもって夫婦が楽しくいられたら子供の教育にもとてもよいと思います。(女性・50歳代)
- 小さい時からの家庭環境が一番大切だと思います。「家事や育児を女性がすべき」という考えを変えていくことが、一歩だと思います。よろしくお願い致します。(男性・40歳代)

■ 男女共同参画に向けた行政の取り組みについて (14件)

【主な意見】

- 「男女共同参画」を性別にかかわらず毛嫌いされる方々があり、それよりは女性のエンパワーメント、女性の就業支援や政治への参画を進めたほうが良い。県の事業は、市町村住民は恩恵を受けにくい。市町村と連携し市町村で事業を行ったほうが良い。(女性・40歳代)
- 他県からこちらに来て住んでいます、(地域差はあるかもしれませんが)鹿児島は男女平等の意識が少し低いと思います。特に年配の男性です。女性は何も感じないのでしょうか？男女共同参画社会に、地域差がなくなるよう、男性だけでなくそこに長く住む女性の意識も変わっていくような取り組みを期待したいと思っています。(女性・40歳代)

- 男女平等が当たり前で、普通の事であることになるように教育と法律，社会，地域，企業の考え方を変えていける様な活動をしてほしい。(女性・50歳代)
- 「男女共同参画」どのような活動しているのか，身近に感じられない。(女性・50歳代)
- 表向きだけの男女平等をうたう企画だけはやめてほしい。企業も女性を尊重すると，表向きに出すあまり，その反動が男性社員への重荷や，やりにくさになっている事もある。基本的にどちらかが家庭を守らなければ，そのしわよせが子供にきたりするので，男女共に仕事をフルにするのは難しいと思う。仕事も家庭も男女平等に優先できるように県，企業等改革してほしい。(男性・40歳代)
- 大手の企業ならではの話ばかりの気がします。中小企業及び3Kの仕事となれば男女共同参画社会なんて絵に描いた餅みたいなもの。現実はその様な甘いもんじゃない。はたして，深夜まで女性が働く社会がいつ出来るのでしょうか？でも，政治家や公務員の方に期待します。(男性・60歳代)
- 地域社会の末端まで活動の波がとどくようにしてほしい。(男性・70歳以上)

■ 家庭生活について（5件）

【主な意見】

- 家の事を，配偶者に負いかぶせている男性が多い以上，大変さが理解できないですから。仕事+家の事で負担が大きくなって，仕事を続けるににくい。再就職に二の足を踏む女性は多いと感じます。(女性・40歳代)
- 私の家は主人が全ての事に協力してくれて子供達も主人だいすき，孫も主人だいすきです。主人は母親に男性でも家事が出来るようにやかましく教育されたようです。今56才になってめずらしいですね。大なり小なりのイザコザは有っても私が仕事が遅かったら食事の準備してもらって本当に感謝してます。やはり子供のときからの育った環境なんですね。(女性・50歳代)
- 鹿児島に生まれて，男を立ててあたり前，女は一步下がるものという考え方の基に育てられ，なかなか受け入れにくい面もありましたが，同居している息子が何の抵抗もなく家事を行い，その間に嫁が風呂に入る等，我が家の光景を自分も仕事を持っている者として，嬉しく思います。(女性・60歳代)

■ その他（109件）

【主な意見】

- 講演会，フォーラム等に参加したいけど，子どもを預ける場所も人もいない。子どもを預ける事にも引け目を感じる。(女性・30歳代)
- DV等は，若年層からの学習が大切と思ってます。被害者の女性が，児童虐待につながらないよう願います。(女性・40歳代)

調 査 票



男女共同参画に関する県民意識調査

鹿児島県

県民の皆様へ

日頃から、県政の推進にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本県では、すべての人々が、その人権を尊重され、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができ、かつ誰もが安心・安全に豊かに暮らすことができる男女共同参画社会の実現をめざして、さまざまな施策を推進しているところです。

この調査は、県民の皆様の、男女平等や男女の人権、家庭・地域生活などに対する意識と実態を把握し、今後の男女共同参画社会づくりに向けた施策の一層の推進を図るための基礎資料として、住民基本台帳から県内にお住まいの20歳以上の方5,000名を無作為に抽出してご意見をうかがうものです。

この度、その一人としてあなた様をお願いすることになりましたので、ご多忙のところ、お手数をおかけいたしまして大変恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査の回答は、無記名でお願いし、すべて統計数字として取りまとめ処理いたしますので、個人の秘密が漏れたり、ご迷惑をお掛けすることは一切ございません。どうぞ、日頃のお考えを率直にお答えください。

平成28年8月

鹿児島県知事 三反園 訓

ご記入に際してのお願い

- アンケートは、封筒の宛名の方（本人）がご記入ください。
本人によるご記入が困難な場合は、ご家族などが本人から聞き取って代筆をお願いします。
- 回答は、この調査票に、黒色又は青色のボールペンや鉛筆にて直接ご記入ください。
- アンケートは、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでいただく場合がほとんどです。もし、間違えて記入した場合は、その番号に×をつけて訂正し、改めてあてはまる番号に○をつけてください。
- 設問によって、1つだけ選んでいただく場合と、複数選んでいただく場合があります。また、該当する方にのみ回答をお願いする場合がありますので、各設問の説明にしたがってお答えください。
- 項目でその他を選んでいただいた場合は、() になるべく具体的にその内容を記入してください。

ご記入いただきました調査票は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手を貼る必要はありません）に入れて、8月31日(水)までにご返送ください。

【お問い合わせ先】

実施機関 鹿児島県 県民生活局 男女共同参画室

電話：099-286-2634（直通）FAX：099-286-5541

調査委託先 アシスト株式会社

電話：099-243-6776

FAX：099-243-6673

はじめに、お答えいただいた回答を統計的に分析するため、あなた自身のことについてお尋ねします。

※ この調査票でいう、「結婚」には、婚姻の届出はしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にあること（事実婚）を含みます。

F 1 あなたの性別をお尋ねします。(○は1つ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F 2 あなたの年齢をお尋ねします。(平成 28 年 1 月 1 日現在)(○は1つ)

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 1 20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 |
| 4 50歳代 | 5 60歳代 | 6 70歳以上 |

F 3 あなたは現在、結婚されていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|---------|------|
| 1 結婚している | 2 離別・死別 | 3 未婚 |
|----------|---------|------|

F 4 あなたの世帯の状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1 単身世帯 | 2 夫婦世帯 |
| 3 二世帯世帯(親と子など) | 4 三世帯世帯(親と子と孫など) |
| 5 その他(具体的に： |) |

【現在、結婚されている方にお尋ねします。】

F 5 ご夫婦の職業の有無についてお尋ねします。(○は1つ)

※ 職業とは、自営業主、家族従事者、雇用者(常勤、パート、アルバイト、内職等を含む)等のことをいいます。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 どちらも職業がある | 2 自分のみ職業がある |
| 3 配偶者のみ職業がある | 4 どちらも職業がない |

F 6 あなたのお住まいはどちらですか。(○は1つ)

※ 住民票に届けている住所をお答えください。

- | | |
|-----------|--|
| 1 鹿児島地区 | (鹿児島市, 日置市, いちき串木野市, 三島村, 十島村) |
| 2 南薩地区 | (枕崎市, 指宿市, 南さつま市, 南九州市) |
| 3 北薩地区 | (阿久根市, 出水市, 薩摩川内市, さつま町, 長島町) |
| 4 始良・伊佐地区 | (霧島市, 伊佐市, 始良市, 湧水町) |
| 5 大隅地区 | (鹿屋市, 垂水市, 曾於市, 志布志市, 大崎町, 東串良町, 錦江町, 南大隅町, 肝付町) |
| 6 熊毛地区 | (西之表市, 中種子町, 南種子町, 屋久島町) |
| 7 大島地区 | (奄美市, 大和村, 宇検村, 瀬戸内町, 龍郷町, 喜界町, 徳之島町, 天城町, 伊仙町, 和泊町, 知名町, 与論町) |

I 男女平等の意識について

問1 あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。

①～⑥のそれぞれについて、右欄の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つずつお選びください。

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	優遇されている 男性の方が非常に	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	優遇されている 女性の方が非常に	わからない
① 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
② 学校教育の中で	1	2	3	4	5	6
③ 職場の中で	1	2	3	4	5	6
④ 地域社会の中で	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念、慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6

問2 あなたは、男女共同参画に関連の深い用語について知っていますか。

次の①～⑬のそれぞれについて、右欄の1～3から1つずつお選びください。

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	よく 知っている	聞いた ことがある	知らない
① 男女共同参画社会	1	2	3
② 男女共同参画社会基本法	1	2	3
③ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 (DV防止法)	1	2	3
④ 女子差別撤廃条約	1	2	3
⑤ 男女雇用機会均等法	1	2	3
⑥ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (女性活躍推進法)	1	2	3
⑦ 積極的改善措置 (ポジティブ・アクション)	1	2	3
⑧ 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)	1	2	3
⑨ ダイバーシティ	1	2	3
⑩ ジェンダー	1	2	3
⑪ 鹿児島県男女共同参画推進条例	1	2	3
⑫ 鹿児島県男女共同参画基本計画 (2次)	1	2	3
⑬ 鹿児島県男女共同参画センター	1	2	3

問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、何が最も重要だと思いますか。次の1～7の中から1つだけお選びください。

- 1 法令や制度の上での見直しを行い、女性に対する差別的取扱いにつながるものを改めること
- 2 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 3 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること
- 4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 5 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
- 6 その他（具体的に： _____）
- 7 わからない

II 就業について

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の1～6の中からあなたの考えに最も近い番号を1つだけお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他（具体的に： _____）

問5-1 あなたのご職業を次の1～11の中から1つだけお選びください。

- | | | |
|-------|---|------------------------------|
| 自営業主 | { | 1 農林漁業 |
| | | 2 商工サービス業 |
| | | 3 その他の自営業 |
| 家族従事者 | { | 4 農林漁業 |
| | | 5 商工サービス業 |
| | | 6 その他の家族従事者 |
| 雇用者 | { | 7 常勤の勤め（社員、職員等） |
| | | 8 非常勤の勤め（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託等） |
| 無職 | { | 9 主婦・主夫 |
| | | 10 学生 |
| | | 11 その他の無職 |

【問 5-1 で **無職** 「9」～「11」と答えた方へお尋ねします。】

問 5-2 あなたはどのような形で働きたいですか。次の 1～9 の中から 1 つだけ お選びください。

- 1 常勤（フルタイム）
- 2 常勤（短時間勤務，フレックスタイム制）
- 3 パートタイム，アルバイト，嘱託
- 4 契約社員，派遣社員
- 5 在宅勤務
- 6 事業経営
- 7 家業に従事
- 8 働くつもりはない（働くことができない場合を含む）
- 9 その他（具体的に： _____）

【問 5-1 で **雇用者** 「7」又は「8」と答えた方へお尋ねします。】

問 6 あなたの職場では，性別によって処遇が異なりますか。次の 1～12 の中から いくつでも お選びください。

- 1 募集・採用の機会に格差がある
- 2 賃金に格差がある
- 3 女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある
- 4 昇進，昇格に格差がある
- 5 管理職への登用に差がある
- 6 結婚や出産時に退職する慣例や雰囲気がある
- 7 中高年女性には退職を促すような雰囲気がある
- 8 社内研修や教育訓練・出張や視察などの機会に差がある
- 9 育児休業や介護休業の取り易さに差がある
- 10 同じ職場で夫と妻が共に働いている場合，どちらかが働き続けにくい雰囲気がある
- 11 その他（具体的に： _____）
- 12 特に性別により処遇が異なっていることはない

問7 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。次の1～10の中からいくつでもお選びください。

- 1 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
- 2 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
- 3 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
- 4 長時間労働の改善が十分でないこと
- 5 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
- 6 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
- 7 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
- 8 その他（具体的に： _____)
- 9 特にない
- 10 わからない

問8 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。次の1～12の中からいくつでもお選びください。

- 1 やりがいのある仕事ができる
- 2 賃金が上がる
- 3 能力が認められた結果である
- 4 家族から評価される
- 5 自分自身で決められる事柄が多くなる
- 6 やるべき仕事が増える
- 7 責任が重くなる
- 8 やっかみが出て足を引っ張られる
- 9 仕事と家庭の両立が困難になる
- 10 その他（具体的に： _____)
- 11 特にない
- 12 わからない

問 9 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。次の1～13の中からいくつでもお選びください。

- 1 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- 2 介護支援サービスの充実
- 3 家事・育児支援サービスの充実
- 4 男性の家事・育児参画への理解・意識改革
- 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
- 6 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- 8 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
- 11 その他（具体的に： _____）
- 12 特にない
- 13 わからない

Ⅲ 家庭生活について

【現在、結婚している方にお尋ねします。それ以外の方は問 11 へお進みください。】

問 10 あなたの家庭では、現在、次のような事柄を主に誰が行っていますか。①～④のそれぞれについて、右欄の1～5の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。（育児と介護・看護については、現在該当しなくても、過去の経験があればそれをもとにお選びください。該当しない場合は、「5」をお選びください。）

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	夫	妻	夫と妻 が分担	その他 の人	該当 しない
① 家事	1	2	3	4	5
② 育児	1	2	3	4	5
③ 介護・看護	1	2	3	4	5
④ 自治会、町内会、公民館など地域活動への参加	1	2	3	4	5

【全員にお尋ねします。】

問 11 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのようにお考えですか。次の1～4の中からあなたの考えに最も近い番号を1つだけお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

IV 仕事と家庭・地域への取組について

問 12-1 あなたは、現在、次のような地域における活動に参加していますか。次の1～11の中からいくつでもお選びください。

- 1 自治会、町内会などの地区を単位とした団体活動
- 2 婦人（女性）会、老人クラブ、青年団などの団体活動
- 3 子ども会、PTA、スポーツ少年団などの子どもの活動に関わる団体活動
- 4 消費者運動、環境保護運動などの住民活動
- 5 民生委員・児童委員、体育指導委員などの公的な委員活動
- 6 子育て支援や高齢者介護、障害者福祉などを目的としたグループ活動
- 7 NPO法人などの非営利活動
- 8 特定の団体やグループに属さず、個人として地域に貢献する活動
- 9 スポーツや趣味、文化振興などに関わるサークル活動
- 10 その他（具体的に： _____）
- 11 特に何もしていない（理由： _____）

【問 12-1 で「1」～「10」を選んだ方にお尋ねします。それ以外の方は、問 13-1 へお進みください。】

問 12-2 あなたが地域における活動に参加するなかで感じている、活動のやりがいや苦勞していることなどがありましたら教えてください。

【全員にお尋ねします。】

問 13-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたはどのようにお考えですか。まず、次の1～8の中から、あなたの現実（現状）に最も近い番号を1つだけお選びください。

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」を優先している
- 3 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 8 わからない

問 13-2 それでは、あなたの希望はどれに当てはまりますか。次の1～8の中から1つだけお選びください。

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 8 わからない

問 14 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～14の中から3つ以内でお選びください。

- 1 男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参画することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者や周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で男性による家事、子育て、介護、地域活動についてもその評価を高めること
- 6 家事などについて、性別によらず、身に付けることができるような育て方をする事
- 7 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 9 研修等により、男性の家事、子育て、介護等の技能を高めること
- 10 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりを進めること
- 11 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 12 その他（具体的に： _____ ）
- 13 特に必要なことはない
- 14 わからない

V 男女の人権について

【これまでに結婚したことのある方に、お尋ねします。】

問 15 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者も含まれます。次の①～③のそれぞれについて、右欄の1～3の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	一、二度あつた	何度もあつた	まったくくない
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③ いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

【全員にお尋ねします。】

問 16 あなたは、10歳代又は20歳代に、あなたの恋人や元恋人などの交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。次の①～③のそれぞれについて、右欄の1～4の中からあてはまる番号を1つずつお選びください。

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	10歳代にあつた	20歳代にあつた	10・20歳代ともあつた	いずれにもなかつた
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた	1	2	3	4
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3	4
③ いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3	4

問 18 あなたは、男女間における暴力を防止するためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。次の1～13の中からいくつでもお選びください。

- 1 家庭で保護者が子どもに対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う
- 2 学校で児童・生徒・学生に対し、性別に由来する人権問題や暴力を防止するための教育を行う
- 3 職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う
- 4 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
- 5 メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
- 6 暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
- 7 加害者への罰則を強化する
- 8 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる
- 9 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
- 10 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う
- 11 その他（具体的に： _____)
- 12 特に必要なことはない
- 13 わからない

問 19 テレビ、新聞、雑誌、インターネット等のメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように考えますか。次の1～9の中からいくつでもお選びください。

- 1 女性の性的側面を強調するなど、行き過ぎた表現が目につく
- 2 性に関する社会規範が損なわれている
- 3 女性に対する暴力を助長させる
- 4 過激な表現等、青少年の目に触れやすく配慮が足りない
- 5 男女のイメージを固定化することを助長するような表現をしている
- 6 児童に対する性犯罪を助長させる
- 7 その他（具体的に： _____)
- 8 特に問題はない
- 9 わからない

VI 男女共同参画センターについて

問 20 県では、男女共同参画を推進するための総合的活動拠点施設として、かごしま県民交流センター内に「県男女共同参画センター」を設置していますが、あなたは、同センターの事業を利用したことがありますか。次の①～③のそれぞれについて、右欄の1～3から1つずつお選びください。

※ 各項目ごとに横に見てお答えください。 (○印は <u>それぞれ1つずつ</u>)	利用したことがある	利用している 利用したことはないが 知っている	まったくない
① 意識啓発・人材育成事業 (セミナーや講座、イベント、展示等)	1	2	3
② 相談事業 (電話相談・面接相談等)	1	2	3
③ 情報提供事業 (センターだより、図書等)	1	2	3

問 21 あなたは今後、「県男女共同参画センター」に男女共同参画の拠点施設としてどのような役割を期待しますか。次の1～12の中から3つ以内でお選びください。

1 男女共同参画に関する講演会、フォーラム等の開催 2 男女共同参画に関する多様な学習機会の提供 3 男女共同参画を各地域で推進する人材の育成 4 企業や学校等を対象とした男女共同参画を推進するためのセミナーの開催 5 女性の再就職やキャリアアップなどを支援するための講座の開催 6 男性向けの講座の実施 7 相談事業の実施 8 男女共同参画社会づくりに取り組むNPO等民間団体の活動支援・交流の場づくり 9 男女共同参画に関する図書や資料等の提供 10 男女共同参画を推進するための広報啓発誌等の作成と配布 11 その他 (具体的に： 12 わからない
--

VII 県の男女共同参画施策について

問 22 あなたは、「男女共同参画社会」を形成していくために、県は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の1～19の中から3つ以内でお選びください。

- 1 県の施策に係る計画等の見直しを行う
- 2 子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる
- 3 生涯学習の場における男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる
- 4 学校や家庭で、男女の人権に関わる啓発を進める
- 5 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等や相互の理解・協力についてPRする
- 6 女性に対する暴力（セクハラやDVなど）の防止や被害者支援に取り組む
- 7 政策方針決定の場への女性の参画を進める
- 8 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う
- 9 職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める
- 10 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる
- 11 女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実させる
- 12 地域、企業等における男女共同参画の推進役となる人材を育成する
- 13 NPO等民間団体の連携を支援する
- 14 男女共同参画に関する情報提供や交流、相談、学習・研修などを行う施設を充実させる
- 15 市町村との連携の推進
- 16 男女共同参画の視点を踏まえた地域活動について、表彰などを行う
- 17 その他（具体的に： _____)
- 18 特にない
- 19 わからない

問 23 男女共同参画社会の実現に向けて、ご意見・ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

～ ご協力ありがとうございました ～

ご記入漏れがないかもう一度ご確認の上、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、

8月31日（水）までにご返送くださいますようお願いいたします。

付録 用語解説

用語	解説
男女共同参画社会	<p>すべての人々が、その人権を尊重され、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会であり、男女共同参画社会基本法第2条第1号においては、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されている。</p>
男女共同参画社会基本法	<p>将来に向かって男女共同参画社会の形成に関する取組を総合的に推進するために制定された法律（平成11年6月23日施行） 男女共同参画社会の形成についての基本理念、国・地方公共団体及び国民の責務、基本的施策について規定している。</p>
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	<p>配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律（平成13年10月13日（一部14年4月1日）施行、16年・19年・25年改正） 都道府県における計画の策定や配偶者暴力相談支援センターの設置、保護命令制度等が規定されている。被害者が男性の場合や、同居の恋人からの暴力もこの法律の対象となる。</p>
女子差別撤廃条約	<p>昭和54年（1979年）に国連総会で我が国を含む130か国の賛成によって採択され、昭和56年（1981年）に発効。我が国は昭和60年（1985年）に批准。女子に対するあらゆる差別を撤廃することを基本理念とし、具体的には、女子に対する差別を定義し、政治的及び公的活動、教育、雇用、保健、家族関係等あらゆる分野での男女の平等を規定する。なお、同条約第1条において、「この条約の適用上、「女子に対する差別」とは、性に基づく区別、排除又は制限であって、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のいかなる分野においても、女子（婚姻をしているかいないかを問わない。）が男女の平等を基礎として人権及び基本的自由を認識し、享有し又は行使することを害し又は無効にする効果又は目的を有するものをいう。」と規定されている。</p>
男女雇用機会均等法	<p>雇用における男女の均等な機会と待遇の確保を図るとともに、女性労働者の就業に関して妊娠中及び出産後の健康の確保を図るための措置を推進するために制定された法律（昭和61年4月1日施行） 労働者の募集、採用、配置・昇進、福利厚生、定年・退職等における男女間の差別の禁止等について規定している。</p>
女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	<p>働く場面で活躍したいという希望を持つ全ての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するために制定された法律（平成27年9月4日（一部28年4月1日）施行）。女性の活躍推進に向けた目標を盛り込んだ行動計画の策定・公表や、女性の職業選択に資する情報の公表が事業主（国や地方公共団体、民間企業※）に義務づけられた。 ※ 常時雇用する労働者が300人以下の民間企業等にあつては努力義務</p>

用語	解説
積極的改善措置 (ポジティブ・アクション)	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため、必要な範囲において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供すること（男女共同参画社会基本法第2条第2号参照）
仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)	誰もが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、様々な活動を、人生の段階に応じて自分の希望するバランスで実現できる状態のこと
ダイバーシティ	「多様性」のこと。性別や国籍、年齢等にかかわらず、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。
ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー／gender）という。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。
鹿児島県男女共同参画推進条例	男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進するため、男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、県、事業者及び県民の責務を明らかにするとともに、男女共同参画の推進に関する施策の基本的事項を定めている。（平成13年12月21日制定、平成14年1月1日施行）
鹿児島県男女共同参画基本計画 (2次)	男女共同参画社会基本法第14条第1項及び鹿児島県男女共同参画推進条例第10条第1項の規定に基づき、中長期的な展望に立って本県の男女共同参画社会の形成に向けた取組を一層推進するため、政策の全体的な枠組みとともに、その方向性と取組内容を示した基本計画。平成25年度～29年度の5年間の計画期間として、平成25年3月に策定した。
鹿児島県男女共同参画センター	男女共同参画社会を形成するための総合的な活動拠点として、平成15年4月にかごしま県民交流センター内に設置され、①男女共同参画社会づくりに向けた各地域での自主的な取組の促進やネットワーク形成を図るための交流促進、②男女共同参画に関する意識啓発、推進役となる人材の養成、就業支援のための学習・研修、③男女共同参画を阻害する行為等に関する悩みや問題についての相談、④男女共同参画に関する情報の収集・提供、⑤配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護（一時保護を除く）等の各種事業を実施している。

男女共同参画に関する県民意識調査
報告書

鹿児島県総務部県民生活局 男女共同参画室

〒890-8577 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 10 番 1 号
TEL : 099-286-2634 FAX : 099-286-5541
